

西原大塚遺跡 第 235 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 3

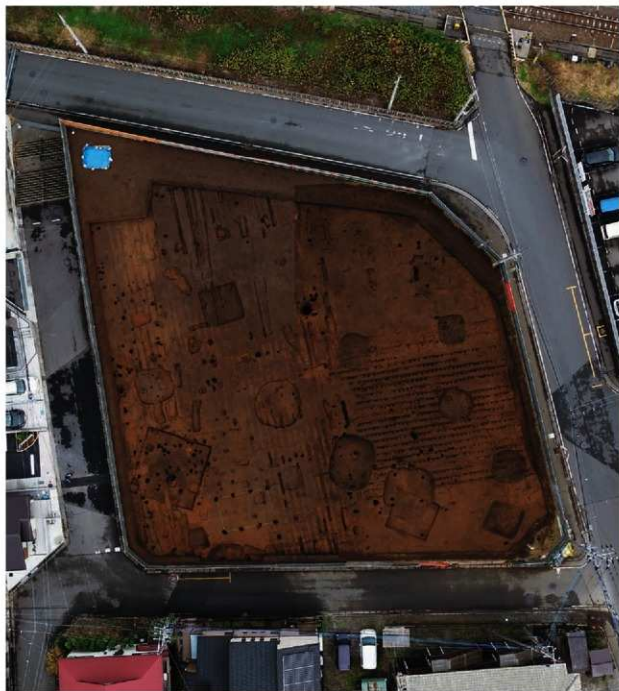
埼玉県志木市教育委員会

西原大塚遺跡 第235地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

埼玉県志木市教育委員会



1. 調査区全景（合成空中写真）



1. 20号石器集中地点・5号礫群遺物出土状態(南から)



2. 20号石器集中地点出土遺物



1. 644号住居跡遺物出土状態（南から）



2. 651号住居跡遺物出土状態（南東から）



1. 5号掘立柱建築遺構全景（西から）



2. 5号掘立柱建築遺構出土遺物

はじめに

志木市教育委員会
教育長 柚木 博

ここに刊行する『西原大塚遺跡第 235 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和 3 年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15 か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、西原大塚遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

さて、今回報告する西原大塚遺跡第 235 地点では、旧石器時代～近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例 言

1. 本書は、令和3年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第235地点の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、分譲住宅建設及び道路新設工事に伴う記録保存のための発掘調査として、文化財保護法第99条に基づき、志木市教育委員会が調査主体者として実施したものである。
3. 本調査の実施にあたり、工事主体者・志木市教育委員会・大成エンジニアリング株式会社（代表取締役 石川 勇（～令和4年6月22日）・岩崎信治（令和4年6月23日～））の三者による協定を締結した上で、大成エンジニアリング株式会社が発掘調査支援業務を行った。
4. 発掘作業は令和3年10月25日から令和4年3月31日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和5年3月31日まで行った。
5. 本書の作成は尾形則敏・徳留彰紀・大久保 聡・木村結香が監修し、編集は市川康弘が行った。執筆は第1章、第2章第1節を尾形、第2章第2節から第4章を市川が担当した。
6. 中世以降の遺物については、和光市文化財調査指導員の野澤 均氏にご教示いただいた。
7. 本書に掲載した石器については、文化財整理こうけんに実測・トレースを委託した。
8. 自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ、パリオ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. 発掘作業における表土剥ぎ作業については、合同会社久松（代表社員 久松洋次郎）に委託した。
10. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。
11. 調査組織は以下のとおりである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木 博
教育政策部長	北村 竜一（～令和3年度）
〃	今野美香（令和4年度～）
生涯学習課長	土崎健太
生涯学習副課長	吉成和重
生涯学習課主幹	浅見千穂
生涯学習課主査	尾形則敏（～令和3年度）
〃	徳留彰紀
〃	大久保 聡（令和4年度～）
生涯学習課主任	尾形則敏（令和4年度～）
〃	大久保 聡（～令和3年度）
〃	石川千尋
生涯学習課主事	塚原会理（令和4年度～）
生涯学習課主事補	木村結香（令和3年8月～）
〃	遠藤彪雅（～令和3年度）

志本市文化財保護審議会	井上 國夫 (会長)
"	深 瀬 克 (委員)
"	上 野 守 嘉 (委員)
"	新 田 泰 男 (委員)
"	金 子 博 一 (委員)
調 査 担 当 者	尾 形 則 敏・徳 留 彰 紀・大 久 保 聡・木 村 結 香

【大成エンジニアリング株式会社】

○発掘調査

調 査 員	市川 康 弘
現場代理人	小林 秀 樹
調査補助員	服部 美 咲・久 嶋 衛・黒 濟 和 彦・山 中 菊 乃
作 業 員	石川まゆみ・石田 智 幸・今 井 雄 太・植 村 智 美・大 橋 太 郎・小 野 寺 信 柏 木 麻 友 子・加 藤 優 李・川 口 沙 織・北 村 好 明・小 林 光・佐 久 間 正 崇 佐 々 木 史 郎・佐 々 木 裕・神 藏・菅 谷 吉 洋・鈴 木 雅 大・関 口 魁 瀬 戸 宏 征・高 橋 葵・田 原 浩・網 島 昭 四 郎・並 木 智 子・長 谷 川 賢 二 宮 崎 文 隆・宮 澤 洋 美・矢 野 正・山 口 玲 奈・山 本 紗 恵 子・米 島 妙 子

○整理作業

調 査 員	市川 康 弘
調査補助員	宇 田 武 史・斎 藤 資 高・服 部 美 咲・山 寄 裕 子
作 業 員	大 平 宏 典・岡 崎 千 津 子・可 知 直 子・菊 池 直 美・栗 山 結 花・志 塚 翔 磨 菅 沼 晶 子・竹 内 千 晴・中 丸 洋 沙 愛・中 村 君 江・西 川 英 里・平 野 聡 志 藤 瀬 和 枝・堀 田 勉・松 本 義 弘・吉 岡 明 子・渡 部 文・渡 邊 幹 子

- 12.発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会
朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

- 13.本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記のとおりである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和3年10月13日付け 教文資第4-1449号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和4年6月17日付け 教文資第7-26号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全区」アジア航測株式会社調製

第2図 1：5,000 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行
株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に即している。
3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
5. ビット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるビットでも、おそらく後世のビットと思われるものには、数値を省略した。
6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 脚：脚部径 厚：器厚

9. 遺構などの略記号は、以下のとおりである。

U = 旧石器時代の石器集中地点 礫 = 旧石器時代の礫群 TP = 旧石器時代の試掘坑

FP = 縄文時代のが穴 Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

H = 古墳時代後期の住居跡 T = 掘立柱建築遺構 D = 土坑 W = 井戸跡

畝 = 畝状遺構 P = ビット

目 次

巻頭図版／はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	8
第2章 発掘調査の概要	11
第1節 調査に至る経緯	11
第2節 発掘調査の経過	13
第3節 基本層序と地形	16
第3章 検出された遺構と遺物	22
第1節 旧石器時代の遺構・遺物	22
第2節 縄文時代の遺構・遺物	93
第3節 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物	95
第4節 古墳時代後期の遺構・遺物	146
第5節 中世以降の遺構・遺物	154
第6節 遺構外出土遺物	183
第4章 調査のまとめ	193
第1節 旧石器時代	193
第2節 弥生時代後期～古墳時代前期	203
第3節 古墳時代後期	214
第4節 中世以降	219
[付編] 自然科学分析	
I. 西原大塚遺跡第235地点の放射性炭素年代測定	227
II. 西原大塚遺跡第235地点の黒曜石産地同定	230
III. 西原大塚遺跡第235地点の炭化材樹種同定	238
IV. 西原大塚遺跡第235地点の土器種夾圧痕同定	239

図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2
第 2 図	西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000)	10
第 3 図	確認調査時の遺構分布 (1/300)	12
第 4 図	調査区配置図 (1/800)	14
第 5 図	等高線図 (1/300)	17
第 6 図	試掘坑配置図 (1/300)	18
第 7 図	基本層序 1 (1/80)	19
第 8 図	基本層序 2 (1/80)	20
第 9 図	遺構分布図 (1/300)	21
第 10 図	旧石器時代遺構分布図 (1/300)	23
第 11 図	20 号石器集中地点 器種別分布図 (1/80)	24
第 12 図	20 号石器集中地点 石質別分布図 (1/80)	25
第 13 図	20 号石器集中地点出土遺物 1 (4/5)	26
第 14 図	20 号石器集中地点出土遺物 2 (4/5)	27
第 15 図	20 号石器集中地点出土遺物 3 (4/5)	28
第 16 図	20 号石器集中地点出土遺物 4 (1/2)	29
第 17 図	20 号石器集中地点出土遺物 5 (4/5)	31
第 18 図	20 号石器集中地点出土遺物 6 (1/2・4/5)	32
第 19 図	20 号石器集中地点出土遺物 7 (1/2・4/5)	33
第 20 図	20 号石器集中地点出土遺物 8 (4/5)	34
第 21 図	20 号石器集中地点出土遺物 9 (4/5)	35
第 22 図	20 号石器集中地点出土遺物 10 (4/5)	36
第 23 図	20 号石器集中地点出土遺物 11 (4/5)	37
第 24 図	20 号石器集中地点出土遺物 12 (4/5)	38
第 25 図	20 号石器集中地点出土遺物 13 (4/5)	39
第 26 図	21 号石器集中地点 器種別分布図 (1/60)	42
第 27 図	21 号石器集中地点 石質別分布図 (1/60)	43
第 28 図	21 号石器集中地点出土遺物 1 (4/5)	44
第 29 図	21 号石器集中地点出土遺物 2 (4/5)	45
第 30 図	21 号石器集中地点出土遺物 3 (4/5)	46
第 31 図	21 号石器集中地点出土遺物 4 (4/5)	47
第 32 図	22 号石器集中地点 器種別分布図 (1/60)	51
第 33 図	22 号石器集中地点 石質別分布図 (1/60)	52
第 34 図	22 号石器集中地点出土遺物 (4/5)	52
第 35 図	5号礫群 遺物出土状態 (1/60)	54
第 36 図	5号礫群 石質別分布図 (1/60)	55
第 37 図	5号礫群 重量別分布図 (1/80)	57
第 38 図	5号礫群 重量別分布図 (砂岩) (1/80)	58
第 39 図	5号礫群 重量別分布図 (チャート) (1/80)	59
第 40 図	5号礫群 重量別分布図 (泥岩) (1/80)	60

第41図	5号礫群 重量別分布図(礫岩)(1/80)	61
第42図	5号礫群 重量別分布図(ホルンフェルス)(1/80)	62
第43図	6号礫群 石質別分布図(1/60)	86
第44図	6号礫群 重量別分布図(1/60)	87
第45図	7号礫群 石質別分布図(1/60)	88
第46図	7号礫群 重量別分布図(1/60)	89
第47図	14号旧石器試掘坑遺物出土状態(1/60)	90
第48図	3・7号旧石器試掘坑遺物出土状態(1/60)	91
第49図	旧石器試掘坑出土遺物(4/5)	92
第50図	22号炉穴(1/60)	93
第51図	28号ピット(1/60)	93
第52図	縄文時代遺構分布図(1/300)	94
第53図	弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図(1/300)	96
第54図	640号住居跡(1/60・1/30)	97
第55図	640号住居跡遺物出土状態(1/60)	98
第56図	640号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	98
第57図	641号住居跡(1/60・1/30)	100
第58図	641号住居跡掘り方・遺物出土状態(1/60)	101
第59図	641号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	102
第60図	642号住居跡(1/60)	103
第61図	642号住居跡出土遺物(1/4)	104
第62図	643号住居跡(1/60)	105
第63図	643号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	105
第64図	644号住居跡(1/60)	106
第65図	644号住居跡炉・貯蔵穴(1/30)	107
第66図	644号住居跡掘り方(1/60)	107
第67図	644号住居跡遺物出土状態(1/60)	108
第68図	644号住居跡出土遺物1(1/4)	109
第69図	644号住居跡出土遺物2(1/4)	110
第70図	644号住居跡出土遺物3(1/4)	111
第71図	644号住居跡出土遺物4(1/4・1/3)	112
第72図	645号住居跡(1/60)	116
第73図	646号住居跡・遺物出土状態(1/60)	116
第74図	646号住居跡炉(1/30)	117
第75図	646号住居跡出土遺物(1/4)	117
第76図	647号住居跡(1/60)	118
第77図	648号住居跡(1/60・1/30)	119
第78図	648号住居跡遺物出土状態(1/60)	120
第79図	648号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	121
第80図	649号住居跡(1/60)	122
第81図	649号住居跡炉・貯蔵穴・掘り方・遺物出土状態(1/30・1/60)	123
第82図	649号住居跡出土遺物(1/4)	124
第83図	650号住居跡(1/60・1/30)	125

第84図	650号住居跡掘り方(1/60)	126
第85図	651号住居跡(1/60・1/30)	127
第86図	651号住居跡P1~P4・粘土・掘り方・遺物出土状態1(1/60)	128
第87図	651号住居跡遺物出土状態2(1/40)	129
第88図	651号住居跡出土遺物(1/4)	129
第89図	652号住居跡(1/60)	131
第90図	652号住居跡炉・貯蔵穴(1/30)	132
第91図	652号住居跡掘り方(1/60)	132
第92図	652号住居跡遺物出土状態(1/60)	133
第93図	652号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	134
第94図	653号住居跡(1/60)	135
第95図	653号住居跡炉(1/30)	136
第96図	653号住居跡貯蔵穴・赤色砂利層・P1~P7(1/30・1/60)	137
第97図	653号住居跡掘り方・遺物出土状態(1/60)	138
第98図	653号住居跡出土遺物(1/4)	139
第99図	654号住居跡(1/60)	140
第100図	654号住居跡炉・掘り方・遺物出土状態(1/30・1/60)	141
第101図	654号住居跡出土遺物(1/4)	142
第102図	655号住居跡(1/60・1/30)	143
第103図	655号住居跡遺物出土状態(1/60・1/40)	144
第104図	655号住居跡掘り方(1/60)	145
第105図	655号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	145
第106図	古墳時代後期遺構分布図(1/300)	147
第107図	31号住居跡(1/60)	148
第108図	31号住居跡貯蔵穴・炉・カマド(1/30)	149
第109図	31号住居跡P5・P6・掘り方(1/60)	150
第110図	31号住居跡遺物出土状態(1/60)	151
第111図	31号住居跡出土遺物(1/4・1/3)	152
第112図	中世以降の遺構分布図(1/300)	155
第113図	5号掘立柱建築遺構(1/60)	156
第114図	5号掘立柱建築遺構出土遺物(1/4)	157
第115図	土坑 B群1類(1/60)	159
第116図	土坑 B群2類1(1/60)	164
第117図	土坑 B群2類2(1/60)	165
第118図	土坑 C群(1/60)	167
第119図	土坑 D群(1/60)	167
第120図	土坑 E群(1/60)	169
第121図	中世以降の土坑出土遺物(1/4)	169
第122図	11号井戸跡(1/60)	171
第123図	11号井戸跡出土遺物(1/4)	171
第124図	12号井戸跡(1/60)	172
第125図	12号井戸跡出土遺物(1/4)	173
第126図	畝状遺構群(1/120・1/60)	174

第127図	中世以降のピット 1 (1/60)	175
第128図	中世以降のピット 2 (1/60)	176
第129図	中世以降のピット 3 (1/60)	177
第130図	中世以降のピット 4 (1/60)	178
第131図	中世以降のピット 5 (1/60)	179
第132図	中世以降のピット出土遺物 (1/4)	180
第133図	遺構外出土旧石器時代石器 1 (4/5)	184
第134図	遺構外出土旧石器時代石器 2 (4/5)	185
第135図	遺構外出土縄文時代遺物 1 (1/3)	186
第136図	遺構外出土縄文時代遺物 2 (1/3)	187
第137図	遺構外出土縄文時代遺物 3 (1/3・2/3・1/4)	188
第138図	遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (1/4)	192
第139図	遺構外出土中世以降の遺物 (1/4・1/3)	192
第140図	20号石器集中地点 石質別器種組成	193
第141図	4号石器集中地点出土遺物 (4/5)	195
第142図	松原遺跡出土遺物 (1/4)	196
第143図	22号石器集中地点 石質別器種組成	196
第144図	西原大塚遺跡検出礫群分布図 (1/5,000・1/1,500)	198
第145図	5号礫群赤化状態別分布図 (1/100)	201
第146図	礫群出土礫の被熱赤化率	202
第147図	赤井戸式土器	205
第148図	器台形土器の諸類型 (1/4)	210
第149図	天神前遺跡・下向山遺跡器台出土事例	211
第150図	器台	212
第151図	西原大塚遺跡北部・新邸遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡分布図 (1/800)	213
第152図	甕形土器A 1 b 類の形態変遷 (1/4)	216
第153図	西原大塚遺跡古墳時代後期住居跡分布図 (1/4,000)	217
第154図	竪穴付掘立柱建物 (1/200)	220
第155図	暦年較正結果	229
第156図	黒曜石産地一覧	231
第157図	黒曜石産地推定結果 (1)	234
第158図	黒曜石産地推定結果 (2)	235

目 次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第 2 表	西原大塚遺跡第 235 地点の発掘調査工程表	15
第 3 表	20 号石器集中地点出土石器一覧 (1)	39
	20 号石器集中地点出土石器一覧 (2)	40
	20 号石器集中地点出土石器一覧 (3)	41
第 4 表	20 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載)	41
第 5 表	21 号石器集中地点出土石器一覧 (1)	48
	21 号石器集中地点出土石器一覧 (2)	49
第 6 表	21 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載 1)	49
	21 号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載 2)	50
第 7 表	21 号石器集中地点出土鏝一覧	50
第 8 表	22 号石器集中地点出土石器一覧	52
第 9 表	22 号石器集中地点出土石器 (非掲載)	53
第 10 表	5 号鏝群出土鏝属性表 (1)	63
	5 号鏝群出土鏝属性表 (2)	64
	5 号鏝群出土鏝属性表 (3)	65
	5 号鏝群出土鏝属性表 (4)	66
	5 号鏝群出土鏝属性表 (5)	67
	5 号鏝群出土鏝属性表 (6)	68
	5 号鏝群出土鏝属性表 (7)	69
	5 号鏝群出土鏝属性表 (8)	70
	5 号鏝群出土鏝属性表 (9)	71
	5 号鏝群出土鏝属性表 (10)	72
	5 号鏝群出土鏝属性表 (11)	73
	5 号鏝群出土鏝属性表 (12)	74
	5 号鏝群出土鏝属性表 (13)	75
	5 号鏝群出土鏝属性表 (14)	76
	5 号鏝群出土鏝属性表 (15)	77
	5 号鏝群出土鏝属性表 (16)	78
	5 号鏝群出土鏝属性表 (17)	79
	5 号鏝群出土鏝属性表 (18)	80
	5 号鏝群出土鏝属性表 (19)	81
	5 号鏝群出土鏝属性表 (20)	82
	5 号鏝群出土鏝属性表 (21)	83
	5 号鏝群出土鏝属性表 (22)	84
	5 号鏝群出土鏝属性表 (23)	85
第 11 表	6 号鏝群出土鏝属性表	87
第 12 表	7 号鏝群出土鏝属性表 (1)	89
	7 号鏝群出土鏝属性表 (2)	90
第 13 表	旧石器試掘坑出土石器一覧	91

第 14 表	640 号住居跡出土土器一覽	99
第 15 表	641 号住居跡出土土器一覽	102
第 16 表	641 号住居跡出土礫一覽	102
第 17 表	642 号住居跡出土土器一覽	104
第 18 表	643 号住居跡出土土器一覽	105
第 19 表	644 号住居跡出土土器一覽 (1)	113
	644 号住居跡出土土器一覽 (2)	114
	644 号住居跡出土土器一覽 (3)	115
第 20 表	644 号住居跡出土石器一覽	115
第 21 表	646 号住居跡出土土器一覽	117
第 22 表	648 号住居跡出土土器一覽	121
第 23 表	648 号住居跡出土土製品一覽	121
第 24 表	648 号住居跡出土石製品一覽	122
第 25 表	649 号住居跡出土土器一覽	124
第 26 表	651 号住居跡出土土器一覽	130
第 27 表	652 号住居跡出土土器一覽	134
第 28 表	653 号住居跡出土土器一覽	139
第 29 表	654 号住居跡出土土器一覽	142
第 30 表	655 号住居跡出土土器一覽	145
第 31 表	31 号住居跡出土土器一覽	153
第 32 表	31 号住居跡出土石製品一覽	153
第 33 表	5 号掘立柱建築遺構出土陶器一覽	157
第 34 表	中世以降の土坑出土陶磁器・土器一覽	169
第 35 表	中世以降の土坑一覽	170
第 36 表	11 号井戸跡出土陶磁器一覽	171
第 37 表	12 号井戸跡出土陶磁器一覽	173
第 38 表	畝状遺構群出土陶器一覽	173
第 39 表	中世以降のピット出土陶器一覽	180
第 40 表	ピット一覽 (1)	180
	ピット一覽 (2)	181
	ピット一覽 (3)	182
第 41 表	遺構外出土旧石器時代石器一覽	185
第 42 表	遺構外出土縄文土器一覽 (1)	189
	遺構外出土縄文土器一覽 (2)	190
	遺構外出土縄文土器一覽 (3)	191
第 43 表	遺構外出土縄文時代土製品一覽	191
第 44 表	遺構外出土縄文時代石器一覽	191
第 45 表	遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器一覽	192
第 46 表	遺構外出土中世以降の陶磁器一覽	192
第 47 表	遺構外出土中世以降の石製品一覽	192
第 48 表	西原大塚遺跡検出礫群一覽	199
第 49 表	城山遺跡検出礫群一覽	199
第 50 表	編年対応表 (案)	203

第 51 表	西原大塚遺跡古墳時代～平安時代住居跡一覧	218
第 52 表	測定試料および処理	227
第 53 表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	228
第 54 表	黒曜石産地試料一覧	232
第 55 表	スペクトル強度と判別指標値	233
第 56 表	黒曜石判定結果	236
第 57 表	樹種同定結果一覧	238
第 58 表	西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕同定結果	240

図 版 目 次

巻頭図版 1	1. 調査区全景 (合成空中写真)
巻頭図版 2	1. 20 号石器集中地点・5 号礫群遺物出土状態 (南から) 2. 20 号石器集中地点出土遺物
巻頭図版 3	1. 644 号住居跡遺物出土状態 (南から) 2. 651 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
巻頭図版 4	1. 5 号孤立柱建築遺構全景 (西から) 2. 5 号孤立柱建築遺構出土遺物
図版 1	1. 1 区完掘全景 (東から) 2. 2 区完掘全景 (西から)
図版 2	1. 調査前現況 (南東から) 2. 遺構精査風景 (南東から) 3. 遺構精査風景 (西から) 4. 遺構精査風景 (東から) 5. 1 号試掘坑南壁 (北から) 6. 1 号試掘坑南壁東側 (北から) 7. 1 号試掘坑東壁 (西から) 8. 1 号試掘坑東壁南側 (西から)
図版 3	1. 2 号試掘坑南壁 (北から) 2. 2 号試掘坑東壁 (西から) 3. 3 号試掘坑南壁 (北から) 4. 3 号試掘坑東壁 (西から) 5. 4 号試掘坑北壁 (南から) 6. 4 号試掘坑東壁 (西から) 7. 5 号試掘坑南壁 (北から) 8. 5 号試掘坑西壁 (東から)
図版 4	1. 6 号試掘坑南壁 (北から) 2. 6 号試掘坑東壁 (西から) 3. 7 号試掘坑南壁 (北から) 4. 7 号試掘坑西壁 (東から) 5. 8 号試掘坑南壁 (北から) 6. 8 号試掘坑西壁 (東から) 7. 9 号試掘坑南壁 (北から) 8. 9 号試掘坑西壁 (東から)
図版 5	1. 10 号試掘坑南壁 (北から) 2. 10 号試掘坑西壁 (東から) 3. 11 号試掘坑南壁 (北から) 4. 11 号試掘坑西壁 (東から) 5. 12 号試掘坑北壁 (南から) 6. 12 号試掘坑西壁 (東から) 7. 13 号試掘坑北壁 (南から) 8. 13 号試掘坑西壁 (東から)
図版 6	1. 14 号試掘坑北壁 (南から) 2. 14 号試掘坑西壁 (東から) 3. 15 号試掘坑北壁 (南から) 4. 15 号試掘坑東壁 (西から) 5. 20 号石器集中地点遺物出土状態 (東から) 6. 20 号石器集中地点遺物出土状態 (南から) 7. 20 号石器集中地点遺物出土状態 (北西から) 8. 20 号石器集中地点遺物出土状態 (南から)
図版 7	1. 21 号石器集中地点遺物出土状態 (南東から) 2. 21 号石器集中地点遺物出土状態 (西から) 3. 21 号石器集中地点礫出土状態 (東から) 4. 22 号石器集中地点遺物出土状態 (南から) 5. 20 号石器集中地点・5 号礫群遺物出土状態 (北から)
図版 8	1. 5 号礫群下層遺物出土状態 (北から) 2. 5 号礫群下層遺物出土状態 (南から) 3. 5 号礫群下層遺物出土状態 (北から) 4. 5 号礫群下層遺物出土状態 (南から) 5. 5 号礫群下層遺物出土状態 (南から)

- 図版 9 1. 5号礫群中央部被熱状態(南から) 2. 5号礫群下層遺物出土状態(南から) 3. 6号礫群遺物出土状態(東から)
4. 7号礫群遺物出土状態(南から) 5. 7号礫群遺物出土状態(南から)
- 図版 10 1. 3号旧石器試掘坑遺物出土状態(西から) 2. 7号旧石器試掘坑遺物出土状態(東から)
3. 14号旧石器試掘坑遺物出土状態(南から) 4. 22号穴(西から) 5. 640号住居跡(南から)
6. 640号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南から) 7. 641号住居跡遺物出土状態(南から) 8. 641号住居跡(南から)
- 図版 11 1. 641号住居跡炉(北東から) 2. 642号住居跡(北東から) 3. 643号住居跡(南から)
4. 644号住居跡遺物出土状態(西から) 5. 644号住居跡遺物出土状態(西から)
- 図版 12 1. 644号住居跡遺物出土状態(北から) 2. 644号住居跡(南東から) 3. 645号住居跡(南西から)
4. 646号住居跡(北東から) 5. 647号住居跡(東から) 6. 648号住居跡遺物出土状態(南東から)
7. 648号住居跡遺物出土状態(北東から) 8. 648号住居跡赤色砂利層検出状態(南東から)
- 図版 13 1. 648号住居跡(南東から) 2. 648号住居跡炉(南東から) 3. 648号住居跡掘り方(南東から)
4. 649号住居跡遺物出土状態(南東から) 5. 649号住居跡遺物出土状態(南西から) 6. 649号住居跡(南東から)
7. 649号住居跡炉(南東から) 8. 649号住居跡掘り方(南東から)
- 図版 14 1. 650号住居跡(南東から) 2. 650号住居跡掘り方(南東から) 3. 651号住居跡遺物出土状態(南西から)
4. 651号住居跡遺物出土状態(南西から) 5. 651号住居跡(南東から) 6. 651号住居跡掘り方(南東から)
7. 652号住居跡遺物出土状態(南東から) 8. 652号住居跡遺物出土状態(南東から)
- 図版 15 1. 652号住居跡(南東から) 2. 652号住居跡炉(南東から) 3. 651・652号住居跡(空掘東から)
4. 653号住居跡(南西から) 5. 653号住居跡炉新段階(南西から) 6. 653号住居跡炉旧段階(南西から)
7. 653号住居跡赤色砂利層検出状態(西から) 8. 653号住居跡掘り方(南西から)
- 図版 16 1. 654号住居跡遺物出土状態(東から) 2. 654号住居跡遺物出土状態(南から) 3. 654号住居跡(東から)
4. 654号住居跡炉(東から) 5. 654号住居跡掘り方(東から) 6. 655号住居跡遺物出土状態(南東から)
7. 655号住居跡遺物出土状態(北東から) 8. 655号住居跡(南東から)
- 図版 17 1. 31号住居跡遺物出土状態(南東から) 2. 31号住居跡遺物出土状態(南東から)
3. 31号住居跡遺物出土状態(南東から) 4. 31号住居跡貯蔵穴臨遺物出土状態(南東から)
5. 31号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南東から)
- 図版 18 1. 31号住居跡(空掘南東から) 2. 31号住居跡(南東から) 3. 31号住居跡貯蔵穴(南東から)
4. 31号住居跡炉(南東から) 5. 31号住居跡粘土検出状態(東から) 6. 31号住居跡P6断面(東から)
7. 31号住居跡炉(南西から) 8. 31号住居跡掘り方(南東から)
- 図版 19 1. 5号掘立柱建築遺構(北から) 2. 5号掘立柱建築遺構(東から)
3. 5号掘立柱建築遺構P1遺物出土状態(南西から) 4. 5号掘立柱建築遺構P1(南西から)
5. 5号掘立柱建築遺構P2遺物出土状態(南から) 6. 5号掘立柱建築遺構P2(南から)
7. 5号掘立柱建築遺構P3(南から) 8. 5号掘立柱建築遺構P4(東から)
- 図版 20 1. 5号掘立柱建築遺構P5遺物出土状態1(南西から) 2. 5号掘立柱建築遺構P5遺物出土状態2(南西から)
3. 5号掘立柱建築遺構P5(南西から) 4. 5号掘立柱建築遺構P6(南西から)
5. 5号掘立柱建築遺構P7(南から) 6. 5号掘立柱建築遺構P8(南から)
7. 955号土坑(B群1類)(南西から) 8. 968~971号土坑(B群1・2類)(南西から)
- 図版 21 1. 952号土坑(B群2類)(西から) 2. 957号土坑(B群2類)(南西から) 3. 960号土坑(B群2類)(北西から)
4. 961号土坑(B群2類)(南西から) 5. 962号土坑(B群2類)(南西から) 6. 966号土坑(B群2類)(北西から)
7. 977号土坑(B群2類)(南から) 8. 976号土坑(C群)(北から)
- 図版 22 1. 956号土坑(E群1類)(北西から) 2. 956号土坑(E群1類)(南西から)
3. 964号土坑(E群1類)断面(東から) 4. 964号土坑(E群1類)(西から)
5. 11号井戸跡遺物出土状態(東から) 6. 11号井戸跡(東から) 7. 12号井戸跡(南から)
8. 畝状遺構群北側(東から)

- 図版 23 20 号石器集中地点出土遺物 1
- 図版 24 20 号石器集中地点出土遺物 2
- 図版 25 20 号石器集中地点出土遺物 3
- 図版 26 20 号石器集中地点出土遺物 4
- 図版 27 20 号石器集中地点出土遺物 5
- 図版 28 20 号石器集中地点出土遺物 6
- 図版 29 20 号石器集中地点出土遺物 7
- 図版 30 20 号石器集中地点出土遺物 8
- 図版 31 20 号石器集中地点出土遺物 9
- 図版 32 20 号石器集中地点出土遺物 10
- 図版 33 20 号石器集中地点出土遺物 11
- 図版 34 20 号石器集中地点出土遺物 12
- 図版 35 21 号石器集中地点出土遺物 1
- 図版 36 21 号石器集中地点出土遺物 2
- 図版 37 21 号石器集中地点出土遺物 3
- 図版 38 21 号石器集中地点出土遺物 4
- 図版 39 1. 22 号石器集中地点出土遺物 2. 旧石器試掘坑出土遺物
- 図版 40 1. 640 号住居跡出土遺物 2. 641 号住居跡出土遺物
- 図版 41 1. 642 号住居跡出土遺物 2. 643 号住居跡出土遺物 3. 644 号住居跡出土遺物 1
- 図版 42 644 号住居跡出土遺物 2
- 図版 43 644 号住居跡出土遺物 3
- 図版 44 1. 644 号住居跡出土遺物 4 2. 646 号住居跡出土遺物 3. 648 号住居跡出土遺物
- 図版 45 1. 649 号住居跡出土遺物 2. 651 号住居跡出土遺物
- 図版 46 1. 652 号住居跡出土遺物 2. 653 号住居跡出土遺物
- 図版 47 1. 654 号住居跡出土遺物 2. 655 号住居跡出土遺物 3. 31 号住居跡出土遺物 1
- 図版 48 31 号住居跡出土遺物 2
- 図版 49 1. 5 号掘立柱建築遺構出土遺物 2. 中世以降の土坑出土遺物 3. 11 号井戸跡出土遺物
4. 12 号井戸跡出土遺物 5. 畝状遺構群出土遺物 6. 38 号ゼット出土遺物
- 図版 50 遺構外出土旧石器時代遺物
- 図版 51 遺構外出土縄文時代遺物 1
- 図版 52 1. 遺構外出土縄文時代後期～古墳時代前期遺物 3. 遺構外出土中世以降の遺物
- 図版 53 炭化材の走査型電子顕微鏡写真
- 図版 54 西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 地域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.05㎢（註1）、人口約7万6千人の自然と文化の調和する都市である。

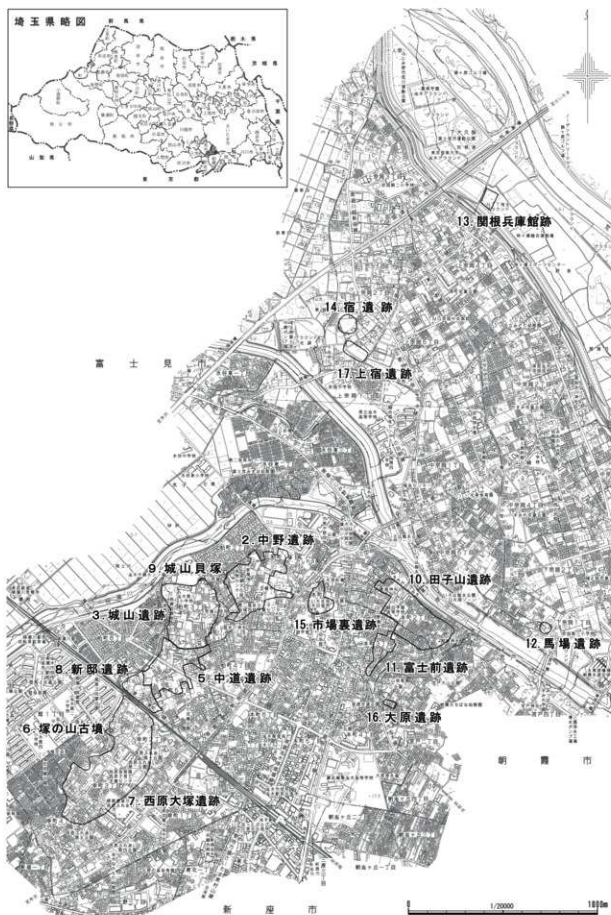
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

№	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	71,220㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,520㎡	畑・宅地	城館跡 集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（中～後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、銚造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、銚造関連遺物等
5	中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡 墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡 墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚 集落跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、貝、縄文土器
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡 墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、成化種子等
11	富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平、近世以降	住居跡、土坑?溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡・井桁状構造物	水・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡 墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700㎡	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合 計		522,840㎡					

令和5年1月10日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

令和5年1月11日現在

(2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観して見ることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年度の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2か所、平成7（1995）年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。また、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第224地点でも、立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層上部・Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層のⅣ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土しており、平成28（2016）年に発掘調査が実施された第91㊦地点からは、礫群1基が検出された。最新では、令和元・2（2019・2020）年度に発掘調査が実施された第109地点で、立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出され、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

また、城山遺跡では、平成12・13（2000・2001）年度に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層のⅣ層上部とⅦ層の2か所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挟入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年（2008・2009）に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第96地点から、立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層上部・Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期後葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、同第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23（2011）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が伊穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点から、前期後葉の諸磯a式期で、貝層をもつ住居跡が4軒検出され、貝類としては、ヤマトシジミ・マガキが主体であった。また、平成2（1990）年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されているが、平成27（2015）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第76地点からは、加曾利E4式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡の西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所が検出されている。平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成5・6（1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。平成26（2014）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2015・2016）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。最新では、令和30（2018）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点から、堀之内1式期の住居跡1軒と遺物包含層が検出され、良好な土器・石器が出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和3（2021）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期末～弥生時代初頭に位置付けられる土器片が1点出土している。以降、市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高杯、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁などが良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点は、考古資料「城山遺跡10号住居跡出土遺物」として、市指定文化財（令和3年7月1日付け）に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されており、中でも、平成27（2015）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第91地点では、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が検出されている。平成5・6（1993・1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、龍目痕をもつ壺形土器

をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。また、平成24（2012）年度に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅剣が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年度に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高環が出土していることが注目される。また、平成11（1999）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の二重口緑壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品1点と、西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土の鳥形土製品1点と壺形土器4点の計6点は考古資料として、市指定文化財（平成25年3月1日付け）に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年度に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点の19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後葉から7世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加を見る。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後葉以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3.0×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他、ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後葉から7世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒を超え、次いで中野遺跡で約58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世

紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14(2002)年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見が期待されている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8(1996)年度に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器環や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21(2008・2009)年度に発掘調査が実施された城山遺跡第62地点では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富寿神寶2枚とその付近から鉄鎌1点と土鍾1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5(1993)年度に発掘調査が実施された第24地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡として100基を越える土坑群が検出されている。平成5・6(1993・1994)年度に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群(入間市)と南比企窯跡群(鳩山町)の2か所で生産された須恵器環が共伴して出土しており、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と、城山遺跡241号住居跡出土の富寿神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、市指定文化財(平成25年3月1日付け)に指定されている。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と、千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『たてひらきまがら館村旧記』(註2)にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『かいてくごつぎ廻回雑記』(註3)に登場する「おかししるもの大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、『おむつかにやうきよごぼう大塚十玉坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう(神山 1978・2002)。

平成7(1995)年度に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子(イネ・オオムギ・コムギなど)も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

また、平成8(1996)年度に発掘調査が実施された第35地点では、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓(スラッグ)、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28(2015・

2016) 年度に発掘調査が実施された第 89 地点の調査により、第 35 地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリペ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

さらに、平成 13 (2001) 年度に発掘調査が実施された第 42 地点では、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状態で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成 6 (1994) 年度に発掘調査が実施された第 21 地点から、当市では初めて、鉦の札である鉄製品 1 点と鉄簾 1 点が出土している。出土した遺構は、19 世紀前半の 86 号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11 ~ 14 (1999 ~ 2002) 年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点では、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け、横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑の他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27 (2015) 年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面から、新たに土坑 45 基・井戸跡 2 基・溝跡 1 本・ピット 231 本などが検出された。土坑のうち、市内で初めて「T 字形」の火葬土坑 5 基が検出されたことは特筆すべきである。この「T 字形」の火葬土坑は、平成 29 (2017) 年度に発掘調査が実施された第 102 地点でも検出され、こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯の遺構が『館村日記』に記載がある「村中の墓場」に関連する遺構ではないかとの見方がある。最新では、令和元 (2019) 年度に発掘調査が実施された城山遺跡第 96 地点でも、「T 字形」の火葬土坑 2 基が検出されており、令和元・2 (2019・2020) 年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 109 地点では、六文銭と考えられる銭貨を伴って横臥屈葬された人骨を出土した土坑墓 5 基が検出されている。

中道遺跡では、昭和 62 (1987) 年度に発掘調査が実施された第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7 (1995) 年度に発掘調査が実施された第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60 (1985) 年度に発掘調査が実施された第 1 地点で検出された段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15 (2003) 年に発掘調査が実施された第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村日記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」^{しょうりんざんくわんおんじやうだいじゆういん} 関連遺構と考えられる。その後、平成 25 (2013) 年度に発掘調査が実施された第 74 地点では、段切状遺構の平場から多数のピット・溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新では、令和 2・3 (2020・2021) 年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 234 地点で検出された地下式坑 (912 号土坑) から、人骨 (女性 2 体) と完形品の播鉢が共存する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ (田中 2022)、播鉢は古瀬戸後期Ⅳ段階古~新 (藤澤 2008) に比定されることから、時期は中世 (15 世紀中葉~後葉) と考えられる。

また、令和元 (2019) 年・令和 3 (2021) 年度に、一般国道 254 号和光富士見バイパス事業に伴う発掘調査が実施された上宿遺跡では、中・近世の土坑・井戸跡・溝跡など多くの遺構が検出され、中世における「宗岡宿」の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果に繋がった。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5・6（1993・1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年度に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点からは、野火止水水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節 遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する西原大塚遺跡について概観することにする。

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部に当たる幸町2～4丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1.0kmに位置している。北東-南西方向に約700m、北西-南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。なお、遺跡北西部の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和48（1973）年に最初の発掘調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されており、平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅建設等の各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。

本遺跡は、これまでに240地点の確認調査・発掘調査（令和5年1月19日現在）が実施され（第2図）、旧石器時代、縄文時代前期～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。主体となる縄文時代中期では住居跡200軒以上からなる大規模な環状集落が形成され、弥生時代後期～古墳時代前期では、住居跡650軒以上、方形周溝墓36基が調査され、更に環濠の存在が確認されている。

また、本遺跡から発見された資料として、以下の2件が平成24年度に市指定文化財に指定され、大きな成果を上げている。

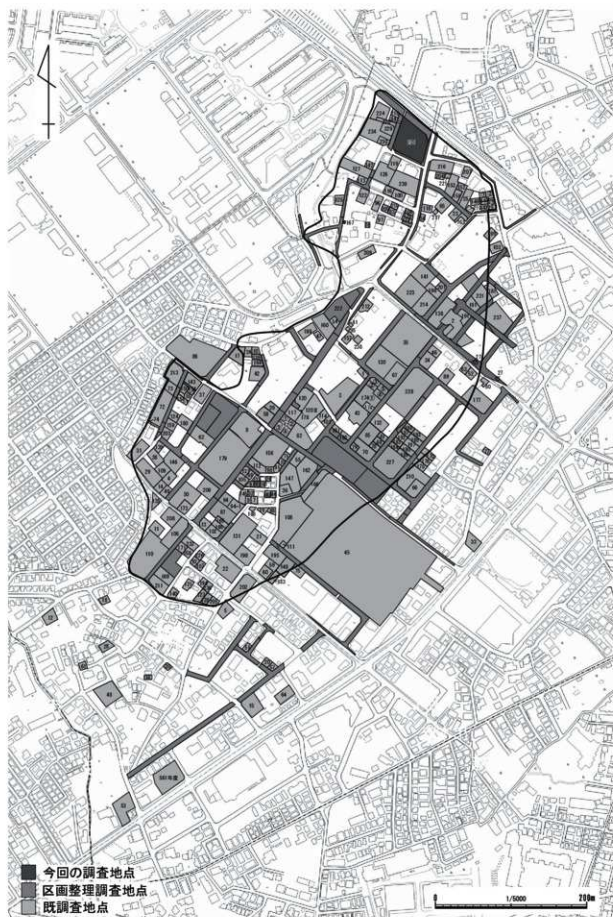
- ①西原大塚遺跡の動物形土製品
- ②西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土遺物

【註】

- 註1 平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により9.06km²から9.05km²に変更された。
- 註2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門伴恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。
- 註3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18（1486）年6月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのびし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

【引用文献】

- 神山健吉 1978「『廻回雑記』に現れる大石信濃守の館と十五坊の所在についての一考察」『郷土志木』第7号 志木市郷土史研究会
- 2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号 志木市郷土史研究会
- 田中 信 2022「第4章 調査のまとめ 第3節 中世以降について」『西原大塚遺跡第234地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会
- 藤澤良祐 2008『中世瀬戸寮の研究』高志書院



第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)

第2章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

令和3年3月、J Aあさか野から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町2丁目6226、6227（面積1,724.00㎡）地において分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

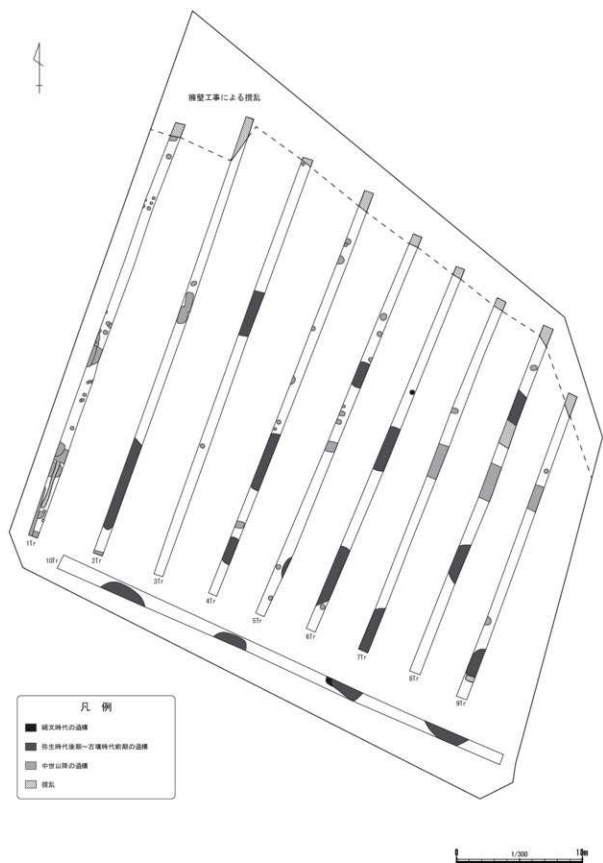
1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和3年3月22日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受領し、西原大塚遺跡第235地点として、4月13～16日に確認調査を実施した。土木工事の内容は、分譲住宅建設を実施しようとするものであった。確認調査は、第3図に示すように調査区に南北方向に9本（1～9Tr）と東西方向に1本（10Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑1基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡16軒、中世以降の土坑15基・溝跡1本・ピット44本等を確認した。教育委員会は、この結果をただちにJ Aあさか野を通じ、土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

その後、令和3年7月、株式会社マイタウン（代表取締役 内田隆成）から連絡があり、土地の購入が決まり、土木工事主体者として、改めて保存措置についての事前打合せを実施することになった。7月29日、教育委員会は土木工事主体者である株式会社マイタウンより埋蔵文化財発掘調査依頼書を受領し、8月25日、教育委員会は具体的に分譲住宅建設及び道路新設工事を基本計画とする保存措置について協議を行った。その結果、敷地全体（面積1,724.00㎡）のうち、すでに擁壁工事により破壊されている部分の面積181.63㎡を除く、1,542.37㎡については、盛土保存を適用することができないことを確認したため、発掘調査を実施することに決定した。

令和3年10月5日、土木工事主体者・教育委員会・民間調査組織の三者により事前協議を実施し、同日、西原大塚遺跡第235地点埋蔵文化財保存事業に係る協定を土木工事主体者である個人、教育委員会、大成エンジニアリング株式会社（代表取締役 石川 勇）の三者により締結した。

教育委員会は、10月13日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上より、教育委員会を調査主体に10月25日から発掘調査を実施した。



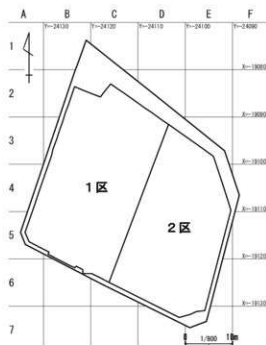
第3図 確認調査時の遺構分布 (1/300)

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、令和3年10月25日から令和4年3月31日まで実施した。調査に際しては、排土処理等の事情により、西半部を1区、東半部を2区と区分し（第4図）、1区→2区の順で調査を進行させる計画とした。

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第2表の発掘調査工程表に示した。

- 10月25日 調査実施の準備工として調査区内の除草作業を開始する。
- 26日 調査区内の除草作業完了後、防塵ネット・安全柵等の設営作業を開始する。
- 28日 重機（バックホー）による1区表土剥ぎ作業を開始する。並行して調査区北側にある三角点からの基準点・水準点移動及び仮設ハウス・トイレ等の搬入も行う。
- 11月 4日 1区表土剥ぎ作業全面完了。調査区北西部から遺構確認作業を開始する。
- 11日 1区検出全景写真撮影を行う。
- 12日 調査区北西部から中世以降の土坑・ピットなどの精査を開始する。1区北西部は擁壁工事に伴って削平され、遺構の遺存状況は悪い。
- 11月 中旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（640・641 Y）などの精査を行う。
- 11月 下旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（640～642 Y）、古墳時代後期の住居跡（31 H）、中世以降の地下式坑（956 D）などの精査を行う。
- 12月 月上旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（642～644 Y）、31 H、中世以降の掘立柱建築遺構（5 T）などの精査を行う。
- 12月17日 ドローンを用いて1区完掘全景写真撮影を行う。
- 12月20日 640～644 Yの掘り方調査及び31 Hのカマド調査を開始する。
- 12月23日 1区北側のⅡ層残存範囲を掘り下げ、縄文時代の遺構・遺物の確認作業を行う。縄文土器が散発的に出土したが、該期の遺構は確認されなかった。また、旧石器確認調査のための試掘坑（T P 1・2・5、規模2m×2m）を設定した。
- 24日 31 Hの掘り方調査及び中世以降の地下式坑（964D）の断割り調査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 3・4・6、規模2m×2m）を設定し、T P 1・5の精査を開始する。T P 1において、西壁沿いに旧石器時代の礫群（5 礫）及び石器集中地点（20 U）が確認されたため、T P 1を西方向に拡張する。
- 27日 T P 2の精査を開始する。5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北・西方向に拡張する。
- 28日 5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北方向に拡張する。
- 1月 4日 5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北・南方向に拡張する。
- 5日 5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を西方向に拡張する。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（T P 7、規模2m×2m）を新たに設定する。
- 6日 T P 3・4・7の精査を開始する。5 礫・20 Uの範囲確認のため、T P 1を北・西方向に拡張する。降雪のため、午後から現場作業を休止した。



第4図 調査区配置図（1／800）

- 1月 13日 TP 6の精査を開始する。TP 4において、旧石器時代の石器集中地点（21 U）が確認されたため、TP 4を東・南方向に拡張する。
- 17日 5礫・20 Uの範囲確認のため、TP 1を北・東方向に拡張する。また、21 Uの範囲確認のため、TP 4を西方向に拡張する。
- 18日 21 Uの範囲確認のため、TP 4を西方向に拡張する。
- 19日 5礫・20 Uの範囲確認のため、TP 1を適宜拡張した結果、形状は変則的な方形となり、最終的な規模は東西方向9.5 m×南北方向9.75 mとなった。
- 20日 5礫・20 U・21 U精査中のTP 1・4周辺を残し、重機（バックホー）を用いて、1区埋戻し作業を開始する。
- 21日 TP 1・4周辺を除いて、1区埋戻し作業が完了したため、重機（バックホー）を用いて仮設ハウス・トイレ等を順次2区から1区へ移動させると共に、北西部から2区表土剥ぎ作業を開始する。
- 27日 2区表土剥ぎ作業が全面完了した。TP 1では継続して5礫の精査を行う。
- 2月 1日 調査区南東部から2区遺構確認作業を開始する。
- 3日 5礫の精査が完了したため、重機（バックホー）を用いて、TP 1周辺の埋戻し作業を行い、1区全面の埋戻し作業が完了した。
- 4日 2区検出全景写真撮影を行う。
- 2月 月上旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（645～648 Y）などの精査を行う。
- 2月 月中旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（648～651・653 Y）などの精査を行う。
- 2月 月下旬 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（648～655 Y）などの精査を行う。
- 3月 2日 ドローンを用いて2区完掘全景写真撮影を行う。

	令和3年10月			11月			12月			令和4年1月			2月			3月			
	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	
主土層作業	10.20	11.4	1区							1.21	1.25	2区							
640 Y		11.19	11.30	12.20	12.22														
641 Y		11.19	11.30	12.20	12.22														
642 Y		11.30	12.6	12.20	12.21														
643 Y		12.7	12.7																
644 Y		12.7	12.22																
645 Y										2.27				3.13					
646 Y										2.27	2.9								
647 Y										2.27	2.8			3.14					
648 Y										2.27	2.17		3.1	3.18					
649 Y										2.14	2.17		3.1	3.19					
650 Y										2.14	2.16		3.1	3.14					
651 Y										2.11	2.22		3.1	3.18					
652 Y										2.24	3.7	3.10							
653 Y										2.16	3.7	3.10							
654 Y										2.22	2.28	3.19							
655 Y										2.28	3.1	3.11	3.14						
31 H		11.29	12.14	12.28	12.28														
22 F P		11.29																	
5 T		11.29	12.3																
11 W				12.29	12.29														
12 W										2.25	2.24								
952 D		11.10	11.16																
953 D		11.16	11.17																
954 D		11.24																	
955 D		11.24	11.25																
956 D		11.26	11.30																
957 D		11.26	11.30																
958 D		11.26	11.30																
959 D			12.1																
960 D			12.2																
961 D			12.4																
962 D			12.6	12.7															
963 D			12.7																
964 D				12.24	12.25														
965 D				12.10															
966 D										2.27									
967 D										2.27									
968 D										2.27									
969 D										2.27									
970 D										2.27	2.8								
971 D										2.27									
972 D										2.27									
973 D										2.4	2.9								
974 D										2.5	2.14								
975 D										2.9	2.14								
976 D											2.16								
977 D														3.1					
状況確認										2.4	2.14								
20 U				12.24	12.24						12.22								
21 U							1.10	1.24											
22 U														3.11	3.25				
5 階				12.21	12.23						12.22								
6 階														3.13	3.15	3.25			
7 階														3.11	3.25				
基本土層				1.5	1.7	1.18	1.24			1.22				3.18	3.17	3.25			
埋戻し作業							1.28	1.21	1.25	1.23	1.25			3.16	3.18				

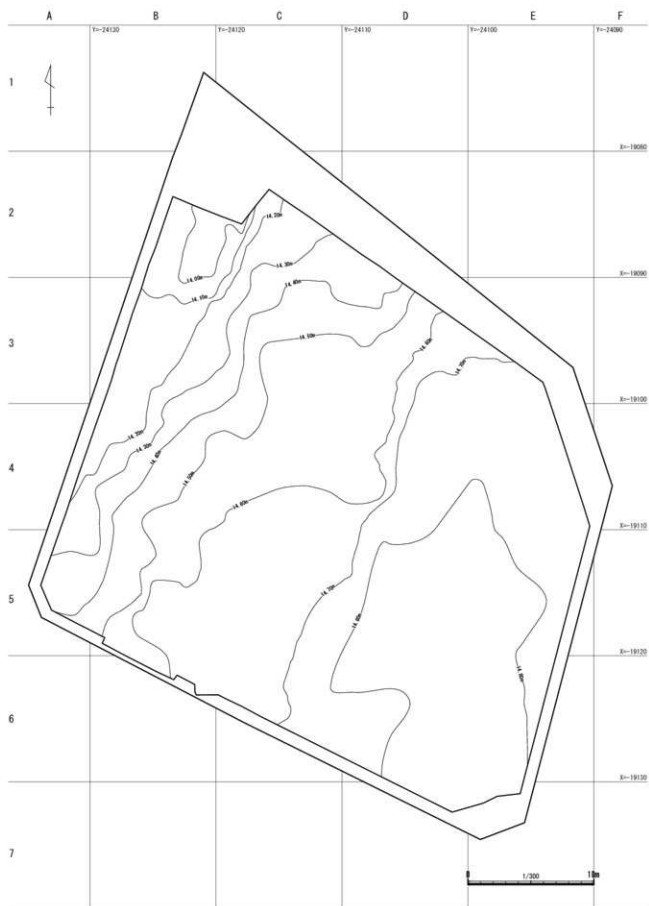
第2表 西原大塚遺跡第235地点の発掘調査工程表

- 3月 3日 旧石器時代の礫群（6礫）の精査及び645～647・650・651・653 Yの掘り方調査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（TP 8・10、規模2m×2m）を設定し、精査を開始する。
- 4日 647～651・653・654 Yの掘り方調査及びTP 8・10の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（TP 12、規模2m×2m）を新たに設定する。
- 8日 648・649・653・654 Yの掘り方調査及びTP 8・10・12の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（TP 13、規模2m×2m）を新たに設定する。
- 10日 651～653 Yの掘り方調査及びTP 12・13の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（TP 9・11、規模2m×2m）を新たに設定する。
- 11日 655 Yの掘り方調査及びTP 9・11～13の精査を行う。並行して旧石器確認調査のための試掘坑（TP 14、規模2m×2m）を新たに設定する。また、旧石器時代の礫群（7礫）が確認されたため、TP 9を西・南方向に拡張する。
- 15日 2区北側のⅡ層残存範囲を掘下げ、縄文時代の遺構・遺物の確認作業を行う。その過程で立川ローム第Ⅲ層上面より旧石器3点が出土したため、旧石器時代の石器集中地点（22 U）の遺構番号を付し、石器出土地点を基点に旧石器確認調査のための試掘坑（TP 15、規模2m×2m）を新たに設定する。
- 16日 22 Uの範囲確認のため、TP 15を西方向に拡張する。
- 24日 22 U精査中のTP 15周辺を残し、重機（バックホー）を用いて、2区埋戻し作業を開始する。並行して資材搬出等の撤収作業も行う。
- 25日 全遺構の精査が完了した。継続して2区埋戻し作業を行い、並行して防塵ネット撤去工並びに旧仮囲い復旧工を開始する。
- 28日 2区全面の埋戻し作業が完了した。継続して資材搬出及び場内整備を行う。
- 31日 土木工事主体者による現場終了引渡しの立会確認で、完了の了承をいただき、撤収工を含め、全ての現場作業が完了した。

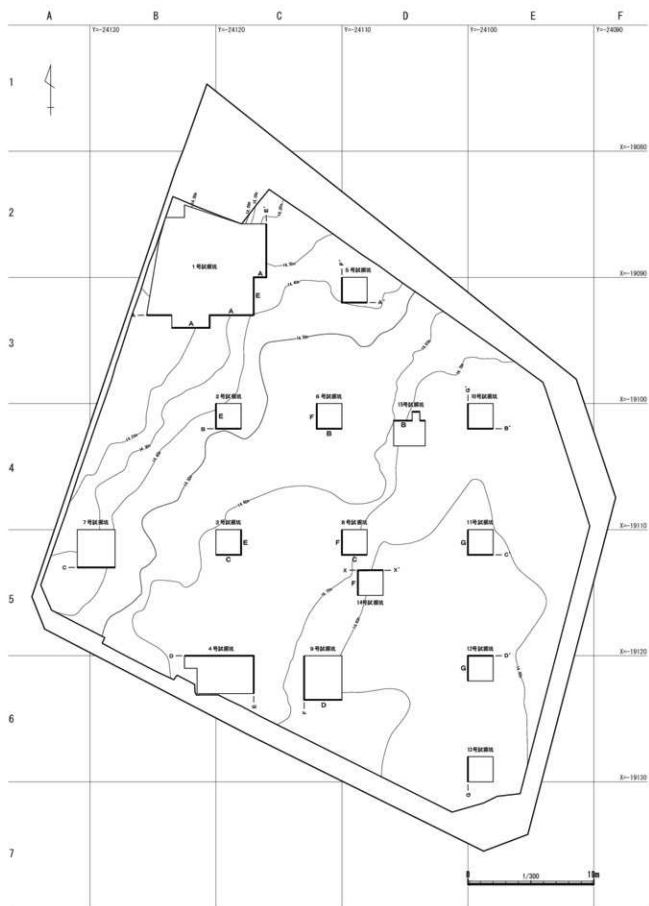
第3節 基本層序と地形

基本層序の確認と旧石器時代の調査のため、2m×2mを基本形とした試掘坑（TP 1～15）を15か所設定し（第6図）、それぞれ立川ローム第Ⅹ層が確認されるまで掘削を行った。本地点で確認されたⅢ層～Ⅹ層は、立川ローム第Ⅲ層～第Ⅹ層に対応する。なお、第Ⅷ層はTP 14北壁にのみ局所的に確認された。また、Ⅱ層は黒ボク土とローム層との間のローム漸移層である。1区の遺構確認面は概ね立川ローム第Ⅲ層であるが、2区はほぼ全面にわたり、Ⅱ層が残存していたため、Ⅱ層下部で遺構確認を行った。

第5・7・8図に示した等高線図・基本層序にあるように、本調査地点は南東から北西方向にごく緩やかに傾斜する緩斜面地で、東西の比高差は0.8mを測る。西端部はやや勾配が大きくなるものの、住居跡が多く分布する東半部（2区側）はほぼ平坦な地形である。なお、北西部の落ち込みは擁壁工事の影響で削平されたものと考えられ、旧地形を示すものではない。

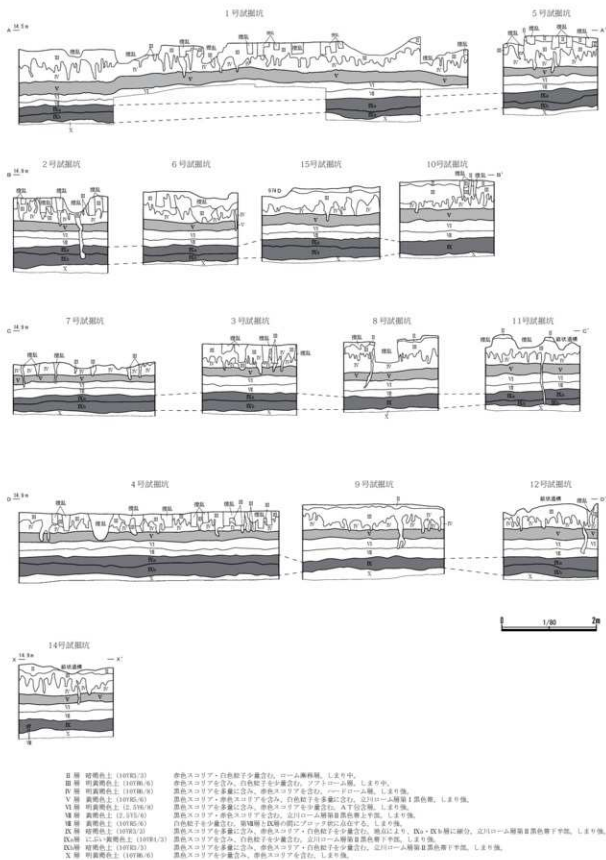


第5図 等高線図 (1/300)



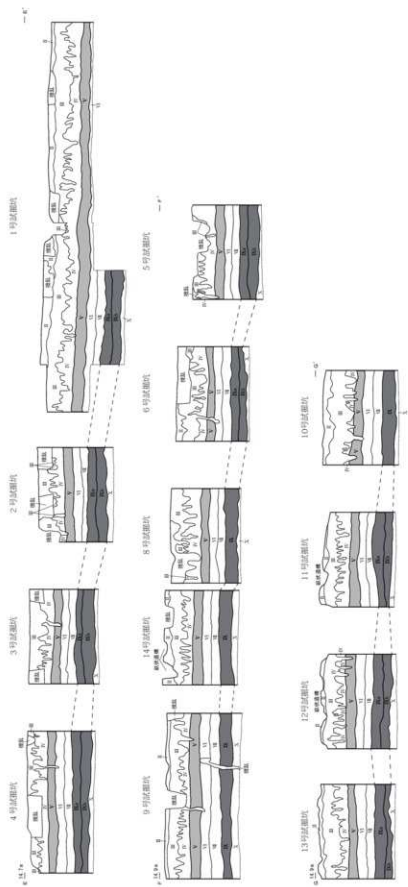
第6図 試掘坑配置図 (1/300)

[西→東方向]

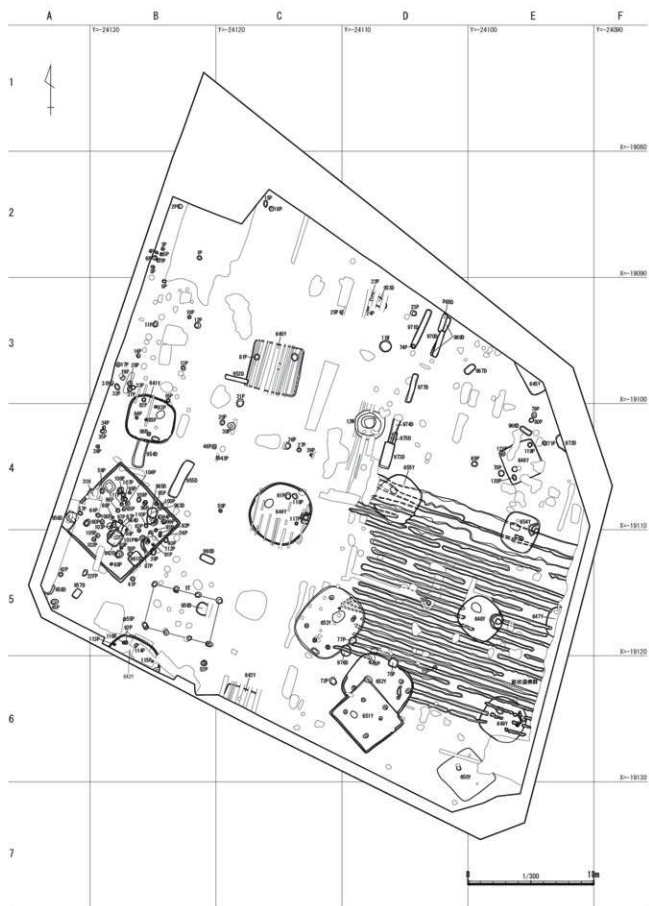


第7図 基本層序1 (1/80)

[南→北方向]



第8図 基本層序2 (1/80)



第9図 遺構分布図(1/300)

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代の遺構・遺物

(1) 概要

基本層序の確認も兼ねた旧石器試掘坑（T P 1～15）を計 15 か所設定し（第6図）、精査を行った結果、石器 194 点、礫 941 点、炭化材 2 点の計 1,137 点の遺物が出土した。遺構としては、T P 1・4・9・15 において、石器集中地点 3 か所（20～22 号石器集中地点）、礫群 3 か所（5～7 号礫群）が検出された（第10図）。また、T P 3・7・14 において計 4 点、石器が単独で出土した。

遺構を層位的にみると、22 号石器集中地点、6・7 号礫群がⅡ層下部～立川ルーム第Ⅲ層、20 号石器集中地点、5 号礫群が立川ルーム第Ⅳ層上～中部、21 号石器集中地点が立川ルーム第Ⅶ～Ⅸ層から検出されている。このことから、今回の調査では 3 時期の文化層が確認できた。

Ⅱ層下部～立川ルーム第Ⅲ層の第 1 文化層では、石器 11 点、礫 41 点が出土した。石器の内訳はナイフ形石器 2 点、両面調整石器 1 点、二次加工のある剥片 1 点、剥片 7 点で、石質別では黒曜石 6 点、チャート 3 点、珪質頁岩 1 点、瑪瑙 1 点となる。

立川ルーム第Ⅳ層上～中部の第 2 文化層では、石器 68 点、礫 898 点、炭化材 2 点が出土した。石器の内訳は尖頭器 1 点、彫器 1 点、石核 3 点、尖頭器調整剥片 8 点、剥片 54 点、砕片 1 点で、石質別ではチャート 46 点、珪質頁岩 14 点、黒曜石 7 点、頁岩 1 点となる。

立川ルーム第Ⅶ～Ⅸ層の第 3 文化層では、石器 115 点、礫 2 点が出土した。石器の内訳はナイフ形石器 1 点、石錐 1 点、石錐または彫器 1 点、削器 1 点、二次加工のある剥片 10 点、石核 1 点、剥片 100 点で、石質別ではチャート 115 点となる。

(2) 石器集中地点

20 号石器集中地点

遺 構 (第 11・12 図)

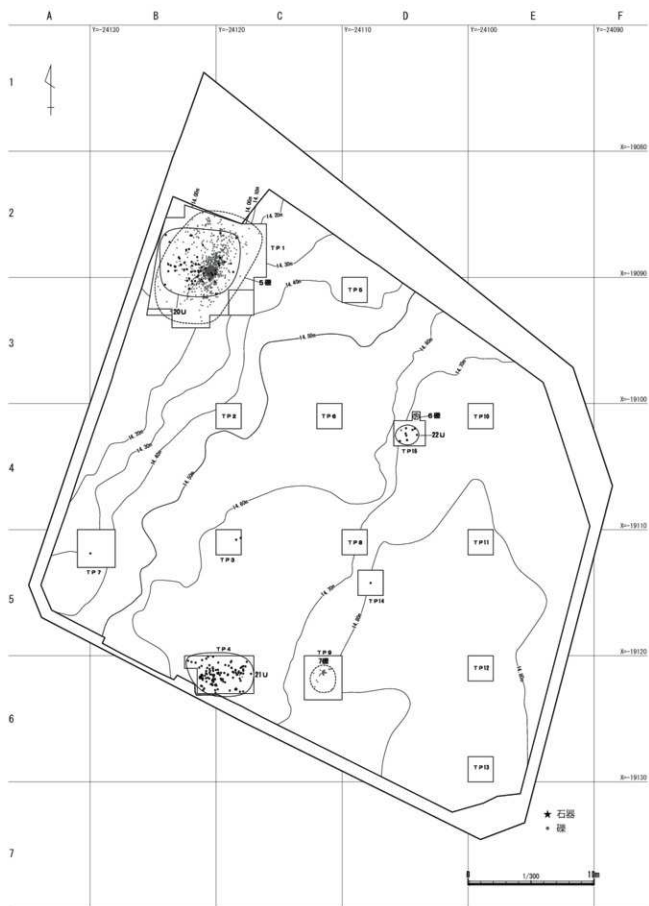
【位 置】(B・C-2・3) グリッド。T P 1 から検出。

【検出状況】上面は中世以降のピット（1・3・5・7・9・10・12 P）の他、現代の工事に伴う攪乱により削平されていたが、これらの掘り込みは深いものでも立川ルーム第Ⅲ層下部～第Ⅳ層上部に達する程度であり、本遺構への影響は軽微なものと推測される。

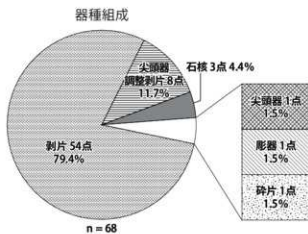
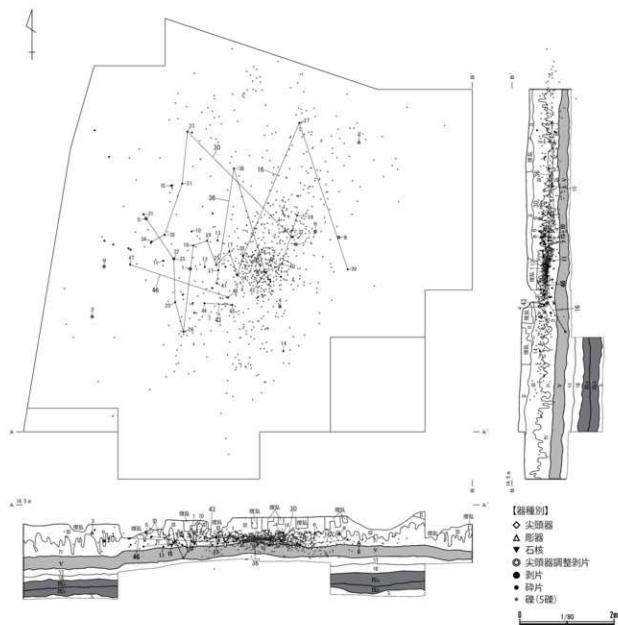
【平面分布】東西方向 5.69 m、南北方向 4.85 m の範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を続けたため、概ね本石器集中地点の全体を精査できたと考えられるが、西方向は調査区外に若干広がる可能性がある。5 号礫群と垂直分布が重なる。

【出土層位】石器は標高 13.37～13.96 m から出土しており、その分布は立川ルーム第Ⅲ層下部から第Ⅴ層下部にかけて広がるが、立川ルーム第Ⅳ層上～中部に集中する傾向が認められる。5 号礫群と垂直分布が重なる。

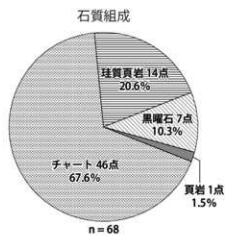
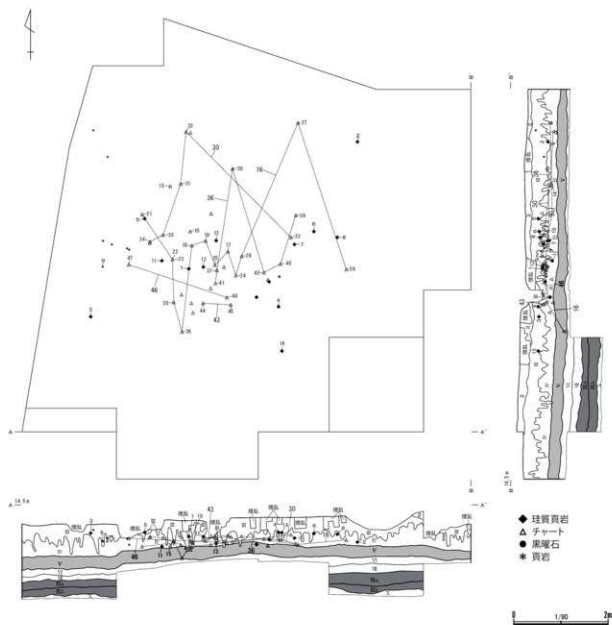
【出土石器】石器の総点数は 68 点で、尖頭器 1 点、彫器 1 点、石核 3 点、尖頭器調整剥片 8 点、剥片



第10図 旧石器時代遺構分布図(1/300)



第 11 図 20 号石器集中地点 器種別分布図 (1 / 80)



第12図 20号石器集中地点 石質別分布図 (1/80)

54点、碎片1点が出土した。石質別では、チャート46点、珩質頁岩14点、黒曜石7点、頁岩1点となる。チャートは原礫面を多く残す石核、原礫を分割した石核とそこから生じた剥片で、珩質頁岩は尖頭器・彫器等のツール及び尖頭器調整剥片等のツールに関わる調整剥片である。

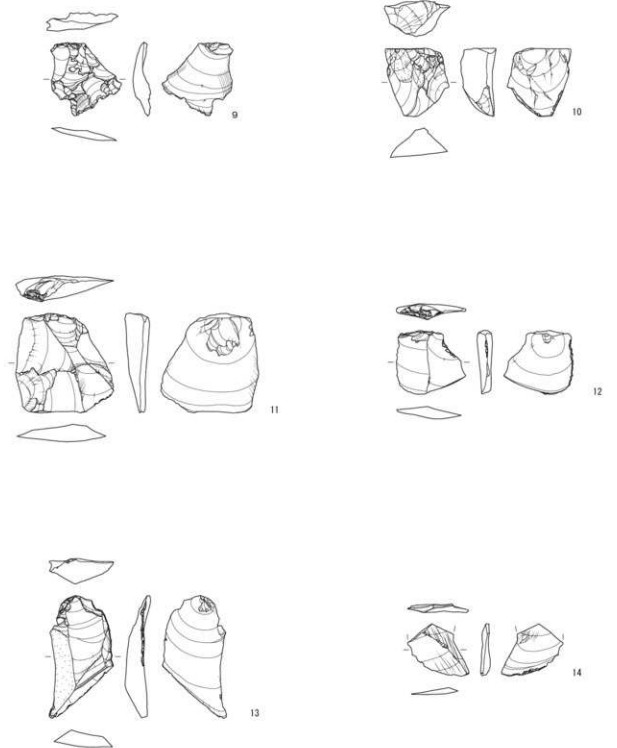
遺物 (第13～25図、図版23～34、第3・4表)

[石器] (第13～25図1～48、図版23～34-1～48、第3・4表)

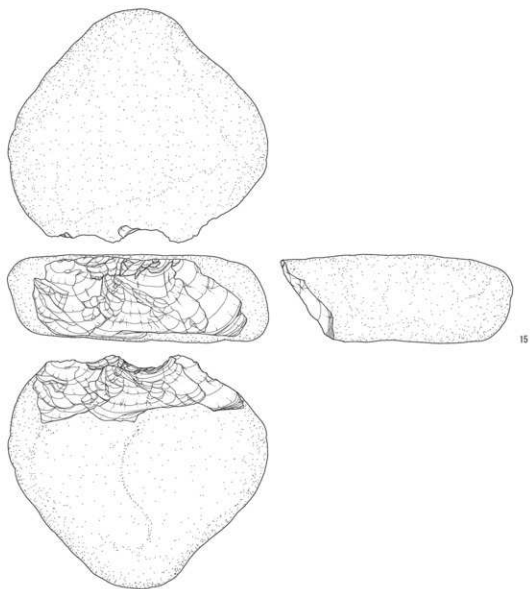
1は尖頭器、2は彫器で、共に石質は珩質頁岩である。3～9は尖頭器調整剥片で、石質は3～8が珩質頁岩、9が黒曜石である。10～14は剥片で、石質は10がチャート、11～14が珩質頁岩である。15はチャート製の石核、16～48はチャート製の石核・剥片接合資料である。チャート製の石器は石質に類似性があり、同一母岩から作出されたと考えられる。



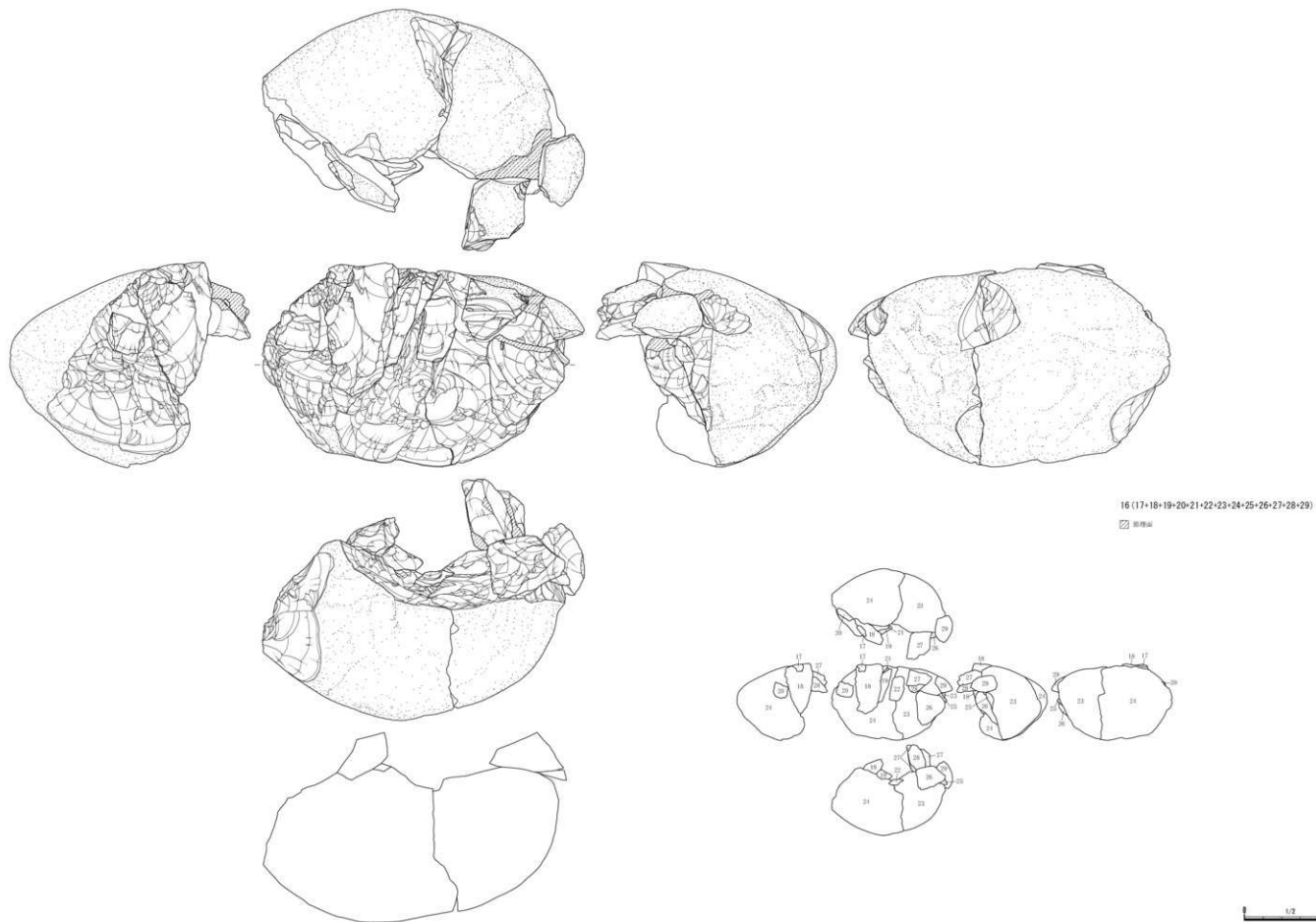
第13図 20号石器集中地点出土遺物1 (4/5)



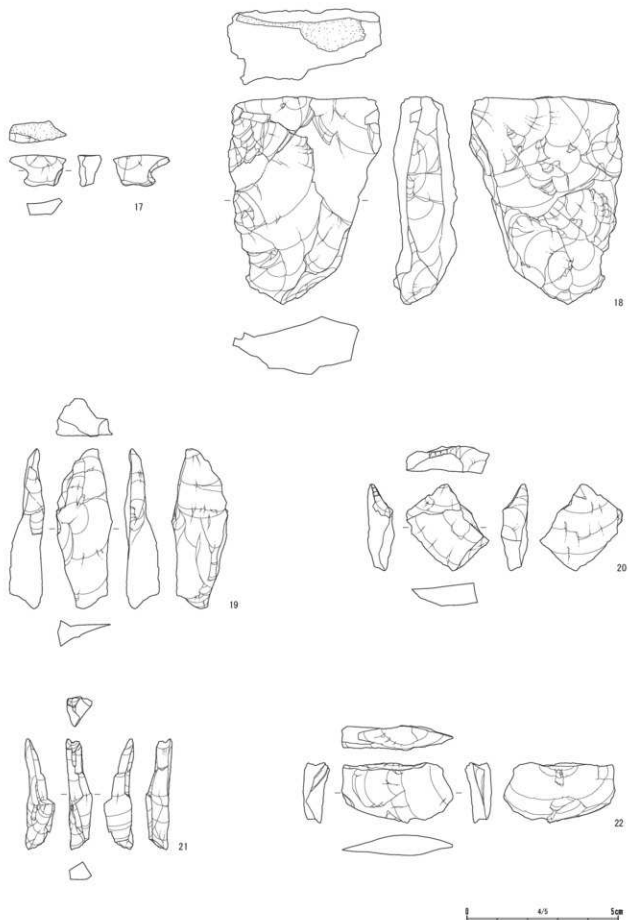
第14図 20号石器集中地点出土遺物2(4/5)



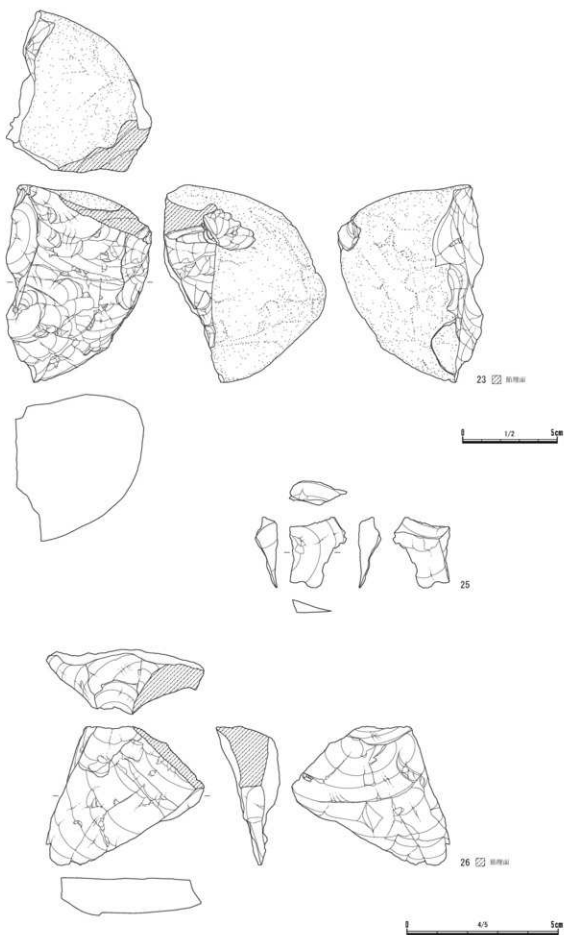
第15図 20号石器集中地点出土遺物3（4/5）



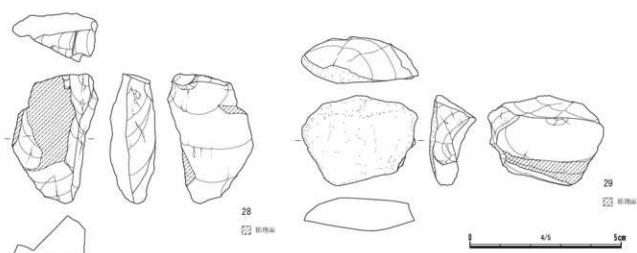
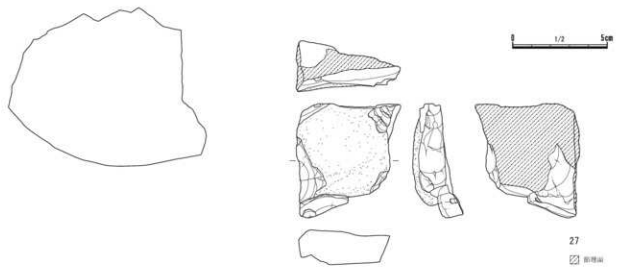
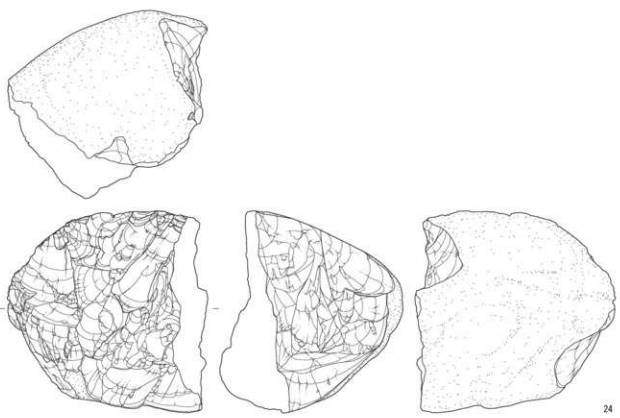
第16图 20号石器集中地点出土遺物4(1/2)



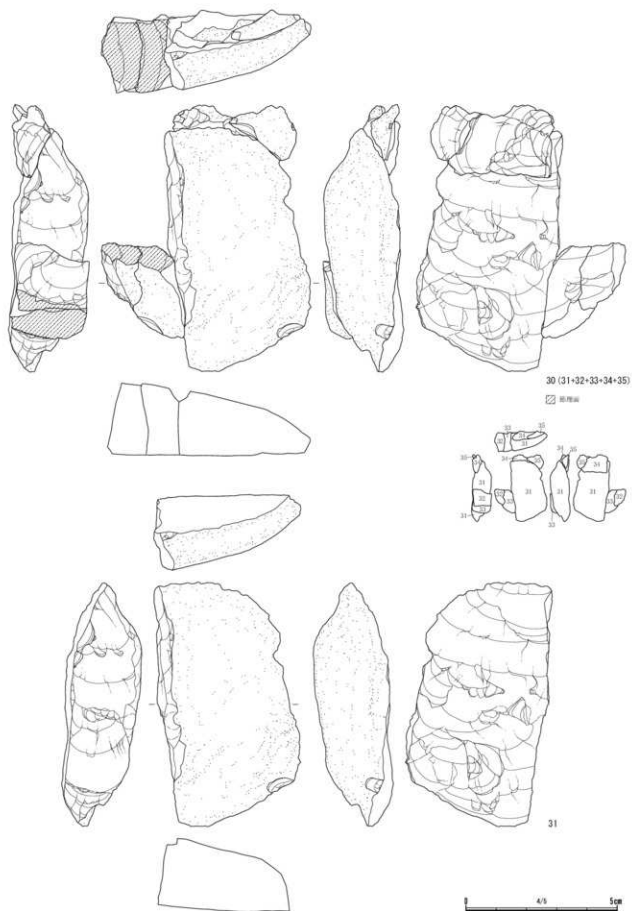
第17図 20号石器集中地点出土遺物5(4/5)



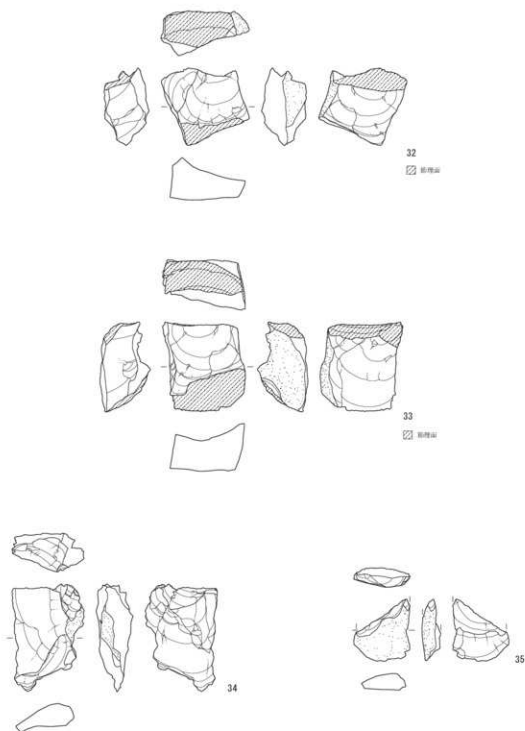
第18図 20号石器集中地点出土遺物6 (1/2・4/5)



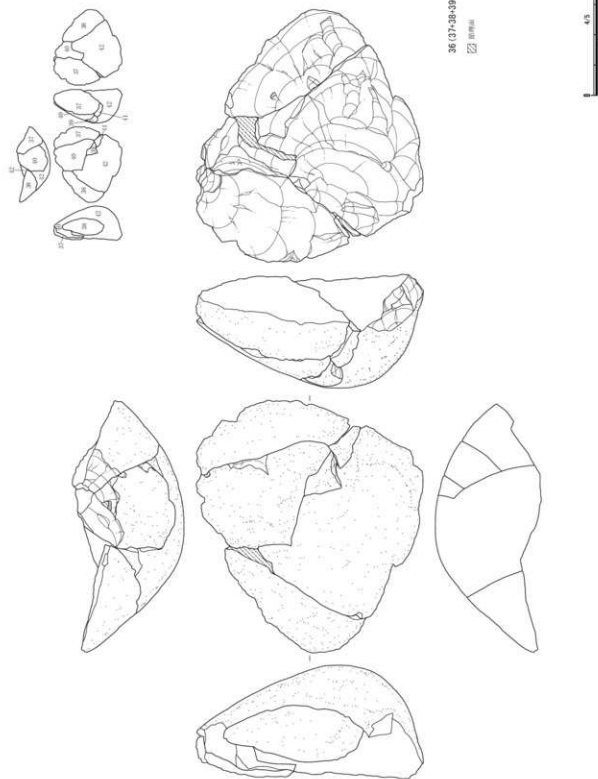
第19図 20号石器集中地点出土遺物7 (1/2・4/5)



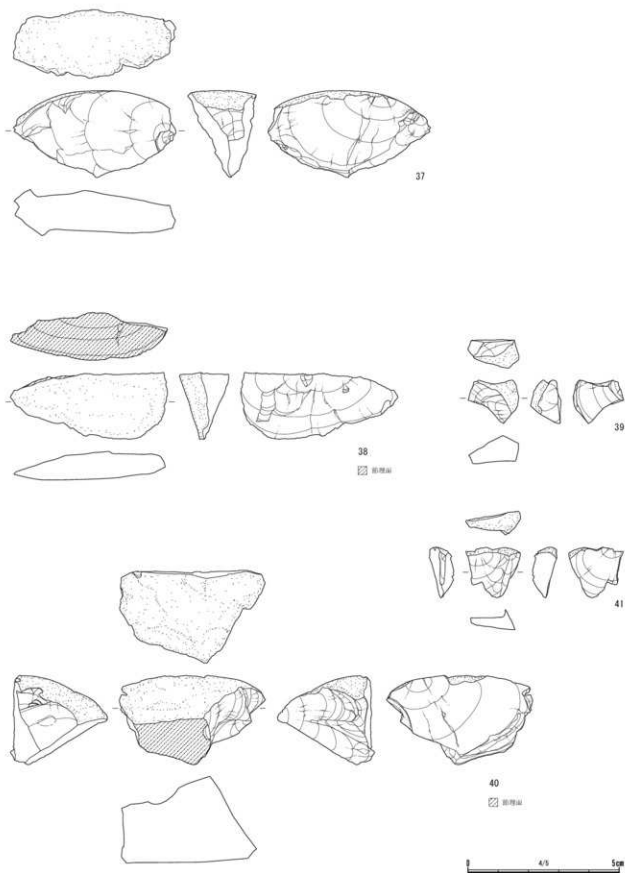
第20図 20号石器集中地点出土遺物8(4/5)



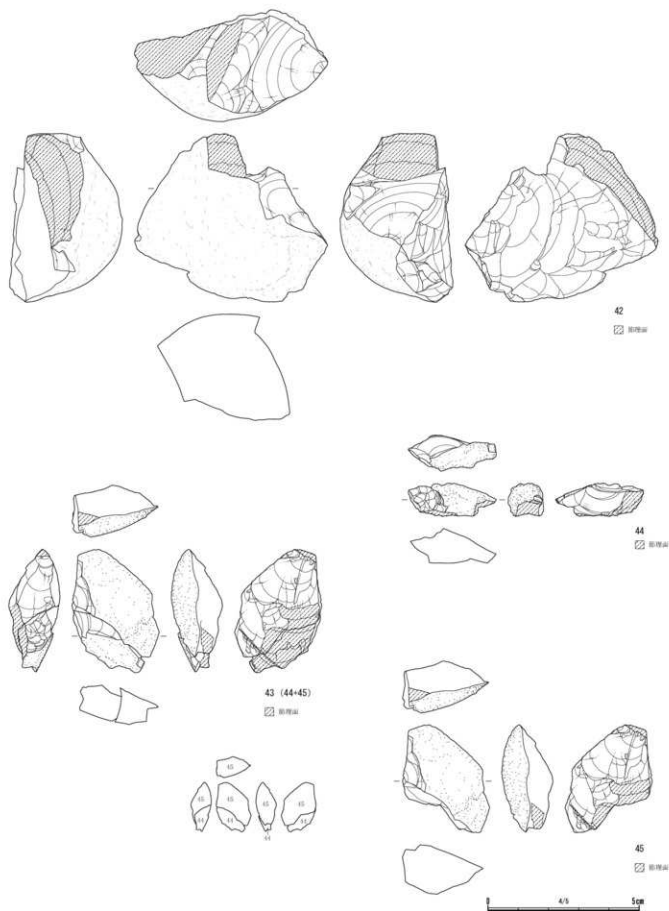
第21図 20号石器集中地点出土遺物9(4/5)



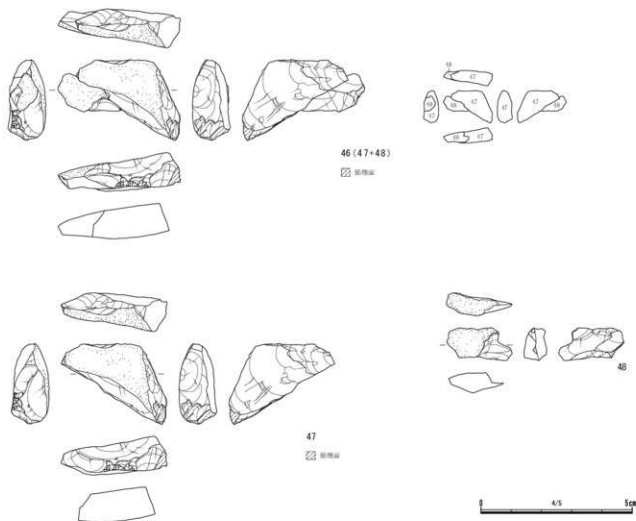
第22図 20号石器集中地点出土遺物 10 (4 / 5)



第23図 20号石器集中地点出土遺物11(4/5)



第24図 20号石器集中地点出土遺物 12 (4/5)



第25図 20号石器集中地点出土遺物13(4/5)

博物館号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第13図1 図版23-1	20U-1	尖頭器	珩質頁岩	3.45	1.95	1.12	6.51	上下端部欠損/素材の断面が明らかほど加工され、素材は不規則/打面に両面縁からの遊動的な平坦割縁/欠損するが上下両端は尖頭形に成形され、横断面形は菱形となる/欠損部上端部は単削断面、下端部は割縁が複数形成される
第13図2 図版23-2	20U-14	刺器	珩質頁岩	4.67	1.85	0.57	3.82	下端部(素材打面側)欠損/縦長割片を素材とし、縦位に用いられる/正面側左右両縁全面にプランチオン形状の二次加工/右側縁上部の二次加工部分を打面とし、距刀面が左側縁の裏面側に作出
第13図3 図版23-3	20U-2	尖頭器調整割片	珩質頁岩	2.50	1.79	0.51	1.55	光面/打面は線状/背面構成は主要割縁軸方向に横行・進行・直交する割縁方向で構成
第13図4 図版23-4	20U-11	尖頭器調整割片	珩質頁岩	2.35	2.16	0.17	0.41	光面/打面は線状/背面構成は主要割縁軸方向に横行する割縁方向で構成
第13図5 図版23-5	20U-7	尖頭器調整割片	珩質頁岩	2.39	1.49	0.38	1.11	光面/打面は単削断面/背面構成は主要割縁軸方向に横行・直交する割縁方向で構成
第13図6 図版23-6	20U-17	尖頭器調整割片	珩質頁岩	2.72	2.75	0.34	1.68	光面/打面は単削断面/背面構成は主要割縁軸方向に横行・直交する割縁方向で構成
第13図7 図版23-7	20U-24	尖頭器調整割片	珩質頁岩	3.97	1.66	0.48	1.38	光面/打面は調整打面/背面構成は主要割縁軸方向に横行する割縁方向で構成
第13図8 図版23-8	20U-13	尖頭器調整割片	珩質頁岩	3.30	1.62	0.44	1.69	打面側欠損/背面構成は主要割縁軸方向に横行する割縁方向で構成/主要割縁面側の左側縁に部分的な二次加工

第3表 20号石器集中地点出土石器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

調査番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第1408 9 図版 23-9	200-3	尖頭部調整削片	黒曜石	2.41	2.34	0.43	1.14	完形/打面は単削面/背面構成は、打痕は主要削離方向に平行、矢面側はそれに對して進行する対向した削離方向で構成/対向削離は縦断面「く」の字状に交差/痕跡跡々残存
第1408 10 図版 24-10	200-10	削片	チャート	2.25	2.10	1.17	5.64	完形/厚手の寸多まり削片/打面は単削面/背面構成は主要削離方向に平行/進行/直交する削離方向で構成/主要削離面の斜縁に連続的な微細削離
第1408 11 図版 24-11	200-22	削片	珪質頁岩	3.28	3.23	0.81	7.00	完形/打面は調整打面/背骨構成は主要削離方向に平行/直交する削離方向で構成/頭部調整あり/主要削離面の末端に非連続的な微細削離
第1408 12 図版 24-12	200-32	削片	珪質頁岩	2.10	2.29	0.50	2.15	完形/打面は調整打面/背骨構成は主要削離方向に平行/直交する削離方向で構成/頭部調整あり/主要削離面の末端に非連続的な微細削離
第1408 13 図版 24-13	200-20	削片	珪質頁岩	4.05	2.12	0.84	3.91	完形/打面は単削面/背骨構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/頭部調整あり
第1408 14 図版 24-14	200-12	削片	珪質頁岩	1.72	2.03	0.31	0.58	打面側欠損/背骨構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/主要削離面の末端に連続的な微細削離
第1508 15 図版 24-15	5機-615	石核	チャート	2.92	8.64	7.68	262.10	完形/素材は扁平な準円盤/扁平な鎌面を打面に設定し、削離を行う/作業面の削離方向は全て同方向
第1608 16 図版 25-16	—	総合資料 17+18+19+20 +21+22+23+24 +25+26+27+28 +29	チャート	10.96	17.32	12.93	1804.15	石核2点、削片11点の総合資料/4個体の分別産(個体A・B・C・Dと呼称)が接合/個体A:17~24が接合/個体B:25~26が接合/個体C・27・28が接合/個体D:29のみ/最初に個体A・B・C・Dに分別後、各個体で削離を行う/個体Aは「17→18→19→20→21→22→23→24」の順に、残った削離面の平面部分を打面として削離/22・23・24は同時刻削の可能性あり/23・24(石核)は調査地点に遺棄/個体Bは個体Aとの分別面である背面を作業面にして「25→26」の順に削離/個体Cは個体Aとの分別面を打面として「27→28」の順に削離/個体B・Cの石核は調査地点で未確認/全体的に彫理が顕著
第1708 17 図版 26-17	5機-252	削片	チャート	1.03	1.86	0.61	1.32	完形/打面は原表面/背面構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/個体A
第1708 18 図版 26-18	5機-641	削片	チャート	6.86	5.05	2.10	74.24	右側欠損/打面は原表面/背面構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/個体A
第1708 19 図版 26-19	200-19	削片	チャート	5.28	1.85	1.15	8.64	打面側欠損/背骨構成は主要削離方向に直交する削離方向で構成/左側縁中央部を起点に削離が広がる/個体A
第1708 20 図版 26-20	5機-203	削片	チャート	2.86	2.73	0.88	5.46	打面側欠損/背骨構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/主要削離面の左縁縁に部分的に二次加工の削離/個体A
第1708 21 図版 26-21	200-23	削片	チャート	3.66	0.87	0.97	2.06	打面側欠損/背骨構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/左側面はステップを起点に削離が直交方向に広がる/個体A
第1708 22 図版 27-22	5機-644	削片	チャート	1.99	3.68	0.87	6.14	左右両側欠損/打面は単削面/背面構成は主要削離方向に直交する削離方向で構成/23との分別面を打面として削離/個体A
第1808 23 図版 27-23	5機-644	石核	チャート	10.44	7.69	8.57	639.50	単段打面石核/作業面の削離方向は上面の打面からの単一方向の削離で構成/直交方向の削離痕は彫理などを起点に削離方向が変わったと推測される/個体A
第1908 24 図版 27-24	5機-645	石核	チャート	10.66	10.61	9.68	1075	単段打面石核/作業面の削離方向は上面の打面からの単一方向の削離で構成/直交方向の削離痕は彫理などを起点に削離方向が変わったと推測される/個体A
第1808 25 図版 28-25	200-18	チャート	2.32	1.87	0.74	2.01	完形/打面は単削面/背骨構成は主要削離方向に直交する削離方向で構成/背面は個体Aとの分別面/個体B	
第1808 26 図版 28-26	200-34	削片	チャート	4.59	5.22	2.10	32.76	完形/打面は原表面/背骨構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/背面は個体Aとの分別面/個体B
第1908 27 図版 28-27	5機-357	削片	チャート	3.77	3.45	1.22	17.93	完形/打面は原表面/背骨構成は原表面と主要削離方向に直交する削離方向で構成/個体C
第1908 28 図版 28-28	5機-304	削片	チャート	4.29	2.83	1.50	14.65	完形/打面は単削面/背骨構成は主要削離方向に平行する削離方向で構成/個体C
第1908 29 図版 28-29	5機-8	削片	チャート	2.98	3.82	1.53	16.61	完形/打面は単削面/背骨構成は原表面/個体D
第2008 30 図版 29-30	—	総合資料 31+32+33 +34+35	チャート	8.80	6.93	2.66	23.74	削片5点の総合資料/「31→32→33→90°の打面転位→34・35」の順に削離/石核は調査地点で未確認/全体的に彫理が顕著
第2008 31 図版 30-31	5機-638	削片	チャート	8.07	4.85	2.65	103.10	打面側欠損/背骨構成は原表面で構成/石核あるいは石核素材の可能性もあろう
第2108 32 図版 30-32	5機-322	削片	チャート	2.55	2.91	1.48	8.53	完形/打面は原表面/背骨構成は主要削離方向に平行/直交する削離方向で構成

第3表 20号石器集中地点出土石器一覧(2)

調査番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第21図 33 図版 30-33	5 雫-875	剥片	チャート	2.95	2.73	1.66	15.21	完形/地物のため表面が変色・変質/打面は原理面/背面構成は主要剥離軸方向に平行する剥離方向で構成
第21図 34 図版 30-34	5 雫-47	剥片	チャート	3.54	2.38	1.21	7.72	末端側欠陥/打面は単側面/背面構成は主要剥離軸方向に平行/直交する剥離方向で構成
第21図 35 図版 30-35	5 雫-175	剥片	チャート	2.05	1.85	0.61	1.94	打面側欠陥/打面は単側面/背面構成は主要剥離軸方向に平行/直交する剥離方向で構成
第22図 36 図版 31-36	—	接合資料 37 + 38 + 39 + 40 + 41 + 42	チャート	7.49	8.34	3.75	198.50	剥片 6 点の接合資料/1 個体の分割体あるいは剥片/「37・38→39・40→41→42」の順に前後/前後が異なる石材で、原理面を多く残す/転石時の衝撃による打撃痕が原理面だけでなく内部にも残るため、6 点の剥片は原石分割時に同時生成された可能性あり
第23図 37 図版 32-37	5 雫-254	剥片	チャート	2.87	5.37	2.26	29.40	完形/打面は原理面/背面構成は主要剥離軸方向に平行する剥離方向で構成
第23図 38 図版 32-38	5 雫-582	剥片	チャート	2.20	5.19	1.63	15.32	欠陥品/42 の原理面で作れる
第23図 39 図版 32-39	5 雫-377	剥片	チャート	1.43	1.67	1.00	2.11	打面側欠陥/背面構成は主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第23図 40 図版 32-40	5 雫-698	剥片	チャート	2.94	4.83	3.21	38.62	完形/打面は原理面/背面構成は原理面と主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第23図 41 図版 32-41	5 雫-302	剥片	チャート	1.66	1.80	0.80	1.51	完形/打面は原理面/背面構成は主要剥離軸方向に平行する剥離方向で構成
第24図 42 図版 33-42	5 雫-758	剥片	チャート	5.55	6.37	3.73	111.54	欠陥品/37～41 が割れた可能性あり
第24図 43 図版 34-43	—	接合資料 44 + 45	チャート	4.07	2.88	1.69	17.03	剥片 2 点の接合資料/打面は原理面/背面構成は原理面と主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第24図 44 図版 34-44	5 雫-253	剥片	チャート	1.09	2.90	1.17	3.61	打面側欠陥/主要剥離面は転石時の衝撃痕の可能性あり
第24図 45 図版 34-45	5 雫-257	剥片	チャート	3.56	2.88	1.69	13.42	末端側欠陥
第25図 46 図版 34-46	—	接合資料 47 + 48	チャート	2.66	4.04	1.25	10.55	剥片 2 点の接合資料/打面は原理面/背面構成は原理面と主要剥離軸方向に直交する剥離方向で構成
第25図 47 図版 34-47	5 雫-44	剥片	チャート	2.66	3.49	1.25	9.03	末端側欠陥/48 との剥離面に二次加工
第25図 48 図版 34-48	5 雫-488	剥片	チャート	1.08	2.16	0.75	1.52	打面側欠陥

第3表 20号石器集中地点出土石器一覧(3)

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
20U-4	尖頭器 調整剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.01	0.70	0.18	0.10	20U-26	剥片	チャート	0.83	0.60	0.12	0.05
20U-5	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.29	1.21	0.25	0.37	20U-27	剥片	チャート	1.22	0.52	0.34	0.17
20U-6	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.32	0.68	0.18	0.13	20U-28	剥片	チャート	1.40	1.16	0.53	0.80
20U-8	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.54	0.93	0.19	0.19	20U-29	剥片	珪質頁岩	0.76	0.75	0.15	0.07
20U-9	剥片	黒曜石 (神津島産)	1.18	0.88	0.26	0.20	20U-30	剥片	頁岩	0.90	1.50	0.21	0.30
20U-15	剥片	チャート	1.30	0.59	0.24	0.16	20U-31	砕片	珪質頁岩	0.51	0.29	0.05	0.01
20U-16	剥片	チャート	2.01	1.51	0.52	1.32	20U-33	剥片	チャート	1.79	1.06	0.92	1.04
20U-21	剥片	黒曜石 (信州霧ヶ峰産)	1.01	0.65	0.06	0.05	20U-35	剥片	チャート	2.50	1.80	0.34	1.47
20U-25	剥片	チャート	3.43	2.06	0.96	5.51	5雫-195	剥片	チャート	2.67	1.15	0.63	1.20

第4表 20号石器集中地点出土石器一覧(非掲載)

21号石器集中地点

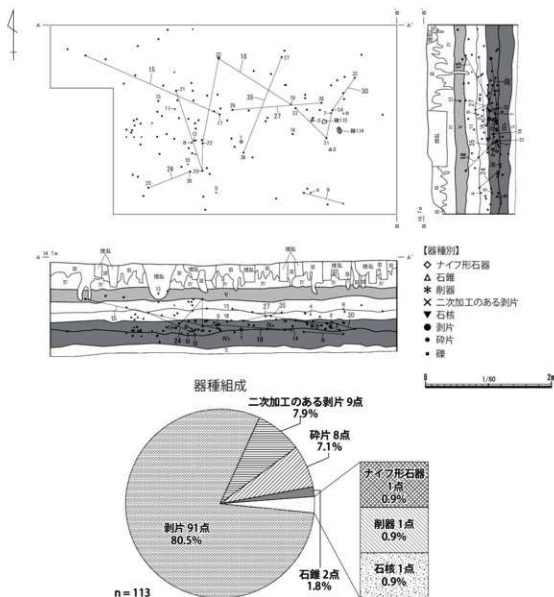
遺構 (第26・27図)

[位置] (B・C-6) グリッド。TP4から検出。

[検出状況] 上面は弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡(643 Y)、中世以降のピット(52 P)及び現代の耕作跡等により削平されていたが、これらの掘り込みはいずれも石器の出土層位には達しておらず、本遺構への影響は無かったと考えられる。

[平面分布] 東西方向5.02 m、南北方向2.88 mの範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を続けた結果、概ね本石器集中地点の中心部は捉えることができたが、調査区南端で検出されたため、全体の把握までは至らなかった。南・西方向は調査区外にまで広がる可能性が高い。本遺構に伴う礫群は確認されなかったが、石器に相伴して礫2点が出土している。

[出土層位] 石器は標高13.44～14.16 mから出土しており、比高差が大きいが、使用石材はチャートに限定され、接合関係が多く認められることから、文化層は1枚として捉えた。垂直分布は立川ローム



第26図 21号石器集中地点 器種別分布図(1/60)

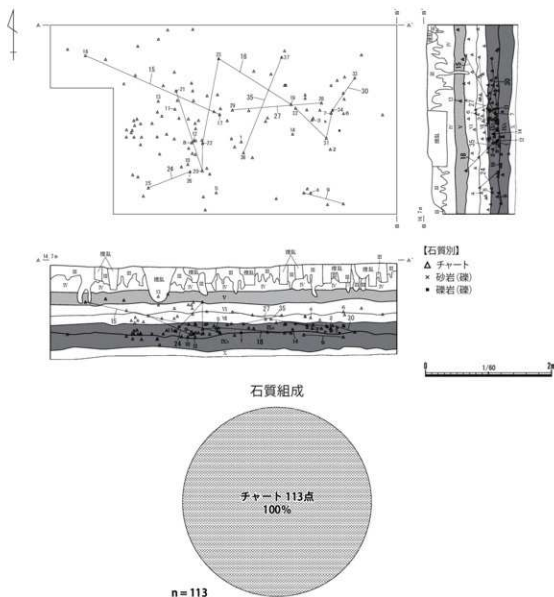
第V層下部から第IX層下部にかけて広がるが、立川ローム第IX層上部に集中する傾向が認められる。

【出土石器】石器の総点数は113点で、ナイフ形石器1点、石錐2点、削器1点、二次加工のある剥片9点、石核1点、剥片91点、砕片8点が出土した。石質は全てチャートである。なお、立川ローム第IX層上部から礫2点が出土したが、礫群としては認識できなかった。礫の石質は砂岩1点、礫岩1点である。その他、TP4内からチャート製のナイフ形石器1点、二次加工のある剥片1点が出土したが、出土地点・層位が不明のため、遺構外遺物として第133図に別掲する。

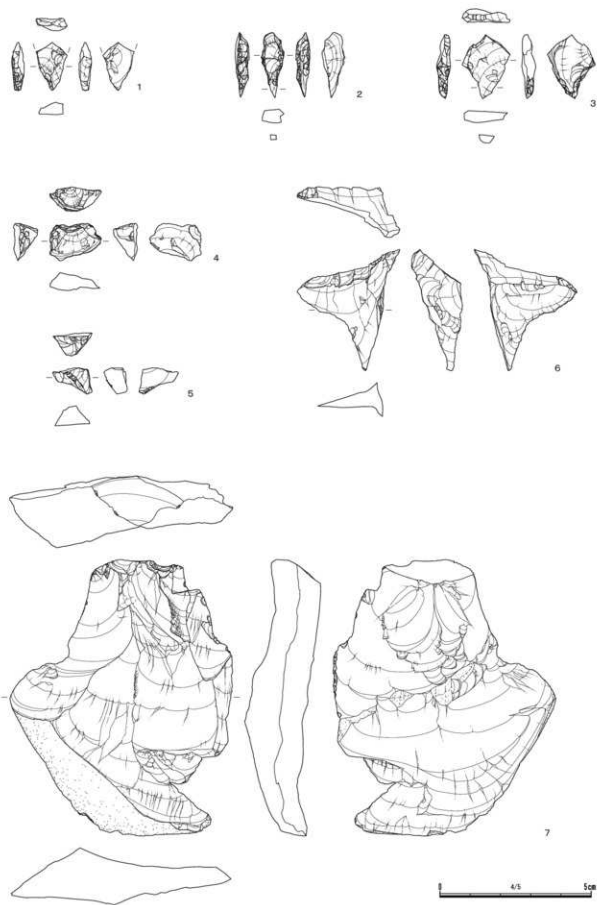
【遺物】(第28～31図、図版35～38、第5～7表)

【石器】(第28～31図1～37、図版35～38-1～37、第5～7表)

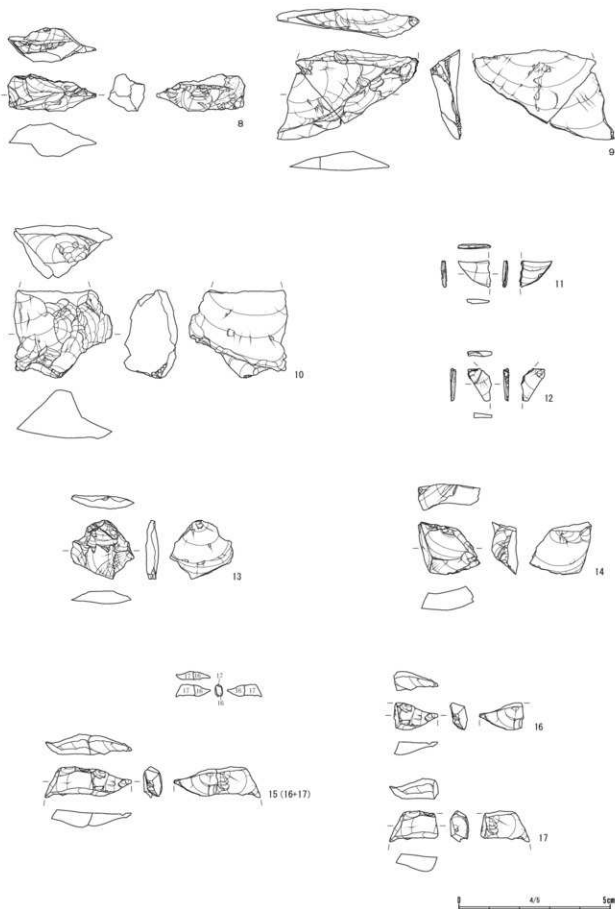
全てチャート製で、1はナイフ形石器、2は石錐、4は削器である。3は石錐として分類したが、影刀面状の剥離が施されていることから、影器として用いられた可能性もある。5～12は二次加工のある剥片、13・14は剥片である。15～37はチャート製の石核・剥片接合資料で、石質の類似性が極めて高く、同一母岩から作出されたものと考えられる。



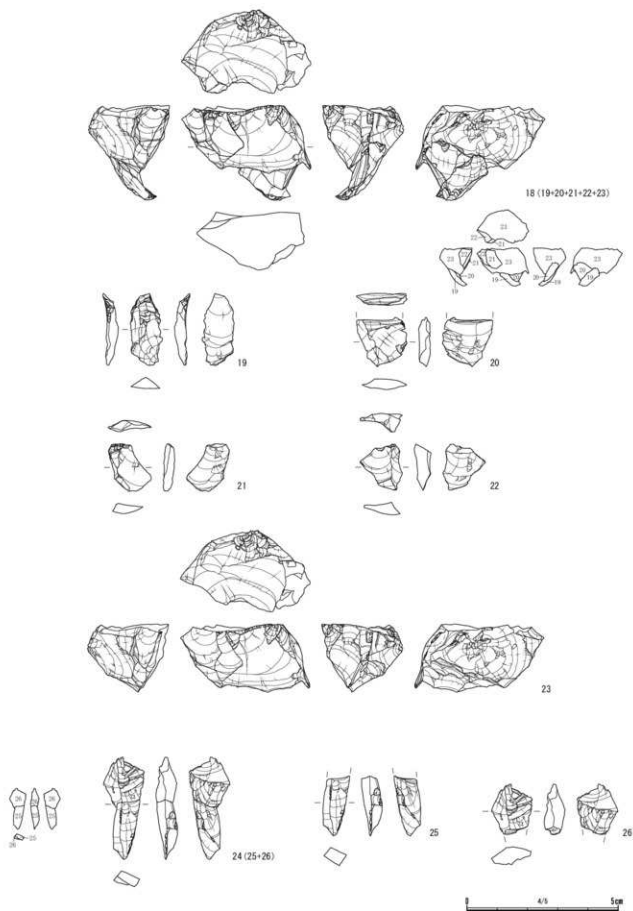
第27図 21号石器集中地点 石質別分布図(1/60)



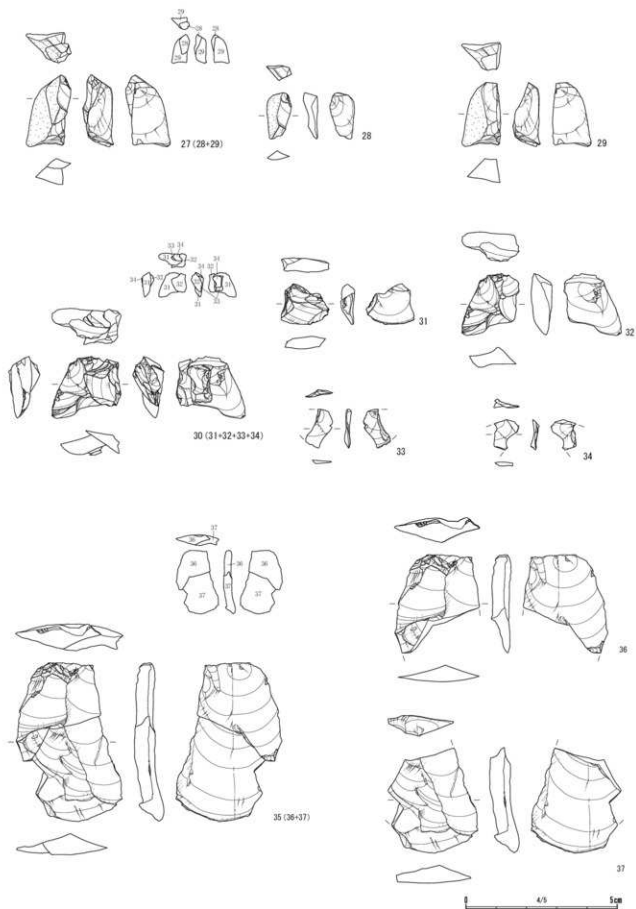
第28図 21号石器集中地点出土遺物1(4/5)



第29図 21号石器集中地点出土遺物2(4/5)



第30図 21号石器集中地点出土遺物3 (4/5)



第31図 21号石器集中地点出土遺物4 (4/5)

第3章 検出された遺構と遺物

調査番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第28図1 図版35-1	21U-56	ナイフ形石器	チャート	1.58	1.03	0.41	0.64	先端部欠損/幅広さ詰まりの割片を素材とし、横位に用いられる/素材打面は左側縁/基部の二次加工は右側縁末端のみのみならず、右側縁は未加工
第28図2 図版35-2	21U-45	石鏝	チャート	2.14	0.76	0.46	0.73	完形/幅広さ詰まりの割片を素材とし、横位に用いられる/素材打面は左側縁/素材主要側面を打面として右側縁に二次加工/素材主要側面と二次加工の右側縁は両側縁とも90°近く、横断面には四角形あるいはそれに近い形となる
第28図3 図版35-3	21U-79	石鏝 または 削器	チャート	2.11	1.58	0.46	1.21	完形/幅広さ詰まりの割片を素材とし、横位に用いられる/素材打面は左側縁/素材主要側面を打面として左側縁から先端の一部に二次加工/加工部分の平面が欠損状となるため石鏝と分類したが、右側面上部の平面を打面として、2・3本の面力状の割片が備わっていることから、削器として用いられた可能性もある
第28図4 図版35-4	21U-48	削器	チャート	1.23	1.71	0.80	1.43	完形/素材は両面ボジ面の幅広の割片/素材主要側面は正面縁/上端部と正面縁の左右側縁に急角度の部分的な二次加工
第28図5 図版35-5	21U-62	二次加工の ある割片	チャート	0.86	1.30	0.77	0.66	完形/上面の折れ面あるいは切断面に二次加工/背面中央部の縁上と主要側面側の末端に微細割縁
第28図6 図版35-6	21U-77	二次加工の ある割片	チャート	4.00	2.92	1.30	6.27	完形/背面側の上部右側縁に打面からの部分的な二次加工/打面上部の左側縁に背面を打面とした部分的な二次加工
第28図7 図版35-7	21U-113	二次加工の ある割片	チャート	9.13	7.36	2.51	106.60	完形/打面は単側面/背面構成は主要側縁方向に横行する割縁方向のみで構成され、摩擦面を有する/主要側面側の右側縁に部分的な二次加工
第29図8 図版36-8	21U-98	二次加工の ある割片	チャート	2.28	3.35	0.87	2.99	完形/断面が顕著/打面と背面を区分する縁上、打面側から摩擦を加えた連続的な二次加工
第29図9 図版36-9	21U-111 21U-112	二次加工の ある割片	チャート	2.97	4.67	1.01	8.28	打面側欠損/割片1点の折れ/背面構成は主要側縁方向に横行・直交する割縁方向で構成/主要側面側の左側縁に部分的な二次加工
第29図10 図版36-10	21U-66	二次加工の ある割片	チャート	2.90	3.25	1.76	13.89	打面側欠損/背面構成は主要側縁方向に横行・直交する割縁方向で構成/背面側の右側縁末端に部分的な二次加工
第29図11 図版36-11	21U-104	二次加工の ある割片	チャート	0.87	1.07	0.18	0.16	打面側欠損/主要側面側の右側縁に連続的な二次加工
第29図12 図版36-12	21U-109	二次加工の ある割片	チャート	1.08	0.78	0.18	0.17	打面側欠損/主要側面側の右側縁に連続的な二次加工
第29図13 図版36-13	21U-15	割片	チャート	1.94	2.08	0.41	1.57	完形/打面は単側面/背面構成は主要側縁方向に横行する割縁方向だけでなく多方向からの割縁で構成
第29図14 図版36-14	21U-49	割片	チャート	1.73	2.04	0.85	2.66	完形/打面は単側面/背面構成は主要側縁方向に横行・直交する割縁方向で構成
第29図15 図版36-15	-	接合資料 16 + 17	チャート	1.02	2.85	0.61	1.71	割片2点の接合資料/打面は単側面/背面構成は割片側縁に横行・直交する割縁方向で構成/16・17分割面の打点位置は15の打点位置と一致することから15の割縁時に同時割れた可能性がある
第29図16 図版36-16	21U-1	割片	チャート	0.89	1.45	0.57	0.65	左側末端部欠損
第29図17 図版36-17	21U-59	割片	チャート	1.02	1.60	0.60	1.06	右側末端部欠損
第30図18 図版37-18	-	接合資料 19 + 20 + 21 + 22 + 23	チャート	3.14	4.27	2.67	21.69	石核1点、二次加工割片1点、割片3点の接合資料/「19→20→A→21→22→23」の順に割縁/A資料は未確認/19→20は15の正面縁を打面にして割縁/A資料以降に打面転位/21→22は20の上面縁を打面にして割縁/23(石核)は調査地点に遺棄
第30図19 図版37-19	21U-93	二次加工の ある割片	チャート	2.37	1.05	0.51	0.95	完形/打面は二次加工によって残されていない/背面構成は主要側縁方向に横行・進行する割縁方向で構成/背面側打面の両側縁に連続的な二次加工
第30図20 図版37-20	21U-26	割片	チャート	1.63	1.66	0.38	1.11	打面側欠損/背面構成は主要側縁方向に横行・直交する割縁方向で構成
第30図21 図版37-21	21U-103	割片	チャート	1.57	1.23	0.38	0.65	完形/打面は単側面/背面構成は主要側縁方向に横行する割縁方向で構成/背面側打面の縁辺にある微細な二次加工は断面調整と推定される
第30図22 図版37-22	21U-60	割片	チャート	1.51	1.40	0.55	0.81	完形/打面は単側面/背面構成は主要側縁方向に横行する割縁方向で構成
第30図23 図版37-23	21U-100	石核	チャート	2.24	4.27	2.67	21.69	打面転位しながら多方向から割縁が行われる/正面側作業面の打面側縁辺にある微細な二次加工は断面調整と推定される
第30図24 図版37-24	-	接合資料 25 + 26	チャート	3.37	1.43	0.83	2.05	割片2点の接合資料/打面は単側面/背面構成は主要側縁方向に横行する割縁方向で構成/背面側の右側縁末端に部分的な二次加工と連続した微細割縁/断面が顕著な石材のため、25・26は同時割れた可能性あり
第30図25 図版37-25	21U-27	割片	チャート	1.98	0.88	0.68	0.85	打面側欠損/背面側の右側縁末端に部分的な二次加工と連続した微細割縁

第5表 21号石器集中地点出土石器一覧(1)

調査番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第3008 26 図版 37-26	21U-65	剥片	チャート	1.66	1.34	0.69	1.20	未端側欠損
第3100 27 図版 38-27	—	接合資料 28 + 29	チャート	2.51	1.57	1.29	2.86	剥片 2 点の接合資料 / 「28 → 29」の順に同一の単刃断面を打面にして剥離 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離面で構成 / 原標面を多く残す
第3100 28 図版 38-28	21U-36	剥片	チャート	1.53	0.81	0.48	0.46	完形 / 打面は単刃断面 / 背面構成は原標面と主要剥離軸方向に順行・直交する剥離面で構成
第3100 29 図版 38-29	21U-57	剥片	チャート	2.13	1.28	0.91	2.40	完形 / 打面は単刃断面、背面構成は原標面と主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離面で構成
第3100 30 図版 38-30	—	接合資料 31+32+33+34	チャート	2.17	2.38	1.24	3.10	剥片 4 点の接合資料 / 「31 → 32 → 33 → 34」の順に同一の単刃断面を打面にして剥離 / 石材は未確認 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する剥離面で構成
第3100 31 図版 38-31	21U-46	剥片	チャート	1.34	1.59	0.46	0.90	完形 / 打面は単刃断面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・直交する剥離面 方向で構成 / 主要剥離面側の右側縁に単発の二次加工と微細剥離 / 背面側の 未端部に非連続の微細剥離
第3100 32 図版 38-32	21U-52	剥片	チャート	2.04	1.89	0.68	2.07	完形 / 打面は単刃断面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行・逆行・直交する 剥離面方向で構成 / 背面側の左側縁に部分的な連続・非連続の微細剥離
第3100 33 図版 38-33	21U-86	剥片	チャート	1.28	0.89	0.22	0.13	打面側欠損 / 打面は単刃断面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離 面方向で構成
第3100 34 図版 38-34	21U-44	剥片	チャート	1.11	0.92	0.18	0.11	未端部欠損 / 打面は単刃断面 / 背面構成は主要剥離軸方向に順行する剥離 面方向で構成
第3100 35 図版 38-35	—	接合資料 36 + 37	チャート	5.24	3.50	0.71	10.99	縦長剥片 2 点の接合資料 / 打面は調整打面 / 背面構成は主要剥離軸方向に 順行する剥離面方向で構成
第3100 36 図版 38-36	21U-55	縦長剥片	チャート	3.24	2.79	0.65	4.26	未端側欠損
第3100 37 図版 38-37	21U-78	縦長剥片	チャート	3.35	2.28	0.87	6.73	打面側欠損

第5表 21号石器集中地点出土石器一覽(2)

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
21U-2	剥片	チャート	2.20	0.84	0.27	0.45	21U-18	剥片	チャート	0.49	0.42	0.15	0.03
21U-3	剥片	チャート	0.85	1.32	0.11	0.13	21U-19	剥片	チャート	0.55	0.47	0.09	0.03
21U-4	剥片	チャート	2.19	1.01	0.61	1.01	21U-20	剥片	チャート	0.39	0.45	0.16	0.04
21U-5	剥片	チャート	0.61	0.79	0.24	0.09	21U-21	剥片	チャート	1.09	0.81	0.33	0.28
21U-6	剥片	チャート	1.04	0.55	0.10	0.07	21U-22	剥片	チャート	0.96	1.00	0.14	0.12
21U-7	剥片	チャート	0.57	0.60	0.05	0.02	21U-23	剥片	チャート	1.19	0.30	0.26	0.14
21U-8	剥片	チャート	0.66	0.39	0.09	0.02	21U-24	剥片	チャート	0.84	0.63	0.14	0.08
21U-9	剥片	チャート	0.96	0.69	0.13	0.08	21U-25	剥片	チャート	1.65	0.70	0.38	0.28
21U-10	剥片	チャート	0.77	0.37	0.12	0.03	21U-28	剥片	チャート	1.06	0.47	0.24	0.10
21U-11	剥片	チャート	0.86	0.74	0.13	0.09	21U-29	剥片	チャート	1.88	0.82	0.25	0.27
21U-12	剥片	チャート	1.07	0.61	0.26	0.15	21U-30	剥片	チャート	1.48	0.65	0.23	0.26
21U-13	剥片	チャート	0.80	0.45	0.11	0.03	21U-31	剥片	チャート	1.62	0.93	0.44	0.56
21U-14	剥片	チャート	1.39	0.76	0.57	0.68	21U-32	剥片	チャート	1.53	1.21	0.40	0.90
21U-16	剥片	チャート	2.71	1.15	0.47	1.07	21U-33	剥片	チャート	1.73	0.91	0.75	0.88
21U-17	剥片	チャート	1.41	0.79	0.28	0.18	21U-34	剥片	チャート	1.33	1.38	0.63	0.55

第6表 21号石器集中地点出土石器一覽(非掲載1)

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
21U-35	横長削片	チャート	1.48	0.79	0.31	0.30	21U-76	削片	チャート	1.72	0.40	0.79	0.31
21U-37	削片	チャート	0.79	0.56	0.13	0.06	21U-80	削片	チャート	1.69	1.19	0.45	0.80
21U-38	削片	チャート	1.28	0.68	0.32	0.21	21U-81	削片	チャート	0.73	0.56	0.19	0.07
21U-39	削片	チャート	1.08	0.81	0.31	0.16	21U-82	削片	チャート	1.04	0.63	0.15	0.08
21U-40	削片	チャート	0.79	0.68	0.47	0.17	21U-83	削片	チャート	1.07	0.59	0.47	0.18
21U-41	削片	チャート	0.85	0.50	0.24	0.07	21U-84	横長削片	チャート	1.49	0.99	0.31	0.40
21U-42	削片	チャート	1.61	0.49	0.21	0.28	21U-85	削片	チャート	1.76	1.35	0.39	0.83
21U-43	削片	チャート	1.07	0.41	0.31	0.14	21U-87	削片	チャート	1.40	0.74	0.24	0.29
21U-47	削片	チャート	0.83	0.42	0.25	0.09	21U-88	削片	チャート	0.73	0.94	0.26	0.21
21U-50	削片	チャート	2.16	1.25	0.47	0.99	21U-89	横長削片	チャート	2.09	0.99	0.55	0.92
21U-51	削片	チャート	1.95	2.14	0.62	2.12	21U-90	削片	チャート	0.63	0.46	0.05	0.01
21U-53	削片	チャート	2.56	1.43	0.44	1.33	21U-91	削片	チャート	1.17	0.55	0.42	0.21
21U-54	削片	チャート	2.79	1.88	1.29	5.42	21U-92	削片	チャート	0.46	0.85	0.16	0.05
21U-58	横長削片	チャート	2.52	1.30	0.73	2.12	21U-94	削片	チャート	1.22	0.53	0.29	0.11
21U-61	削片	チャート	1.05	0.87	0.33	0.26	21U-95	削片	チャート	1.53	1.08	0.40	0.57
21U-63	削片	チャート	1.50	0.73	0.36	0.25	21U-96	削片	チャート	1.68	0.87	0.36	0.36
21U-64	削片	チャート	2.94	2.46	1.12	5.97	21U-97	削片	チャート	0.85	0.42	0.14	0.06
21U-67	削片	チャート	1.73	0.92	0.26	0.36	21U-99	削片	チャート	1.18	0.79	0.23	0.19
21U-68	削片	チャート	2.17	1.19	0.37	0.73	21U-101	削片	チャート	1.21	1.11	0.47	0.50
21U-69	削片	チャート	1.58	1.24	0.42	0.60	21U-102	削片	チャート	0.96	1.17	0.32	0.26
21U-70	削片	チャート	0.98	0.73	0.25	0.11	21U-105	削片	チャート	1.87	0.85	0.70	1.01
21U-71	削片	チャート	2.07	1.29	0.94	2.45	21U-106	削片	チャート	1.16	0.66	0.19	0.12
21U-72	削片	チャート	0.93	0.80	0.34	0.25	21U-107	削片	チャート	1.32	0.86	0.36	0.34
21U-73	削片	チャート	1.19	1.53	0.39	0.79	21U-108	削片	チャート	1.07	0.69	0.40	0.34
21U-74	削片	チャート	1.41	0.93	0.64	0.86	21U-110	削片	チャート	1.68	1.03	0.34	0.57
21U-75	削片	チャート	2.13	1.63	0.49	1.14							

第6表 21号石器集中地点出土石器一覧(非掲載2)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	脱断面赤化	脱断面付着物	接合関係ほか
21 U	114	礫岩	11.46	6.67	4.29	392.5	C	-	-	-	-	
21 U	115	砂岩	7.78	6.08	3.36	212.1	A	-	-	-	-	完形礫、一部風化

完形度：A (完形)、B (9割以上)、C (5割以上)、D (5割以下)、E (小破片)
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第7表 21号石器集中地点出土礫一覧

22号石器集中地点

遺 構 (第32・33図)

[位 置] (D-4) グリッド。TP 15から検出。

[検出状況] 上面は中世以降の土坑(974・975 D)及び攪乱により削平され、これらの掘り込みは石器の出土層位にまで達している。

[平面分布] 東西方向1.38 m、南北方向1.03 mの範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を行い、概ね本石器集中地点の全体を精査できたと考えられる。6号礫群の南側外縁に位置し、小規模且つやや散漫な分布状況を示す。

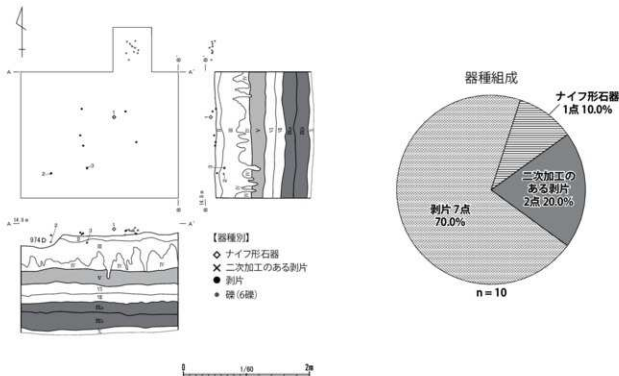
[出土層位] 石器は標高14.49～14.71 mから出土しており、その分布はⅡ層下部～立川ロームⅢ層上部にまとまりをみせる。なお、Ⅱ層から出土した石器は後世の耕作等により浮上した可能性があり、石器の形態的特徴等を鑑みて、本来的にはⅢ層出土と捉えるのが妥当と考えられる。

[出土石器] 石器の総点数は10点で、ナイフ形石器1点、二次加工のある剥片2点、剥片7点が出土した。石質別では黒曜石5点、チャート3点、珪質頁岩1点、瑪瑙1点となる。

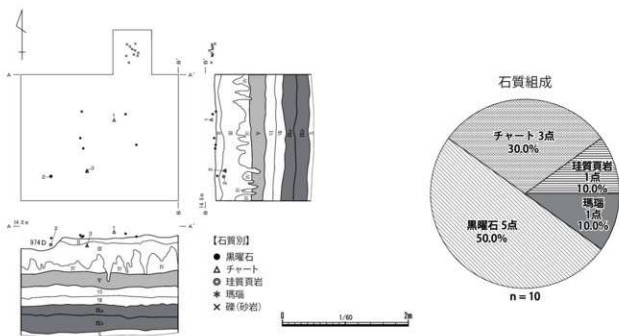
遺 物 (第34図、図版39-1、第8・9表)

[石 器] (第34図1～3、図版39-1-1～3、第8・9表)

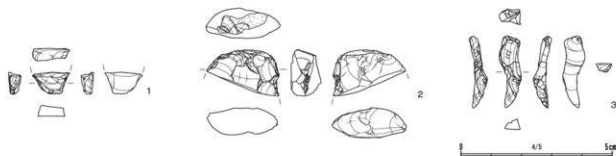
1はチャート製のナイフ形石器で、基部のみ残存している。2・3は二次加工のある剥片で、石質は2が珪質頁岩、3がチャートである。



第32図 22号石器集中地点 器種別分布図(1/60)



第33図 22号石器集中地点 石質別分布図 (1/60)



第34図 22号石器集中地点出土遺物 (4/5)

調査番号 図版番号	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第34図1 図版39-1-1	22U-3	ナイフ形石器	チャート	0.71	1.23	0.41	0.41	基部のみ残存／素材形状は不明／正面側の左側縁にブランディング
第34図2 図版39-1-2	22U-10	二次加工のある剥片	珪質頁岩	1.52	2.40	0.99	4.00	末端部欠損／素材剥片の打面（原表面を残す調整打面）・主要側縁面を部分的に残す／両面右側縁部に二次加工
第34図3 図版39-1-3	22U-7 22U-9	二次加工のある剥片	チャート	2.37	0.73	0.60	0.56	完形／剥片1点の折れ／背面側の上面部・左側縁部に部分的な二次加工／背面側の右側縁に非連続的な微細刻痕

第8表 22号石器集中地点出土石器一覧

遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺物番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
22U-1	剥片	黒曜石 (不明)	0.83	0.67	0.10	0.06	22U-6	剥片	黒曜石 (神津島産)	0.99	1.04	0.17	0.14
22U-2	剥片	黒曜石 (信州興々峰産)	0.94	0.50	0.17	0.06	22U-8	剥片	黒曜石 (神津島産)	0.86	0.42	0.35	0.12
22U-4	剥片	珪燧	1.81	1.06	0.40	0.54	22U-11	剥片	黒曜石 (大黒松峠産)	1.39	0.64	0.30	0.23

第9表 22号石器集中地点出土石器一覧 (非掲載)

(3) 礫群

5号礫群

遺 構 (第35～42図、第10表)

[位 置] (B・C-2・3) グリッド。T P 1から検出。

[検出状況] 上面は中世以降のビット(1・3・5・7・9・10・12 P)の他、現代の工事に伴う攪乱により削平されていたが、これらの掘り込みは深いものでも立川ローム第Ⅲ層下部～第Ⅳ層上部に達する程度であり、本遺構への影響は軽微なものと推測される。

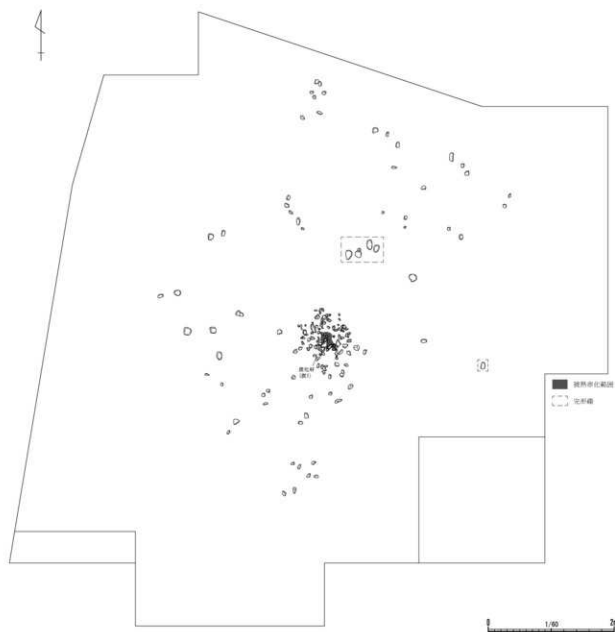
[平面分布] 東西方向8.06 m、南北方向8.58 mの範囲で礫の分布が確認された。分布の中心は(B-2・3)グリッドの境界部にあり、大量の礫が重層的に出土した。20号石器集中地点と東西方向の平面分布がほぼ重なるが、本遺構は更に南・北方向に広がりを見せる。外縁部に向かうにつれ礫の分布は散漫になっていくが、中心部の礫と外縁部の礫が接合することから、人為的及び自然的な要因によって多くの礫が中心部に近い本来の分布域から外縁部へ移動・飛散したことが推測される。

[出土層位] 礫は標高13.15～14.12 mから出土している。比高差が約1.0 mと大きく、その分布は立川ローム第Ⅲ層上部から第Ⅵ層上部にかけて広がるが、立川ローム第Ⅳ層上～中部に集中する傾向が認められ、20号石器集中地点と垂直分布がほぼ重なる。

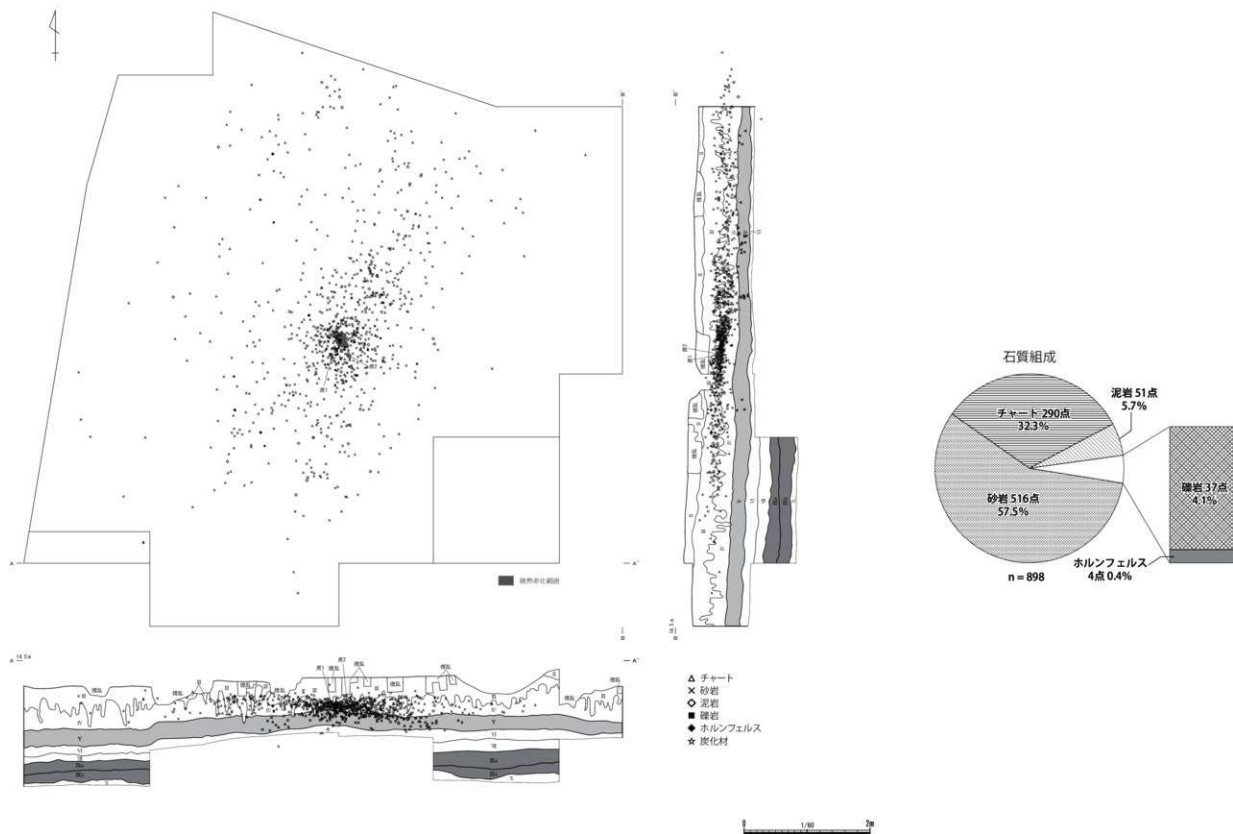
[礫 構 成] 出土礫の総点数は898点である。完形礫は6点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩516点(57.5%)、チャート290点(32.3%)、泥岩51点(5.7%)、礫岩37点(4.1%)、ホルンフェルス4点(0.4%)で、砂岩・チャートが全体の約9割を占める。368点(41.0%)の礫で、計127例の接合関係が認められ、接合後に再計測した個体数は砂岩377点、チャート236点、泥岩31点、礫岩14点、ホルンフェルス3点、総計661点に減じる。

重量別の組成は50 g未満が773点、50～100 g未満が82点、100～250 g未満が33点、250～500 g未満が5点、500 g以上が5点で、50 g未満の軽量礫が全体の8割以上を占める。なお、500g以上の礫5点の内、4点は完形礫である。礫表面の状態は、表面が赤化するものが600点(66.8%)、表面に付着物が認められるものが199点(22.2%)、破断面が赤化するものが750点(83.5%)、破断面に付着物が認められるものが360点(40.1%)である。

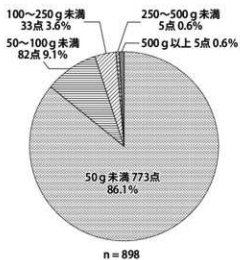
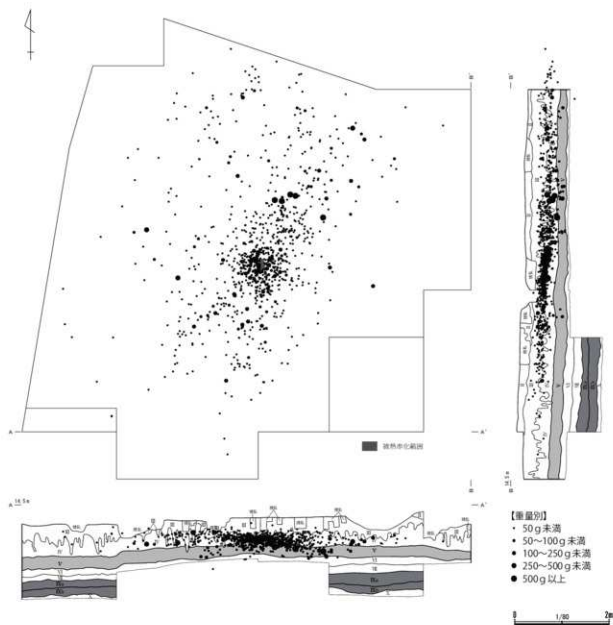
[所 見] 礫が最も集中する中央部において、被熱によるローム層の赤化が確認された(第35図)。被熱範囲は長軸(北西-南東方向)0.28 m、短軸(北東-南西方向)0.21 mを測る。なお、被熱検出面の標高は13.76～13.77 mを測り、周辺から出土した礫と同一レベルを示す。また、被熱部に近接してドット状の炭化材2点がほぼ同一レベル(5礫-炭1:標高13.79 m、5礫-炭2:標高13.85 m)から出土した。炭化材については加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。詳細については巻末の付編1を参照いただきたいが、5礫-炭1の暦年代は、18759～18432 cal BC(95.45%)という鑑定結果が得られた。これは炭化材が出土した立川ローム第Ⅳ層の推定年代と合致する。次いで5礫-炭2の暦年代は、1010～904 cal BC(95.45%)という鑑定結果が得られた。5礫-炭1の暦年代との較差が大きく、被熱検出面よりもやや高いレベルから出土している点も鑑みて、5礫-炭2は後世の混入物である可能性が高いと考えられる。



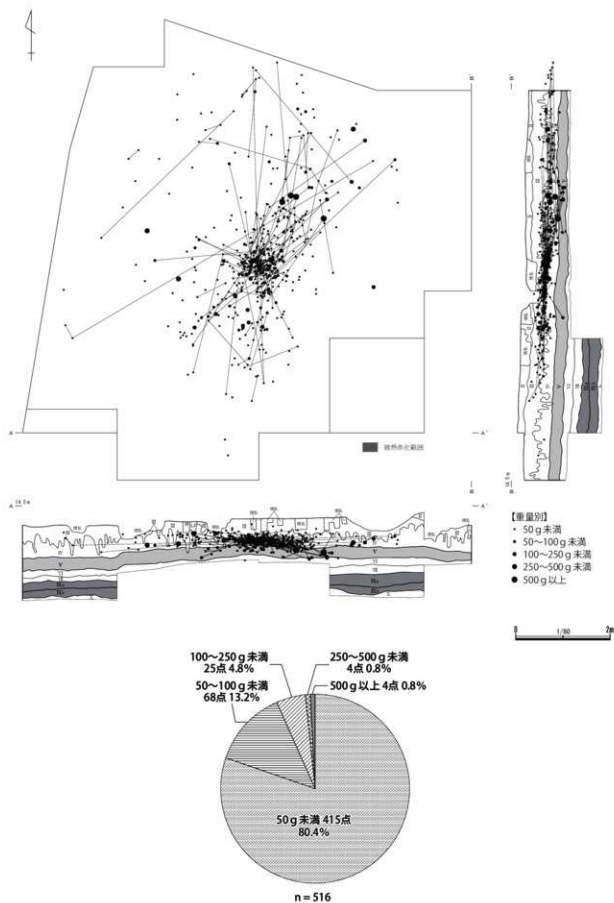
第35図 5号礎群 遺物出土状態 (1/60)



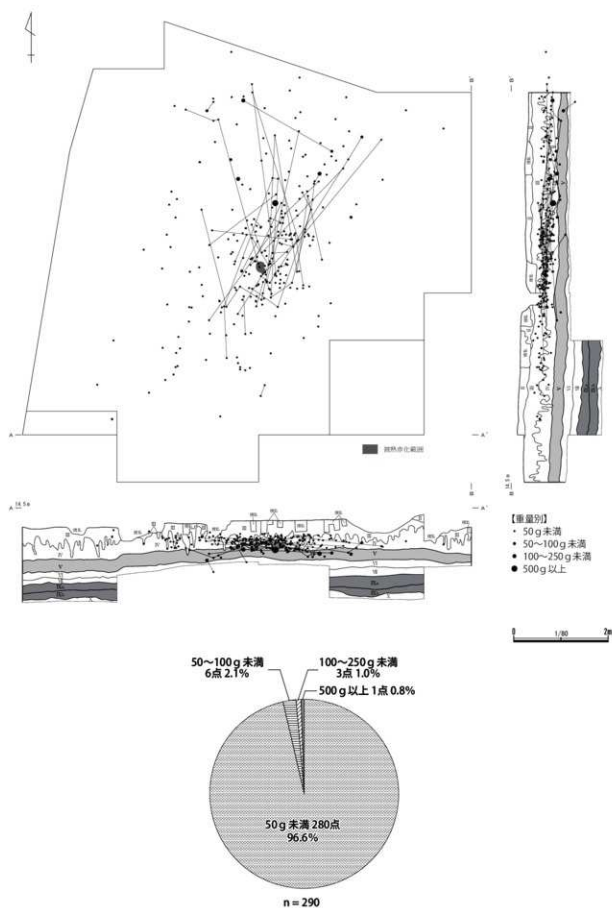
第36図 5号礫群 石質別分布図(1/60)



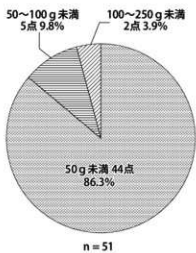
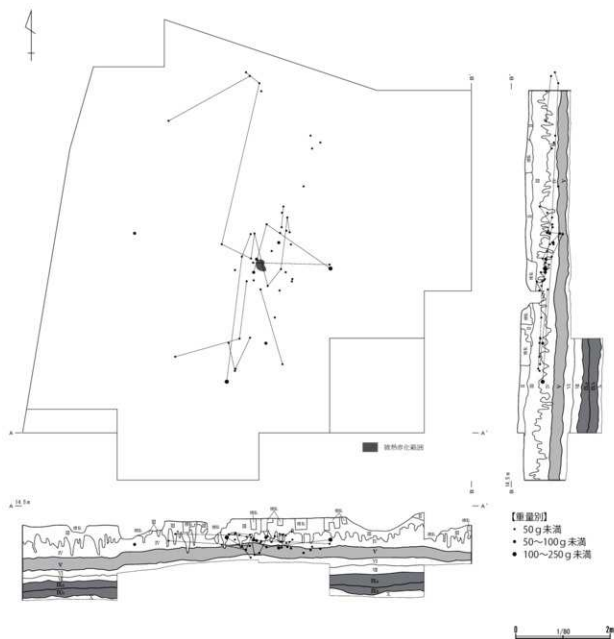
第 37 図 5号礫群 重量別分布図 (1 / 80)



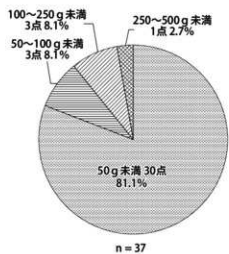
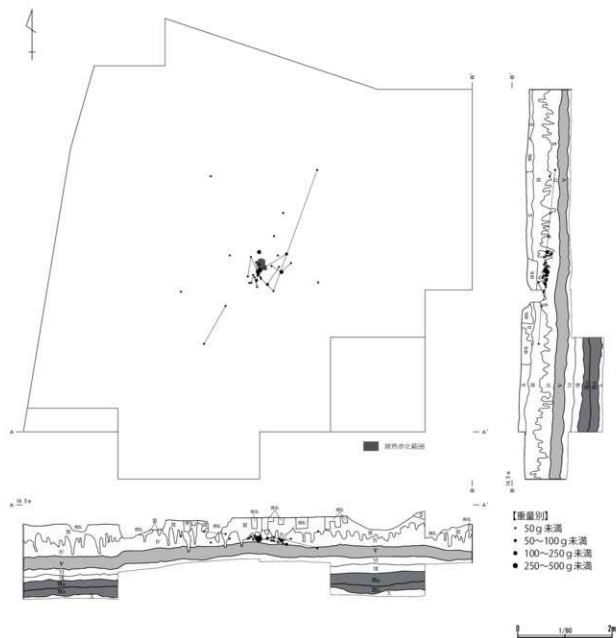
第38図 5号燧群 重量別分布図(砂岩) (1/80)



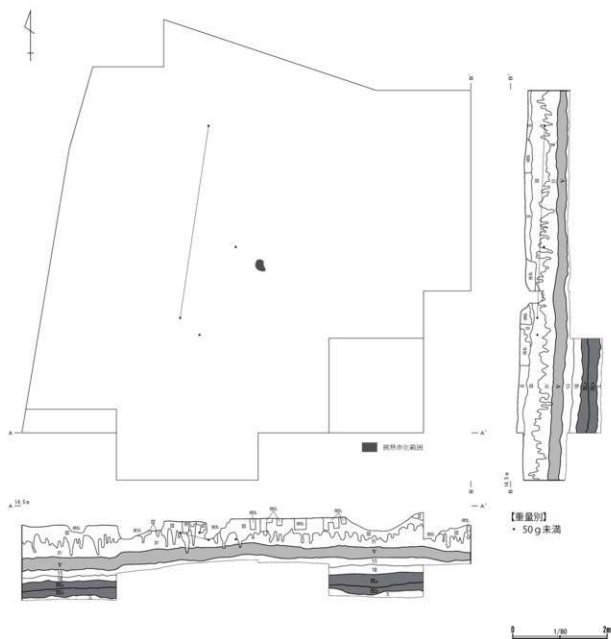
第39図 5号磔群 重量別分布図(チャート)(1/80)



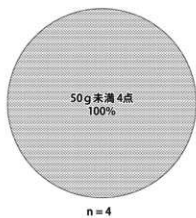
第40図 5号燻群 重量別分布図(泥岩) (1/80)



第41図 5号礫群 重量別分布図(礫岩) (1/80)



【重量別】
・ 50g未満



第42図 5号礎群 重量別分布図(ホルンフェルス) (1/80)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁器面 礫化	磁器面 付着物	接合関係ほか
5溝	1	チャート	2.98	2.44	0.90	5.3	E	-	-	-	-	
5溝	2	チャート	3.14	2.79	2.11	14.7	E	○	-	○	-	
5溝	3	チャート	1.96	0.97	0.79	1.7	E	○	-	○	-	
5溝	4	チャート	2.56	1.36	0.98	3.0	E	-	-	-	-	
5溝	5	砂岩	1.99	0.85	0.75	2.3	E	-	-	-	-	
5溝	6	チャート	3.13	1.17	0.86	3.3	E	-	-	-	-	
5溝	7	チャート	3.24	3.24	1.35	16.3	E	△	-	○	-	
5溝	8	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに編入) 第19図29
5溝	9	砂岩	3.74	3.22	2.66	23.5	E	△	-	○	○	※9-922
5溝	10	チャート	1.96	0.85	1.23	3.2	E	-	-	○	-	
5溝	11	砂岩	1.56	1.61	1.04	3.5	E	○	-	○	-	
5溝	12	礫岩	1.96	1.28	0.91	2.2	E	○	-	-	-	
5溝	13	チャート	1.54	1.18	0.88	0.9	E	-	-	△	-	
5溝	14	チャート	3.50	1.84	1.56	6.8	E	○	-	○	-	①14-517
5溝	15	砂岩	2.00	1.00	1.05	1.5	E	-	-	-	-	
5溝	16	チャート	2.36	1.41	1.14	2.5	E	-	-	○	-	
5溝	17	砂岩	2.96	1.73	0.38	2.3	E	○	-	-	-	
5溝	18	チャート	3.86	2.18	1.44	12.1	E	-	○	-	○	
5溝	19	チャート	3.37	2.75	1.96	15.3	E	△	-	○	△	②19+125+311-075
5溝	20	砂岩	2.95	2.18	1.73	11.3	E	-	-	△	△	
5溝	21	砂岩	1.94	1.88	0.83	2.6	E	○	-	○	○	
5溝	22	チャート	3.20	2.53	0.69	6.4	E	-	-	○	-	
5溝	23	泥岩	3.92	2.27	0.49	4.4	E	-	-	○	-	
5溝	24	チャート	2.52	1.64	1.08	5.8	E	○	-	○	-	
5溝	25	チャート	3.39	3.24	2.20	21.9	E	-	-	△	-	
5溝	26	砂岩	2.91	1.71	1.67	12.0	E	○	-	○	○	※26+140
5溝	27	砂岩	3.42	3.14	0.85	5.8	E	○	-	○	-	
5溝	28	泥岩	3.00	1.86	0.60	2.6	E	△	△	○	-	※28+862
5溝	29	砂岩	3.71	2.66	2.53	23.1	E	-	△	-	-	
5溝	30	チャート	3.84	3.05	1.92	25.5	E	△	△	○	△	③30+194
5溝	31	砂岩	2.78	2.26	2.12	16.9	E	-	-	-	-	※31+191
5溝	32	砂岩	2.99	2.77	1.01	7.0	E	-	-	-	○	
5溝	33	砂岩	3.64	2.41	1.86	17.0	E	○	-	○	○	
5溝	34	チャート	2.69	1.50	1.68	4.2	E	-	-	-	-	
5溝	35	砂岩	3.73	2.05	1.87	12.2	E	○	○	○	△	
5溝	36	砂岩	2.82	2.16	1.43	8.4	E	△	△	○	○	※36+79+647+735
5溝	37	チャート	3.34	2.15	2.18	10.9	E	△	-	-	-	
5溝	38	チャート	2.83	2.63	1.92	9.8	E	○	-	○	-	④38+152
5溝	39	チャート	2.00	1.25	1.18	2.0	E	○	-	○	-	
5溝	40	チャート	2.20	1.96	1.44	4.6	E	-	-	-	-	
5溝	41	砂岩	2.12	1.80	1.67	4.2	E	○	○	△	-	
5溝	42	砂岩	3.23	2.43	1.40	8.8	E	-	-	△	△	
5溝	43	砂岩	1.71	1.70	0.71	2.1	E	○	○	○	○	
5溝	44	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに編入) 第25図47
5溝	45	チャート	2.64	2.00	0.99	4.8	E	-	-	○	-	
5溝	46	チャート	2.05	1.28	1.52	4.0	E	-	-	-	-	
5溝	47	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに編入) 第21図34
5溝	48	砂岩	2.15	1.72	1.37	4.7	E	-	△	-	-	

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (3割以上) , E (小破片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表(1)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁断面 礫化	磁断面 付着物	投合関係ほか
5溝	49	チャート	2.10	1.27	0.62	1.5	E	-	-	○	-	
5溝	50	砂岩	3.22	2.05	2.07	10.5	E	△	-	△	-	
5溝	51	砂岩	2.36	1.30	0.51	1.2	E	○	-	○	-	
5溝	52	チャート	1.60	1.55	0.65	2.1	E	-	-	-	-	
5溝	53	泥岩	2.50	1.52	1.09	3.7	E	-	-	-	-	◎53+553
5溝	54	砂岩	3.53	2.03	1.38	9.6	E	○	-	○	-	
5溝	55	砂岩	1.87	0.93	0.41	0.8	E	-	-	○	-	
5溝	56	チャート	2.13	1.05	0.73	1.3	E	○	-	○	-	
5溝	57	砂岩	1.90	1.79	0.67	2.0	E	△	○	○	△	
5溝	58	泥岩	4.00	3.40	2.70	50.1	D	-	-	△	-	
5溝	59	泥岩	4.37	3.12	1.84	33.1	E	○	○	○	○	◎59+60+166+172
5溝	60	泥岩	3.64	3.34	1.60	20.5	E	○	○	○	○	◎59+60+166+172
5溝	61	チャート	2.13	1.82	1.89	5.7	E	○	-	○	-	
5溝	62	砂岩	3.10	1.91	1.93	10.3	E	-	-	-	-	◎62+919
5溝	63	泥岩	2.00	0.98	0.92	1.6	E	-	-	-	-	
5溝	64	チャート	1.56	1.48	1.03	1.6	E	-	-	-	-	
5溝	65	砂岩	3.46	1.32	1.04	6.1	E	○	○	○	○	
5溝	66	砂岩	3.21	1.40	1.28	6.9	E	-	-	-	-	
5溝	67	砂岩	3.10	1.48	1.12	4.0	E	△	-	○	-	
5溝	68	チャート	1.64	1.24	0.52	1.3	E	○	-	○	-	
5溝	69	チャート	1.20	1.08	0.36	0.6	E	○	-	○	-	
5溝	70	チャート	1.73	1.62	0.77	2.5	E	-	-	○	-	
5溝	71	砂岩	1.65	1.37	1.04	2.1	E	○	○	○	○	◎71+214+279+310+316
5溝	72	チャート	2.49	1.32	1.27	3.5	E	-	-	-	-	
5溝	73	砂岩	2.03	1.72	1.23	4.2	E	○	-	○	○	
5溝	74	チャート	2.98	2.37	0.70	4.1	E	-	-	-	-	
5溝	75	チャート	2.24	1.69	1.24	5.6	E	-	-	-	-	◎75+512+636
5溝	76	チャート	3.19	1.74	1.62	12.5	E	○	-	○	-	
5溝	77	砂岩	3.84	3.71	2.58	23.2	E	○	-	○	-	◎77+153+154
5溝	78	チャート	3.42	2.69	1.99	18.9	E	△	○	○	○	◎78+370+500
5溝	79	砂岩	5.38	3.50	2.83	47.2	D	△	○	○	○	◎36+79+647+735
5溝	80	砂岩	5.26	3.25	2.90	44.4	D	-	-	○	-	
5溝	81	チャート	2.48	1.36	1.46	5.3	E	○	-	△	-	
5溝	82	礫岩	2.92	2.15	1.98	14.2	E	○	○	○	-	◎82+375+497+504+520+669+678+693+694+746+747+749+763+865+866
5溝	83	チャート	2.55	1.82	1.63	7.0	E	○	-	○	-	
5溝	84	砂岩	2.91	2.02	0.61	3.1	E	△	-	○	-	
5溝	85	チャート	2.14	1.30	0.84	2.5	E	-	-	○	-	
5溝	86	チャート	1.42	1.19	0.81	1.3	E	○	-	○	-	
5溝	87	チャート	2.22	1.53	1.88	4.3	E	-	-	-	-	
5溝	88	チャート	3.20	2.25	1.38	10.8	E	-	-	○	○	◎88+184+288+372+770+907
5溝	89	砂岩	3.56	2.42	0.63	4.7	E	-	-	-	-	◎89+719
5溝	90	砂岩	2.37	1.92	1.15	5.4	E	△	-	△	-	
5溝	91	ホルンフェルス	4.06	3.26	1.66	21.3	E	-	-	-	-	◎91+156
5溝	92	チャート	2.23	1.46	0.51	1.7	E	○	-	○	-	
5溝	93	砂岩	2.92	2.04	1.81	8.5	E	-	-	-	△	
5溝	94	礫岩	2.90	2.43	1.50	8.5	E	○	-	○	-	
5溝	95	砂岩	2.03	1.50	0.76	2.2	E	○	-	○	△	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
 礫化・付着物：○（あり） △（僅かにあり） -（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（2）

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁断面 礫化	磁断面 付着物	投合関係ほか
5溝	96	砂岩	2.65	1.60	1.04	3.0	E	○	-	○	-	
5溝	97	チャート	2.11	1.25	0.61	1.7	E	-	-	-	-	
5溝	98	チャート	2.13	1.22	1.12	3.0	E	-	-	-	-	
5溝	99	チャート	2.58	1.59	1.78	4.9	E	○	-	○	-	
5溝	100	チャート	2.63	2.15	1.09	5.4	E	○	-	○	-	
5溝	101	チャート	1.90	1.66	0.89	2.6	E	-	-	-	-	
5溝	102	チャート	1.86	1.92	0.85	4.2	E	-	-	-	-	
5溝	103	チャート	2.59	1.85	1.50	6.8	E	○	-	○	-	
5溝	104	チャート	2.25	1.28	0.93	2.7	E	-	-	○	-	
5溝	105	チャート	2.10	1.85	1.35	6.2	E	○	△	○	-	◎ 105-358+113-489-861
5溝	106	砂岩	2.41	2.18	0.70	3.4	E	-	-	○	○	
5溝	107	砂岩	2.53	1.56	1.30	4.3	E	○	-	○	-	◎ 107-367+379-530-584 +722-755-804
5溝	108	砂岩	2.50	2.39	1.10	4.1	E	-	-	△	○	
5溝	109	チャート	2.92	1.49	1.27	5.9	E	-	-	△	-	◎ 109-290
5溝	110	砂岩	2.30	2.02	0.86	4.2	E	△	-	△	△	
5溝	111	砂岩	1.72	1.57	0.60	1.6	E	○	-	○	-	
5溝	112	チャート	2.14	1.55	1.76	3.9	E	-	-	△	-	
5溝	113	砂岩	3.30	2.08	1.14	7.7	E	-	-	-	-	◎ 113-874
5溝	114	砂岩	3.30	1.98	2.10	15.9	E	-	-	○	-	◎ 114-363+911
5溝	115	チャート	3.54	2.76	1.83	20.4	E	○	-	○	-	
5溝	116	砂岩	3.29	1.55	0.97	4.7	E	○	-	○	○	
5溝	117	砂岩	3.30	2.56	2.29	14.2	E	○	△	△	-	
5溝	118	チャート	3.27	2.41	1.40	12.2	E	△	-	○	-	
5溝	119	チャート	1.93	1.64	1.61	4.9	E	-	-	-	○	
5溝	120	砂岩	2.05	1.43	1.22	3.3	E	-	-	○	-	
5溝	121	砂岩	3.28	2.48	2.53	9.3	E	△	△	○	△	
5溝	122	砂岩	2.41	1.69	1.02	2.6	E	△	-	○	-	
5溝	123	チャート	3.87	2.41	1.00	11.2	E	△	-	○	-	
5溝	124	チャート	3.04	2.38	1.86	15.6	A	-	-	-	-	完形礫
5溝	125	チャート	3.55	1.92	1.80	9.2	E	○	○	○	-	◎ 119+125+311+675
5溝	126	砂岩	2.67	1.97	1.12	4.1	E	○	-	○	-	
5溝	127	砂岩	3.16	2.26	1.86	16.5	E	-	-	○	○	◎ 127-681+788
5溝	128	チャート	3.66	3.52	1.69	19.2	E	-	-	-	-	
5溝	129	砂岩	2.03	1.58	0.94	2.1	E	○	-	○	△	
5溝	130	砂岩	3.15	2.50	1.67	12.9	E	-	-	-	△	-
5溝	131	チャート	5.11	2.15	1.57	20.4	E	△	-	○	-	
5溝	132	砂岩	4.58	3.39	2.13	25.8	E	○	-	○	-	◎ 132-666+748-751
5溝	133	チャート	2.82	2.39	1.36	5.4	E	-	-	△	-	
5溝	134	砂岩	3.12	2.63	1.78	10.8	E	-	-	○	-	
5溝	135	砂岩	3.69	2.90	1.25	12.2	E	○	△	○	○	
5溝	136	チャート	2.58	1.69	1.64	6.9	E	○	-	△	-	
5溝	137	砂岩	5.23	4.01	2.48	45.2	E	○	○	○	○	◎ 137-571-813
5溝	138	砂岩	3.69	3.36	1.00	15.8	E	○	○	○	○	
5溝	139	チャート	2.43	1.90	1.12	4.5	E	-	-	○	○	
5溝	140	砂岩	4.52	4.08	2.46	32.6	E	○	-	○	○	◎ 26+140
5溝	141	チャート	2.60	2.50	1.29	8.3	E	-	-	○	-	
5溝	142	チャート	2.89	2.91	2.20	17.0	E	○	-	○	-	
5溝	143	チャート	1.68	1.55	1.05	3.2	E	-	-	○	-	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
 礫化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表（3）

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	み化	付着物	磁断面 み化	磁断面 付着物	発出関係ほか
5棟	144	砂岩	2.70	1.90	1.30	7.0	E	△	△	△	△	※ 144-193-244-263-359 +452-680-705-728
5棟	145	砂岩	5.05	2.27	1.62	14.0	E	-	-	○	○	
5棟	146	チャート	2.52	2.25	1.65	6.7	E	-	-	○	-	
5棟	147	チャート	1.38	1.20	0.78	1.5	E	○	-	○	-	
5棟	148	チャート	4.61	3.03	2.42	34.8	E	○	-	○	-	
5棟	149	泥岩	2.96	1.16	0.82	3.6	E	○	-	○	-	※ 149+169+326
5棟	150	チャート	1.84	1.54	1.10	2.4	E	○	-	○	-	
5棟	151	チャート	3.07	3.07	1.85	16.1	E	○	-	○	○	
5棟	152	チャート	3.53	2.85	2.14	20.9	E	○	-	○	-	④ 38+152
5棟	153	砂岩	3.62	3.16	2.28	14.8	E	○	-	○	-	※ 77+153+154
5棟	154	砂岩	4.05	2.70	1.96	21.8	E	○	-	○	-	※ 77+153+154
5棟	155	砂岩	4.15	3.57	3.61	36.5	E	○	-	-	-	
5棟	156	ホルンフェルス	5.15	1.83	1.46	13.9	E	-	-	-	-	※ 91+156
5棟	157	ホルンフェルス	3.82	1.48	0.59	4.0	E	-	-	-	-	
5棟	158	砂岩	2.10	2.03	0.85	3.9	E	△	-	○	-	
5棟	159	砂岩	3.93	2.96	2.44	19.4	E	-	-	△	-	
5棟	160	砂岩	4.64	2.43	1.95	20.6	E	○	△	○	-	
5棟	161	礫岩	2.88	2.10	1.30	6.2	E	○	○	○	○	※ 161+417
5棟	162	砂岩	3.83	3.23	1.09	15.7	E	○	-	○	-	※ 162+200+717
5棟	163	チャート	2.47	2.22	0.76	4.1	E	○	-	○	-	
5棟	164	砂岩	1.88	1.58	1.40	3.2	E	○	-	○	-	
5棟	165	チャート	1.61	1.24	0.83	2.2	E	-	-	-	-	
5棟	166	泥岩	3.50	2.64	1.68	14.4	E	○	-	○	-	※ 59+60+166+172
5棟	167	チャート	2.52	2.11	0.91	5.6	E	○	-	○	○	※ 167+276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5棟	168	砂岩	4.55	3.58	3.23	40.6	E	○	○	○	○	※ 168+414+436+572+806
5棟	169	泥岩	3.80	2.27	0.90	13.1	E	○	-	○	-	※ 149+169+326
5棟	170	砂岩	2.92	2.68	1.62	10.7	E	-	-	○	○	※ 170+434
5棟	171	砂岩	3.28	3.10	1.75	18.4	E	○	-	○	○	
5棟	172	泥岩	2.87	2.48	0.80	5.5	E	○	-	○	○	※ 59+60+166+172
5棟	173	砂岩	2.15	1.14	0.95	1.7	E	○	-	○	-	
5棟	174	砂岩	2.36	2.18	0.55	2.2	E	-	-	-	-	
5棟	175	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに編入) 第 21 図 35
5棟	176	砂岩	3.05	2.02	1.58	8.7	E	-	-	△	△	
5棟	177	チャート	1.49	1.25	0.82	2.0	E	-	-	-	-	
5棟	178	砂岩	1.98	1.26	0.93	2.0	E	-	-	○	-	※ 178+654
5棟	179	砂岩	1.88	1.54	0.92	3.2	E	○	-	○	△	
5棟	180	チャート	2.84	1.48	1.84	7.6	E	-	-	△	-	
5棟	181	砂岩	2.33	1.11	0.77	2.4	E	-	-	○	-	
5棟	182	砂岩	1.76	1.40	1.20	2.8	E	○	○	△	-	
5棟	183	チャート	2.60	2.00	1.53	5.2	E	○	-	-	-	
5棟	184	チャート	2.49	2.03	1.02	5.6	E	○	-	○	○	① 88+184+288+372+770 +907
5棟	185	砂岩	1.63	1.34	0.62	1.1	E	-	-	-	-	
5棟	186	泥岩	2.80	2.36	2.16	13.1	E	-	-	△	-	※ 186+831
5棟	187	砂岩	2.92	2.00	1.01	4.5	E	○	-	○	-	
5棟	188	チャート	2.52	1.70	0.77	3.1	E	△	-	△	-	
5棟	189	泥岩	4.53	2.33	1.40	22.2	E	○	○	○	○	
5棟	190	砂岩	4.32	2.82	2.33	23.9	E	△	-	○	○	※ 190+285+390+391+431

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)
み化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第 10 表 5号礫群出土燧石属性表 (4)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁断面 礫化	磁断面 付着物	投合関係ほか
5溝	191	砂岩	5.02	1.70	1.95	23.7	E	○	-	○	-	◎31+191
5溝	192	砂岩	2.24	1.71	0.81	3.0	E	○	-	○	○	
5溝	193	砂岩	3.96	3.48	1.00	14.1	E	○	-	○	○	◎144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5溝	194	チャート	3.74	3.42	2.50	23.4	E	△	○	○	△	◎30+194
5溝	195	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石器 (20Uに編入)
5溝	196	砂岩	7.68	4.77	3.62	105.8	D	○	△	○	-	
5溝	197	チャート	2.21	2.10	1.46	7.2	E	○	-	○	-	
5溝	198	砂岩	3.54	2.50	1.72	14.5	E	△	-	○	○	
5溝	199	砂岩	2.33	2.15	1.58	6.1	E	○	-	○	○	
5溝	200	砂岩	3.31	2.01	0.92	7.6	E	○	-	○	-	◎162+200+717
5溝	201	チャート	2.32	1.84	1.42	5.4	E	-	-	○	-	
5溝	202	チャート	1.77	1.70	1.41	2.5	E	○	-	-	-	
5溝	203	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石器 (20Uに編入) 番17 図20
5溝	204	チャート	2.24	1.60	1.63	6.8	E	△	-	-	-	◎204+476
5溝	205	礫岩	2.64	1.97	1.26	5.7	E	-	-	△	-	
5溝	206	砂岩	2.37	1.93	1.25	3.8	E	-	-	-	○	◎206+887
5溝	207	チャート	1.56	1.23	0.63	0.8	E	-	-	○	-	
5溝	208	砂岩	3.00	2.05	1.05	6.1	E	○	-	○	-	
5溝	209	チャート	2.32	1.62	1.06	2.6	E	○	-	△	-	
5溝	210	砂岩	3.09	2.10	1.63	7.8	E	○	△	○	-	
5溝	211	砂岩	1.34	1.03	0.83	1.4	E	○	-	○	-	
5溝	212	砂岩	4.08	3.35	1.22	15.6	E	-	-	-	○	
5溝	213	チャート	2.16	2.06	1.85	7.9	E	-	-	○	-	◎213-658+832
5溝	214	砂岩	1.80	1.55	0.92	2.4	E	○	△	○	○	◎71+214+279+310+316
5溝	215	泥岩	2.32	2.38	1.46	6.4	E	-	-	○	○	◎215-540
5溝	216	チャート	1.96	1.20	1.03	2.5	E	○	-	○	-	
5溝	217	チャート	3.40	2.91	2.18	20.1	E	○	-	△	-	
5溝	218	チャート	3.07	2.49	1.60	14.3	E	○	-	△	-	
5溝	219	チャート	3.60	1.92	1.72	11.5	E	△	-	○	-	◎219-668+897-902
5溝	220	チャート	2.03	1.22	1.18	3.3	E	○	-	-	-	
5溝	221	チャート	1.68	1.65	1.40	3.6	E	-	-	-	-	
5溝	222	砂岩	2.30	1.85	1.38	5.6	E	○	-	○	-	
5溝	223	砂岩	2.32	1.80	1.42	4.4	E	-	○	○	○	
5溝	224	チャート	2.45	1.84	1.12	4.0	E	-	-	-	○	
5溝	225	チャート	1.85	1.99	1.23	3.6	E	○	-	-	-	
5溝	226	砂岩	2.30	1.55	1.58	5.7	E	△	-	○	○	◎226+419+672
5溝	227	チャート	1.99	1.47	0.90	2.2	E	-	-	△	-	
5溝	228	砂岩	2.38	1.68	1.08	4.0	E	-	-	△	-	
5溝	229	砂岩	1.68	1.44	1.73	6.1	E	○	-	○	-	
5溝	230	砂岩	2.96	1.85	1.30	5.6	E	△	△	○	△	
5溝	231	砂岩	2.28	1.51	0.26	1.2	E	△	-	△	-	
5溝	232	チャート	2.32	2.02	1.17	6.0	E	-	-	-	-	
5溝	233	砂岩	4.22	2.38	1.50	12.6	E	△	-	○	○	◎233-794
5溝	234	チャート	2.70	2.62	1.42	9.5	E	-	-	△	-	
5溝	235	泥岩	4.44	3.25	1.50	26.7	E	○	-	○	○	
5溝	236	砂岩	4.22	2.39	2.02	18.0	E	-	-	△	-	
5溝	237	チャート	4.12	2.40	1.36	18.4	E	-	-	○	-	
5溝	238	砂岩	4.22	3.22	2.80	34.2	E	○	○	○	○	

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号群出土礫属性表 (5)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	縦断面赤化	横断面付着物	接合関係ほか
5溝	230	砂岩	4.45	3.51	2.48	40.2	E	○	-	○	-	
5溝	240	砂岩	3.45	3.07	1.84	19.2	E	-	-	○	△	
5溝	241	砂岩	3.24	3.43	2.05	16.2	E	○	-	○	△	
5溝	242	チャート	4.06	3.02	1.79	22.0	E	-	-	△	-	
5溝	243	砂岩	5.06	3.59	1.28	21.2	E	○	○	○	○	
5溝	244	砂岩	2.85	2.45	1.90	10.3	E	○	-	-	-	※ 144-193+244-263+359 +432+680+705+728
5溝	245	砂岩	2.57	2.38	1.82	8.5	E	-	-	-	△	
5溝	246	泥岩	2.92	3.20	2.08	18.0	E	○	-	○	△	
5溝	247	チャート	1.92	1.75	1.19	4.2	E	-	-	-	△	
5溝	248	チャート	2.22	2.00	1.31	4.6	E	○	-	○	-	
5溝	249	砂岩	2.12	1.93	1.32	5.6	E	○	○	○	△	
5溝	250	チャート	1.83	1.09	0.84	1.7	E	-	-	△	-	
5溝	251	砂岩	2.34	1.88	0.69	1.6	E	-	-	-	○	
5溝	252	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに属入) 第17図17
5溝	253	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに属入) 第24図44
5溝	254	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに属入) 第23図37
5溝	255	砂岩	3.01	3.39	2.78	27.6	E	-	-	△	-	
5溝	256	砂岩	4.47	3.82	2.05	33.5	E	-	-	△	△	
5溝	257	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (20Uに属入) 第24図45
5溝	258	砂岩	3.11	3.09	2.24	18.0	E	△	-	○	-	
5溝	259	チャート	2.92	2.90	2.01	19.8	E	○	-	○	-	※ 259-323+620-808
5溝	260	チャート	2.72	1.50	1.78	7.0	E	○	-	○	○	
5溝	261	砂岩	2.01	1.37	0.81	3.1	E	△	○	-	-	
5溝	262	砂岩	3.78	2.80	0.97	12.2	E	-	-	-	○	
5溝	263	砂岩	3.86	2.31	2.22	23.0	E	○	-	○	○	※ 144-193+244-263+359 +432+680+705+728
5溝	264	砂岩	2.08	1.82	0.81	4.6	E	-	-	○	○	
5溝	265	砂岩	2.60	2.07	1.03	5.9	E	△	-	○	△	
5溝	266	砂岩	4.13	2.74	1.47	10.3	E	-	-	○	-	
5溝	267	砂岩	4.32	4.84	2.72	32.3	E	-	-	-	-	※ 267-888
5溝	268	泥岩	3.76	3.06	0.95	13.6	E	-	-	-	○	
5溝	269	チャート	2.60	1.71	0.98	4.0	E	○	-	○	-	
5溝	270	泥岩	2.88	1.80	0.50	2.4	E	○	-	○	○	
5溝	271	砂岩	4.96	2.91	1.75	17.9	E	-	-	-	-	
5溝	272	チャート	2.26	1.12	0.70	1.7	E	○	-	-	-	
5溝	273	チャート	2.52	1.37	1.17	2.9	E	○	-	○	-	
5溝	274	砂岩	2.85	3.40	2.32	19.0	E	-	-	○	○	
5溝	275	チャート	1.77	1.52	1.25	3.8	E	-	-	○	-	
5溝	276	チャート	2.70	1.64	1.17	3.1	E	○	○	○	○	※ 167-276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5溝	277	チャート	1.18	1.24	1.23	2.7	E	○	-	○	-	
5溝	278	砂岩	2.07	1.78	0.83	2.0	E	○	-	○	○	※ 278-752+836
5溝	279	砂岩	1.68	1.65	0.69	1.9	E	○	△	○	-	※ 71+214+279+310+316
5溝	280	砂岩	2.33	1.45	1.05	2.6	E	-	-	○	△	
5溝	281	砂岩	1.93	1.22	0.99	2.0	E	○	-	○	-	
5溝	282	チャート	2.26	1.38	0.93	2.0	E	○	-	○	-	
5溝	283	チャート	3.01	2.70	2.12	13.0	E	○	○	○	○	※ 167-276+283+340+341 +376+465+589+632+908
5溝	284	チャート	3.58	2.06	1.90	8.8	E	-	-	-	-	

完形度：A (完形)、B (9割以上)、C (5割以上)、D (5割以下)、E (小破片)
赤化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号露群出土燧石属性表(6)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	投合関係ほか
5溝	285	砂岩	4.76	3.39	2.36	39.7	E	△	-	△	○	※ 190-285-300-391+431
5溝	286	チャート	2.93	2.28	1.20	7.8	E	-	-	△	-	
5溝	287	ホルンフェルス	4.94	2.98	0.72	6.8	E	-	-	-	-	
5溝	288	チャート	2.83	2.32	1.10	7.3	E	-	-	○	△	① 88+184+288+372+770+907
5溝	289	砂岩	2.80	2.43	1.20	9.6	E	△	-	○	-	
5溝	290	チャート	3.82	3.01	2.06	23.4	E	-	-	△	-	※ 109-290
5溝	291	砂岩	3.14	1.51	0.86	3.3	E	○	-	○	○	※ 291-587+716+720
5溝	292	チャート	2.05	1.30	0.73	1.4	E	-	-	-	-	
5溝	293	砂岩	2.55	1.15	0.72	2.3	E	-	-	△	-	
5溝	294	砂岩	2.94	2.38	1.58	6.3	E	○	-	○	-	
5溝	295	チャート	2.26	2.56	1.92	9.6	E	○	-	△	-	
5溝	296	礫岩	3.75	3.20	2.33	27.6	E	○	-	○	-	
5溝	297	砂岩	4.21	3.64	2.29	35.9	E	○	-	○	-	
5溝	298	砂岩	4.28	2.65	1.96	19.6	E	-	-	○	○	
5溝	299	砂岩	2.99	2.88	1.69	11.0	E	○	-	○	-	※ 299+458
5溝	300	砂岩	2.88	2.64	1.85	13.0	E	△	-	○	△	
5溝	301	チャート	2.44	1.31	0.55	1.5	E	-	-	-	-	
5溝	302	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石路 (20Uに編入) 第23図41
5溝	303	砂岩	4.25	2.35	2.22	14.5	E	△	-	○	○	
5溝	304	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石路 (20Uに編入) 第19図28
5溝	305	チャート	4.14	4.50	2.71	49.7	D	○	-	△	-	
5溝	306	砂岩	2.34	2.28	0.63	3.6	E	○	-	○	-	
5溝	307	礫岩	2.70	2.06	0.91	3.6	E	○	-	○	-	
5溝	308	砂岩	2.94	2.48	1.63	11.7	E	△	-	△	-	
5溝	309	チャート	2.80	1.90	1.62	7.8	E	-	-	-	-	
5溝	310	砂岩	4.16	2.26	2.73	21.8	E	○	○	○	○	※ 71+214+279+310+316
5溝	311	チャート	4.20	2.94	1.52	17.6	E	○	-	○	-	② 19+125+311+675
5溝	312	砂岩	2.93	2.20	0.44	2.4	E	△	-	-	-	
5溝	313	チャート	3.66	2.24	1.50	10.0	E	△	-	△	-	
5溝	314	砂岩	3.26	2.36	2.00	12.1	E	-	-	△	-	
5溝	315	砂岩	4.23	2.58	1.87	19.1	E	○	△	○	○	
5溝	316	砂岩	3.62	3.07	1.32	12.0	E	○	○	○	○	※ 71+214+279+310+316
5溝	317	砂岩	2.68	1.06	1.23	5.2	E	△	-	○	-	
5溝	318	チャート	3.25	2.56	1.45	11.4	E	-	-	-	-	
5溝	319	チャート	3.01	2.09	1.80	7.5	E	-	-	○	-	
5溝	320	砂岩	1.67	1.37	1.03	2.5	E	△	-	△	-	※ 320+778+868
5溝	321	砂岩	3.04	2.33	1.75	13.2	E	-	-	○	○	
5溝	322	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石路 (20Uに編入) 第21図32
5溝	323	チャート	2.87	2.39	1.56	8.1	E	-	-	△	-	④ 259-323+620-808
5溝	324	チャート	1.86	1.37	1.55	4.4	E	○	-	○	-	
5溝	325	砂岩	3.60	2.38	1.38	17.9	E	-	-	-	-	
5溝	326	礫岩	3.46	1.83	0.88	7.7	E	○	-	○	-	※ 149-169+326
5溝	327	砂岩	3.03	2.69	1.76	10.5	E	○	-	○	△	
5溝	328	礫岩	3.84	2.38	2.10	18.7	E	○	-	△	-	※ 328+451+455+473+546+697+884+885+913
5溝	329	砂岩	2.50	1.36	1.63	4.8	E	○	-	○	-	※ 329+603+608
5溝	330	砂岩	6.66	2.52	2.31	29.9	E	○	○	○	○	
5溝	331	砂岩	3.91	3.55	1.56	16.6	E	○	-	○	-	

完形度: A (光面) . B (9割以上) . C (5割以上) . D (5割以下) . E (小破片)
 礫化・付着物: ○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号群出土礫属性表(7)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	弁化	付着物	磁断面 弁化	磁断面 付着物	接合関係ほか
5棟	332	砂岩	5.76	2.62	2.83	36.4	E	△	-	○	○	
5棟	333	砂岩	5.64	3.14	2.65	37.2	D	-	-	○	○	
5棟	334	砂岩	4.11	2.90	1.34	17.8	E	-	-	○	-	
5棟	335	砂岩	2.80	2.35	1.50	8.9	E	○	-	○	-	
5棟	336	砂岩	4.25	4.38	3.30	64.5	D	-	-	-	-	
5棟	337	砂岩	4.48	3.32	2.03	22.9	E	○	-	○	-	
5棟	338	砂岩	6.98	4.10	1.55	39.2	D	○	-	○	-	
5棟	339	砂岩	4.15	2.37	1.54	11.6	E	-	-	○	-	
5棟	340	チャート	4.50	2.18	2.00	18.9	E	○	-	○	○	◎ 167-276-283-340-341 +376-465-589+632+908
5棟	341	チャート	4.30	3.10	2.89	28.6	E	○	○	○	○	◎ 167-276-283-340-341 +376-465-589+632+908
5棟	342	砂岩	2.57	1.82	1.90	9.6	E	○	-	○	○	◎ 342-360-396-905
5棟	343	砂岩	4.27	3.73	2.56	34.0	E	○	△	○	△	◎ 343-864
5棟	344	砂岩	2.60	2.00	1.58	8.9	E	○	-	○	○	◎ 344+401+450-790-791
5棟	345	砂岩	4.17	2.95	2.80	30.4	E	-	-	-	-	◎ 345-787
5棟	346	砂岩	4.45	3.45	1.67	19.2	E	○	○	○	○	◎ 346+378+700-714+775 +816
5棟	347	砂岩	4.89	4.20	3.24	39.4	E	○	-	△	-	◎ 347-858
5棟	348	砂岩	6.12	4.25	2.84	56.2	D	○	○	○	○	
5棟	349	砂岩	4.79	3.55	2.60	44.5	E	○	-	○	-	◎ 349-917
5棟	350	チャート	3.81	2.40	1.38	11.3	E	-	-	○	△	◎ 350-352
5棟	351	砂岩	4.14	3.51	1.10	17.9	E	○	-	○	○	◎ 351-361
5棟	352	チャート	4.55	3.22	2.10	41.4	D	-	-	○	○	◎ 350-352
5棟	353	チャート	4.35	3.55	2.13	33.4	E	○	-	○	-	
5棟	354	砂岩	4.84	3.87	1.68	39.1	E	△	-	○	△	
5棟	355	砂岩	5.90	3.34	2.91	52.5	D	○	△	○	-	◎ 355-696
5棟	356	チャート	4.22	3.15	0.83	11.1	E	○	-	○	-	
5棟	357	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石勝 (20Uに編入) 第 19 図 27
5棟	358	チャート	3.49	3.24	2.31	30.6	E	○	○	○	-	◎ 105-358-413-489-861
5棟	359	砂岩	3.22	2.50	1.93	16.3	E	○	-	○	-	◎ 144-193-244-263-359 +452-680-705-728
5棟	360	砂岩	4.28	2.47	2.53	29.3	E	○	-	○	○	◎ 342-360-396-905
5棟	361	砂岩	5.67	3.65	3.06	38.2	E	○	-	○	○	◎ 351+361
5棟	362	砂岩	5.30	3.54	3.14	30.2	E	○	-	○	-	
5棟	363	砂岩	4.22	2.92	1.62	19.2	E	-	-	○	△	◎ 114-363+911
5棟	364	砂岩	4.24	3.60	3.18	55.6	D	○	△	○	-	◎ 364-560
5棟	365	チャート	2.50	1.88	1.32	6.3	E	○	-	○	-	
5棟	366	砂岩	3.52	3.31	1.62	13.7	E	○	-	○	-	◎ 366-652
5棟	367	砂岩	2.65	2.46	1.68	8.3	E	○	-	○	-	◎ 107-367+379-530-584 +722+755-804
5棟	368	チャート	2.34	2.45	1.51	8.4	E	-	-	△	-	
5棟	369	チャート	1.93	1.20	1.27	4.3	E	-	-	-	○	
5棟	370	チャート	4.08	3.87	1.57	21.6	E	△	△	○	○	◎ 78-370-500
5棟	371	礫岩	3.53	3.28	3.35	35.4	E	○	△	○	○	◎ 371+715+810
5棟	372	チャート	3.54	2.38	1.78	16.9	E	-	-	○	-	◎ 88-184+288+372+770 +907
5棟	373	チャート	2.50	2.50	1.10	6.4	E	-	-	○	-	
5棟	374	チャート	4.13	2.70	2.22	16.0	E	-	-	-	-	◎ 374-692
5棟	375	礫岩	4.50	4.22	2.01	29.6	E	○	○	○	○	◎ 82-375+497+504+520 +609+678+693+694+746 +747+749+763+865+866

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
弁化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第10表 5号群出土燧石属性表(8)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁器面 礫化	磁器面 付着物	投合関係ほか
5棟	376	チャート	4.00	2.91	1.91	28.9	E	○	○	○	○	※ 107-276+283-340-341 +376-465+589+632-908
5棟	377	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (200に編入) 第23図39
5棟	378	砂岩	3.98	3.66	1.55	19.6	E	○	○	○	○	※ 346-378-700-714-775 +816
5棟	379	砂岩	2.63	2.24	1.46	7.3	E	○	-	○	-	※ 107-367-379-530-584 +722+755+804
5棟	380	チャート	4.65	2.39	1.36	21.4	E	-	-	△	-	※ 380-569+745
5棟	381	チャート	2.47	1.70	1.47	7.0	E	-	-	○	-	
5棟	382	砂岩	2.95	2.24	2.02	13.4	E	-	-	○	-	
5棟	383	砂岩	2.70	0.98	1.18	4.3	E	○	-	○	-	
5棟	384	チャート	2.70	2.24	1.65	7.1	E	-	-	△	-	
5棟	385	チャート	3.60	2.66	1.65	13.7	E	-	-	-	-	
5棟	386	チャート	4.21	4.19	2.30	39.8	E	-	-	△	-	※ 386-536
5棟	387	砂岩	3.36	1.94	0.61	3.4	E	-	-	○	○	
5棟	388	砂岩	4.28	2.53	2.23	22.2	E	△	-	△	○	
5棟	389	チャート	2.03	1.67	1.88	4.1	E	-	-	-	-	
5棟	390	砂岩	4.65	4.48	2.68	43.6	E	△	-	○	○	※ 190-285-300+391+431
5棟	391	砂岩	5.97	4.01	4.54	101.1	D	○	○	○	○	※ 190-285-300+391+431
5棟	392	砂岩	4.16	3.43	1.73	33.9	E	-	-	○	△	
5棟	393	チャート	3.10	2.15	1.45	15.7	E	-	-	-	-	
5棟	394	チャート	2.36	2.40	1.92	14.6	E	-	-	-	-	
5棟	395	チャート	3.21	2.30	2.51	22.7	E	○	-	△	-	
5棟	396	砂岩	5.76	3.54	2.87	43.9	E	○	-	○	○	※ 342-360+396-905
5棟	397	チャート	3.68	2.82	2.57	23.2	E	-	-	○	-	※ 397-650
5棟	398	チャート	3.80	3.20	1.99	20.2	E	○	-	○	-	
5棟	399	砂岩	3.93	2.31	1.60	21.7	E	○	△	○	△	
5棟	400	チャート	2.19	1.88	1.00	4.4	E	-	-	-	-	
5棟	401	砂岩	2.10	2.18	1.52	6.6	E	○	-	○	-	※ 344-401+450+790-791
5棟	402	チャート	2.52	1.64	1.08	4.6	E	○	-	○	-	
5棟	403	チャート	2.22	1.68	1.56	8.0	E	-	-	-	-	
5棟	404	泥岩	4.17	3.80	2.66	34.3	E	○	-	△	-	
5棟	405	砂岩	2.77	2.19	1.68	11.5	E	○	-	○	-	
5棟	406	砂岩	4.34	2.28	2.21	26.0	E	○	-	○	-	
5棟	407	チャート	4.24	2.84	2.64	29.1	E	○	△	○	-	※ 407-912
5棟	408	チャート	2.99	1.77	1.28	6.1	E	○	-	○	-	
5棟	409	チャート	2.42	0.87	1.22	3.2	E	△	-	○	-	
5棟	410	砂岩	4.00	2.44	2.89	27.6	E	-	-	△	-	※ 410-505
5棟	411	泥岩	4.84	3.01	1.82	31.7	E	○	○	○	○	
5棟	412	砂岩	1.68	1.99	1.30	6.9	E	○	-	○	△	
5棟	413	チャート	3.40	3.60	2.36	37.7	E	○	△	○	-	※ 105-358+413+489-861
5棟	414	砂岩	3.93	3.22	2.06	22.2	E	○	-	△	-	※ 168+414+436+572+896
5棟	415	チャート	1.81	1.38	1.39	2.7	E	-	-	○	-	
5棟	416	砂岩	2.96	2.61	1.58	13.0	E	-	○	○	△	
5棟	417	礫岩	3.74	3.58	1.76	29.5	E	-	-	○	△	※ 161+417
5棟	418	砂岩	4.39	4.16	2.15	32.4	D	○	-	○	-	※ 418-743
5棟	419	砂岩	2.54	1.25	1.27	3.6	E	○	○	○	△	※ 226+419+672
5棟	420	砂岩	1.93	2.12	1.34	7.9	E	○	-	○	△	
5棟	421	砂岩	5.37	4.64	1.49	41.1	E	○	○	○	△	
5棟	422	チャート	4.68	3.06	1.54	23.0	E	-	-	-	-	

完形度：A (完形)、B (9割以上)、C (5割以上)、D (5割以下)、E (小断片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表(9)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	接合関係ほか
5棟	423	砂岩	3.40	3.22	3.25	29.7	E	○	-	○	-	
5棟	424	チャート	1.74	1.61	0.70	1.8	E	○	-	○	○	
5棟	425	砂岩	2.35	1.81	1.05	5.3	E	○	-	○	△	
5棟	426	砂岩	4.59	2.80	2.47	26.4	E	○	-	○	○	
5棟	427	チャート	5.51	1.66	1.35	11.0	E	-	-	-	-	◎ 427-710
5棟	428	チャート	4.36	3.23	2.41	39.9	E	○	-	△	△	◎ 428-849
5棟	429	チャート	3.50	2.45	1.49	9.6	E	-	○	△	○	◎ 429-772
5棟	430	砂岩	4.22	3.81	1.79	22.2	E	-	-	○	-	
5棟	431	砂岩	4.66	2.74	3.66	44.9	E	○	△	△	○	◎ 190-285-390-391-431
5棟	432	砂岩	2.73	1.45	0.91	7.1	E	-	-	○	○	
5棟	433	チャート	5.31	3.42	3.33	40.8	E	-	-	○	-	
5棟	434	砂岩	4.18	3.44	2.91	38.0	E	-	-	○	○	◎ 170-434
5棟	435	砂岩	3.04	1.98	1.79	11.5	E	-	-	○	-	
5棟	436	砂岩	3.02	1.77	1.38	7.4	E	○	-	○	-	◎ 168-414-436-572-806
5棟	437	チャート	3.99	2.19	1.51	8.6	E	△	-	○	-	
5棟	438	チャート	3.86	2.66	2.12	18.3	E	○	-	○	-	
5棟	439	砂岩	4.89	3.92	1.84	31.4	E	○	△	○	○	
5棟	440	砂岩	2.60	1.74	0.71	6.4	E	△	-	○	-	
5棟	441	チャート	2.90	2.64	1.32	10.9	E	○	-	△	-	◎ 441-920
5棟	442	チャート	2.82	2.80	1.79	19.5	E	-	-	△	-	
5棟	443	泥岩	4.42	2.68	3.46	31.1	E	○	-	-	-	◎ 443-591+753
5棟	444	砂岩	5.19	3.06	2.57	25.9	E	○	△	○	-	
5棟	445	チャート	2.30	1.83	1.35	3.8	E	△	-	○	-	
5棟	446	チャート	3.88	3.60	2.35	23.9	E	-	-	-	-	◎ 446-449
5棟	447	砂岩	4.26	4.06	2.12	28.2	E	-	○	-	△	
5棟	448	チャート	2.35	1.32	1.42	4.0	E	-	-	○	-	
5棟	449	チャート	2.66	2.38	2.01	15.5	E	○	-	○	-	◎ 446-449
5棟	450	砂岩	2.86	2.02	0.94	4.6	E	○	-	○	○	◎ 344-401+450-790-791
5棟	451	泥岩	2.66	2.48	2.08	9.9	E	△	-	△	-	◎ 328-451+455+473-546 +697+884+885+913
5棟	452	砂岩	2.60	1.45	1.11	4.2	E	○	-	○	○	◎ 144-193+244-263+359 +452+680-705+728
5棟	453	砂岩	4.05	2.39	2.09	14.3	E	○	-	○	○	
5棟	454	砂岩	4.06	2.51	2.52	18.5	E	○	-	○	-	
5棟	455	泥岩	4.08	3.17	2.40	30.5	E	○	-	○	-	◎ 328-451+455+473-546 +697+884+885+913
5棟	456	砂岩	3.10	2.62	1.78	9.7	E	-	△	○	△	
5棟	457	チャート	3.98	1.53	1.48	12.2	E	-	-	-	-	
5棟	458	砂岩	4.84	2.78	1.32	16.1	E	○	-	○	○	◎ 299-458
5棟	459	チャート	4.05	3.61	1.99	25.5	E	○	-	○	-	
5棟	460	チャート	2.62	2.17	1.52	12.6	E	-	-	○	-	
5棟	461	チャート	2.24	1.83	0.83	3.7	E	-	-	○	-	
5棟	462	チャート	3.90	2.63	2.10	16.1	E	△	-	-	-	
5棟	463	砂岩	5.77	4.44	2.64	48.6	E	○	△	○	○	
5棟	464	砂岩	2.78	1.69	1.65	5.1	E	○	△	○	○	
5棟	465	チャート	3.17	2.18	1.16	6.0	E	○	△	○	○	◎ 167-276-283-340-341 +376+465+589+632+908
5棟	466	チャート	2.71	1.95	1.40	8.0	E	○	-	○	○	
5棟	467	チャート	3.43	1.80	1.25	8.9	E	△	○	○	○	
5棟	468	砂岩	2.55	3.77	2.50	18.1	E	○	○	○	-	◎ 468-923

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
 礫化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第10表 5号露群出土礫属性表(10)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	接合関係ほか
5溝	469	砂岩	3.54	2.67	1.63	11.7	E	△	-	○	△	
5溝	470	砂岩	3.86	3.04	2.02	23.6	E	-	-	-	-	◎ 470-737
5溝	471	砂岩	3.40	2.88	2.32	19.9	E	○	-	○	○	◎ 471-801
5溝	472	砂岩	3.03	1.74	1.16	4.5	E	△	-	○	○	
5溝	473	泥岩	4.50	3.20	1.88	19.3	E	○	-	△	-	◎ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5溝	474	砂岩	5.97	4.24	1.91	50.6	E	○	○	○	○	◎ 474+739
5溝	475	砂岩	2.58	1.49	1.39	4.7	E	-	-	△	-	
5溝	476	チャート	1.93	1.62	1.09	3.3	E	-	-	-	-	◎ 204+476
5溝	477	砂岩	3.00	2.46	1.74	12.6	E	○	-	○	-	
5溝	478	泥岩	2.77	2.76	1.97	14.9	E	△	-	○	-	
5溝	479	砂岩	5.26	4.11	1.18	26.4	E	○	○	○	-	
5溝	480	チャート	3.27	2.12	1.74	11.0	E	-	-	○	-	
5溝	481	礫岩	2.44	2.68	2.17	14.9	E	○	-	○	-	
5溝	482	砂岩	2.84	2.25	2.16	11.5	E	△	-	○	-	
5溝	483	砂岩	3.86	2.73	1.50	13.7	E	-	-	○	-	◎ 483+498+515
5溝	484	チャート	2.28	1.60	1.30	5.0	E	-	-	○	-	
5溝	485	チャート	2.70	2.46	0.93	7.4	E	-	-	△	-	
5溝	486	礫岩	2.08	2.06	0.92	3.0	E	-	-	○	△	
5溝	487	チャート	3.28	2.19	0.98	6.7	E	○	-	○	○	
5溝	488	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石路 (200に編入) 第25節 48
5溝	489	チャート	3.16	2.94	1.43	10.8	E	○	○	○	-	◎ 105-358+413+489-861
5溝	490	砂岩	3.85	2.96	2.13	25.9	E	-	-	○	-	
5溝	491	砂岩	4.04	1.93	2.06	15.1	E	-	-	-	-	
5溝	492	チャート	2.88	2.54	1.04	7.4	E	○	-	○	-	
5溝	493	砂岩	3.05	2.64	2.17	20.9	E	○	○	○	-	
5溝	494	砂岩	6.41	5.04	1.94	50.7	E	○	-	○	-	◎ 494+667
5溝	495	砂岩	5.15	2.18	2.30	23.5	E	○	-	○	-	
5溝	496	チャート	2.76	1.92	1.36	6.1	E	-	-	△	-	
5溝	497	礫岩	3.96	3.12	1.94	21.6	E	○	-	○	-	◎ 82+375+497+504+520 +659+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	498	砂岩	2.50	1.98	1.48	8.4	E	-	△	○	○	◎ 483+498+515
5溝	499	砂岩	4.12	3.59	1.63	18.0	E	○	-	○	-	
5溝	500	チャート	2.10	1.67	1.27	4.8	E	△	○	○	○	◎ 78+370-500
5溝	501	泥岩	4.48	3.28	3.10	37.0	E	△	-	○	○	
5溝	502	砂岩	3.45	1.83	1.77	9.8	E	△	○	△	○	◎ 502+555+619+621
5溝	503	礫岩	4.70	2.85	2.55	27.5	E	○	-	○	-	
5溝	504	礫岩	4.63	3.46	0.93	23.2	E	○	○	○	○	◎ 82+375+497+504+520 +659+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	505	砂岩	4.83	2.86	3.24	54.3	E	-	-	△	-	◎ 410-505
5溝	506	砂岩	3.10	2.90	3.30	37.3	E	△	-	○	-	
5溝	507	チャート	2.63	2.00	1.59	10.6	E	○	-	-	-	
5溝	508	チャート	2.07	1.61	1.47	3.6	E	-	-	○	-	
5溝	509	砂岩	5.29	3.91	1.86	41.8	E	○	-	△	-	
5溝	510	砂岩	6.88	4.19	1.86	35.4	E	○	△	○	○	
5溝	511	チャート	2.38	1.87	1.04	4.8	E	-	-	○	-	
5溝	512	チャート	3.48	2.46	1.60	15.6	E	-	△	-	○	◎ 75+512+636
5溝	513	砂岩	3.86	2.38	0.98	14.0	E	-	-	△	-	◎ 513+860
5溝	514	砂岩	4.40	2.97	2.71	32.9	E	○	-	△	-	

完形度: A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)
 礫化・付着物: ○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号溝群出土礫属性表 (11)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	投合関係ほか
5溝	515	砂岩	3.00	1.87	1.08	5.5	E	-	-	○	-	◎ 483+498+515
5溝	516	砂岩	3.23	2.27	0.67	5.3	E	-	-	○	○	
5溝	517	チャート	4.70	3.45	1.59	22.2	E	○	-	-	-	◎ 14+517
5溝	518	砂岩	4.76	3.28	3.30	51.6	D	△	-	△	-	
5溝	519	砂岩	3.18	2.77	1.84	14.2	E	○	-	○	○	
5溝	520	礫岩	2.83	2.34	1.48	8.2	E	○	○	○	-	◎ 82+375+497+504+520 +609+678+693+694+746 +747+749+763+805+866
5溝	521	チャート	4.62	3.36	2.97	39.4	E	-	-	△	-	
5溝	522	砂岩	6.08	4.98	0.87	23.7	E	○	-	○	○	
5溝	523	砂岩	3.66	2.91	1.28	13.8	E	-	-	-	-	
5溝	524	砂岩	4.60	3.60	2.78	49.3	E	○	△	○	-	◎ 524+640
5溝	525	チャート	3.26	2.37	1.91	13.5	E	-	-	○	-	
5溝	526	チャート	3.28	1.88	1.23	6.9	E	-	-	-	-	
5溝	527	チャート	3.55	1.47	1.45	4.6	E	-	-	-	-	
5溝	528	砂岩	2.56	1.79	1.31	6.0	E	-	-	○	○	
5溝	529	チャート	3.67	2.00	1.58	10.5	E	-	-	○	-	
5溝	530	砂岩	2.41	1.92	0.86	3.0	E	○	-	○	-	◎ 107+367+379+530+584 +722+755+804
5溝	531	チャート	3.76	3.44	1.34	19.0	E	-	-	-	-	
5溝	532	砂岩	2.97	1.91	1.58	7.1	E	-	-	○	○	
5溝	533	チャート	2.73	2.81	1.06	8.5	E	△	-	-	-	
5溝	534	チャート	2.03	1.60	1.39	4.0	E	-	-	○	-	
5溝	535	チャート	2.56	2.22	1.00	6.2	E	○	-	○	-	
5溝	536	チャート	3.83	2.22	0.94	8.7	E	-	-	△	-	◎ 386+536
5溝	537	チャート	1.88	1.96	1.49	3.7	E	-	-	-	-	
5溝	538	チャート	2.28	1.63	1.44	5.9	E	-	-	-	-	
5溝	539	チャート	2.12	1.80	1.87	5.9	E	○	-	○	-	
5溝	540	泥岩	2.65	2.02	1.69	9.2	E	○	-	○	○	◎ 215+540
5溝	541	チャート	2.61	1.43	0.94	3.2	E	-	-	-	-	
5溝	542	砂岩	2.55	1.84	1.07	3.6	E	-	-	○	-	
5溝	543	泥岩	2.98	2.06	1.56	6.2	E	-	-	○	-	
5溝	544	砂岩	3.78	2.76	2.46	19.1	E	-	-	○	○	
5溝	545	砂岩	1.65	1.41	1.41	3.4	E	○	-	○	-	
5溝	546	泥岩	3.63	3.32	1.43	20.3	E	○	-	○	△	◎ 328+451+455+473+546 +697+884+885+913
5溝	547	砂岩	4.55	4.05	1.82	29.3	E	△	-	△	-	
5溝	548	チャート	5.08	2.78	2.02	36.9	E	-	-	-	-	
5溝	549	泥岩	4.39	3.34	2.72	53.4	D	○	△	○	○	
5溝	550	砂岩	6.92	2.21	2.60	31.0	E	△	-	○	○	◎ 550+726
5溝	551	砂岩	4.27	3.70	3.07	47.7	E	○	○	○	○	◎ 551+586
5溝	552	砂岩	3.57	3.76	2.01	23.2	E	○	○	○	○	
5溝	553	泥岩	4.06	2.86	3.29	34.7	E	△	-	○	-	◎ 53+553
5溝	554	チャート	2.81	2.73	2.51	21.5	E	-	-	-	-	◎ 554+703
5溝	555	砂岩	7.08	3.63	2.89	59.0	D	○	○	-	-	◎ 502+555+619+621
5溝	556	砂岩	5.31	4.00	2.25	42.2	E	○	-	○	△	◎ 556+883
5溝	557	砂岩	7.09	5.44	3.43	77.3	D	○	○	-	△	
5溝	558	砂岩	5.65	4.32	2.32	51.3	D	○	-	○	-	
5溝	559	砂岩	5.09	3.61	2.22	37.0	E	○	-	○	-	
5溝	560	砂岩	4.69	3.30	2.74	36.4	E	○	△	○	-	◎ 364+560

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
 礫化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第10表 5号礫群出土礫属性表(12)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	接合関係ほか
5溝	561	泥岩	3.93	3.05	1.08	14.7	E	○	-	○	△	
5溝	562	チャート	7.50	4.08	3.05	80.9	D	-	-	△	-	◎ 562-622
5溝	563	チャート	6.54	3.73	2.90	66.8	D	○	-	○	-	◎ 563-629-658-803
5溝	564	砂岩	4.57	3.81	3.17	51.7	D	○	△	○	-	◎ 564-565-676
5溝	565	砂岩	4.13	2.24	2.44	31.0	E	○	-	○	-	◎ 564-565-676
5溝	566	砂岩	4.10	3.29	1.11	11.9	E	○	-	○	○	
5溝	567	砂岩	7.01	4.46	1.82	56.6	D	○	-	○	-	
5溝	568	砂岩	4.11	3.31	2.12	28.2	E	○	-	○	-	
5溝	569	チャート	3.84	3.42	3.04	37.6	E	○	△	○	○	◎ 380-569-745
5溝	570	砂岩	5.89	3.82	2.14	43.1	E	○	○	○	△	◎ 570-596
5溝	571	砂岩	5.38	3.32	1.74	51.6	D	○	○	○	△	◎ 137-571-813
5溝	572	砂岩	3.50	1.89	1.25	9.9	E	○	-	○	○	◎ 168-414-436-572-896
5溝	573	チャート	4.89	2.66	1.52	27.8	E	-	-	○	-	
5溝	574	チャート	4.80	3.41	2.54	48.9	E	△	-	○	-	
5溝	575	砂岩	3.80	3.17	2.40	30.6	E	○	△	○	○	
5溝	576	砂岩	6.16	2.64	2.58	49.4	E	△	-	○	-	
5溝	577	砂岩	4.14	2.58	2.73	29.4	E	○	○	○	-	
5溝	578	砂岩	5.23	3.42	1.62	29.8	E	○	-	○	△	
5溝	579	泥岩	6.95	3.38	3.22	68.0	D	○	-	○	○	
5溝	580	チャート	5.24	4.61	2.67	54.8	D	○	-	○	-	
5溝	581	砂岩	5.63	4.74	2.58	80.0	D	○	○	○	○	◎ 581-738-806-900
5溝	582	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石跡 (20Uに属入) 第23頁38
5溝	583	チャート	3.87	2.61	1.72	16.5	E	○	-	○	-	
5溝	584	砂岩	5.06	3.68	2.31	40.7	E	○	-	○	-	◎ 107-397-379-530-584 +722-755-804
5溝	585	砂岩	4.22	2.55	2.50	21.1	E	○	-	○	-	
5溝	586	砂岩	4.96	3.95	4.49	110.7	D	○	○	○	○	◎ 551-586
5溝	587	砂岩	6.06	6.51	4.34	192.3	D	○	○	○	○	◎ 291-587-716-720
5溝	588	砂岩	11.40	5.11	4.02	260.6	C	○	△	○	△	
5溝	589	チャート	6.13	4.28	2.87	122.8	D	○	○	○	○	◎ 167-276-283-340-341 +376-465-589-632-908
5溝	590	砂岩	9.26	5.58	3.05	192.6	A	-	-	-	-	完形確
5溝	591	泥岩	7.85	6.27	3.95	196.4	C	○	○	○	-	◎ 443-591+753
5溝	592	泥岩	6.42	5.32	3.52	108.2	D	△	-	○	△	◎ 592-727-914
5溝	593	砂岩	6.53	7.17	5.82	217.5	C	○	○	○	○	
5溝	594	チャート	8.32	4.06	2.88	110.6	D	-	-	○	-	
5溝	595	砂岩	7.10	4.13	2.37	62.0	D	△	-	○	△	
5溝	596	砂岩	8.12	4.56	2.70	72.1	D	○	○	○	-	◎ 570-596
5溝	597	砂岩	5.22	3.89	3.40	61.6	D	-	-	△	-	
5溝	598	砂岩	5.54	4.65	4.02	84.4	D	○	-	○	○	
5溝	599	チャート	2.00	1.83	1.28	4.7	E	○	△	○	○	◎ 599-863
5溝	600	砂岩	3.25	2.51	1.80	12.1	E	○	-	○	-	
5溝	601	砂岩	7.15	6.58	3.06	139.8	D	△	△	△	△	
5溝	602	砂岩	7.04	4.78	3.73	158.5	C	○	△	○	○	
5溝	603	砂岩	8.45	2.43	4.34	104.8	D	○	○	○	○	◎ 329-603-608
5溝	604	砂岩	6.81	6.21	3.42	142.7	D	○	-	○	-	
5溝	605	砂岩	4.98	4.96	2.66	65.7	D	○	○	○	○	◎ 605-642-704-823
5溝	606	砂岩	7.13	5.97	3.19	116.8	D	○	○	○	△	
5溝	607	砂岩	6.04	4.58	3.50	65.6	D	○	○	△	○	

完形度：A (完形) , B (9割以下) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号遺構出土礫属性表(13)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	磁断面赤化	磁断面付着物	投合関係ほか
5棟	608	砂岩	3.88	4.32	1.86	30.0	E	○	○	○	△	◎ 329-603-608
5棟	609	砂岩	6.96	6.88	3.05	107.9	D	○	-	○	-	◎ 609-750
5棟	610	砂岩	5.91	4.00	2.78	70.4	D	-	△	-	△	
5棟	611	砂岩	11.24	10.75	7.97	1255.0	A	-	-	-	-	完形確
5棟	612	砂岩	13.38	6.91	5.27	582.0	A	-	-	-	-	完形確
5棟	613	砂岩	9.60	9.21	5.82	522.5	A	-	-	-	-	完形確
5棟	614	チャート	13.38	9.72	3.36	658.0	A	-	-	-	-	完形確
5棟	615	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石層 (20Uに編入) 第15層15
5棟	616	砂岩	9.43	7.28	2.70	285.0	B	-	△	-	△	
5棟	617	砂岩	9.04	4.92	1.74	92.9	D	-	-	△	△	
5棟	618	砂岩	12.37	6.82	5.72	400.5	D	○	-	○	○	
5棟	619	砂岩	2.46	2.00	1.48	9.5	E	△	○	-	-	◎ 502-555+619-621
5棟	620	チャート	4.00	3.20	2.66	34.8	D	○	-	○	△	◎ 259-323+620-808
5棟	621	砂岩	5.40	3.21	2.21	36.6	E	○	△	-	-	◎ 502-555+619-621
5棟	622	チャート	6.83	5.76	3.32	142.1	D	○	△	○	○	◎ 562-622
5棟	623	チャート	1.80	1.79	1.63	5.8	E	-	-	○	-	
5棟	624	チャート	1.50	1.73	1.01	1.1	E	-	-	-	-	
5棟	625	チャート	1.72	1.37	1.20	2.8	E	○	-	○	-	
5棟	626	砂岩	2.27	1.48	1.08	2.8	E	○	-	○	-	
5棟	627	砂岩	4.80	4.74	2.26	54.3	D	○	○	○	○	
5棟	628	チャート	1.77	1.66	1.05	3.0	E	-	-	-	-	
5棟	629	チャート	3.28	2.40	1.32	10.9	E	○	-	○	-	◎ 503-629+688-803
5棟	630	砂岩	6.15	3.68	2.90	57.6	D	○	-	○	○	
5棟	631	砂岩	1.59	1.54	1.93	6.7	E	○	-	○	-	
5棟	632	チャート	5.86	2.39	2.29	24.1	E	○	○	○	○	◎ 167-276+283-340-341 +376+465-589-632-908
5棟	633	凝岩	7.04	3.65	1.50	44.3	E	-	-	○	△	
5棟	634	砂岩	3.74	1.70	1.63	10.2	E	-	-	○	○	◎ 634-916
5棟	635	砂岩	2.38	2.40	1.02	4.3	E	-	-	○	-	
5棟	636	チャート	3.65	3.44	1.54	27.0	E	-	△	-	△	◎ 75+512+636
5棟	637	砂岩	2.32	2.13	1.00	3.6	E	-	-	-	△	
5棟	638	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石層 (20Uに編入) 第20層31
5棟	639	チャート	4.86	5.06	3.86	84.7	C	-	-	△	-	
5棟	640	砂岩	2.64	2.37	1.89	13.4	E	○	-	○	-	◎ 524+640
5棟	641	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石層 (20Uに編入) 第17層18
5棟	642	砂岩	3.25	2.80	1.50	16.3	E	○	○	△	-	◎ 605-642+704-823
5棟	643	チャート	4.30	2.93	1.67	21.7	E	○	-	○	-	
5棟	644	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石層 (20Uに編入) 第18層23
5棟	645	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石層 (20Uに編入) 第19層24
5棟	646	砂岩	4.35	4.43	3.77	80.3	D	△	-	○	-	◎ 646-732
5棟	647	砂岩	4.22	4.61	3.52	85.0	D	△	△	○	△	◎ 36-79+647-735
5棟	648	凝岩	6.44	3.82	1.41	32.9	E	○	○	○	○	◎ 648-656+711+754+805 +829
5棟	649	砂岩	7.30	4.74	3.66	122.8	D	○	○	○	-	◎ 649-708+764
5棟	650	チャート	4.45	4.06	3.62	66.7	D	-	-	○	-	◎ 397+650
5棟	651	砂岩	7.04	4.68	3.03	116.9	D	△	○	-	○	
5棟	652	砂岩	5.03	3.95	2.81	40.8	E	○	-	○	△	◎ 366+652
5棟	653	砂岩	6.34	4.71	2.62	67.6	D	○	-	○	△	
5棟	654	砂岩	5.24	3.16	2.00	34.9	E	○	-	○	○	◎ 178-654

完形度: A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)
赤化・付着物: ○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号群葬出土礫属性表 (14)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	剥化	付着物	断面剥化	磁器面付着物	接合関係はか
5棟	655	砂岩	5.61	4.43	2.78	65.2	D	-	-	-	○	
5棟	656	礫岩	5.39	3.60	1.80	31.2	E	○	-	○	○	◎648-656+711+754+805+829
5棟	657	砂岩	4.89	2.93	1.60	19.7	E	○	○	○	○	
5棟	658	チャート	4.60	3.30	2.74	42.8	E	-	-	○	-	◎213-658-832
5棟	659	砂岩	5.79	5.20	2.14	60.0	D	○	○	○	-	
5棟	660	砂岩	4.94	2.17	3.50	30.6	E	○	-	○	△	◎660-661
5棟	661	砂岩	3.94	3.19	2.78	35.2	E	○	-	○	△	◎660-661
5棟	662	砂岩	6.00	3.21	2.17	36.0	E	○	-	○	△	
5棟	663	砂岩	4.74	4.29	2.66	52.3	D	-	-	○	○	
5棟	664	砂岩	4.76	4.17	2.43	47.9	E	○	-	○	△	
5棟	665	砂岩	4.49	3.39	2.02	15.2	E	○	-	○	○	
5棟	666	砂岩	6.38	3.84	2.04	44.0	E	○	-	○	○	◎132-666-748+751
5棟	667	砂岩	6.94	4.57	3.05	82.5	D	○	-	○	-	◎494-667
5棟	668	チャート	4.98	3.38	3.10	49.4	E	○	-	○	-	◎219-668-897-902
5棟	669	礫岩	3.59	2.53	2.64	20.0	E	○	○	○	-	◎82-375+497-504+520+609-678+693-694+746+747+749-763+865-866
5棟	670	砂岩	3.99	3.36	3.94	44.9	E	○	-	○	-	◎670-814-842
5棟	671	砂岩	6.15	1.80	0.69	8.2	E	-	-	○	-	
5棟	672	砂岩	5.80	3.65	3.54	64.8	D	○	○	○	○	◎226+419+672
5棟	673	砂岩	6.28	4.33	4.06	132.8	D	○	-	○	○	◎673-767
5棟	674	泥岩	5.14	3.47	2.52	35.4	E	-	-	○	○	
5棟	675	チャート	5.16	3.12	2.41	29.6	E	○	△	○	△	◎19+125+311+675
5棟	676	砂岩	2.78	3.10	3.07	25.5	E	○	△	○	-	◎564+565+676
5棟	677	砂岩	4.46	3.33	2.60	34.6	E	-	-	○	△	
5棟	678	礫岩	5.07	4.33	1.64	45.9	E	○	○	○	○	◎82-375+497-504+520+609-678+693-694+746+747+749-763+865-866
5棟	679	砂岩	7.41	4.20	4.36	139.1	D	○	○	○	△	
5棟	680	砂岩	5.38	3.25	2.78	46.0	E	○	-	○	-	◎144-193+244+263+359+452+680+705+728
5棟	681	砂岩	5.65	3.41	2.54	56.1	D	○	○	○	○	◎127-681-788
5棟	682	砂岩	4.22	5.24	2.46	54.5	D	○	-	○	○	◎682-683
5棟	683	砂岩	4.08	3.91	2.22	43.3	E	○	-	○	○	◎682-683
5棟	684	砂岩	7.11	2.44	2.82	42.0	E	○	-	○	-	
5棟	685	礫岩	6.44	4.33	3.00	73.5	D	○	-	○	-	◎685-701
5棟	686	砂岩	4.15	2.96	2.10	29.5	E	△	-	○	△	
5棟	687	砂岩	6.54	3.17	2.10	44.2	E	-	△	-	-	
5棟	688	チャート	4.08	3.65	1.80	29.8	E	○	-	○	-	◎563-629-688-803
5棟	689	砂岩	5.66	3.42	3.06	54.9	D	○	○	○	○	
5棟	690	砂岩	5.51	3.77	2.86	60.0	D	○	○	○	○	
5棟	691	チャート	3.95	2.31	2.21	18.9	E	○	-	○	-	
5棟	692	チャート	4.98	4.18	2.78	49.7	D	-	-	-	-	◎374-692
5棟	693	礫岩	6.50	4.14	3.86	76.7	D	○	○	○	○	◎82-375+497-504+520+609-678+693-694+746+747+749-763+865-866
5棟	694	礫岩	4.73	1.90	1.47	18.2	E	○	○	○	○	◎82-375+497-504+520+609-678+693-694+746+747+749-763+865-866
5棟	695	砂岩	3.67	3.63	2.18	33.4	E	○	-	○	-	◎695-756
5棟	696	砂岩	5.63	2.72	3.04	68.6	D	○	○	○	-	◎355-696

完形度：A (完形) . B (9割以上) . C (5割以上) . D (5割以下) . E (小断片)
 剥化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表(15)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	み化	付着物	磁断面 み化	磁断面 付着物	発出関係ほか
5棟	697	泥岩	3.64	2.50	1.20	11.4	E	△	-	○	△	◎ 328+451+473+546 +697+884+885+913
5棟	698	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石群 (200に編入) 第23図 40
5棟	699	砂岩	3.20	1.72	1.72	15.8	E	-	-	○	○	
5棟	700	砂岩	6.22	3.27	2.78	54.2	D	○	△	○	-	◎ 346+378+700+714+775 +816
5棟	701	礫岩	5.10	2.49	1.80	18.4	E	-	-	○	-	◎ 685-701
5棟	702	砂岩	5.67	3.32	2.32	30.2	E	○	-	○	-	◎ 702-740
5棟	703	チャート	4.84	3.58	2.69	45.6	D	-	-	○	-	◎ 554-703
5棟	704	砂岩	7.04	5.49	2.88	109.6	D	○	○	-	△	◎ 605+642+704+823
5棟	705	砂岩	3.31	3.30	1.65	19.9	E	○	-	○	○	◎ 144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5棟	706	砂岩	7.37	2.84	3.41	59.9	D	△	-	○	○	
5棟	707	砂岩	4.78	3.10	1.25	18.7	E	-	-	○	-	
5棟	708	砂岩	5.81	4.98	2.23	79.8	D	○	○	○	○	◎ 649+708+764
5棟	709	砂岩	5.94	4.90	4.53	103.9	D	○	-	○	○	◎ 709+779+847
5棟	710	チャート	4.83	4.30	0.98	18.5	E	-	-	-	-	◎ 427-710
5棟	711	礫岩	4.71	4.70	3.42	62.4	E	○	○	○	○	◎ 848+856+711+754+805 +829
5棟	712	チャート	3.15	2.06	1.68	8.5	E	○	-	△	-	
5棟	713	砂岩	5.11	4.02	2.20	48.1	E	-	-	○	-	
5棟	714	砂岩	4.28	1.81	0.63	4.3	E	○	○	○	-	◎ 346+378+700+714+775 +816
5棟	715	礫岩	7.80	7.21	4.35	191.7	D	○	○	○	○	◎ 371+715+810
5棟	716	砂岩	5.25	3.03	1.06	14.3	E	-	-	○	○	◎ 291+587+716+720
5棟	717	砂岩	3.55	2.47	0.87	8.0	E	○	-	○	-	◎ 162+200+717
5棟	718	砂岩	3.52	3.94	2.84	27.3	E	△	-	○	○	◎ 718+841+867
5棟	719	砂岩	5.52	3.65	3.83	59.6	D	○	△	-	△	◎ 89+719
5棟	720	砂岩	4.68	5.53	2.90	76.6	D	○	△	○	○	◎ 291+587+716+720
5棟	721	砂岩	3.72	3.40	2.92	25.2	E	○	-	○	○	
5棟	722	砂岩	2.18	1.74	1.05	3.0	E	○	-	○	-	◎ 107+367+379+530+584 +722+735+804
5棟	723	砂岩	2.30	1.48	0.99	3.9	E	○	-	○	-	
5棟	724	砂岩	2.50	1.80	1.58	6.4	E	-	-	○	△	
5棟	725	砂岩	5.07	1.72	0.90	6.7	E	△	-	○	○	
5棟	726	砂岩	3.20	2.16	1.97	10.9	E	△	-	○	-	◎ 550-726
5棟	727	泥岩	4.56	3.30	1.99	32.1	E	△	-	○	-	◎ 592+727+914
5棟	728	砂岩	3.47	2.28	1.93	15.8	E	○	-	○	○	◎ 144+193+244+263+359 +452+680+705+728
5棟	729	砂岩	6.33	2.50	1.52	17.7	E	-	-	-	△	
5棟	730	砂岩	5.78	3.08	0.87	13.7	E	△	△	○	-	
5棟	731	砂岩	4.65	2.26	3.71	38.9	E	△	-	○	○	
5棟	732	砂岩	2.68	1.94	2.21	15.3	E	-	-	-	-	◎ 646+732
5棟	733	砂岩	4.48	2.44	2.45	16.7	E	○	-	○	-	
5棟	734	チャート	3.52	3.10	1.86	21.6	E	-	-	○	-	
5棟	735	砂岩	2.49	2.36	1.08	6.4	E	△	△	○	○	◎ 36+79+647+735
5棟	736	チャート	2.86	2.10	1.65	7.8	E	-	-	-	-	
5棟	737	砂岩	3.65	3.32	1.94	23.4	E	-	-	-	-	◎ 470+737
5棟	738	砂岩	7.07	5.64	3.24	157.9	D	○	○	○	○	◎ 581+738+806+900
5棟	739	砂岩	5.92	4.38	2.69	78.5	D	○	△	○	○	◎ 474+739
5棟	740	砂岩	4.80	2.77	2.40	48.6	E	○	-	○	△	◎ 702+740
5棟	741	砂岩	6.34	6.28	1.38	56.4	E	○	-	○	○	

完形度：A (完形)、B (9割以上)、C (5割以上)、D (5割以下)、E (小破片)
み化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号群葬出土礫属性表(16)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁断面 礫化	磁断面 付着物	接合関係ほか
5溝	742	砂岩	7.64	2.92	2.79	70.0	D	○	△	○	—	◎ 742-765
5溝	743	砂岩	5.86	4.14	1.75	38.4	D	○	—	○	—	◎ 418-743
5溝	744	砂岩	2.53	2.66	1.12	5.8	E	○	—	○	—	◎ 744-759
5溝	745	チャート	4.99	3.47	2.46	48.8	D	○	○	○	○	◎ 380-569+745
5溝	746	礫岩	4.50	3.95	2.49	36.8	E	○	○	○	○	◎ 82+375+497+504+520 +609+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	747	礫岩	4.59	4.26	2.44	37.9	E	○	△	○	—	◎ 82+375+497+504+520 +609+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	748	砂岩	5.66	5.22	2.68	67.4	D	○	—	○	○	◎ 132-666+748-751
5溝	749	礫岩	3.20	3.10	1.49	8.4	E	○	—	○	—	◎ 82+375+497+504+520 +609+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	750	砂岩	4.02	5.57	2.54	42.5	E	○	—	○	—	◎ 609+750
5溝	751	砂岩	6.10	3.00	1.67	29.5	E	○	—	○	—	◎ 132-666+748+751
5溝	752	砂岩	4.50	4.15	1.91	36.3	E	○	—	○	○	◎ 278-752+836
5溝	753	泥岩	5.50	4.50	2.90	67.8	D	○	○	○	—	◎ 443+591+753
5溝	754	礫岩	6.94	6.34	2.44	104.4	D	○	○	○	○	◎ 648+656+711+754+805 +820
5溝	755	砂岩	5.28	5.11	4.00	108.4	D	○	△	○	—	◎ 107-367+379+530+584 +722+755+804
5溝	756	砂岩	4.18	2.85	2.53	39.3	E	○	△	○	—	◎ 695+756
5溝	757	砂岩	7.50	3.87	2.81	90.8	D	○	—	○	—	
5溝	758	チャート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石器 (20Uに編入) 第24図 42
5溝	759	砂岩	6.04	4.00	2.57	60.0	D	○	—	○	△	◎ 744+759
5溝	760	チャート	5.00	3.92	2.16	44.7	E	—	—	—	—	
5溝	761	砂岩	5.95	4.78	3.55	133.2	D	○	—	○	—	◎ 761+909
5溝	762	砂岩	4.92	3.80	1.39	26.3	E	○	—	○	—	
5溝	763	礫岩	4.61	3.92	1.96	34.9	E	○	○	○	○	◎ 82+375+497+504+520 +609+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	764	砂岩	3.98	4.15	2.52	38.3	D	○	○	○	○	◎ 649+708+764
5溝	765	砂岩	5.40	2.63	2.10	28.9	E	○	—	○	△	◎ 742-765
5溝	766	砂岩	6.46	4.24	3.25	93.3	D	○	—	○	—	
5溝	767	砂岩	2.90	2.20	2.19	17.7	E	○	—	○	○	◎ 673+767
5溝	768	砂岩	5.98	3.46	3.27	43.4	E	○	—	○	—	
5溝	769	砂岩	4.85	3.57	2.29	37.4	E	○	—	○	—	
5溝	770	チャート	3.72	3.54	2.33	32.6	E	—	—	—	△	① 88+184+288+372+770 +907
5溝	771	砂岩	5.11	3.51	2.91	44.6	E	—	—	△	—	
5溝	772	チャート	3.97	1.68	1.31	9.8	E	—	—	△	○	◎ 429+772
5溝	773	砂岩	3.21	3.09	1.60	15.8	E	○	—	○	—	◎ 773+800
5溝	774	砂岩	5.65	5.04	2.62	84.1	D	○	—	○	—	
5溝	775	砂岩	5.50	4.67	3.52	66.2	D	○	○	○	○	◎ 346+378+700+714+775 +816
5溝	776	砂岩	4.22	3.14	2.22	24.1	E	△	—	○	○	◎ 776+811
5溝	777	砂岩	6.62	3.41	2.44	54.7	D	○	○	○	○	
5溝	778	砂岩	3.72	4.38	2.27	34.4	E	—	—	○	○	◎ 320+778+868
5溝	779	砂岩	4.01	2.59	2.22	18.3	E	○	—	○	○	◎ 709+779+847
5溝	780	砂岩	5.76	4.11	3.33	64.9	D	○	—	○	○	
5溝	781	砂岩	5.02	4.10	1.17	34.8	E	—	—	○	△	
5溝	782	砂岩	2.90	2.72	0.83	6.6	E	△	—	○	—	
5溝	783	砂岩	5.04	3.86	2.13	32.3	E	○	—	○	○	

完形度：A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小断片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第10表 5号遺構出土礫属性表 (17)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	弁化	付着物	磁断面 弁化	磁断面 付着物	接合関係ほか
5溝	784	砂岩	5.74	4.09	2.82	78.8	D	△	-	○	-	
5溝	785	礫岩	7.30	5.96	2.72	161.1	D	○	-	○	○	
5溝	786	チャート	4.93	3.87	3.16	38.5	E	○	-	△	-	
5溝	787	砂岩	5.13	3.64	3.86	84.1	D	-	-	○	○	◎ 345-787
5溝	788	砂岩	4.06	2.32	1.90	18.6	E	○	○	○	○	◎ 127-681+788
5溝	789	砂岩	4.84	3.99	1.40	21.8	E	△	-	○	○	
5溝	790	砂岩	2.40	1.80	1.00	7.3	E	○	-	○	○	◎ 344+401+450-790-791
5溝	791	砂岩	2.94	3.41	2.14	22.7	E	△	-	○	○	◎ 344+401+450-790-791
5溝	792	泥岩	4.20	3.88	3.01	61.7	D	○	○	○	-	
5溝	793	砂岩	4.46	3.61	2.96	36.2	E	○	-	○	○	
5溝	794	砂岩	4.66	3.44	4.22	64.6	D	△	-	○	○	◎ 233-794
5溝	795	チャート	4.50	2.72	1.92	21.2	E	○	-	-	-	
5溝	796	砂岩	4.58	2.41	1.80	17.8	E	○	-	△	○	
5溝	797	砂岩	5.22	4.43	2.61	44.3	E	○	-	○	○	◎ 797-807
5溝	798	砂岩	3.52	2.00	1.93	15.2	E	△	-	○	-	
5溝	799	砂岩	2.71	2.58	1.41	11.1	E	-	-	○	△	
5溝	800	砂岩	4.60	3.08	1.41	17.6	E	○	-	○	-	◎ 773-800
5溝	801	砂岩	3.25	2.20	1.36	7.6	E	○	-	○	-	◎ 471+801
5溝	802	砂岩	3.90	3.82	1.94	19.5	E	○	-	○	○	◎ 802-828
5溝	803	チャート	4.09	3.26	2.50	36.4	E	○	-	○	-	◎ 563-629+688-803
5溝	804	砂岩	9.67	6.62	4.60	221.6	C	○	○	○	-	◎ 107-367+379-530-584 +722-755+804
5溝	805	礫岩	11.00	8.13	5.76	460.5	C	○	○	○	○	◎ 648-656+711+754+805 +829
5溝	806	砂岩	11.56	6.61	5.37	349.0	C	○	○	○	○	◎ 581+738+806-900
5溝	807	砂岩	6.05	5.20	1.80	56.7	D	○	○	○	△	◎ 797-807
5溝	808	チャート	3.42	2.49	2.01	22.4	E	-	-	○	-	◎ 259-323+620-808
5溝	809	砂岩	4.55	2.90	1.66	29.9	E	-	-	○	-	
5溝	810	礫岩	4.93	4.30	2.75	30.5	E	-	-	○	-	◎ 371+715+810
5溝	811	砂岩	4.42	2.88	1.83	17.4	E	△	-	○	-	◎ 776-811
5溝	812	砂岩	5.38	4.70	1.42	50.2	D	○	-	○	-	
5溝	813	砂岩	3.13	2.56	2.00	22.3	E	○	△	○	-	◎ 137-571+813
5溝	814	砂岩	4.30	2.58	4.02	38.0	E	○	-	○	-	◎ 670+814+842
5溝	815	チャート	3.01	2.28	1.76	11.2	E	-	-	△	-	
5溝	816	砂岩	6.57	5.81	3.66	149.0	D	○	○	○	○	◎ 346+378+700+714+775 +816
5溝	817	砂岩	1.33	2.13	2.28	21.2	E	△	-	○	-	
5溝	818	砂岩	2.77	1.82	1.80	8.8	E	△	-	○	○	◎ 818-834
5溝	819	砂岩	3.46	3.39	1.56	21.9	E	○	-	○	-	
5溝	820	チャート	3.00	2.81	2.45	25.7	E	-	-	-	-	
5溝	821	砂岩	4.08	2.02	2.58	15.3	E	△	-	○	-	
5溝	822	チャート	3.63	2.65	1.96	20.4	E	-	-	-	-	
5溝	823	砂岩	3.66	2.02	0.98	8.2	E	○	○	○	-	◎ 605-642+704+823
5溝	824	砂岩	6.80	4.98	4.27	63.6	D	○	-	○	-	◎ 824-893
5溝	825	砂岩	4.33	2.14	1.23	9.6	E	○	○	○	○	
5溝	826	チャート	3.28	2.34	1.86	16.6	E	○	-	△	-	
5溝	827	砂岩	4.45	3.08	1.78	20.1	E	△	-	-	-	
5溝	828	砂岩	6.65	3.44	2.81	59.8	D	○	-	○	○	◎ 802-828
5溝	829	礫岩	4.29	4.12	2.56	29.0	E	○	○	○	○	◎ 648-656+711+754+805 +829

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
 弁化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第10表 5号溝群出土礫属性表(18)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	接合関係ほか
5溝	830	砂岩	4.34	4.00	2.48	35.6	E	○	△	○	△	
5溝	831	泥岩	3.06	1.73	1.49	7.9	E	-	-	△	-	◎180-831
5溝	832	チャート	5.39	3.10	2.21	37.2	E	-	-	○	-	◎213-658+832
5溝	833	砂岩	3.40	1.75	1.62	9.3	E	-	-	-	△	
5溝	834	砂岩	3.18	1.64	1.70	7.4	E	-	-	○	○	◎818-834
5溝	835	砂岩	3.54	1.76	1.58	4.8	E	-	-	-	○	
5溝	836	砂岩	3.83	1.57	1.50	8.9	E	○	-	-	○	◎278-752+836
5溝	837	砂岩	4.47	3.28	2.00	29.5	E	○	-	-	△	
5溝	838	チャート	2.64	1.46	0.69	2.6	E	-	-	-	-	
5溝	839	チャート	1.68	1.08	0.95	1.0	E	△	-	-	△	-
5溝	840	チャート	2.16	1.35	1.02	2.7	E	-	-	○	-	
5溝	841	砂岩	2.93	3.07	3.11	27.1	E	△	-	-	○	◎718-841+867
5溝	842	砂岩	3.68	3.51	2.22	21.1	E	○	-	-	○	◎670-814+842
5溝	843	チャート	3.26	2.41	1.50	8.4	E	-	-	○	-	
5溝	844	砂岩	3.94	2.65	2.00	26.3	E	○	-	-	○	-
5溝	845	チャート	2.72	1.58	1.88	4.9	E	-	-	-	-	
5溝	846	泥岩	2.64	1.46	1.86	13.7	E	-	-	-	○	-
5溝	847	砂岩	5.08	2.47	2.68	24.2	E	○	-	-	○	◎709+779+847
5溝	848	礫岩	3.10	2.09	1.18	5.4	E	-	-	-	-	
5溝	849	チャート	4.45	3.50	2.46	44.3	E	○	○	△	○	◎428-849
5溝	850	砂岩	4.68	4.15	2.69	31.0	E	○	-	-	○	△
5溝	851	チャート	3.64	2.10	2.50	15.7	E	△	-	-	○	-
5溝	852	砂岩	3.67	2.78	2.04	13.7	E	○	-	-	○	△
5溝	853	砂岩	2.54	1.38	1.50	4.3	E	○	-	-	○	○
5溝	854	砂岩	3.58	3.60	2.10	21.0	E	-	-	-	○	○
5溝	855	砂岩	8.48	5.14	3.80	157.8	C	○	△	○	-	
5溝	856	砂岩	2.72	1.72	0.88	3.9	E	○	○	○	○	○
5溝	857	チャート	2.73	2.80	1.12	8.8	E	△	-	-	△	-
5溝	858	砂岩	2.66	2.82	1.29	8.2	E	○	-	-	-	◎347-858
5溝	859	砂岩	3.30	2.94	1.21	8.9	E	○	-	-	○	-
5溝	860	砂岩	3.25	2.56	1.13	10.5	E	-	-	-	△	◎513-860
5溝	861	チャート	1.74	1.60	1.03	2.8	E	○	○	○	-	◎105-358+113+489+861
5溝	862	泥岩	3.57	3.70	1.65	14.6	E	△	-	-	○	-
5溝	863	チャート	3.52	2.27	1.63	9.3	E	○	○	○	○	◎599-863
5溝	864	砂岩	3.38	2.62	1.40	12.2	E	○	-	-	○	△
5溝	865	礫岩	3.18	2.69	1.76	10.1	E	○	○	○	○	◎82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	866	礫岩	3.30	2.86	1.86	15.0	E	○	△	○	-	◎82+375+497+504+520 +669+678+693+694+746 +747+749+763+865+866
5溝	867	砂岩	4.31	3.90	2.55	35.7	E	△	-	-	○	◎718-841+867
5溝	868	砂岩	3.18	3.13	2.12	19.6	E	△	-	-	○	◎320+778+868
5溝	869	チャート	3.76	2.24	1.59	15.1	E	-	-	-	-	
5溝	870	チャート	2.94	2.16	2.08	11.5	E	-	-	-	-	
5溝	871	チャート	1.82	1.74	1.26	6.1	E	○	-	-	○	-
5溝	872	砂岩	5.50	3.05	1.46	32.9	E	-	-	-	○	○
5溝	873	チャート	2.58	2.09	1.03	5.4	E	○	-	-	-	
5溝	874	砂岩	6.50	5.60	3.46	60.4	D	△	-	-	-	◎113-874
5溝	875	チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石圃 (200に編入) 第21図33

完形度: A (完形), B (9割以上), C (5割以上), D (5割以下), E (小破片)
 礫化・付着物: ○ (あり) △ (僅かにあり) - (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表(19)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	接合関係ほか
5溝	876	砂岩	7.05	3.78	5.28	89.1	D	○	△	○	△	
5溝	877	チャート	2.34	0.84	0.78	1.9	E	-	-	-	-	
5溝	878	砂岩	7.00	5.80	1.88	72.0	D	-	-	-	○	
5溝	879	砂岩	4.62	2.98	1.36	36.1	E	○	△	○	-	◎ 879-880
5溝	880	砂岩	4.87	2.26	1.94	24.3	E	○	△	○	-	◎ 879-880
5溝	881	砂岩	3.76	3.60	1.36	18.4	E	○	-	○	-	◎ 881-882
5溝	882	砂岩	7.13	6.40	1.30	48.4	E	○	-	○	-	◎ 881-882
5溝	883	砂岩	3.66	4.10	2.51	33.7	E	△	-	○	-	◎ 556-883
5溝	884	泥岩	3.92	4.00	1.54	26.2	E	○	△	△	-	◎ 328-451+455+473+546 +697-884-885+913
5溝	885	泥岩	6.04	3.26	2.35	42.4	E	○	-	○	○	◎ 328-451+455+473+546 +697-884-885+913
5溝	886	砂岩	3.86	2.30	1.82	14.7	E	○	-	○	-	◎ 886-895
5溝	887	砂岩	2.64	2.10	1.36	4.9	E	-	-	-	○	◎ 206-887
5溝	888	砂岩	11.62	12.30	8.13	1171.0	C	-	-	-	-	◎ 267-888
5溝	889	砂岩	4.16	4.38	2.39	36.1	E	△	-	○	△	
5溝	890	砂岩	6.77	4.03	2.81	64.5	D	○	-	○	○	
5溝	891	砂岩	4.46	4.40	1.86	32.1	E	○	-	○	-	
5溝	892	砂岩	2.42	2.15	1.97	9.5	E	○	-	○	-	
5溝	893	砂岩	4.97	4.20	2.60	45.1	E	○	-	○	△	◎ 824-893
5溝	894	チャート	2.61	2.34	1.90	10.2	E	○	-	○	○	
5溝	895	砂岩	4.82	3.40	2.48	24.5	E	○	-	○	-	◎ 886-895
5溝	896	砂岩	3.68	2.77	2.06	20.1	E	○	-	○	-	◎ 168-414-436-572-896
5溝	897	チャート	5.13	2.97	1.60	22.6	E	○	-	△	-	◎ 219-668-897-902
5溝	898	砂岩	5.40	4.09	2.28	45.3	E	○	△	○	○	
5溝	899	砂岩	4.30	2.92	2.44	25.9	E	-	-	○	○	
5溝	900	砂岩	4.16	3.06	2.90	43.4	E	○	-	○	-	◎ 581-738-806-900
5溝	901	チャート	6.70	4.24	2.62	58.0	E	-	-	○	-	◎ 901-918
5溝	902	チャート	5.76	3.64	2.38	38.3	E	○	-	○	-	◎ 219-668-897-902
5溝	903	チャート	3.79	2.12	1.51	12.8	E	-	-	-	-	
5溝	904	砂岩	5.03	2.30	2.77	30.6	E	○	-	○	-	
5溝	905	砂岩	5.28	3.70	3.99	41.0	E	○	-	○	○	◎ 342-360-396-905
5溝	906	砂岩	4.90	4.46	2.24	53.9	D	○	-	○	-	
5溝	907	チャート	2.35	2.27	1.50	7.5	E	-	-	△	○	◎ 88+184+288+372+770 +907
5溝	908	チャート	4.13	2.28	1.27	10.6	E	○	○	○	○	◎ 167-276-283-340-341 +376+465+589+632+908
5溝	909	砂岩	5.85	4.91	3.95	123.0	D	○	-	○	-	◎ 761-909
5溝	910	砂岩	3.12	2.02	1.44	6.3	E	△	△	○	○	
5溝	911	砂岩	4.23	2.14	2.08	24.3	E	△	-	○	△	◎ 114-363+911
5溝	912	チャート	2.75	2.48	2.42	19.8	E	○	△	○	-	◎ 407+912
5溝	913	泥岩	5.55	3.58	2.00	31.7	E	○	-	-	△	◎ 328-451+455+473+546 +697-884-885+913
5溝	914	泥岩	3.75	2.12	1.90	12.4	E	-	-	○	-	◎ 592-727-914
5溝	915	砂岩	4.45	3.30	1.71	24.4	E	○	-	○	○	
5溝	916	砂岩	3.20	2.86	2.27	18.4	E	-	-	○	○	◎ 634-916
5溝	917	砂岩	4.41	3.55	2.74	51.0	D	○	-	○	-	◎ 349-917
5溝	918	チャート	3.30	2.48	1.91	13.8	E	-	-	△	-	◎ 901+918
5溝	919	砂岩	3.57	2.45	2.06	14.4	E	○	-	○	-	◎ 62-919
5溝	920	チャート	3.97	2.98	1.44	19.4	E	○	-	△	-	◎ 441+920
5溝	921	チャート	3.43	2.27	1.82	11.9	E	-	-	○	-	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
 礫化・付着物：○（あり） △（僅かにあり） -（なし）

第10表 5号溝群出土礫属性表(20)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	横断面 付着物	接合関係ほか
5棟	922	砂岩	4.56	4.25	3.23	49.2	D	△	-	○	○	添9+922
5棟	923	砂岩	5.54	5.58	2.66	63.3	D	○	○	○	-	添468+923
5棟	接合①	チャート	6.52	3.45	1.59	29.0	E	○	-	○	-	接合2点 (14-517)
5棟	接合②	チャート	5.98	5.70	3.90	71.7	D	○	○	○	-	接合4点 (19+125+311+675)
5棟	接合③	チャート	3.70	3.62	3.58	58.9	D	△	○	○	△	接合2点 (30+194)
5棟	接合④	チャート	4.79	3.50	2.59	30.7	D	○	-	○	-	接合2点 (38+152)
5棟	接合⑤	チャート	4.47	4.45	1.65	48.2	D	-	△	-	○	接合3点 (75+512+636)
5棟	接合⑥	チャート	4.58	4.44	2.13	45.3	D	△	○	○	○	接合3点 (78+370+500)
5棟	接合⑦	チャート	5.58	4.78	2.28	80.7	D	△	-	○	○	接合6点 (88+184+288+372+770+907)
5棟	接合⑧	チャート	6.16	3.80	3.80	88.1	D	○	○	△	-	接合5点 (105+358+413+480+861)
5棟	接合⑨	チャート	4.16	3.41	2.04	29.3	D	-	-	△	-	接合2点 (109+290)
5棟	接合⑩	チャート	8.73	7.76	4.47	261.6	C	○	○	○	○	接合10点 (167-276-283+340+341+376+465+589+632+908)
5棟	接合⑪	チャート	3.24	2.34	1.56	10.1	E	△	-	-	-	接合2点 (204+476)
5棟	接合⑫	チャート	7.32	4.78	4.26	87.9	D	-	-	○	-	接合3点 (213+658+832)
5棟	接合⑬	チャート	9.36	4.72	3.81	121.8	D	○	-	○	-	接合4点 (219+668+897+902)
5棟	接合⑭	チャート	5.67	4.92	3.60	85.1	C	○	-	○	-	接合4点 (259+323+620+808)
5棟	接合⑮	チャート	4.75	3.68	3.00	52.7	D	-	-	○	○	接合2点 (350+352)
5棟	接合⑯	チャート	5.08	4.94	2.69	65.7	D	-	-	-	-	接合2点 (374+692)
5棟	接合⑰	チャート	6.90	3.95	3.75	107.8	C	○	○	○	○	接合3点 (380+569+745)
5棟	接合⑱	チャート	4.68	4.38	2.92	48.5	D	-	-	△	-	接合2点 (386+536)
5棟	接合⑲	チャート	5.06	4.48	3.10	89.9	D	-	-	○	-	接合2点 (397+650)
5棟	接合㉑	チャート	5.29	3.20	2.94	48.9	D	○	△	○	-	接合2点 (407+912)
5棟	接合㉒	チャート	5.48	4.48	1.52	29.5	D	-	-	-	-	接合2点 (427+710)
5棟	接合㉓	チャート	7.79	3.50	2.64	84.2	D	○	○	△	△	接合2点 (428+849)
5棟	接合㉔	チャート	4.10	2.97	1.37	19.4	E	-	○	△	○	接合2点 (429+772)
5棟	接合㉕	チャート	5.53	4.10	1.44	30.3	E	○	-	△	-	接合2点 (441+920)
5棟	接合㉖	チャート	4.29	3.60	2.35	39.4	D	○	-	○	-	接合2点 (446+449)
5棟	接合㉗	チャート	5.64	4.86	2.69	67.1	D	-	-	○	-	接合2点 (554+703)
5棟	接合㉘	チャート	9.63	6.56	3.68	223.0	D	○	△	○	○	接合2点 (562+622)
5棟	接合㉙	チャート	7.81	4.77	3.82	143.9	C	○	-	○	-	接合4点 (563+629+688+803)
5棟	接合㉚	チャート	3.60	3.51	1.73	14.0	E	○	○	○	○	接合2点 (599+863)
5棟	接合㉛	チャート	6.70	4.24	2.62	71.8	D	-	-	△	-	接合2点 (901+918)
5棟	接合㉜	砂岩	6.06	3.36	3.15	72.7	D	△	-	○	○	接合2点 (9+922)
5棟	接合㉝	砂岩	4.89	4.79	2.46	44.6	D	○	-	○	○	接合2点 (26+140)
5棟	接合㉞	砂岩	6.39	2.84	2.18	40.6	D	○	-	○	-	接合2点 (31+191)
5棟	接合㉟	砂岩	8.46	5.41	4.14	147.0	C	△	○	○	○	接合4点 (36+79+647+735)
5棟	接合㊱	砂岩	3.57	3.24	2.40	24.7	E	○	-	○	-	接合2点 (62+919)
5棟	接合㊲	砂岩	5.34	3.55	2.53	40.2	D	○	○	○	○	接合5点 (71+214+279+310+316)
5棟	接合㊳	砂岩	5.24	5.11	2.68	59.8	D	○	-	○	-	接合3点 (77+153+154)
5棟	接合㊴	砂岩	5.52	4.34	3.83	64.3	D	○	△	-	△	接合2点 (89+719)
5棟	接合㊵	砂岩	12.26	6.92	4.90	396.6	B	○	○	-	-	接合8点 (107+367+379+530+584+722+755+804)
5棟	接合㊶	砂岩	6.50	5.60	3.48	68.1	D	△	-	-	-	接合2点 (113+874)
5棟	接合㊷	砂岩	7.68	3.70	2.12	59.4	D	△	-	○	△	接合3点 (114+363+911)

完形度：A (完形) . B (9割以上) . C (5割以上) . D (5割以下) . E (小断片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (僅かあり) - (なし)

第10表 5号群出土礫属性表 (21)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	磁器面 礫化	磁器面 付着物	接合関係ほか
5棟	接合帯	砂岩	7.25	3.99	3.96	91.2	D	○	○	○	○	接合3点 (127-681-788)
5棟	接合帯	砂岩	7.03	7.06	2.78	166.7	D	○	△	○	○	接合4点 (132-666-748 +751)
5棟	接合帯	砂岩	5.52	5.38	2.65	119.1	D	○	○	○	○	接合3点 (137-571-813)
5棟	接合帯	砂岩	8.83	4.66	3.58	156.6	D	○	○	○	○	接合9点 (144-193-244 +263-359+452-680-705 +728)
5棟	接合帯	砂岩	5.93	3.90	1.09	31.3	D	○	-	○	-	接合3点 (162-200-717)
5棟	接合帯	砂岩	4.44	4.02	4.64	100.2	D	○	○	○	○	接合5点 (168+414+436 +572+896)
5棟	接合帯	砂岩	5.93	3.44	2.91	48.7	D	-	-	○	○	接合2点 (170-434)
5棟	接合帯	砂岩	5.60	3.16	2.00	36.9	E	○	-	○	○	接合2点 (178-654)
5棟	接合帯	砂岩	8.62	5.88	5.31	253.2	C	○	○	△	-	接合5点 (190-285-390 +391+431)
5棟	接合帯	砂岩	3.87	2.37	1.36	8.7	E	-	-	-	○	接合2点 (206-887)
5棟	接合帯	砂岩	5.80	4.62	3.54	74.1	D	○	○	○	○	接合3点 (226+419-672)
5棟	接合帯	砂岩	4.72	3.70	4.22	67.2	D	△	-	○	○	接合2点 (233-794)
5棟	接合帯	砂岩	11.62	12.46	8.13	1203.3	C	-	-	-	-	接合2点 (267-888)
5棟	接合帯	砂岩	4.88	4.68	2.20	47.2	D	○	-	○	○	接合3点 (278-752-836)
5棟	接合帯	砂岩	9.61	6.40	4.42	286.5	C	○	○	○	○	接合4点 (291-587-716 +720)
5棟	接合帯	砂岩	4.84	2.83	2.39	27.1	E	○	-	○	○	接合2点 (299-458)
5棟	接合帯	砂岩	4.86	4.38	3.01	56.5	D	△	-	○	○	接合3点 (320-778-868)
5棟	接合帯	砂岩	8.45	4.16	4.81	139.6	D	○	○	○	○	接合3点 (329-603-608)
5棟	接合帯	砂岩	7.06	5.48	4.70	123.8	D	○	-	○	○	接合4点 (342-360-396 +905)
5棟	接合帯	砂岩	6.38	4.27	2.56	46.2	D	○	△	○	△	接合2点 (343-864)
5棟	接合帯	砂岩	4.22	4.00	4.64	50.1	D	○	△	○	○	接合5点 (344+401+450 +790+791)
5棟	接合帯	砂岩	5.76	3.82	4.51	114.5	D	-	-	○	○	接合2点 (345-787)
5棟	接合帯	砂岩	11.48	6.06	4.73	312.5	C	○	○	○	○	接合6点 (346-378-700 +714+779+816)
5棟	接合帯	砂岩	4.89	4.20	3.48	47.6	D	○	-	○	-	接合2点 (347-858)
5棟	接合帯	砂岩	6.18	4.79	2.74	95.5	D	-	-	○	-	接合2点 (349-917)
5棟	接合帯	砂岩	6.13	5.67	3.06	56.1	D	○	-	○	○	接合2点 (351+361)
5棟	接合帯	砂岩	5.63	4.97	3.04	121.1	C	○	△	○	○	接合2点 (355-696)
5棟	接合帯	砂岩	6.27	4.71	2.83	92.0	D	○	△	○	○	接合2点 (364-560)
5棟	接合帯	砂岩	5.67	4.49	2.81	54.5	D	○	-	○	△	接合2点 (366-652)
5棟	接合帯	砂岩	5.55	4.83	3.24	81.9	D	-	-	△	-	接合2点 (410-505)
5棟	接合帯	砂岩	8.58	4.39	2.15	70.8	C	○	-	○	-	接合2点 (418-743)
5棟	接合帯	砂岩	5.58	5.54	2.66	81.4	D	○	○	○	-	接合2点 (468-923)
5棟	接合帯	砂岩	3.88	3.69	4.00	47.0	D	-	-	-	-	接合2点 (470-737)
5棟	接合帯	砂岩	6.22	2.85	2.42	27.5	E	○	-	○	○	接合2点 (471-801)
5棟	接合帯	砂岩	5.97	4.38	3.80	129.1	D	○	○	○	○	接合2点 (474-739)
5棟	接合帯	砂岩	3.72	3.68	2.22	27.6	E	-	△	○	○	接合3点 (483-498-515)
5棟	接合帯	砂岩	8.68	6.94	3.05	133.2	D	○	-	○	-	接合2点 (494-667)
5棟	接合帯	砂岩	7.84	5.37	2.77	114.9	B	○	○	△	-	接合4点 (502-555-619 +621)
5棟	接合帯	砂岩	4.02	3.86	0.98	24.5	E	-	-	△	-	接合2点 (513-860)
5棟	接合帯	砂岩	6.24	4.64	4.26	62.7	D	○	△	○	-	接合2点 (524-640)
5棟	接合帯	砂岩	6.92	4.24	2.60	41.9	E	△	-	○	○	接合2点 (550-726)
5棟	接合帯	砂岩	7.09	6.34	4.49	158.4	D	○	○	○	○	接合2点 (551-586)
5棟	接合帯	砂岩	5.50	5.10	2.51	75.9	D	○	-	○	△	接合2点 (556-883)

完形度：A (完形)・B (9割以上)・C (5割以上)・D (5割以下)・E (小破片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (礫かあり) - (なし)

第10表 5号磯群出土礫属性表 (22)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	礫化	付着物	縦断面 礫化	縦断面 付着物	接合関係ほか
5棟	接合帯	砂岩	7.81	3.73	4.36	108.2	D	○	△	○	—	接合3点 (564+565+676)
5棟	接合帯	砂岩	8.50	4.56	2.70	115.2	C	○	○	○	—	接合2点 (570+596)
5棟	接合帯	砂岩	10.50	7.90	5.65	630.3	B	○	○	○	○	接合4点 (581+738+806+900)
5棟	接合帯	砂岩	10.11	7.90	2.86	199.8	C	○	○	—	—	接合4点 (605+642+704+823)
5棟	接合帯	砂岩	7.64	6.96	3.05	150.4	D	○	—	○	—	接合2点 (609+750)
5棟	接合帯	砂岩	4.83	3.18	2.18	28.6	E	—	—	○	○	接合2点 (634+916)
5棟	接合帯	砂岩	5.40	4.43	3.77	95.6	D	△	—	○	—	接合2点 (646+732)
5棟	接合帯	砂岩	9.32	5.54	4.64	240.9	B	○	○	○	○	接合3点 (649+708+764)
5棟	接合帯	砂岩	4.94	4.45	3.50	65.8	D	○	—	○	△	接合2点 (660+661)
5棟	接合帯	砂岩	7.47	4.24	4.16	104.0	D	○	—	○	—	接合3点 (670+814+842)
5棟	接合帯	砂岩	7.03	4.33	4.06	150.5	D	○	—	○	○	接合2点 (673+767)
5棟	接合帯	砂岩	6.35	3.91	2.83	97.8	D	○	—	○	○	接合2点 (682+683)
5棟	接合帯	砂岩	5.08	4.18	3.17	72.7	D	○	△	○	—	接合2点 (695+756)
5棟	接合帯	砂岩	7.20	3.32	3.34	78.8	D	○	—	○	△	接合2点 (702+740)
5棟	接合帯	砂岩	7.36	5.97	4.53	146.4	D	○	—	○	○	接合3点 (709+779+847)
5棟	接合帯	砂岩	4.93	4.93	3.11	90.1	D	△	—	○	○	接合3点 (718+841+867)
5棟	接合帯	砂岩	7.64	4.66	2.79	98.9	C	○	△	○	△	接合2点 (742+765)
5棟	接合帯	砂岩	6.22	4.00	2.57	65.8	D	○	—	○	△	接合2点 (744+759)
5棟	接合帯	砂岩	9.30	5.85	3.95	256.2	D	○	—	○	—	接合2点 (761+908)
5棟	接合帯	砂岩	5.15	3.91	2.10	33.4	E	○	—	○	—	接合2点 (773+800)
5棟	接合帯	砂岩	4.66	4.00	2.48	41.5	D	△	—	○	○	接合2点 (776+811)
5棟	接合帯	砂岩	7.35	6.28	2.61	101.0	D	○	○	○	○	接合2点 (797+807)
5棟	接合帯	砂岩	7.15	3.95	2.81	79.3	D	○	—	○	○	接合2点 (802+828)
5棟	接合帯	砂岩	3.60	2.83	1.80	16.2	E	△	—	○	○	接合2点 (818+834)
5棟	接合帯	砂岩	7.38	4.15	4.31	108.7	D	○	—	○	△	接合2点 (824+893)
5棟	接合帯	砂岩	5.06	4.31	2.38	60.4	D	○	△	○	—	接合2点 (879+880)
5棟	接合帯	砂岩	7.13	6.40	1.36	66.8	D	○	—	○	—	接合2点 (881+882)
5棟	接合帯	砂岩	4.78	3.70	2.80	39.2	E	○	—	○	—	接合2点 (886+895)
5棟	接合帯	泥岩	3.70	3.57	1.65	17.2	E	△	△	○	—	接合2点 (28+862)
5棟	接合帯	泥岩	4.06	3.38	3.29	38.4	E	△	—	○	—	接合2点 (53+553)
5棟	接合帯	泥岩	5.96	5.92	3.90	73.5	D	○	○	○	○	接合4点 (59+60+166+172)
5棟	接合帯	泥岩	6.56	3.69	0.90	24.4	E	○	—	○	—	接合3点 (149+169+326)
5棟	接合帯	泥岩	4.14	2.80	2.16	21.0	E	—	—	△	—	接合2点 (186+831)
5棟	接合帯	泥岩	3.41	3.28	1.69	15.6	E	○	—	○	○	接合2点 (215+540)
5棟	接合帯	泥岩	10.86	6.44	3.76	210.4	C	○	—	○	△	接合0点 (328+451+455+473+546+697+884+885+913)
5棟	接合帯	泥岩	8.89	7.63	3.92	295.3	B	○	○	○	—	接合3点 (443+591+753)
5棟	接合帯	泥岩	7.40	4.80	3.88	152.7	D	△	—	○	—	接合3点 (592+727+914)
5棟	接合帯	礫岩	11.32	7.04	4.75	400.7	B	○	○	○	○	接合15点 (82+375+497+504+520+609+678+693+694+746+747+749+763+865+866)
5棟	接合帯	礫岩	5.47	3.58	1.96	35.7	E	○	○	○	○	接合2点 (161+417)
5棟	接合帯	礫岩	10.22	7.80	4.25	257.6	C	○	○	○	○	接合3点 (371+715+810)
5棟	接合帯	礫岩	14.53	8.02	5.58	720.4	B	○	○	○	○	接合6点 (648+656+711+754+805+829)
5棟	接合帯	礫岩	7.68	4.33	3.00	91.9	D	○	—	○	—	接合2点 (685+701)
5棟	接合帯	ホルンフェルス	5.15	3.67	1.83	35.2	E	—	—	—	—	接合2点 (91+156)

完形度：A (完形)・B (9割以上)・C (5割以上)・D (5割以下)・E (小破片)
 礫化・付着物：○ (あり) △ (礫化にあり) — (なし)

第10表 5号礫群出土礫属性表 (23)

6号礫群

遺 構 (第43・44図、第11表)

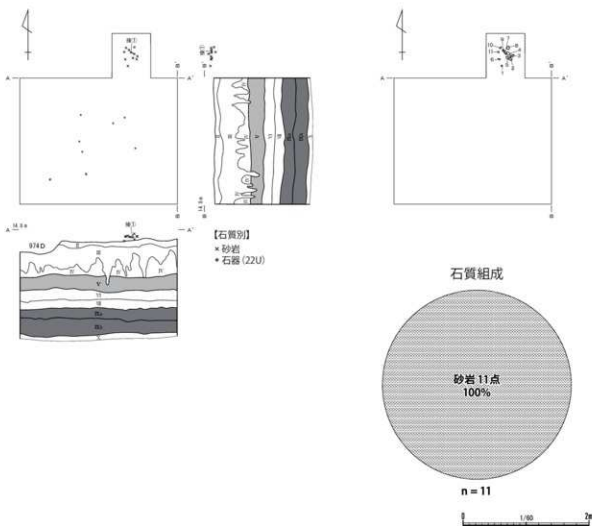
[位 置] (D-4) グリッド。TP 15から検出。

[平面分布] 東西方向0.21 m、南北方向0.31 mの範囲で礫の分布が確認された。22号石器集中地点が本遺構の外縁に分布する。

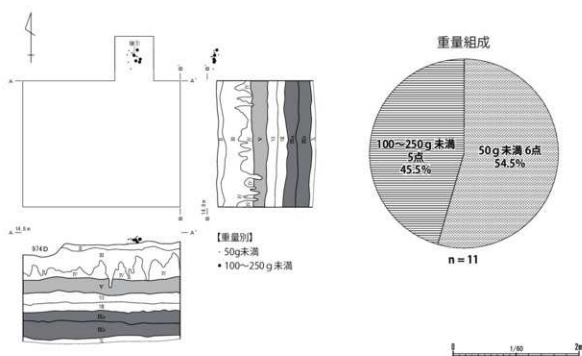
[出土層位] 礫は標高14.62～14.73 mから出土しており、その分布はⅡ層下部～立川ローム第Ⅲ層上部にまとまりをみせる。礫の大部分がⅡ層下部から出土しているため、縄文時代の集石である可能性も考えたが、明確な掘り込みを確認することはできなかった。よって外縁に分布し、垂直分布が重なる22号石器集中地点との関連性を重視し、旧石器時代の礫群と判断した。

[礫 構 成] 出土礫の総点数は11点である。完形礫は2点で、それ以外は破砕礫である。石質は全て砂岩で、4・7・9の礫で接合関係が1例認められた。

重量別の組成は50 g未満が6点、100～250 g未満が5点である。礫表面の状態は、表面が赤化するものが2点、表面に付着物が認められるものが4点、破断面が赤化するものが5点、破断面に付着物が認められるものが4点である。



第43図 6号礫群 石質別分布図 (1/60)



第44図 6号礫群 重量別分布図(1/60)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	外形	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	組合関係ほか
6号	1	砂岩	3.13	2.78	2.25	18.1	E	-	△	-	△	
6号	2	砂岩	6.80	3.64	3.08	102.7	D	-	○	-	○	
6号	3	砂岩	8.48	4.49	3.28	164.4	C	△	-	△	-	
6号	4	砂岩	6.36	3.48	1.20	37.9	E	-	-	△	△	①4+7+9
6号	5	砂岩	7.73	5.18	4.06	169.9	A	-	-	-	-	完形礫
6号	6	砂岩	3.95	2.88	1.48	19.7	E	-	-	△	-	
6号	7	砂岩	6.85	6.15	2.99	138.9	D	-	-	△	△	①4+7+9
6号	8	砂岩	8.24	5.49	4.45	229.3	A	-	△	-	-	完形礫
6号	9	砂岩	3.97	3.03	2.10	31.5	E	-	-	-	-	①4+7+9
6号	10	砂岩	4.32	4.27	1.55	24.3	E	-	-	○	-	
6号	11	砂岩	6.37	3.73	1.53	35.6	D	○	○	-	-	
6号	接合①	砂岩	8.56	5.95	3.38	208.3	C	-	-	△	△	接合3点(4+7+9)

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）
赤化・付着物：○（あり）△（僅かにあり）-（なし）

第11表 6号礫群出土礫属性表

7号礫群

遺構 (第45・46図、第12表)

[位置] (C-6)グリッド。TP9から検出。

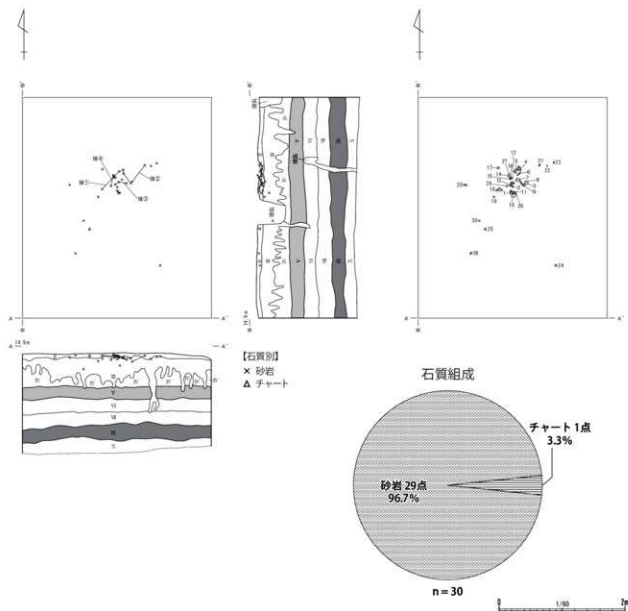
[検出状況] 上面は弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡(653Y)、中世以降のピット(72P)及び攪乱により削平され、これらの掘り込みの一部は礫の出土層位にまで達している。

[平面分布] 東西方向 1.44 m、南北方向 1.65 m の範囲で礫の分布が確認された。本遺構に伴う石器集中地点は検出されなかった。

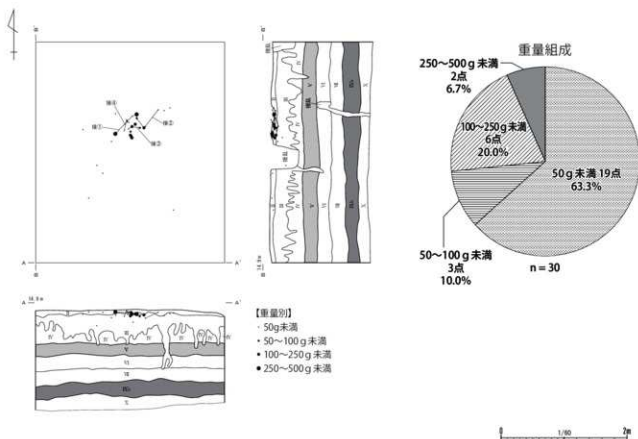
[出土層位] 礫は標高 14.53 ~ 14.77 m から出土しており、その分布はⅡ層下部~立川ローム層第Ⅲ層上部にまとまりをみせる。

[礫構成] 出土礫の総点数は 30 点で、いずれも破砕礫である。石質は砂岩 29 点 (96.7%)、チャート 1 点 (3.3%) で、3 ~ 6・18 の礫の他、4 例の接合関係が認められた (第 45 図)。

重量別の組成は 50 g 未満が 19 点、50 ~ 100 g 未満が 3 点、100 ~ 250 g 未満が 6 点、250 ~ 500 g 未満が 2 点で、50 g 未満の小礫が全体の 6 割以上を占める。礫表面の状態は、表面が赤化するものが 27 点、表面に付着物が認められるものが 3 点、破断面が赤化するものが 20 点、破断面に付着物が認められるものが 4 点である。



第 45 図 7号礫群 石質別分布図 (1 / 60)



第46図 7号礫群 重量別分布図 (1/60)

遺構名	遺物番号	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	完形度	石化	付着物	痕跡面 石化	痕跡面 付着物	接合関係ほか
7遺	1	砂岩	5.04	4.05	4.53	113.9	D	○	—	—	—	
7遺	2	砂岩	4.42	4.09	2.75	51.8	D	△	—	○	○	
7遺	3	砂岩	6.90	6.41	2.26	109.7	D	○	—	○	—	①3+4+5+6+18
7遺	4	砂岩	7.61	3.87	2.06	250.8	D	○	—	○	—	①3+4+5+6+18
7遺	5	砂岩	8.14	8.18	3.82	46.3	D	○	—	○	—	①3+4+5+6+18
7遺	6	砂岩	7.72	5.76	1.93	64.7	D	○	—	○	—	①3+4+5+6+18
7遺	7	砂岩	7.73	4.92	3.27	127.7	D	○	—	○	○	
7遺	8	砂岩	4.24	2.71	2.84	36.1	E	△	—	○	—	②8+21
7遺	9	砂岩	7.57	3.04	1.95	57.1	E	△	—	○	—	③9+12+13
7遺	10	砂岩	6.63	4.25	3.79	151.2	D	△	—	—	—	
7遺	11	砂岩	6.77	5.75	3.20	124.1	D	△	△	○	—	
7遺	12	砂岩	8.85	6.64	3.39	219.5	D	○	—	○	—	③9+12+13
7遺	13	砂岩	6.54	2.37	1.43	34.0	E	△	—	○	—	③9+12+13
7遺	14	砂岩	5.40	3.68	1.97	34.8	D	△	—	○	—	④14+15+28
7遺	15	砂岩	4.15	2.65	2.25	18.8	E	△	—	—	—	④14+15+28
7遺	16	砂岩	4.73	2.13	1.55	14.9	E	○	○	○	○	
7遺	17	砂岩	3.36	3.20	1.38	14.2	E	△	—	—	—	
7遺	18	砂岩	11.45	7.76	5.71	262.0	D	○	—	○	—	①3+4+5+6+18
7遺	19	砂岩	1.85	1.63	1.22	3.5	E	—	—	—	△	

完形度：A (完形) , B (9割以上) , C (5割以上) , D (5割以下) , E (小破片)
 石化・付着物：○ (あり) △ (僅かにあり) — (なし)

第12表 7号礫群出土礫属性表 (1)

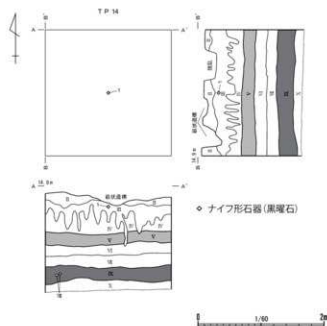
遺構名	遺物番号	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	縦断面赤化	縦断面付着物	接合関係ほか
7溝	20	砂岩	5.12	3.98	2.42	42.3	D	-	-	△	-	
7溝	21	砂岩	2.21	2.12	2.15	12.0	E	△	-	-	-	②8+21
7溝	22	砂岩	3.15	1.92	0.59	3.1	E	○	△	○	-	
7溝	23	砂岩	2.64	1.69	1.09	5.9	E	○	-	○	-	
7溝	24	砂岩	3.54	2.63	0.66	6.8	E	△	-	○	-	
7溝	25	チャート	4.28	3.22	1.92	40.0	A	-	-	-	-	完形確
7溝	26	砂岩	3.71	2.20	1.68	13.6	E	△	-	-	-	
7溝	27	砂岩	3.46	3.20	1.48	17.0	E	△	-	○	-	
7溝	28	砂岩	1.78	1.45	0.74	1.9	E	△	-	-	-	③14+15+28
7溝	29	砂岩	3.09	2.38	1.45	8.6	E	△	-	△	-	
7溝	30	砂岩	2.63	1.66	1.57	6.6	E	△	-	-	-	
7溝	接合①	砂岩	10.16	8.57	6.64	733.5	C	○	-	○	-	接合5点 (3+4+5+6+18)
7溝	接合②	砂岩	4.69	2.78	2.95	48.1	D	△	-	○	-	接合2点 (8+21)
7溝	接合③	砂岩	11.54	9.96	3.39	310.6	D	○	-	○	-	接合3点 (9+12+13)
7溝	接合④	砂岩	5.75	3.51	2.14	55.5	D	△	-	○	-	接合3点 (14+15+28)

完形度：A (完形) . B (9割以上) . C (5割以上) . D (5割以下) . E (小破片)
赤化・付着物：○ (あり) △ (痕にあり) - (なし)

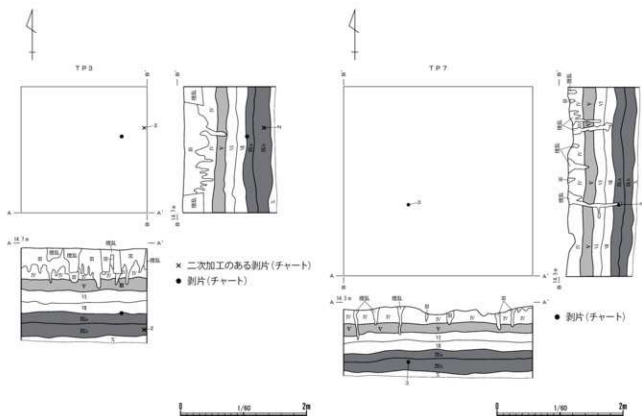
第12表 7号礫群出土礫属性表(2)

(4) 旧石器試掘坑出土石器 (第47～49図、図版39-2-1～3、第13表)

TP3・7・14において計4点、石器が単独で出土した。内訳は、TP3がチャート製の二次加工のある剥片1点(第49図2)、剥片1点、TP7がチャート製の剥片1点(第49図3)、TP14が黒曜石製のナイフ形石器1点(第49図1)である。出土層位は、TP14が立川ローム第Ⅲ層上部、TP3・7が立川ローム第Ⅸ層下部となる。



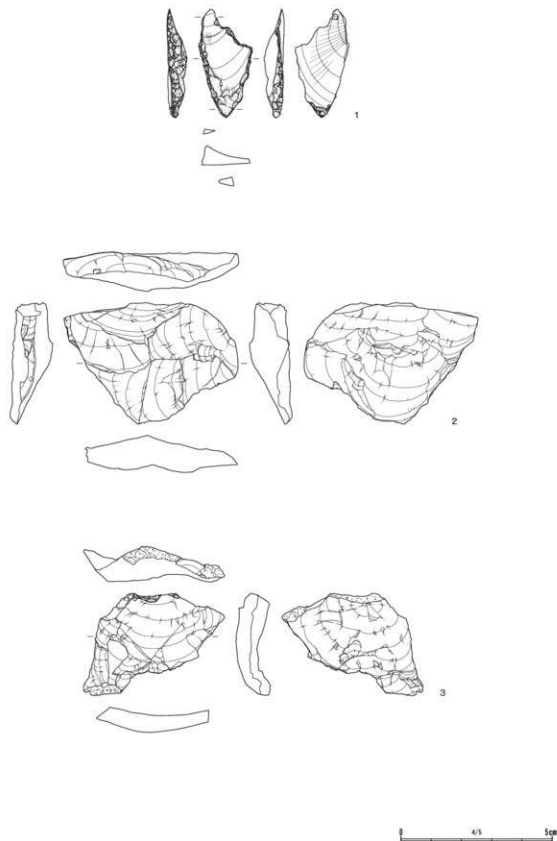
第47図 14号旧石器試掘坑遺物出土状態(1/60)



第48図 3・7号旧石器試掘坑遺物出土状態(1/60)

発掘番号 図版番号	品類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第49図1 図版 39-2-1	ナイフ形石器	黒曜石	3.58	1.77	0.66	2.54	完形/横長剥片を素材とし、横位に用いられる/二側縁加工(左側縁は全縁、右側縁は基部から中間部まで加工)/基部表面に二次加工/正面側右側縁の中間部から先端部にかけて連続的な幾何学的/信用齧ヶ跡	TP14
第49図2 図版 39-2-2	二次加工のある剥片	チャート	4.01	5.75	1.40	26.53	打面短欠損/背面構成は主要利離軸方向と横行・直交する利離方向で構成/背面側の左側縁に部分的な二次加工	TP3
第49図3 図版 39-2-3	剥片	チャート	3.37	4.66	1.14	10.03	完形/打面は膨脹面/背面構成は主要利離軸方向に横行・直交する利離方向で構成	TP7

第13表 旧石器試掘坑出土石器一覧



第49図 旧石器試掘坑出土遺物（4／5）

第2節 縄文時代の遺構・遺物

(1) 概要

縄文時代の遺構については、炉穴1基(22 F P)・ピット1本(28 P)が検出された(第52図)。共に1区西端部に位置する。なお、遺構内から該期の遺物は出土しなかった。

(2) 炉 穴

22号炉穴

遺 構 (第50図)

位 置 (A-5) グリッド。

検出状況 現代の耕作等により、上面が削平される。

構 造 平面形：不整楕円形。規模：長軸 0.58 m / 短軸 0.33 m / 深さ 0.08 m。壁：60°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-33°-E。

覆 土 4層に分層される。

遺 物 出土しなかった。

時 期 覆土の観察から縄文時代と考えられる。

(3) ピット

28号ピット

遺 構 (第51図)

検出状況 掘乱により、西側上面が削平される。

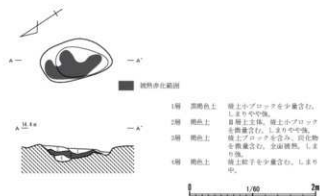
位 置 (B-3) グリッド。

構 造 平面形：円形。規模：長軸 0.41 m / 短軸 0.39 m / 深さ 0.26 m。

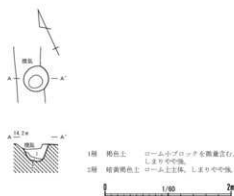
覆 土 2層に分層される。

遺 物 出土しなかった。

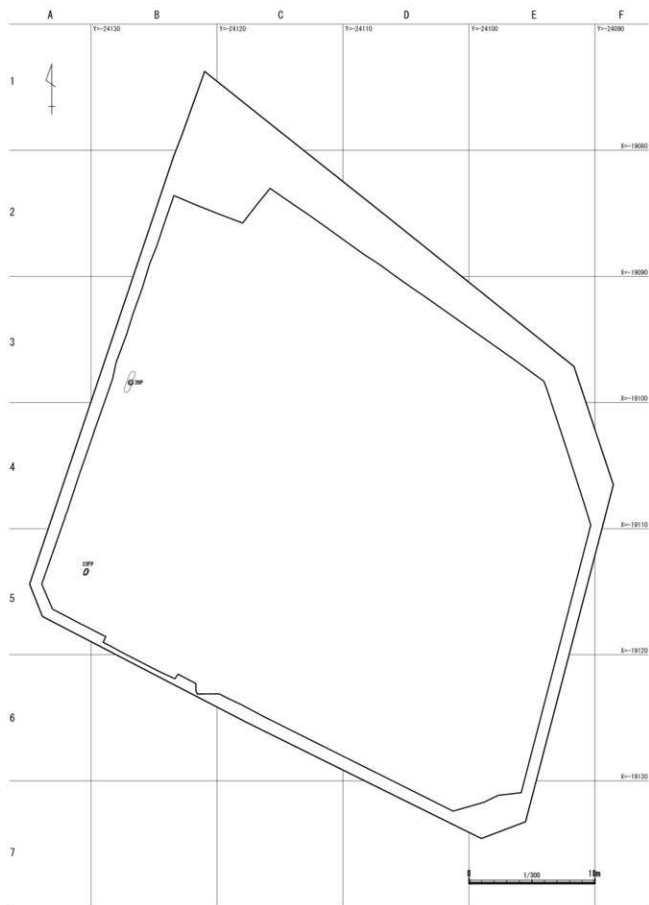
時 期 覆土の観察から縄文時代と考えられる。



第50図 22号炉穴 (1/60)



第51図 28号ピット (1/60)



第52図 縄文時代遺構分布図（1 / 300）

第3節 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物

(1) 概要

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構については、住居跡 16 軒 (640～655 Y) が検出された (第 53 図)。時期は出土土器から弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉と考えられる。651・652 Y のみ重複するが、その他の住居跡は一定の間隔を置いて単独で検出された。また、遺構密度は北西から南東方向に向かうにつれ、徐々に濃くなっていく傾向が認められる。

住居跡の平面形は楕円形、隅丸方形 (隅丸長方形も含む)、方形の 3 形態が確認されており、その内訳は楕円形 2 軒 (644・647 Y)、隅丸方形 8 軒 (641・642・648・649・652・653・654・655 Y)、方形 6 軒 (640・643・645・646・650・651 Y) となり、隅丸方形・方形を基調とするものが主体を占める。また、651・655 Y は床面上からまとまって焼土や炭化材が検出されたことから、焼失住居と推測される。

その他、壁面に沿う形で、641・642・644・648・649・652・653 Y の計 7 軒から赤色砂利層が検出された。これらの住居跡は調査区の南半部に偏在する傾向が認められ、641 Y を除く 6 軒の住居跡はいずれも貯蔵穴に隣接する分布的特徴を有している。

(2) 住居跡

640 号住居跡

遺 構 (第 54・55 図)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 中世以降の土坑 (952 D) 及びピット (81 P) に切られる。また、全面に南北方向に走る現代の耕作痕 (トレンチャー) が認められ、遺存状態はあまり良好ではない。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 4.07 m / 短軸 3.90 m / 確認面からの深さ 0.34 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-77°-W。壁溝：検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、硬化面は検出されなかった。炉：住居中央やや東寄りに位置する。楕円形を呈する地床炉と推測されるが、東西両端をトレンチャーに切れ、全体規模は不明。残存範囲の規模：長軸 49cm / 短軸 26cm 以上 / 深さ 5cm。中央部に被熱による赤化が確認された。貯蔵穴：住居北東コーナーで検出された。平面形は楕円形を呈し、ほぼ完形の埴形・甕形土器各 1 点が出土した。規模：長軸 60cm / 短軸 55cm / 床面からの深さ 33cm。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に 4～10cm 程度の深さの掘り込みが確認された (3 層)。

[覆 土] 2 層に分層される。

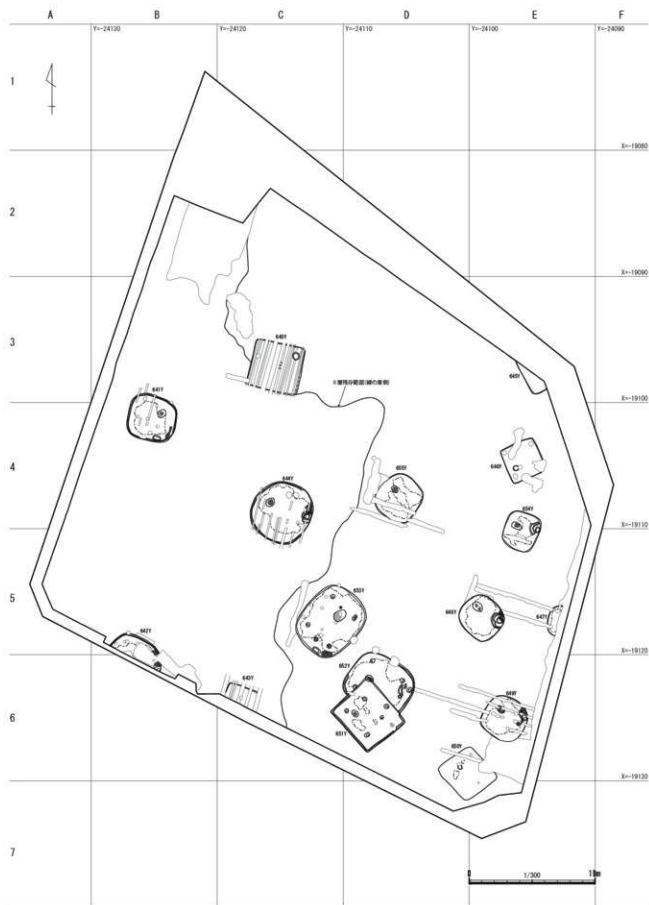
[遺 物] 床面付近及び貯蔵穴内から埴・甕・甕形土器が出土した。

[時 期] 古墳時代前期前葉。

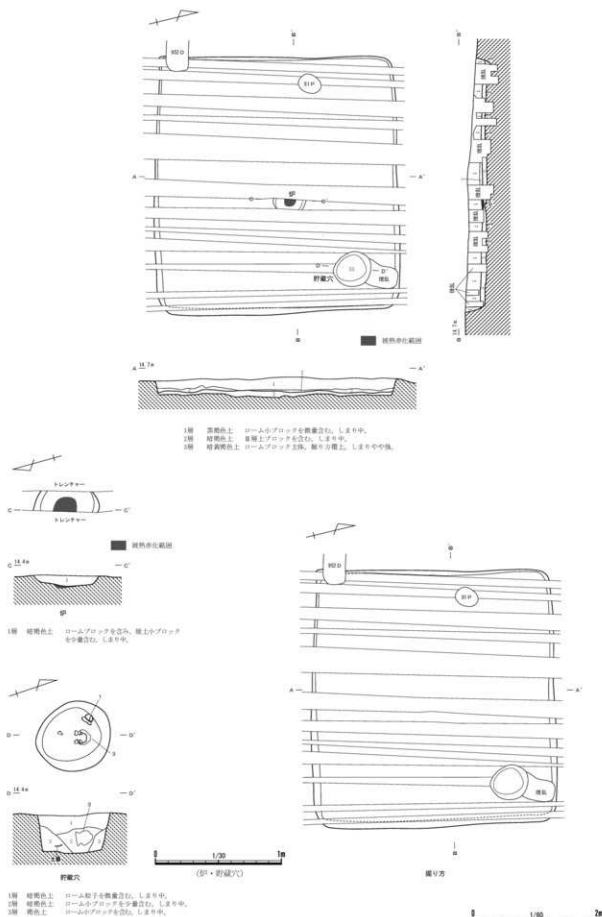
遺 物 (第 56 図、図版 40-1、第 14 表)

[土 器] (第 56 図 1～7、図版 40-1-1～7、第 14 表)

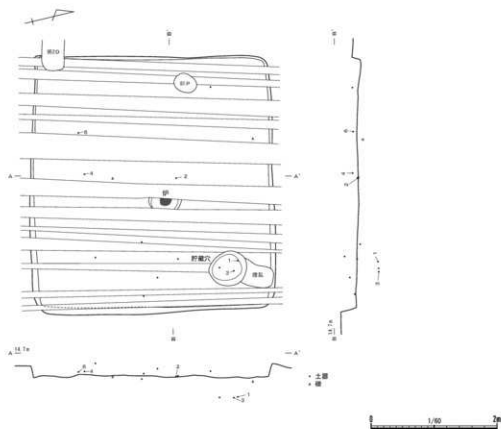
1 は埴形土器、2・5 は甕形土器、3・4・6・7 は甕形土器である。



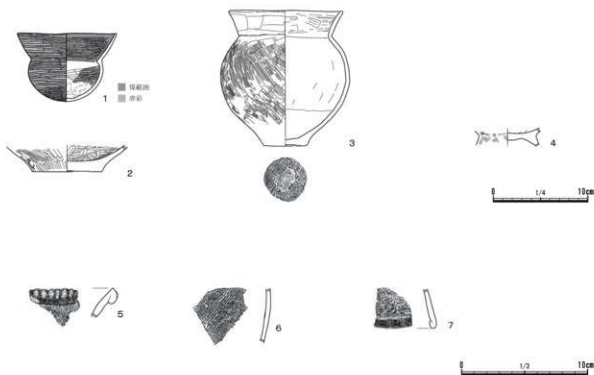
第 53 図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図（1 / 300）



第54図 640号住居跡 (1/60・1/30)



第55図 640号住居跡遺物出土状態(1/60)



第56図 640号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

調査番号 図版番号	割地 種別	部分 遺存状態	法長 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第56図1 図版 40-1-1	削	ほぼ完成	□ 10.3 高 7.2	□縁部は内端突状に立ち上がる。□縁部と底部の間に明確な線を有する9段。	内面：□縁部～底部は横方向のへら磨き。底面は前後押出／外面：□縁部は横ナデ、以下縦方向のへら磨き／□縁部内面及び外面全面赤彩／内外面二次焼熟・焼付着（特に底面内面に著しい）／□縁部内面及び側部外面の磨きが特徴（二次焼熟の影響が）	にぶい黄褐色／シャモット・砂粒少量、石英微量	貯蔵穴埋土（底上 6cm）
第56図2 図版 40-1-2	造	底面 50%	高 [2.8] 底 (7.3)	底面は平直で、中央部が窪みに凹む。	内面：縦・斜方向のへら磨き／外面：胴部は縦方向のハケ目調整後、縦・斜方向のへら磨き。底面はナデ（一部へら磨き）		床面上（伊北側）
第56図3 図版 40-1-3	磨	□縁部～底面 50%	□ 11.8 高 14.3 底 4.6	□縁部は外反する／胴部外面に明確な輪縁痕を有する／胴部は球形を呈し、中央部に最大径を有する／底面は中央部が凹むドーナツ状底を呈する。	内面：□縁部は横方向のハケ目調整後ナデ、胴部は横方向のへらナデ後ナデ／外面：□縁部は横ナデ、□縁部は横方向のへらナデ。胴部は縦・斜方向のハケ目調整。胴部下端はナデ。底面はナデ。底面外縁に粘土細粉付／内外面の広範囲に焼付着	にぶい褐色／石英・砂粒少量	貯蔵穴埋土（底上 5cm）
第56図4 図版 40-1-4	磨	胴部 15%	高 [1.9]	付着層／胴部はハの字状に外方に開く	内面：縦・横方向のへらナデ／外面：縦・斜方向のハケ目調整	にぶい黄褐色／砂粒少量、石英・小礫少量	床面上（伊南側）
第56図5 図版 40-1-5	造	□縁部 破片	厚 0.9	折返し口縁／□縁部は外反する	内面：ナデ／外面：□縁部はハケ削り、□縁部はナデ		覆土下層一拵
第56図6 図版 40-1-6	磨	胴部 破片	厚 0.4	S字状口縁付装／薄手	内面：ナデ／外面：斜方向のハケ目（縦）調整	にぶい赤褐色／シャモット・砂粒少量、石英・小礫少量	床面上（伊南西側）
第56図7 図版 40-1-7	磨	胴部～底面 破片	厚 0.4	S字状口縁付装／胴部はハの字状に外方に開く／輪縁は内面に研磨される	内面：ナデ／外面：ナデ	褐色／石英・小礫少量、砂粒微量	覆土下層一拵

第14表 640号住居跡出土土器一覽

641号住居跡

遺 構 (第57・58図)

[位 置] (B-3・4) グリッド。

[検出状況] 中世以降の土坑(954 D)及びピット(82～86 P)に切られる。また、部分的に南北方向に走る現代の耕作痕(トレンチャー)が認められる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 3.88 m / 短軸 3.57 m / 確認面からの深さ 0.40 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-16°-E。壁溝：南壁沿いで2か所途切れるが、それ以外は全周する。幅 10～17 cm / 下幅 3～8 cm / 深さ 4～10 cm。床面：壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は全体的にやや薄く、3～7 cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から北東方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、炉壁南西側に灰白色粘土が被覆される。規模：長軸 71 cm / 短軸 55 cm / 深さ 12 cm。中央部に被熱による赤化が確認された。貯蔵穴：住居南東コーナーで検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 65 cm / 短軸 37 cm / 床面からの深さ 13 cm。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：南東壁沿いで検出された。範囲：長軸 104 cm / 短軸 33 cm。入口施設：検出されなかった。掘り方：北西壁沿い及び炉北側で、深さ 8～18 cm 程度の不整形の掘り込みが計 3 か所確認された(5～7層)。

[覆 土] 4層に分層される。

[遺 物] 炉東側から北東壁沿いに掛かる床面直上を中心に埴・壺・甕形土器が出土した。その他、赤色砂利層の外縁部から穿孔貝果穴痕跡軟質泥岩が1点出土した。

[時 期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

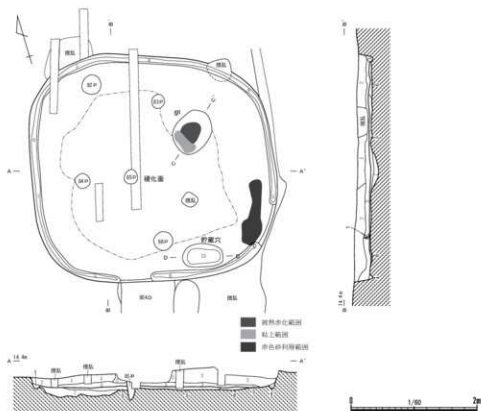
遺 物 (第59図、図版40-2、第15・16表)

[土 器] (第59図1～6、図版40-2-1～6、第15表)

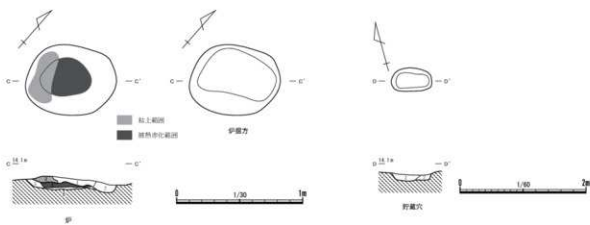
1は埴形土器、2～4は壺形土器、5・6は甕形土器である。

[そ の 他] (第59図7、図版40-2-7、第16表)

7は製塩関連遺物と考えられる穿孔貝果穴痕跡軟質泥岩である。



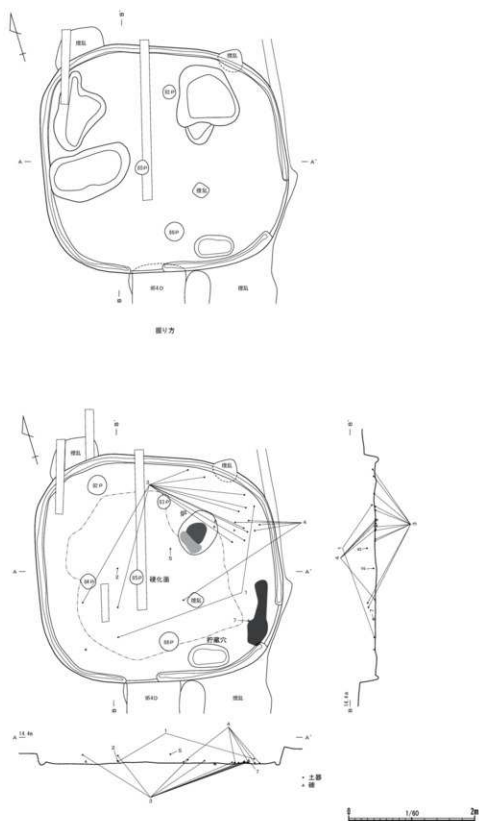
- 1層 暗褐色土 コームブロックを多数に含む。しまり中。
- 2層 黄褐色土 コームブロックを少量含む。灰化物粒子を散見認め、しまり中。
- 3層 暗褐色土 コーム大ブロックを散見含む。しまり中や強。
- 4層 暗褐色土 コームブロックを少量含む。しまり中。
- 5層 暗褐色土 コーム大ブロックを少量含む。灰化。しまり強。
- 6層 暗褐色土 コームブロックを多数に含む。灰化。しまり中。
- 7層 黄褐色土 コーム大ブロックを含む。廻り方層上。しまり中。



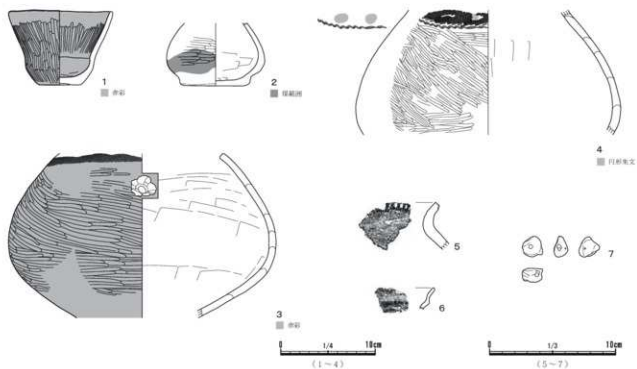
- 1層 暗褐色土 粘土粒子・焼上小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 焼上小ブロックを散見含む。コームブロックを含む。しまり中。
- 3層 灰白色粘土 伊原南西側に散見。伊中央部のみ部分に散見。しまり強。
- 4層 赤褐色土 焼上土塊。上部散見(灰化部)。しまり中や強。
- 5層 暗褐色土 焼上ブロック・コーム大ブロックを少量含む。しまり中。
- 6層 黄褐色土 焼熱コーム層。しまり強。

- 1層 黄褐色土 コーム粒子・コーム大ブロックを含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 コームブロックを含む。しまり中。

第57図 641号住居跡 (1/60・1/30)



第58図 641号住居跡掘り方・遺物出土状態(1/60)



第59図 641号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

発掘基跡 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・装飾等	胎土	出土位置
第59図1 図版 40-2-1	甕	ほぼ完形	口 10.7 高 7.9 底 4.3	口縁部は長く外方に開く /口縁部と体部の境に緩やかな稜を有する(内面は口縁部に近い上半部が僅かに張り出す/底部は上げ底である)	内面:口縁部は横ナデ。口縁部は縦方向のへう書き。体部はナデ。底部は横方向のへうナデ/外面:口縁部は横ナデ。口縁部-体部は縦方向のへう書き。底部はナデ/内外面全面赤彩	灰白色/シヤモット多量、石灰・砂粒少量	床面上(北東コーナー及び西コーナー付近)
第59図2 図版 40-2-2	甕	胴部- 底部 90%	高 [6.6] 底 6.6	小型甕/胴部は下膨れ状を呈する/底部は扁平平底である	内面:横方向のへうナデ/外面:摩滅のため不詳。横方向のへう書きが部分的に残る/胴下部外面に帯状に縦溝を有する	浅黄褐色/金雲母・石灰・角閃石少量、砂粒微量(東海系胎土)	床面上(中央部)
第59図3 図版 40-2-3	甕	胴部- 底部 80%	高 [17.3]	胴部は下膨れ状を呈する/胴部側の縦断面は僅かに凹ませられ、縦口縁状を呈する	内面:縦方向のへうナデ/外面:胴部に縦筋1Rを施す。胴部は横方向のへう書き/胴部外面無文赤彩/胴部に焼成後穿孔1孔(外面から内面に向かって1孔)	灰黄褐色/シヤモット・砂粒中量、石灰・長石・小礫少量	床面上(伊式・東側)
第59図4 図版 40-2-4	甕	胴部- 胴部 10%	高 [13.1]	胴部は下膨れ状を呈する	内面:摩滅のため不詳。縦方向のへうナデが部分的に残る/外面:胴部に上から順に斜横文1R+凹形未文、S字状斜横文(白網結節)を復文、胴部は斜・横方向のへう書き	灰白色/灰黄褐色/シヤモット多量、砂粒・小礫中量(東海系胎土)	床面上(北東コーナー及び中央部)
第59図5 図版 40-2-5	甕	口縁部- 胴部 破片	厚 0.9	口縁部は外反する/胴部は「く」字状に折面する	内面:口縁部は横方向のへうナデ。胴部はナデ/外面:口縁部は縦状工具による折み。胴部は斜方向のハヤ目(縦)調整後ナデ	灰白色/黄褐色/砂粒・小礫少量	甕土下層(伊南西側、床土15cm)
第59図6 図版 40-2-6	甕	口縁部 破片	厚 0.4	S字状口縁付残片/薄手	内面:横ナデ/外面:横ナデ	灰白色/黄褐色/砂粒少量	甕土下層一拵

第15表 641号住居跡出土土器一覽

発掘基跡 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第59図7 図版 40-2-7	礎	穿孔貝殻(穴部) 跡軟質灰岩	1.6	1.6	1.1	1.1	製造関連遺物と考えられている/3孔(貫通孔1、未貫通孔2)	赤色砂利層内層

第16表 641号住居跡出土礎一覽

131cm×短軸 51cmの範囲で、高さ5～7cmの台形状の高まりが確認された。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：住居中央を広く残し、壁溝内縁に沿う相似形に、深さ12～18cmの溝状の掘り込みが確認された（7・8層）。

〔覆 土〕 6層に分層される。

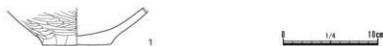
〔遺 物〕 壺・甕形土器の小破片が出土した。

〔時 期〕 弥生時代後期～古墳時代前期。

〔遺 物〕（第61図、図版41-1、第17表）

〔土 器〕（第61図1、図版41-1-1、第17表）

1は壺形土器である。



第61図 642号住居跡出土遺物（1/4）

発掘基跡 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第61図1 図版41-1-1	壺	底部 100%	高 [4.0] 底 7.2	胴部はやや丸みをもって立ち上がる。底部はほぼ平坦な平底である。	内面：ナデ/外面：胴部は横方向のヘラ磨き、胴部下端は横方向のヘラナデ（ヘラ磨りに近い）、底部はナデ	褐色/シナモット 灰質、少量少量、 窓母機量	試掘 10Tr 16V 一括

第17表 642号住居跡出土土器一覧

643号住居跡

〔遺 構〕（第62図）

〔位 置〕（C-6）グリッド。

〔検出状況〕 複数の攪乱に切られる。また、ほぼ全面に南北方向に走る現代の耕作痕（トレンチャー）が認められ、遺存状態はあまり良好ではない。南側の大部分は調査区外に延びる。

〔構 造〕 平面形：方形。規模：長軸 2.42 m以上/短軸 1.51 m以上/確認面からの深さ 0.19 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：調査区内では検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、調査区内では硬化面は検出されなかった。炉：調査区内では検出されなかった。貯蔵穴：調査区内では検出されなかった。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：調査区内では検出されなかった。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：調査区内では検出されなかった。

〔覆 土〕 4層に分層される。

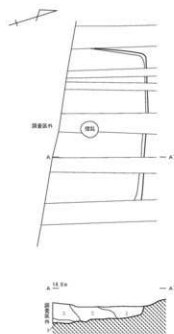
〔遺 物〕 高環・壺形土器が出土した。

〔時 期〕 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

〔遺 物〕（第63図、図版41-2、第18表）

〔土 器〕（第63図1～4、図版41-2-1～4、第18表）

1・2は高環形土器、3・4は壺形土器である。



- 1階 黄褐色土 ローム大ブロックを交互、しまりや中塊。
 2階 黄褐色土 ローム大ブロックを多数に交互、しまりや中塊。
 3階 黄褐色土 ローム大ブロックを少量含む、しまりや中塊。
 4階 黄褐色土 ローム大ブロック主体、黄褐色土ブロックを少量含む、しまりや中塊。

1/60 2m

第62図 643号住居跡(1/60)



第63図 643号住居跡出土物(1/4・1/3)

発掘番号 図取番号	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第63図1 図取 41-2-1	高坏	口縁部 破片	□(10.2) 高(2.3)	口縁部は外反する	内面：口縁部は横ナデ、口縁部は横方向のへう磨き/外面： 口縁部は横ナデ、口縁部は縦方向のへう磨き/内外面赤彩	にぶい赤褐色/シ ンヤモット・砂 粒・小礫少量、石 英散見	甕土下層 一括
第63図2 図取 41-2-2	高坏	口縁部 破片	厚0.4	口縁部は外反する	内外面：口縁部は横ナデ、口縁部は縦・斜方向のへう磨き /口縁部外面に木炭通の小孔(孔径0.1cm)1か所/内外 面赤彩	にぶい赤褐色/ シヤモット・砂 粒・小礫少量、雲 母散見	甕土下層 一括
第63図3 図取 41-2-3	甕	口縁部 破片	厚0.9	複合口縁/口縁部は内傾 し、口縁部に面を有する	内面：横方向のへう目調整/外面：口縁部は横方向のへう目 調整、口縁部は斜方向のへう目調整後、横方向のへう磨き	にぶい赤褐色/ シヤモット・砂 粒・小礫少量、雲 母散見	甕土下層 (中央部、 床上19cm)
第63図4 図取 41-2-4	甕	肩部 破片	厚0.7	窪かに内湾する	内面：ナデ/外面：1から順に帯線状文(8条)・直線文 (8条)・波状文(8条)を施文/外面赤彩	にぶい黄褐色/ シヤモット・砂 粒・小礫少量	甕土下層 一括・ 試掘 10T- 15Y一括

第18表 643号住居跡出土土器一覧

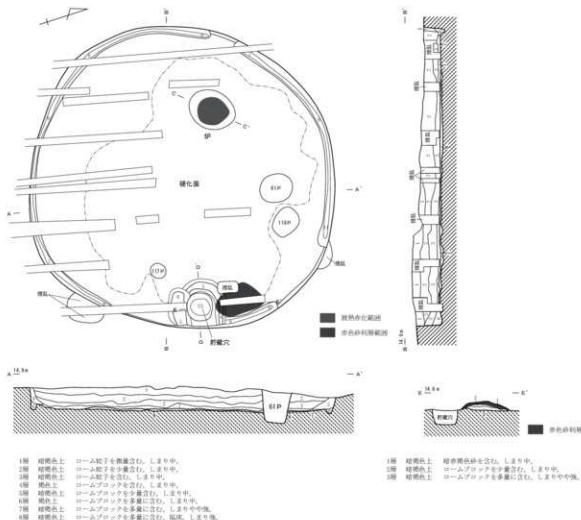
644号住居跡

遺構 (第64～67図)

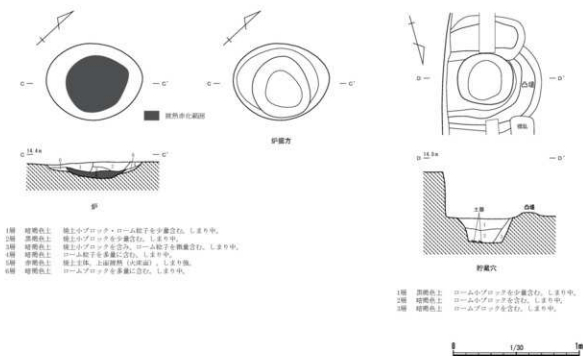
[位置] (C-4・5) グリッド。

[検出状況] 中世以降のピット(61・117・118 P)の他、複数の攪乱に切られる。また、部分的に南北方向に走る現代の耕作痕(トレンチャー)が認められる。

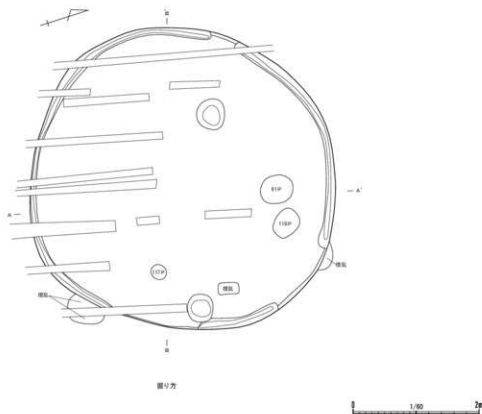
[構造] 平面形: 楕円形。規模: 長軸 4.89 m / 短軸 4.69 m / 確認面からの深さ 0.43 m。壁: 垂直に立ち上がる。主軸方位: N-52°-W。壁溝: 北西・北東・南東壁沿いで3か所程度途切れるが、それ以外は全周する。幅 7~21 cm / 下幅 3~8 cm / 深さ 6~12 cm。床面: 住居北東半部を中心に硬化面を検出した。貼床は全体的に薄く、2~6 cmの厚さで施されていた。炉: 住居中央北西寄りに位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模: 長軸 76 cm / 短軸 60 cm / 深さ 14 cm。貯蔵穴: 住居東壁沿いで検出された。平面形は不整形形を呈する。規模: 長軸 45 cm / 短軸 43 cm / 床面からの深さ 23 cm。周囲には幅 14~34 cm、高さ 2~6 cmの凸堤が馬蹄形に巡る。柱穴: 検出さ



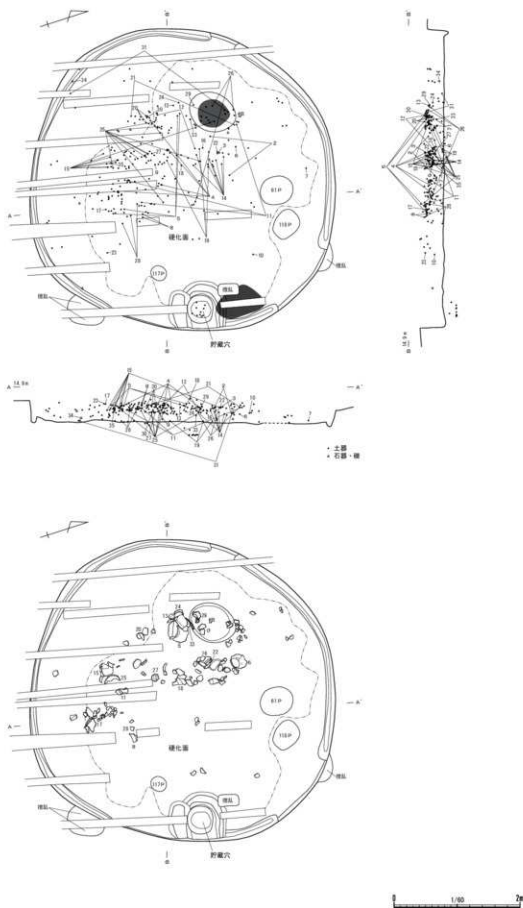
第64図 644号住居跡 (1/60)



第65図 644号住居跡炉・貯蔵穴（1/30）



第66図 644号住居跡掘り方（1/60）



第67図 644号住居跡遺物出土状態(1/60)

れなかった。赤色砂利層：貯蔵穴北側に設けられた凸堤の一部を覆うように住居東壁溝沿いで検出された。長軸77cm×短軸49cmの範囲で、高さ10～15cm程度の凸状の高まりが確認された。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に1～6cm程度の深さの掘り込みが確認された（8層）。

〔覆土〕7層に分層される。

〔遺物〕住居中央西寄りに集中して、高環・埴・壺・甕・器台形土器が大量に出土した。7割以上は覆土上層からの出土であるが、それらの土器群と、床面直上及び貯蔵穴内から出土した土器群とは時期差が認められる。このことから、覆土上層から出土した土器群は本住居には伴わず、住居廃絶後に別住居等から投棄・廃棄された可能性が考えられる。覆土上層から出土した土器群と、本住居東側に近接する653・655 Y出土土器との間で接合関係が複数認められており、投棄・廃棄の可能性を傍証するものと言えよう。

〔時期〕弥生時代後期後葉～末葉。

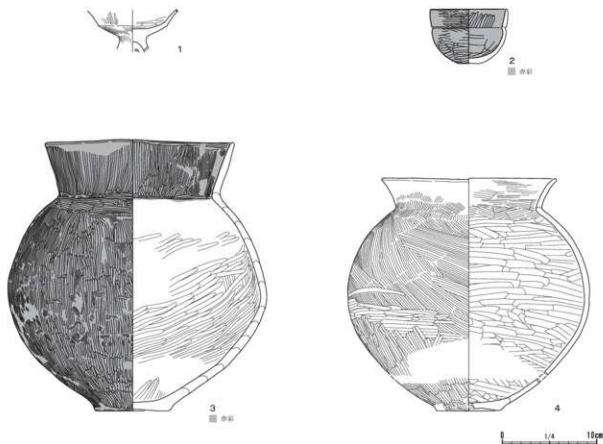
〔遺物〕（第68～71図、図版41-3～44-1、第19・20表）

〔土器〕（第68～71図1～33、図版41-3～43-1～33、第19表）

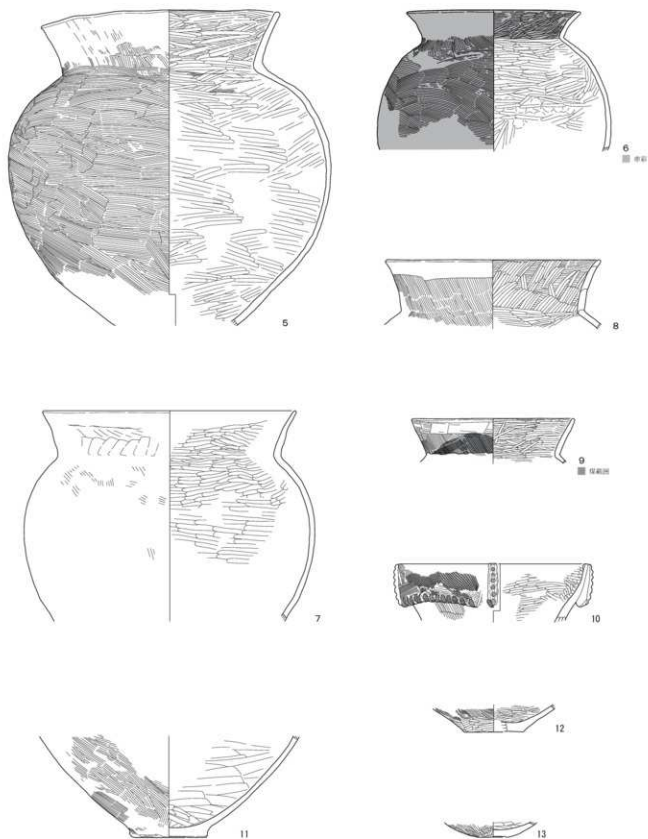
1は高環形土器、2は埴形土器、3～13は壺形土器、14～32は甕形土器、33は器台形土器である。5は残存高33.3cm以上の大型壺で、それ以外にも大型の個体（11・14他）が数点出土している。

〔石器〕（第71図34・35、図版44-1-34・35、第20表）

34・35は共に磨石で、石材は34がホルンフェルス、35が閃緑岩である。



第68図 644号住居跡出土遺物1（1/4）



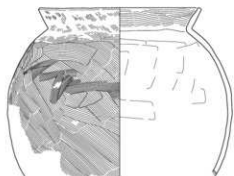
第 69 図 644 号住居跡出土遺物 2 (1 / 4)



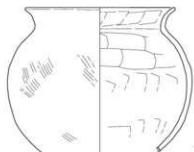
14



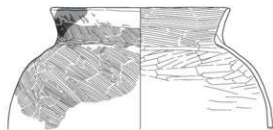
15



16

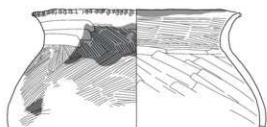


17



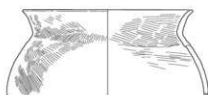
18

■ 14633

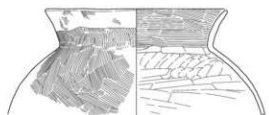


19

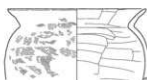
■ 14633



21



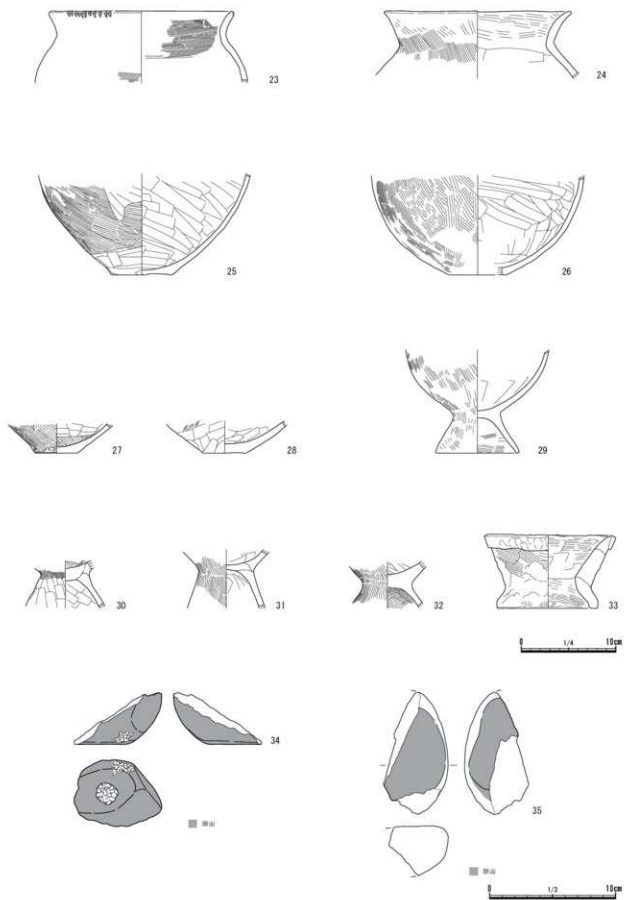
20



22



第70図 644号住居跡出土遺物3 (1/4)



第71図 644号住居跡出土遺物4(1/4・1/3)

調査番号 図版番号	割地 種別	部分 遺存状況	法長 (m)	形状・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第68図1 図版 41-3-1	高坪	坪部～ 底部 15%	高 [4.5]	坪底部との境に稜を有し、 坪部は内反する／坪底部 は比較的平坦である／脚 部は入の字状に外方に開 く。	内面：坪部は横方向のへう書き、脚部は横方向のハケ目調整 ／外面：坪部は横方向のへう書き、底部～脚部は横方向のハ ケ目調整後ナデ。	褐色／砂粘中層、 石莖・長石・白色 粘土少量	甕土上層 一括
第68図2 図版 41-3-2	壇	口縁部～ 底部 40%	口 [8.0] 高 5.8 底 2.0	正隅の角／口縁部は直立 突端に立ち上る／口縁 部と底部の境に明確な稜 を有する／脚部は内反 をもっており立ち上る外 面は斜面である	内面：口縁部は横ナデ、口縁部は横方向のへう書き、底部～ 脚部は横方向のへう書き／外面：口縁部は横方向のへう書き、 口縁部は斜方向のハケ目調整後、横方向のへう書き、底部は 横方向のへう書き、底部はナデ、内外面全面赤	明赤褐色／砂粘 中層、雲母、長石、 白色粘土少量	甕土上層 (伊南東側、 床1.24m)
第68図3 図版 41-3-3	壇	口縁部～ 底部 90%	口 [19.6] 高 28.7 底 7.6	口縁部は外傾する／脚部 は矩形に近い形状を呈 し、中に最大径を有する ／底部は平底で中央部 が凹む	内面：口縁部は横方向のへう書き、口縁部は横方向のへう書き 、脚部は横・斜方向のへう書き／外面：口縁部は横ナデ、 口縁部は横方向のハケ目調整後、横方向のへう書き、脚部～ 底部は横・斜方向のハケ目調整後、横方向のへう書き、 脚部は横方向のへう書き、底部はへう書き／脚部外面にへう書き 目による比較的強文である（長1/4程度の窪み2本が、 端部を一重覆せて半周の範囲に強文）／口縁部内面及び 外面全面赤	深い褐色／シャ モット多量、砂粘 中層、小砂少量	甕土上層 (伊南東側、 床1.24m)
第68図4 図版 41-3-4	壇	口縁部～ 底部 15%	口 [18.2] 高 (24.5) 底 (25.6)	口縁部は外反する／脚部 は「く」字状に前出する ／脚部は矩形を呈し、中 心に最大径を有する／底 面は上がれる	内面：口縁部は横ナデ、口縁部は横方向のハケ目調整後ナ デ、脚部～底部は横方向のハケ目調整後、脚部は横・斜方 向のハケ目調整（脚部に近い）／外面：口縁部は脚部の 外へ横方向のへう書き（脚部に近い）／外面：口縁部は脚部の 外へ横方向のへう書き、脚部は横・斜方向のハケ目調整、 脚下部は斜方向のハケ目調整後、横方向の へう書き～横方向のへう書き、底部は1重のへう書きで非常に 平滑に仕上げられる	深い褐色／シャ モット多量、石 莖・小砂少量、 小砂微量	甕土上層 (中央部に 散在)
第69図5 図版 42-5	壇	口縁部～ 脚部 80%	口 [24.8] 高 [33.3]	大型壇／口縁部側と底部 側で中心幅が大きく異なる 、全体に若干の屈曲を 呈する／脚部は矩形を 呈し外反する／脚部は矩 形を呈するが、やや凹 が浅く、脚部上の境付近 に最大径を有する	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横方向のへう書き、 脚部は横・斜方向のへう書き／外面：口縁部は横ナデ、口縁 部は横方向のハケ目調整後、横ナデ、脚部～斜方向のハ ケ目調整／脚部下部にイネ科種痕（長1か所）／脚部内面に 屈曲	深い黄褐色／ シャモット・白色 粘土少量、雲母・ 石莖・小砂少量	甕土上層 (中央部に 散在)
第69図6 図版 42-6	壇	口縁部～ 脚部 40%	口 [18.2] 高 [14.9]	口縁部は大きく外反する ／脚部は「く」字状に前 出する／脚部は矩形を呈 し、中に最大径を有する と稜調整される	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横・斜方向のへう書き 、脚上平部に明確な稜を、横方向のへう書き、脚下部は斜 ・縦方向のへう書き／外面：口縁部は脚部の外へう書き、脚部 ～底部は横方向のハケ目調整、脚部は横・斜方向のハケ目調 整／口縁部内面及び外面全面赤	褐色／砂粘中層、 白色粘土・小砂 少量、雲母微量	甕土上層 (伊南東側、 床1.14m)
第69図7 図版 42-7	口縁部～ 脚部 15%	口 [26.6] 高 [22.2]	口縁部は緩やかに外反する ／脚部は矩形を呈し、中 心に最大径を有する	内面：口縁部は脚部の横ナデ、脚部～脚部は横方向のへう 書き（脚下部は境部が若干凹む）／外面：口縁部は脚部の 外へ横方向のへう書き、脚部は脚部の外へう書き、斜方向の へう書き、脚部は斜方向のハケ目調整後、斜方向の へう書き、脚部は不定方向のハケ目調整後ナデ、口縁部外面 に輪縁1段を残す	深い褐色／シャ モット多量、砂粘 中層、小砂少量	甕土上層 (北側付近、 床1.6m)	
第69図8 図版 42-8	壇	口縁部～ 脚部 20%	口 [22.4] 高 [7.3]	口縁部は外反する／脚部 はやや直立突端に立ち上 がる	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、斜方向のへう書き、 脚部は横方向のへう書き／外面：口縁部は脚部の横ナデ、 脚部は横方向のハケ目調整	深い赤褐色／ シャモット・砂 粘中層、石莖・ 小砂少量、石 莖微量	甕土上層 (伊南東側、 床1.27m)
第69図9 図版 42-9	壇	口縁部～ 脚部 15%	口 [16.8] 高 [4.8]	口縁部は外傾する／脚部 は「く」字状に前出する ／脚部内面に成用屈跡を 残す	内面：口縁部は横方向のハケ目調整後、横・斜方向のへう 書き、脚部は横方向のへう書き／外面：口縁部は横ナデ、 口縁部は横方向のハケ目調整後、横方向のへう書き、脚部 は横方向のハケ目調整／外面赤	褐色／シャモット 中層、石莖・赤 色粘土少量	甕土上層 (伊南東側、 床1.17m)
第69図10 図版 42-10	口縁部	口 [19.2] 高 [9.2]	幅広の複合口縁／複合口 縁部は垂下し、口縁部内 面を有する／口縁部内面 凹形（粘土貼付部）	内面：横方向のへう書き／外面：口縁部は横ナデ、口縁部 は内側（6段）が巻かれた様状を残す、口縁部は丸 縁文、様状浮文の両側には横文は残す、横方向 のハケ目調整後、一部斜方向のへう書き、複合口縁部下部 にピッチの幅が1/4弱、脚部は横方向のへう書き	深い褐色／砂 粘中層・小砂少 量、雲母微量	甕土上層 (北西側、床 上1.44m)、 655Y土層	
第69図11 図版 42-11	壇	脚部～ 底部 15%	高 [10.7] 底 8.0	脚部は大きく外方に立ち 上がり、脚部は大形にな る／脚部は矩形を呈し、 中央部に僅かに凹むド ーナツ状底を呈する	内面：横方向のへう書き／外面：脚部は斜方向のハケ目調 整後、部分的にナデ、底部外縁部に粘土貼付 	明赤褐色／シャ モット・白色粘 土中層、石莖少 量、金箔微量	甕土上層 (伊南東側、中 央部に散在)
第69図12 図版 42-12	壇	底部	高 [2.9] 底 (6.2)	脚上平部はやや成用的に 立ち上る／底部は平底 である	内面：脚部は横方向のへう書き、底部はナデ／外面：脚部 は斜方向のハケ目（脚）調整後、横・斜方向のへう書き、 底部はナデ後、部分的にへう書き	深い褐色／シャ モット・砂粘中 層、石莖少量	甕土上層 (伊南東側、 床1.26m)
第69図13 図版 42-13	壇	底部	高 [1.6] 底 3.2	脚部は尖鋭をもって立ち 上がる／底部は斜角底 である	内面：横方向のへう書き／外面：脚部は斜方向の幅広のへう 書き、底部は横方向のへう書き	褐色／砂粘中層、 シャモット少量、 石莖・小砂微量	床面下 (伊南西側)

第19表 644号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	創始 傾斜	部 遺存状態	法長 (m)	形・形 態	文・調 整等	胎土	出土位置
7070E 14 図版 42-14	狭	口縁部～ 頸部 25%	口 [19.6] 高 [21.9]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に凹面する ／頸部はやや凸面化傾向にあり、上方部迄等分した最大径を有する。全体的にやや歪んだ形状を呈し、特に頸部は著しい	内面：口縁部は横方向のヘラナデ（組）調整。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部は縦方向、頸部は横・斜方向のヘラ調整後。同一方向のヘラナデ	褐色 / シヤモット ・砂粒・小礫 中量	甕土上層 (中央部付近に 散在)
7070E 15 図版 42-15	狭	口縁部～ 頸部 25%	口 [19.0] 高 [20.2]	口縁部は外反する／頸部は鋭角な「く」字状に凹面する。頸部は球形を呈し、中央部に最大径を有する	内面：口縁部～頸部は横・斜方向のヘラ調整。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横・斜方向のヘラナデ（やや斜めに近い）／外面：口縁部は横ナデ。頸部は縦方向のヘラ調整後。頸部は斜・横方向のヘラ調整	にぶい赤褐色 / シヤモット・砂粒 中量	甕土上層 (中央部付近に 散在)
7070E 16 図版 43-16	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [16.9] 高 [17.8]	口縁部は短く外反する／頸部はやや凸面化傾向を呈し、中央部に最大径を有する	内面：口縁部は横方向のヘラ調整。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部は縦方向のヘラ調整後。頸部は斜・横方向のヘラ調整後ナデ。頸部は不定方向（斜方向優勢）のヘラ調整	明赤褐色 / 砂粒 中量、白色粘土・ 小礫少量	甕土上層 (中央部付近、 床土 14cm)
7070E 17 図版 43-17	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [15.5] 高 [15.3]	口縁部は大きく外反する／頸部はやや凸面化傾向を呈し、中央部に最大径を有する	内面：口縁部は横ナデ。口縁部は横方向のヘラナデ。頸部～頸部は横方向のヘラナデ（単位が大きく、ヘラ削りに近い）。頸部は横方向のヘラナデ（密）後ナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部～頸部は斜方向のヘラ調整後ナデ（厚縁のため不詳）	褐色 / 砂粒・小 礫中量、石莖少量	甕土上層 (中央部付近、 床土 28cm)
7070E 18 図版 43-18	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [18.6] 高 [12.8]	口縁部は僅かに外反する／頸部は口縁部に向けて直立的な立ち上がりをする。頸部内外面に口縁部との相違を明瞭に現す／頸部は底状を呈すると推測される	内面：口縁部は横方向のヘラ調整。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ。口縁部は斜方向のヘラ調整後。軸心の横ナデ。頸部～頸部は斜方向のヘラ調整／頸部外面にヘラ工具による横位比較状の整形痕あり／口縁部外面に腐付着	にぶい赤褐色 / 砂 粒中量、シヤモ ット少量、石莖 少量	甕土上層 (中央部、 床土 19cm)
7070E 19 図版 43-19	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [21.7] 高 [12.5]	口縁部は外反する／頸部はやや凸面化傾向を呈し、中央部に最大径を有する	内面：口縁部は横ナデ。口縁部は横方向のヘラ（組）調整。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部～頸部は斜方向のヘラ調整／口縁部外面及び頸部～頸部外面に腐付着	にぶい褐色 / 砂粒 多量、石莖・小礫 少量	床面上 (伊南東側)
7070E 20 図版 43-20	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [19.0] 高 [11.4]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に凹面する／頸部は鋭角に凹面する。頸部は球形を呈すると推測される	内面：口縁部は横ナデ。口縁部は横方向のヘラ（組）調整。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部～頸部は斜方向のヘラ調整後。軸心の横ナデ	にぶい褐色 / シヤ モット多量、 石莖・小礫少量	甕土上層 (伊南側、 床土 24cm)
7070E 21 図版 43-21	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [17.6] 高 [9.2]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に凹面する／頸部は底状を呈すると推測される	内面：口縁部は横ナデ。口縁部～頸部は横方向のヘラ（組）調整。頸部は横方向のヘラ調整後ナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部～頸部は斜方向のヘラ調整。頸部内面に輪痕有 1 段を明瞭に現す	にぶい黄褐色 / シヤ モット中量、 砂粒少量	甕土上層 (伊南側、 床土 25cm)
7070E 22 図版 43-22	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [14.4] 高 [7.8]	口縁部は大きく外反する／頸部は「く」字状に凹面する。頸部は球形を呈すると推測される	内面：口縁部は横方向の粗いヘラナデ。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は縦方向のヘラ調整後。横ナデ。頸部は横・斜方向のヘラ調整後ナデ	にぶい褐色 / シヤ モット多量、 小礫少量、 雲母少量	甕土上層 (伊南東側、 床土 24cm)
7071E 23 図版 43-23	狭	口縁部～ 頸部 15%	口 [19.0] 高 [7.6]	口縁部は外反する／頸部は横やかに凹面する	内面：口縁部は横方向のヘラ調整後ナデ。頸部は横方向のヘラ調整後ナデ／外面：口縁部は横ナデ。頸部～頸部は斜方向のため調整不詳。頸部は横方向のヘラ調整	にぶい褐色 / 砂粒 中量、シヤモ ット・小礫少 量	甕土上層 (伊南側、 床土 28cm)
7071E 24 図版 43-24	狭	口縁部～ 頸部 100%	口 [14.5] 高 [5.3]	口縁部は外反する／頸部は「く」字状に凹面する	内面：口縁部は横方向のヘラ（組）調整後ナデ。頸部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横・斜方向のヘラ（組）調整後。軸心の横ナデ。頸部は斜方向のヘラ調整後 / へラ工具は少なくとも 2 種類あり	にぶい赤褐色 / 砂 粒多量、 赤色粘土・砂粒 ・小礫少量	床面上 (伊南西側)
7071E 25 図版 43-25	頸部～ 底部 30%	高 [10.7] 底 6.4		頸部は底面を呈する。／底部は平底で、やや凸凹がみられる	内面：横・斜方向のヘラナデ／外面：頸部は横・斜方向のヘラ（組）調整後。部分的に斜方向のヘラナデ。頸部下部は横方向のヘラ削り。底部はナデ	にぶい赤褐色 / シヤ モット多量、 赤色粘土・砂粒 ・小礫少量、 石莖少量	甕土上層 (中央部付近に 散在)
7071E 26 図版 43-26	頸部～ 底部 15%	高 [10.5] 底 6.0		頸部は底状を呈する。／底部は平底と推測される	内面：横・斜方向のヘラナデ／外面：頸部は不定方向（斜方向優勢）のヘラ調整後ナデ。底部はナデ	にぶい黄褐色 / シヤ モット多量、 砂粒・小礫少 量	甕土上層 (伊南側、 床土 24cm)
7071E 27 図版 43-27	狭	底部 100%	高 [3.1] 底 4.6	頸部は平底して立ち上がる。／底部は平底である	内面：頸部は横方向のヘラナデ。底部は縦方向のヘラ調整後（時折削りに絞り込むように施される）／外面：頸部は斜方向のヘラ（やや粗）調整。底部は斜方向のヘラ（やや粗）調整後ナデ	褐色 / シヤモ ット多量、 雲母・石莖 ・小礫少量	甕土上層 (中央部、 床土 17cm)
7071E 28 図版 43-28	狭	底部 90%	高 [3.4] 底 4.6	頸部は内溝溝状に立ち上がる。／底部は平底だが若干の凸凹がみられる	内面：横方向のヘラナデ／外面：頸部は縦方向のヘラ調整後ナデ。頸部下部は横方向のヘラ削り。底部はナデ	にぶい褐色 / 白色 粘土・砂粒・小礫 少量	床面上 (中央部付近)

第 19 表 644 号住居跡出土土器一覧 (2)

調査番号 図版番号	遺構 種別	部分 遺存状態	法面 (m)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第71図 29 図版 43-29	溝	側部～ 底部 20%	高 [10.9] 幅 8.8	台付壁／側部は丸味を もって立ち上がり、球状を 出す／底部は八の字状 に外方に開き、底部は内 溝する	内面：側部は横方向のヘラナデ、側部は横方向のハケ目調整 後ナデ／外面：側部は縦方向のハケ目調整、側部は縦・斜方 向のハケ目調整後ナデ	にぶい褐色色／小 礫多量、シャモット、 雲母・石英・石炭・ 砂粒少量	甕土上層 (伊1層 23cm)
第71図 30 図版 43-30	溝	側部 60%	高 [5.0]	台付壁／側部は八の字状 に外方に大きく開く	内面：側部は横方向のハケ目調整、側部は横・斜方向の ヘラナデ／外面：側部は縦方向のハケ目調整、側部は縦方 向のハケ目調整後、縦方向のヘラナデ	にぶい褐色色／シャ モット多量、砂粒 中量、白色粒子・ 小礫少量	甕土上層 (伊南側、 床土 19cm)
第71図 31 図版 43-31	溝	側部 50%	高 [6.2]	台付壁／側部は外植しな がら立ち上がる／側部は 八の字状に直線的に開く	内面：側部は横方向のヘラナデ、側部は横方向のヘラナデ ／外面：縦方向のハケ目調整	にぶい黄褐色／シャ モット多量、 小礫中量、砂粒少 量	床面上 (南西壁 付近)
第71図 32 図版 43-32	溝	側部 40%	高 [4.9]	台付壁／側部は八の字状 に外方に開く	内面：側部は横・斜方向のヘラナデ、側部は横方向のハケ 目調整／外面：縦方向のハケ目調整	にぶい褐色色／砂粒 多量、シャモット・ 雲母・小礫少量	甕土上層 一岳
第71図 33 図版 43-33	舞台	口縁部～ 底部 40%	口 [13.4] 高 7.9 幅 [10.4]	全体形状は上辺が長い靴 形を呈する(上辺：下辺 = 2 : 1)／全体的に厚 手でやや凸む／調整は靴 底で、両面に胎土埋めがは み出された形で付着する ／口縁部は折り返され、 肥厚する／底部は部分的 に内側に張り出す	内面：口縁部は横方向のハケ目(靴)調整後、横方向のヘ ラナデ、側部は横方向のハケ目(靴)調整／外面：口縁部 ～口縁部は胎土埋め後ナデ、胎土は横・斜方向のハケ目 (靴)調整、側部は斜方向のハケ目(靴)調整後ナデ、底 部はナデ	明赤褐色／シャ モット少量、砂 粒・小礫少量	床面上 (伊南側)

第19表 644号住居跡出土土器一覽(3)

調査番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第71図 34 図版 44-1-34	磨石	ホクンフェルス	4.1	6.9	5.2	11870	大部分を欠損／現存面全面に研磨面／下面、下面面に磨打 痕あり	南西側 溝溝上面 (床土 4cm)
第71図 35 図版 44-1-35	磨石	閃緑岩	9.6	5.1	3.9	22486	大部分を欠損／磨石形／両面に研磨面	甕土上層 (中央部付近、 床土 17cm)

第20表 644号住居跡出土土器一覽

645号住居跡

遺 構 (第72図)

[位 置] (E-3) グリッド。

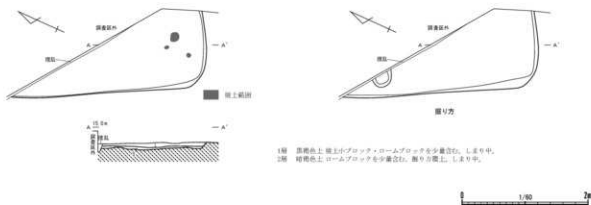
[検出状況] 北東側は掘乱しに切れ、北・東側の大部分は調査区外に延びる。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 2.93 m以上／短軸 1.29 m以上／確認面からの深さ 0.08 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：調査区内では検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、調査区内では硬化面は検出されなかった。炉：調査区内では検出されなかった。貯蔵穴：調査区内では検出されなかった。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：調査区内では検出されなかった。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：住居全体に2～5 cm程度の深さの掘り込みが確認された(2層)。また、北西壁沿いでピット状の掘り込み(深さ 14 cm) 1か所が確認された。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 壺・甕形土器の小破片が各1点出土したが、図示できなかった。

[時 期] 古墳時代前期初頭～前葉。



1層 赤褐色土・掘上ブロック・ロームブロックを少量含む、しまり中。
2層 暗褐色土・ロームブロックを少量含む、掘り方掘上、しまり中。

第72図 645号住居跡 (1/60)

646号住居跡

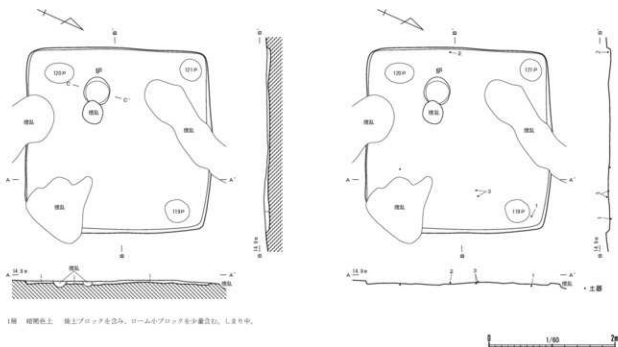
遺 構 (第73・74図)

[位 置] (E-4) グリッド。

[検出状況] 中世以降のピット (119~121 P) の他、複数の掘乱に切られる。

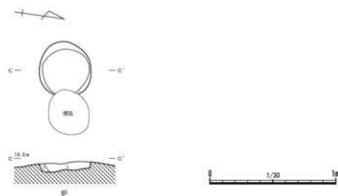
[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 2.94 m / 短軸 2.93 m / 確認面からの深さ 0.09 m。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-124°-W。壁溝：検出されなかった。床面：全体にやや軟弱で、硬化面は検出されなかった。炉：住居中央から南西方向に振れて位置する。上面が削平され、掘りのみが検出された。円形を呈する地床炉と推測されるが、明確な被熱による赤化は確認できなかった。規模：長軸 45cm / 短軸 43cm / 深さ 7cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：検出されなかった。

[覆 土] 単層。上層は大きく削平されている。



1層 暗褐色土・掘上ブロックを含む、ロームブロックを少量含む、しまり中。

第73図 646号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



1層 軽褐色土、粘土ブロック・瓦片等を含有、しまり中。
2層 軽褐色土、粘土灰子を多数含む、しまり中。

第74図 646号住居跡炉(1/30)

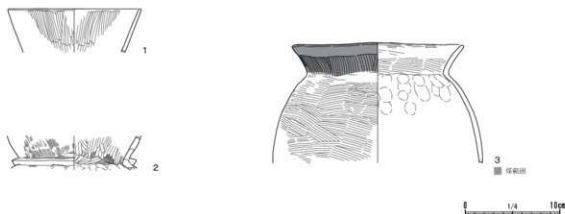
[遺物] 床面直上から埴・壺・甕形土器が出土した。

[時期] 古墳時代前期初頭～前葉。

[遺物] (第75図、図版44-2、第21表)

[土器] (第75図1～3、図版44-2-1～3、第21表)

1は埴形土器、2は壺形土器、3は甕形土器である。



第75図 646号住居跡出土遺物(1/4)

発掘番号 図版番号	器種 種類	部の 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第75図1 図版44-2-1	埴	口縁部 破片	口(13.9) 高(4.6)	口縁部は長く直線的に開く	内外面：口縁部は横ナデ、口縁部は縦方向のへら磨き	にぶい褐色/砂 粘中量、シャモット 少量	床面上 (北コーナー)
第75図2 図版44-2-2	壺	口縁部～ 頸部 破片	高(3.6)	口縁部は内調整時に立ち 上がる。頸部に断面三角 形の補強用(凸帯)を有 する	内面：口縁部は斜方向のハケ目調整後、縦・斜方向のへら磨 き。頸部は舟型押捺後、丁寧なナデ/外面：縦方向のハケ目 調整後ナデ	にぶい褐色/シャ モット・高埴・石 灰・小礫少量	床面上 (南西壁近い)
第75図3 図版44-2-3	甕	口縁部～ 頸部 20%	口(17.9) 高(12.7)	口縁部は外反する。頸部 は「く」字状に自由する /頸部は球形に近い形状 を呈する	内面：口縁部は縦方向のハケ目(粗)調整後、横ナデ。頸 部は舟型押捺。頸部はナデ/外面：口縁部～口縁部は粗以 下の横ナデ。頸部は縦方向のハケ目(粗)調整。頸部は縦方 向のハケ目調整/口縁部と頸部に用いられるハケ目工具 は別種と考えられ、少なくとも2種類の工具で調整される /口縁部内面磨き	にぶい褐色/シャ モット・高埴・石 灰・小礫少量	床面上 (中腰部 北東寄り)

第21表 646号住居跡出土土器一覧

647号住居跡

遺構 (第76図)

[位置] (E-5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群に切られる。東側の大部分は攪乱に切れ、調査区外に延びる。

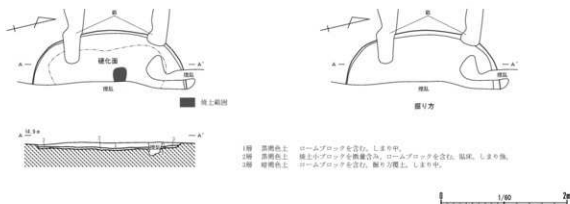
[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 2.47 m 以上 / 短軸 0.91 m 以上 / 確認面からの深さ 0.09 m。

壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：調査区内では検出されなかった。床面：壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は全体的に薄く、2～5 cm の厚さで施されていた。炉：調査区内では検出されなかった。なお、床面上に焼土が集中する範囲が確認されたが、炉として特定はできなかった。貯蔵穴：調査区内では検出されなかった。柱穴：調査区内では検出されなかった。赤色砂利層：調査区内では検出されなかった。入口施設：調査区内では検出されなかった。掘り方：住居全体に2～5 cm 程度の深さの掘り込みが確認された(2・3層)。

[覆土] 単層。

[遺物] 壺・甕形土器の小破片が計3点出土したが、図示できなかった。

[時期] 弥生時代後期～古墳時代前期。



第76図 647号住居跡 (1/60)

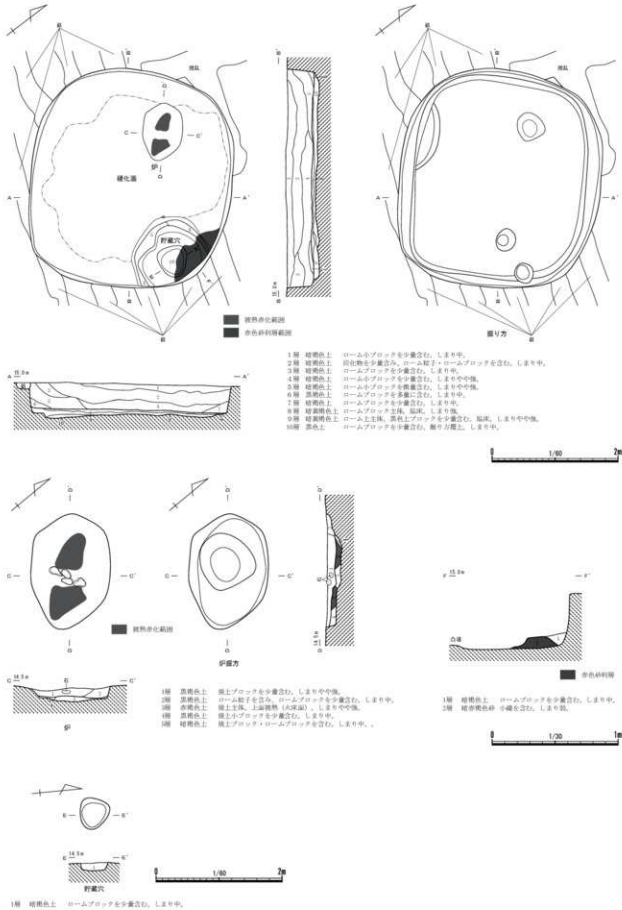
648号住居跡

遺構 (第77・78図)

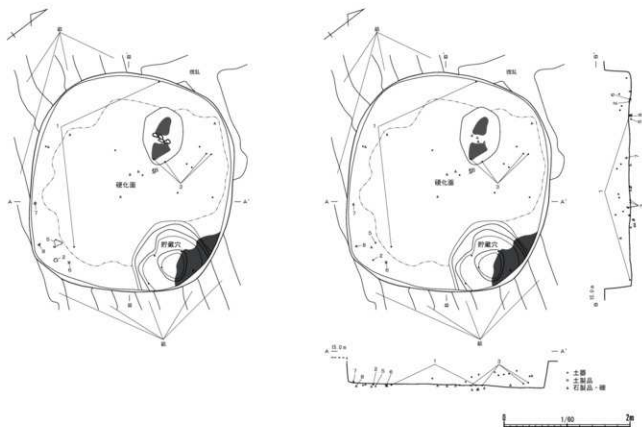
[位置] (D・E-5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 3.45 m / 短軸 3.20 m / 確認面からの深さ 0.45 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-48°-W。壁溝：検出されなかった。床面：壁際及び貯蔵穴周辺を除き、硬化面を検出した。硬化度は他の住居跡に比して強い。貼床も他の住居跡に比して厚く、6～15 cm の厚さで施されていた。炉：住居中央から北西方向に振れて位置する。概ね楕円形を呈する地床炉で、中央部に主軸方向に直交して4点の垂円礫が据え置かれる。4点の礫は間仕切りのような役割を果たしており、礫を挟んで二分されて中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 92 cm / 短軸 63 cm / 深さ 12 cm。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。平面形は不整形円形を呈する。規模：長軸 49 cm / 短軸 47 cm / 床面からの深さ 10 cm。周囲にはやや距離を置いて、幅 13～31 cm、高さ 3～5 cm の凸堤



第77図 648号住居跡 (1/60・1/30)



第78図 648号住居跡遺物出土状態(1/60)

が馬蹄形に巡る。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：貯蔵穴及びその北側に設けられた凸堤の一部を覆うように住居東壁沿いで検出された。長軸112cm×短軸39cmの範囲で、高さ4～9cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居内縁より一回り(2～19cm程度)径を縮小させた相似形で、入れ子状を呈する6～15cmの深さの掘り込みが確認された(8～10層)。また、西コーナー付近で円弧状の掘り込み1か所(深さ4cm)、東コーナー付近でピット状の掘り込み(深さ10～13cm程度)2か所が確認された。

〔覆土〕7層に分層される。

〔遺物〕炉・貯蔵穴周辺及び住居南コーナー等から、鉢・壺・甕形土器、土製勾玉、不明石製品が出土した。土製勾玉、不明石製品は住居南コーナーから近接して出土した。

〔時期〕弥生時代後期後葉～末葉。

〔遺物〕(第79図、図版44-3、第22～24表)

〔土器〕(第79図1～5、図版44-3-1～5、第22表)

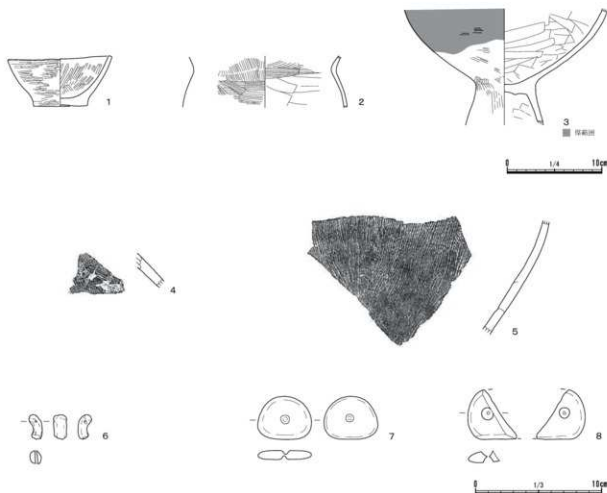
1は鉢形土器、2・3は甕形土器、4・5は壺形土器である。

〔土製品〕(第79図6、図版44-3-6、第23表)

6は手づくね成形の土製勾玉である。

〔石製品〕(第79図7・8、図版44-3-7・8、第24表)

7・8は用途不明の石製品である。共に穿孔が施されるが、8は上下に貫通しているのに対し、7は未貫通である点に差異がみられる。



第79図 648号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・装飾等	出土 土	出土位置
第79図1 図版44-3-1	鉢	口縁部～ 底部 60%	口10.0 高5.3 底5.6	口唇部は直を有し、器ゆ かに内傾する。口縁部は 内湾型に立ち上がる。口 底部は平直で、中央部が 僅かに凹む。	内面：縦・斜方向のヘラ磨き/外面：口唇部は横ナデ、口 縁部～底部は縦方向のヘラ磨き、底部はナデ(部分的にヘ ラ磨き)	にぶい黄褐色/ シャモット多量、 赤色粘土中量、小 礫少量	床面上 (北西寄り、 南コーナー)
第79図2 図版44-3-2	狭 葉	胴部～ 肩部 破片	高[5.5]	胴部は緩やかに用曲する	内面：胴部は縦方向のハケ目調整、肩部は横方向のヘラナデ /外面：胴部は縦方向のハケ目調整、肩部は縦・斜方向のハ ケ目調整	にぶい褐色/シヤ モット中量、雲母 少量	床面上 (北コーナー)
第79図3 図版44-3-3	狭 葉	胴部～ 肩部 20%	高[12.3]	台付巻/胴部は球形を呈 する。肩部はハの字状に 直線的に開く。	内面：胴部は縦方向のヘラナデ、肩部は横方向のヘラナデ /外面：胴部は縦・斜方向のハケ目調整後ナデ、脚 部は縦方向のハケ目調整後ナデ/外面(足置部)に横付巻	にぶい褐色/シヤ モット中量、雲母 少量	床面上 (伊東側)
第79図4 図版44-3-4	直 筒部 破片	厚0.8		内傾する	内面：ナデ/外面：縁部のヘラ磨き直文(山形文)、文 様区画内に卑部刻、縄文充填、文様区画外縁部赤彩	にぶい黄褐色/ 砂粒、小礫少量	覆土下層 一括
第79図5 図版44-3-5	直 筒部 破片	厚0.7		丸みをもって立ち上がる	内面：横方向のヘラナデ/外面：縦方向のハケ目調整後、 縦方向のヘラ磨き/外面赤彩	褐色/シヤモット 中量、雲母/石灰 砂粒少量	床面上 (南コーナー)

第22表 648号住居跡出土土器一覽

発掘番号 図版番号	種別	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	特徴	出土位置
第79図6 図版44-3-6	土製勾玉	1.9	1.1	1.0	1.81	手づくね成形。穿孔1か所(孔径0.1cm)	床面上 (南コーナー)

第23表 648号住居跡出土土製品一覽

検出番号 図取番号	群 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	出土位置
第79図7 図取 44-3-7	不明	輝緑輝灰岩	3.4	4.2	0.7	15.15	中央部に円形の未貫通の小孔(孔径0.7cm)1か所/穿孔作業は両側面から行われている	床面上 (南コーナー)
第79図8 図取 44-3-8	不明	頁岩	3.9	3.8	0.9	16.71	穿孔1か所(中心部から外れ、外縁部寄りに位置)/穿孔作業は両側面から行われ、中心部に1か所づつ小孔(孔径は狭小となる)表面(上面)の孔径0.94cm×0.91cm,裏面(下面)の孔径0.83cm×0.80cm	床面上 (南コーナー)

第24表 648号住居跡出土石製品一覽

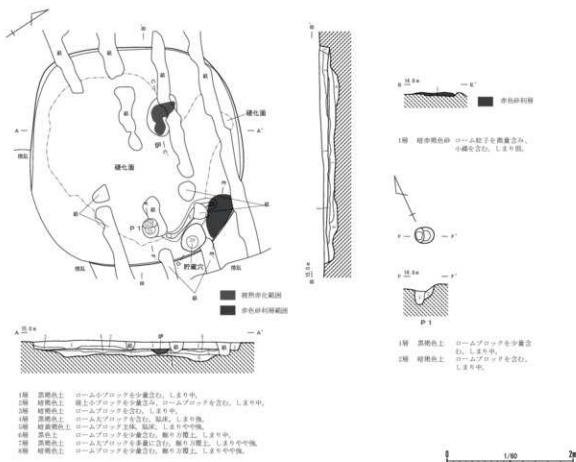
649号住居跡

遺 構 (第80・81図)

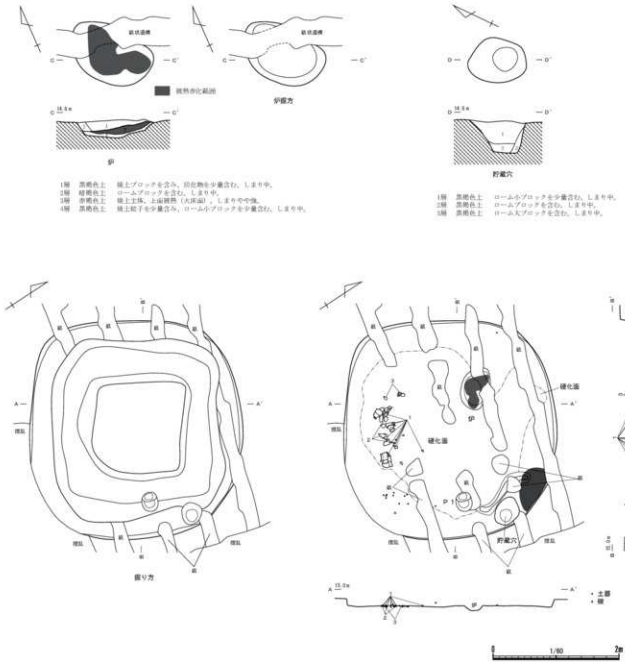
[位 置] (E-6) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸3.48m/短軸3.39m/確認面からの深さ0.19m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-57°-W。壁溝：検出されなかった。床面：壁際を除き、住居中央寄りで硬化面を検出した。貼床は全体的にやや薄く、2~9cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から北方向に振って位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部を主体に広い範囲で被熱による赤化が



第80図 649号住居跡(1/60)



第81図 649号住居跡炉・貯蔵穴・掘り方・遺物出土状態（1/30・1/60）

確認された。規模：長軸68cm/短軸44cm/深さ15cm。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。平面形は概ね楕円形を呈する。規模：長軸45cm/短軸37cm/床面からの深さ28cm。西側に隣接して、幅10～20cm、高さ5～6cmの凸堤がクランク状に巡る。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：貯蔵穴の西側に設けられた凸堤の北側先端部を覆うように住居北東壁沿いで検出された。長軸71cm×短軸35cmの範囲で、高さ2～6cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：P1は入口梯子穴と考えられる。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸31cm/短軸26cm/床面からの深さ28cm。掘り方：住居中央

及び外縁部を1段高く掘り残す形で、周溝状の掘り込みが確認された（4～8層）。周溝状の掘り込みの全体形状は期丸方形を呈する。規模：長軸2.85m/短軸2.71m/幅57～84cm/下幅27～57cm/深さ8～19cm。

〔覆 土〕3層に分層される。

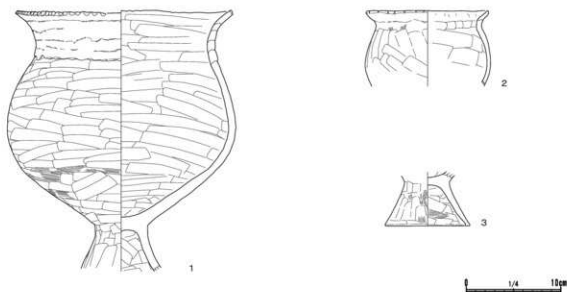
〔遺 物〕南西壁沿いに集中して、甕形土器が出土した。

〔時 期〕弥生時代後期後葉。

〔遺 物〕（第82図、図版45-1、第25表）

〔土 器〕（第82図1～3、図版45-1-1～3、第25表）

1～3は甕形土器である。



第82図 649号住居跡出土遺物（1/4）

検出番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第82図1 図版45-1-1	甕	口縁部～ 腹部 70%	□22.5 高27.6	台付甕/口縁部は外反する/腹部は縦やかに折曲し、輪軸筋を4段残す/腹部は球形を呈し、中央部に最大径を有する/腹部は八の字状に外方に開く	内面：口縁部は横ナデ、口縁部～腹部は縦方向のヘラナデ、腹部は縦方向のヘラナデ/外面：口縁部はヘラナデ、口縁部～腹部はやや粗い横ナデ、腹部は縦方向のハケ目調整後、横方向のヘラナデ、腹部は縦方向のヘラナデ/内面全面炭化付着（黒色化）、胴下半部外面炭化付着	にぶい赤褐色/シャモット少量、石炭微量	床面上（中央部南西寄り）
第82図2 図版45-1-2	甕	口縁部～ 腹部 30%	□12.8 高18.0	口縁部は大きく外反する/腹部はやや直線的に立ち上がる/腹部は球形を呈する	内面：口縁部は横ナデ、腹部～頸部は横方向のヘラナデ/外面：口縁部は横ナデ、腹部～頸部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラナデ/頸部外面に輪軸筋を1段残す	にぶい黄褐色/シャモット少量、小礫少量	床面上（中央部南西寄り）
第82図3 図版45-1-3	甕	腹部 80%	高15.7 脚8.8	台付甕/腹部は八の字状に外方に開く/底部は内面側に僅かに張り出す	内面：胴底部はヘラナデ、腹部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラナデ/外面：腹部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラナデ、腹部は縦方向のヘラナデ後、横ナデ/腹部外面にイネ科種子付着を1か所残す	にぶい褐色/シャモット・砂粒少量、白色砂子少量	床面上（中央部南西寄り）

第25表 649号住居跡出土土器一覧

650号住居跡

遺構 (第83・84図)

[位置] (D・E-6・7) グリッド。

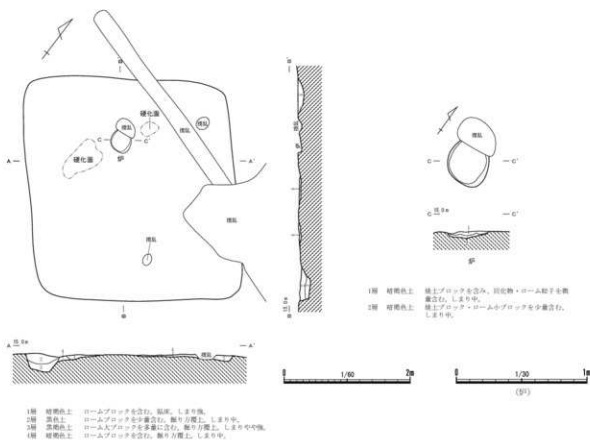
[検出状況] 複数の攪乱に切られる。上面が大きく削平され、ほぼ全面で床面が露出した状態で検出された。掘り方で削平が違っている箇所も随所に見られ、遺存状態は良好ではない。

[構造] 平面形：方形。規模：長軸3.51m/短軸3.32m/確認面からの深さ0.01m。壁：検出されなかった。主軸方位：N-37°-W。壁溝：検出されなかった。床面：炉の周辺で部分的に硬化面を検出した。貼床は薄く、2～7cmの厚さで施されていた。炉：住居中央北西寄りに位置する。上面が削平され、掘り方のみが検出された。楕円形を呈する地床炉と推測されるが、明確な被熱による赤化は確認できなかった。規模：長軸38cm/短軸33cm/深さ6cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：東コーナーから北西壁中央にかけて、変則的な「コ」の字状を呈する周溝状の掘り込みが確認された(1～4層)。規模：幅35～53cm/下幅17～35cm/深さ13～27cm。掘り込み内から4本のピット(P1～P4)が検出され、その他に南西壁沿いの周溝状の掘り込みに付随して、深さ4～8cm程度の不整形の掘り込みも確認された。

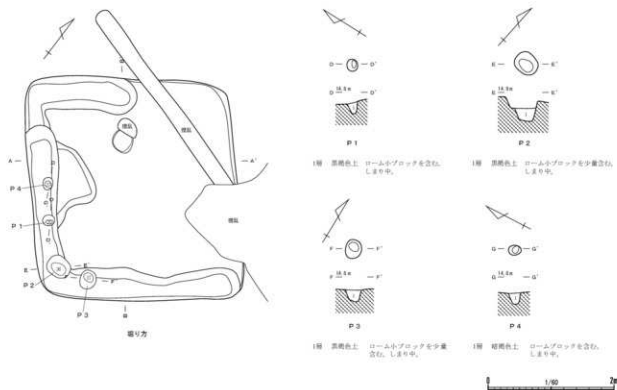
[覆土] なし。上面は大きく削平される。

[遺物] 甕形土器の小破片が1点出土したが、図示できなかった。

[時期] 古墳時代前期初頭～前葉。



第83図 650号住居跡 (1/60・1/30)



第84図 650号住居跡掘り方(1/60)

651号住居跡

遺構 (第85～87図)

位置 (C・D-6) グリッド。

検出状況 652 Yを切り、複数の攪乱に切られる。

構造 平面形：方形。規模：長軸 4.59 m / 短軸 4.06 m / 確認面からの深さ 0.48 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-39°-W。壁溝：北西壁中央～東コーナー手前、南西壁沿いの一部を除き全周する。幅 12～21 cm / 下幅 5～11 cm / 深さ 8～18 cm。床面：住居中央から炉縁辺にかけて疎らに硬化面を検出した。貼床は薄く、2～4 cmの厚さで施されていた。炉：住居中央から西方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 60 cm / 短軸 42 cm / 深さ 12 cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：P 1～P 4は主柱穴と考えられる。P 1は深さ 45 cm、P 2は深さ 61 cm、P 3は深さ 61 cm、P 4は深さ 56 cmを測る。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に2～9 cm程度の深さの掘り込みが確認された(13・14層)。また、南コーナー付近でピット状の掘り込み(深さ 10～18 cm程度) 2か所が確認された。

覆土 12層に分層される。

遺物 住居南西半部を中心に、鉢・高環・壺・甕形土器が出土した。

時期 古墳時代前期前葉。

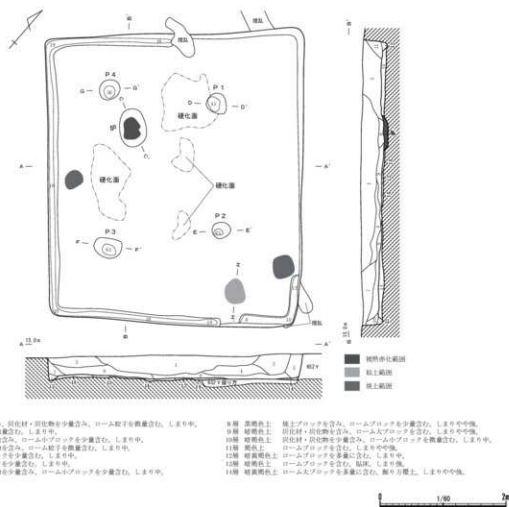
所見 床面上から焼土や炭化材(柱状・板状)がまとまって検出されたことから、焼失住居と推測される。炭化材については、状態が比較的良好なものを抽出して自然科学分析(年代測定及び樹種同

定)を行った。詳細は付編Ⅰ・Ⅲを参照されたいが、出土土器の年代観と合致する暦年代が測定されたことは大きな成果であった。また、東コーナー付近で凸状に高まる灰白色粘土が検出された。範囲：長軸41cm/短軸32cm/高さ11～20cm程度。なお、灰白色粘土に被熱は認められなかった。

遺物 (第88図、図版45-2、第26表)

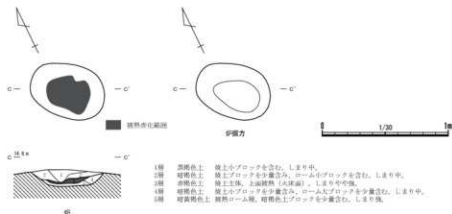
[土器] (第88図1～8、図版45-2-1～8、第26表)

1は鉢形土器、2～4は高環形土器、5・6は壺形土器、7・8は甕形土器である。



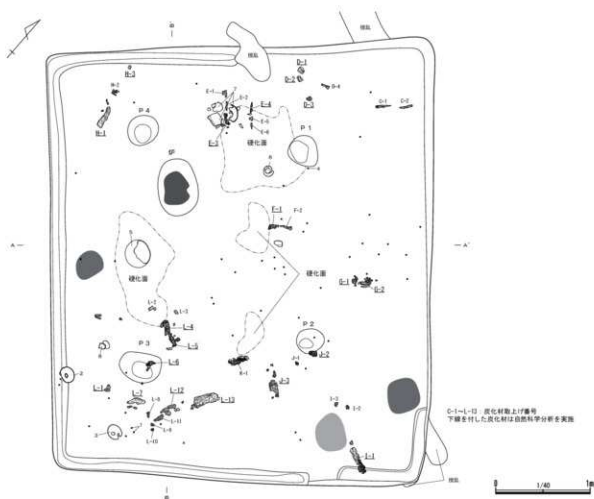
- 1層 赤色土 粘土粒子を含まず、灰化材・灰化物を少量含む、ローム粒子を数量含む。しまり中。
 2層 赤褐色土 ローム粒子を少量含む。しまり中。
 3層 赤褐色土 粘土粒子を少量含む。ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
 4層 赤褐色土 灰化材・灰化物を含まず、ローム粒子を少量含む。しまり中。
 5層 赤褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
 6層 赤褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
 7層 赤褐色土 灰化材・灰化物を少量含む、ローム大ブロックを少量含む。しまり中。

- 8層 赤褐色土 粘土大ブロックを含む、ローム大ブロックを少量含む。しまり中や中強。
 9層 赤褐色土 灰化材・灰化物を含む、ローム大ブロックを含む。しまり中や中強。
 10層 赤褐色土 灰化材・灰化物を少量含む、ローム大ブロックを数量含む。しまり中。
 11層 赤褐色土 ローム大ブロックを含む。しまり中や中強。
 12層 赤褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
 13層 赤褐色土 ローム大ブロックを含む。弱り。
 14層 赤褐色土 ローム大ブロックを少量含む、弱りや弱上。しまり中や中強。

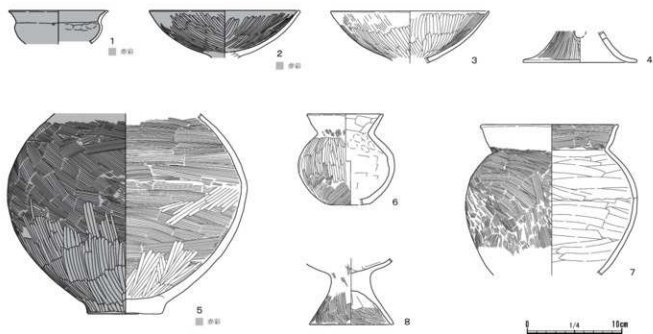


- 1層 赤褐色土 粘土大ブロックを含む。しまり中。
 2層 赤褐色土 粘土大ブロックを少量含む、ローム大ブロックを含む。しまり中。
 3層 赤褐色土 粘土大ブロックを少量含む、ローム大ブロックを少量含む。しまり中や中強。
 4層 赤褐色土 粘土大ブロックを少量含む、ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
 5層 赤褐色土 灰化材・灰化物を少量含む、ローム大ブロックを少量含む。しまり中。

第85図 651号住跡 (1/60・1/30)



第87図 651号住居跡遺物出土状態2 (1/40)



第88図 651号住居跡出土遺物 (1/4)

調査番号 図版番号	遺構 種類	部分 遺存状態	法長 (cm)	形状・形態	文様・調整等	出土 位置	出土位置
第88図1 図版 45-2-1	鉢	口縁部～ 腹部 10%	口 [10.4] 高 [2.6]	口縁部は外反する／口縁部と腹部との境に稜を有する／腹部は丸味をもち立ち上がる	内面：口縁部は横ナデ、腹部は側面押捺後ナデ／外面：口縁部は横ナデ、腹部は斜方向のハケ目調整後ナデ／内外面赤彩	褐色／砂粒・小礫少量、雲母微量	床面上 (南コーナー)
第88図2 図版 45-2-2	高杯	杯部 95%	口 [15.7] 高 [5.0]	無稜の杯部／口縁部に面を有する／口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる／脚部との接合部で割傷	内面：口縁部は横ナデ、以下縦方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き／外面：口縁部は横ナデ、斜方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き	褐色／石灰・砂粒、シヤベット・小礫少量	甕土下層 (南西隅土 上面、床土 12cm)
第88図3 図版 45-2-3	高杯	杯部 95%	口 [16.5] 高 [5.5]	無稜の杯部／口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる／全体に薄孔／脚部との接合部で割傷	内面：口縁部は横ナデ、以下縦・斜方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き／外面：口縁部は横ナデ、斜方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き	褐色褐色／石灰・炭灰・砂粒・小礫少量	床面上 (南コーナー)
第88図4 図版 45-2-4	高杯	脚部 破片	高 [3.3] 底 [12.0]	脚部は凡の字状に外方に開く／脚部は大きく外反する	内面：丁寧なナデ（磨きに近い）／外面：脚部は縦方向のへう書き（密）、脚部は横ナデ／脚部に円形の透孔1孔（細数は不明）	灰赤褐色／砂粒微量（東海系陶土）	甕土下層 (P1 南東部、 床土 16cm)
第88図5 図版 45-2-5	甕	胴部～ 底部 95%	高 [21.1] 底 7.8	胴部はほぼ球形を呈し、中央部よりやや上位に筒大窪を有する／平底の底部は肥厚し、中央部が僅かに凹む	内面：縦方向のハケ目調整後、部分的に縦・斜方向のへう書き／外面：胴上半部は横・斜方向のハケ目調整、胴下半部は縦方向のへう書き、底部はナデ／外面赤彩	灰赤褐色／シヤベット中量、雲母・石粒、白色粘土・小礫少量	床面上 (中央部南西 寄り)
第88図6 図版 45-2-6	甕	口縁部～ 底部 60%	口 7.9 高 9.6 底 [4.2]	小型甕／口縁部と底部で中心軸が異なる、器形は全体のやや中や／口縁部は外傾する／頸部は大きく、字状に曲曲する／胴部はほぼ球形を呈し、中に筒大窪を有する／底部はやや安定性を欠く平底である	内面：口縁部は縦方向のへうナデ、胴部～底部は側面押捺、胴部は縦方向のへうナデ／外面：口縁部は横ナデ、口縁部～胴部は縦方向のハケ目調整後ナデ、胴部は横・斜方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き、底部は縦方向のへうナデ	灰赤褐色／白色粘土・砂粒中量、小礫少量	床面上 (中央部付近)
第88図7 図版 45-2-7	甕	口縁部～ 底部 90%	口 [14.3] 高 [15.9]	口縁部は強く外反する／口縁部は内湾気味に立ち上がる／頸部は鋭角な立ち上がり／字状に曲曲する／胴部はほぼ球形を呈し、中央部よりやや上位に筒大窪を有する	内面：口縁部は縦方向のハケ目調整、胴部～胴部は縦方向のへうナデ／外面：口縁部は横ナデ、口縁部は斜方向のハケ目調整後、横ナデ、胴部～胴上半部は横・斜方向のハケ目調整、胴下半部は縦・斜方向のハケ目調整	灰赤褐色／砂粒中量、石灰・小礫少量	床面上 (中央部北西 寄り)
第88図8 図版 45-2-8	甕	脚部 100%	高 [7.0] 脚 8.8	台付脚／脚部との接合部は肥厚し、直立気味に立ち上がる／脚部は凡の字状に外方に開く	内面：胴底部は縦方向のへうナデ、脚部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き／外面：胴底部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のへう書き	灰赤褐色／雲母・砂粒・小礫少量	甕土下層 (P3 南西部、 床土 13cm)

第26表 651号住居跡出土土器一覽

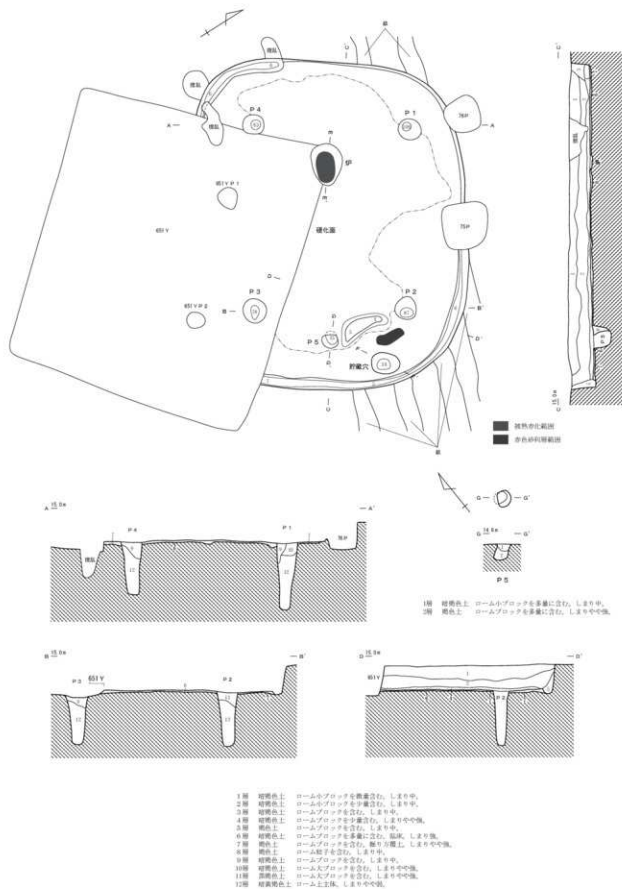
652号住居跡

遺 構 (第89～92図)

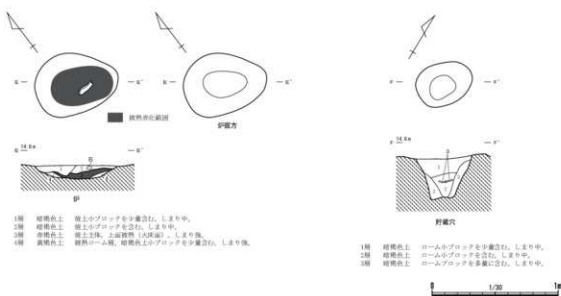
[位 置] (C-5、D-5・6) グリッド。

[検出状況] 651 Y、中世以降のピット (75・76 P)・欵状遺構群の他、複数の掘乱し切られる。

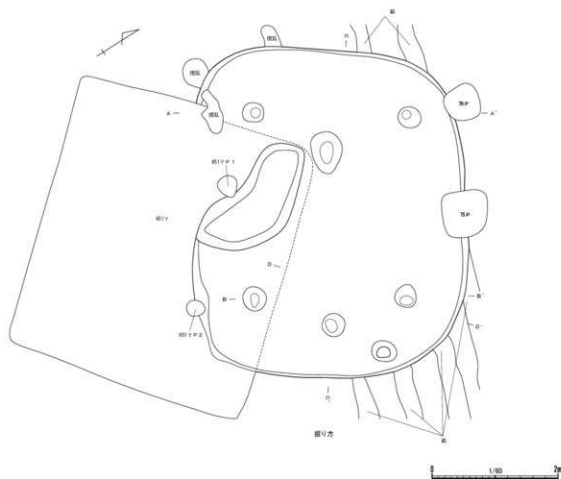
[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 5.18 m / 短軸 4.24 m 以上 / 確認面からの深さ 0.47 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-55°-W。壁溝：北コーナー側は広い範囲で途切れるが、それ以外の部分では、651 Y、75 P に切られる箇所を除き全周する。幅 11～23cm / 下幅 3～12cm / 深さ 5～8cm。床面：壁際及び貯蔵穴周辺を除き、硬化面を検出した。貼床は薄く、2～4cm の厚さで施されていた。炉：住居中央北西寄りに位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 66cm / 短軸 50cm / 深さ 14cm。貯蔵穴：住居東コーナーで検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 45cm / 短軸 34cm / 床面からの深さ 34cm。やや間隔をおいて西側に、幅 20～33cm、高さ 4～5cm の凸堤が弧状に巡る。柱穴：P 1～P 4 は主柱穴と考えられる。P 1 は深さ 106cm、P 2 は深さ 87cm、P 3 は深さ 78cm、P 4 は深さ 83cm を測る。赤色砂利層：貯蔵穴と凸堤の間で検出された。長軸 47cm × 短軸 18cm の範囲で、高さ 2～3cm 程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：P 5 は入口梯子穴と考えられる。平面形は概ね楕円形を呈する。規模：長軸 26cm / 短軸 21cm



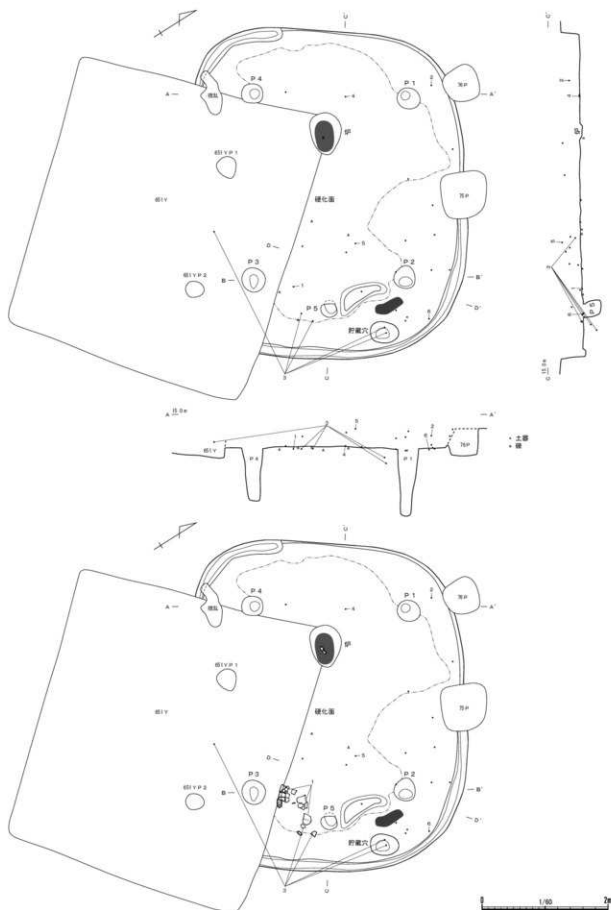
第 89 図 652 号住居跡 (1 / 60)



第90図 652号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30)



第91図 652号住居跡掘り方 (1/60)



第92図 652号住居跡遺物出土状態(1/60)

／床面からの深さ25cm。掘り方：住居全体に2～7cm程度の深さの掘り込みが確認された（6・7層）。また、炉南側から南壁にかけて不整形の掘り込み（深さ8～13cm程度）が確認された。

〔覆 土〕 5層に分層される。

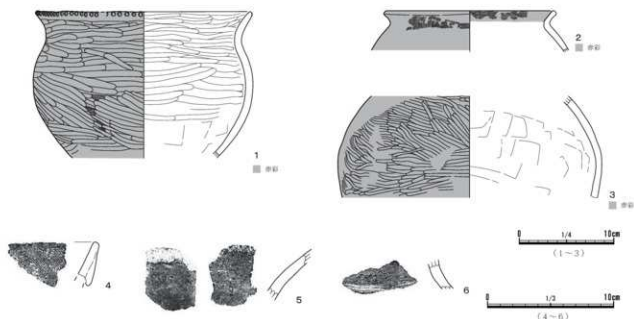
〔遺 物〕 住居東半部を中心に、床面直上及び貯蔵穴内から壺・広口壺・甕形土器が出土した。

〔時 期〕 弥生時代後期後葉～末葉。

〔遺 物〕 (第93図、図版46-1、第27表)

〔土 器〕 (第93図1～6、図版46-1-1～6、第27表)

1・2は広口壺形土器、3～6は壺形土器である。



第93図 652号住居跡出土遺物（1/4・1/3）

発掘基時 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (m)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第93図1 図版46-1-1	広口壺	口縁部一 断面 95%	口22.5 高115.5	口縁部は緩やかに外反する／胴部は球形を示すが、肩部がやや突出し、胴部中央より上位に最大径を有する	内面：口縁部は横ナデ、口縁部～胴上半部は横方向のへら磨き、胴下半部は横方向のへらナデ／外面：口縁部は横ナデ後、移住工程による浅い割目、胴部～肩部は横方向のへら目調整後、横・斜方向のへら磨き／外面赤彩	灰黄色／シャモット中量、砂粒・小礫少量、雲母微量	床面上 (中央部南東寄り)
第93図2 図版46-1-2	広口壺	口縁部一 断面 15%	口17.0 高14.4	口縁部は強く外反する／胴部は「く」字状に凹曲する	内面：口縁部は横方向のへら目調整、胴部～肩部は厚膜のため調整不明／外面：口縁部は横ナデ、口縁部は縦方向のへら目調整後、横ナデ、胴部～肩部は横方向のへら目調整後ナデ／口縁部内面及び外面赤彩	灰黄色／シャモット・粘中量、白色粒子・小礫少量	甕土上層 (北コーナー、床土17cm)
第93図3 図版46-1-3	甕	胴部 破片	高110.7	胴部は球形を示すと推測される	内面：横方向のへらナデ／外面：横・斜方向のへら磨き／外面赤彩	褐色／シャモット・粘中量、白色粒子・小礫少量	床面上 (中央部南東寄り)・ 貯蔵穴甕土
第93図4 図版46-1-4	甕	口縁部 破片	厚1.3	幅口の複合口縁／口縁部は外反する	内面：横方向のへらナデ／外面：横ナデ、口縁部は横文（厚膜著しい）無文、口縁部に引状横文（RL・LR）無文	灰黄色／シャモット中量、雲母・石灰・小礫少量	床面上 (炉北西側)
第93図5 図版46-1-5	甕	口縁部 破片	厚0.8	複合口縁（複合口縁部は割溝）／口縁部は大きく外反する	内面：縞状文・条以上、以下横方向のへら磨き／外面：縦方向のへら磨き	灰黄色／シャモット・砂粒・小礫少量	甕土上層 (中央部南東寄り)・床土32cm)
第93図6 図版46-1-6	甕	肩部 破片	厚0.8	緩やかに凹曲する	内面：横方向のへらナデ／外面：縦方向のへら磨き、縞・点線文5条無文、無文部赤彩	灰黄色／小礫少量、砂粒微量	床面上 (北コーナー)

第27表 652号住居跡出土土器一覧

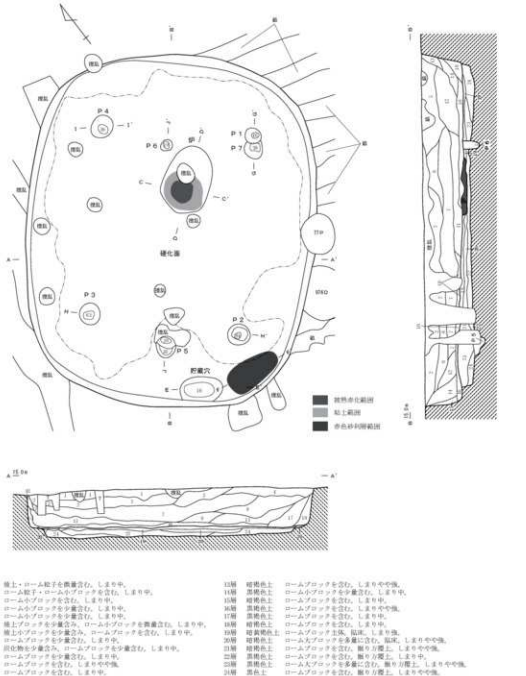
653号住居跡

遺構 (第94～97図)

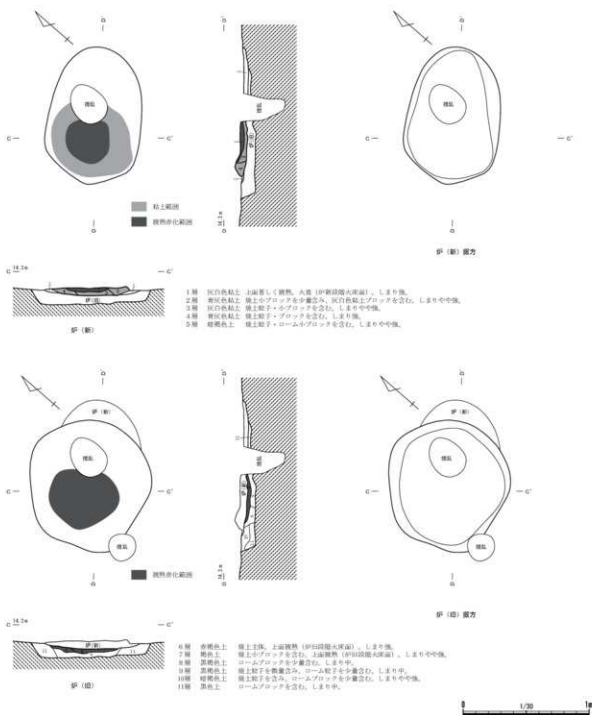
[位置] (C-5・6、D-5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の土坑(976 D)・ピット(77 P)・畝状遺構群の他、複数の攪乱に切られる。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：長軸5.62m/短軸4.62m/確認面からの深さ0.72m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-43°-E。壁溝：検出されなかった。床面：壁際及び貯蔵穴周辺を除き、硬化面を検出した。貼床は全体にやや厚く、8～12cmの厚さで施されていた。炉：住居中央やや北東寄りに位置する。新旧2段階の炉が位置を僅かにスライドさせ、上下に重複して検出された。炉



第94図 653号住居跡(1/60)



第95図 653号住居跡炉 (1/30)

新段階は楕円形の掘方を有する粘土板炉で、火皿中央部に被熱による赤化が確認された。火皿規模：長軸 69cm/短軸 59cm/厚み 2～3cm。掘方規模：長軸 109cm/短軸 76cm/深さ 8cm。炉旧段階は不整形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸 100cm/短軸 98cm/深さ 22cm。貯蔵穴：住居南コーナー周辺で検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 68cm/短軸 39cm/床面からの深さ 14cm。柱穴：P1～P4は主柱穴と考えられる。P1は深さ 46cm、P2は深さ 84cm、P3は深さ 63cm、P4は深さ 39cmを測る。また、P1に切れられ、住居中央寄りに位置する P7は深さ 38cmを測り、住居の建替えを想定した場合、旧段階の主柱穴である可能性が考えられる。

赤色砂利層：貯蔵穴の東側に位置し、住居南コーナーで検出された。長軸 89cm×短軸 44cmの範囲で、高さ 4～6cm程度の台形状の高まりが確認された。入口施設：P 5は入口梯子穴と考えられる。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸 35cm/短軸 31cm/床面からの深さ 25cm。掘り方：壁際を一段高く残し、住居内縁より 2～18cm程度径を縮小させた相似形の掘り込みが確認された（19～24層）。主軸方位は住居内縁と合致し、入れ子状を呈する。規模：長軸 5.12 m/短軸 4.03 m/深さ 0.13～0.20 m。

〔覆 土〕 18層に分層される。

〔遺 物〕 高環・壺・甕形土器が出土した。約半数は覆土上層からの出土である。

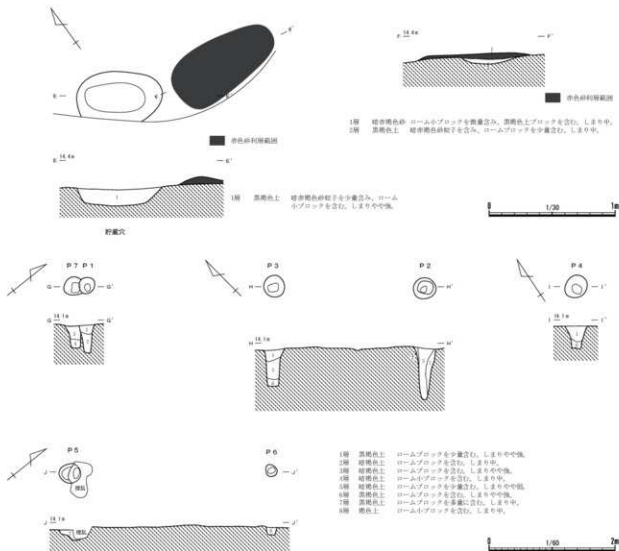
〔時 期〕 弥生時代後期後葉。

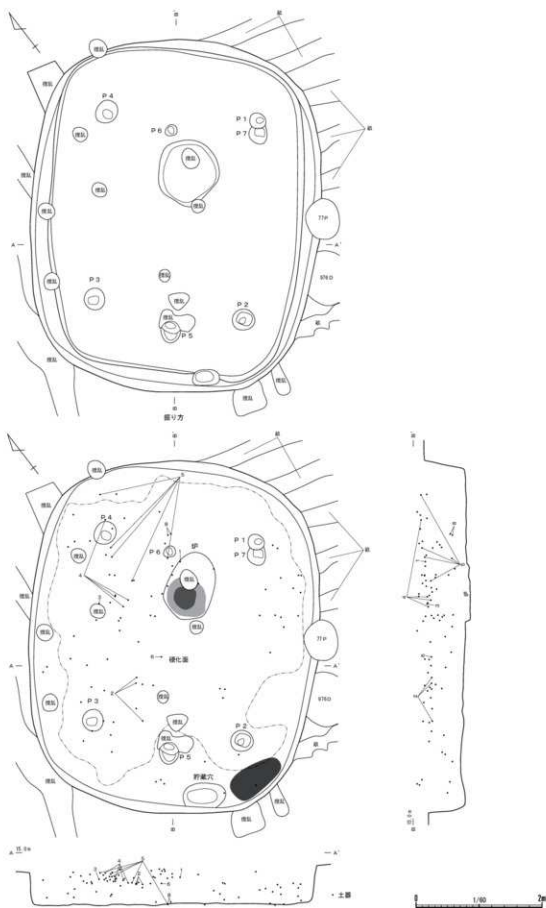
〔所 見〕 明確な 2 面目（旧段階）の床面は把握できなかったが、入れ子状を呈する掘り方形状、並びに 2 時期の炉・柱穴が検出されたことから、住居の建替え（拡張）があったことが推測される。

〔遺 物〕（第 98 図、図版 46-2、第 28 表）

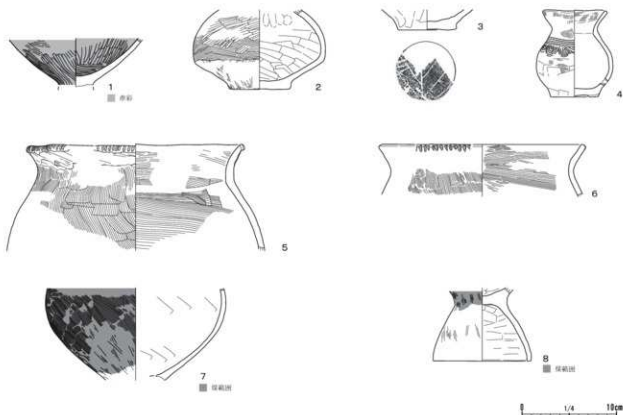
〔土 器〕（第 98 図 1～8、図版 46-2-1～8、第 28 表）

1 は高環形土器、2～4 は壺形土器、5～8 は甕形土器である。





第97図 653号住居跡掘り方・遺物出土状態(1/60)



第98図 653号住居跡出土遺物(1/4)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第98図1 図版 46-2-1	高杯	杯部 15%	高 [5.1]	杯部はやや内流しながら 外方に開く/杯底部はほぼ 平坦である	内面:杯部は縦方向のへらナデ、杯底部は横方向のへらナデ /外面:斜・縦方向のハケ目調整後、縦方向のへらナデ /内外面赤彩	にぶい褐色/シヤ モット・砂粒少量、 石炭微量	甕土上層 (貯土面、 床土 47cm)
第98図2 図版 46-2-2	甕	胴部～ 底部 75%	高 [8.4] 底 [6.3]	胴部は下膨れ状を有し、 胴下半部に線を有する。底 部はやや厚手の平底で、 中央部が僅かに凹む	内面:胴部は前後押付、胴部～底部は横方向のへらナデ/ 外面:胴部～胴上半部は縦方向のハケ目調整後、斜・縦方向 のへらナデ、胴下半部は縦方向のハケ目調整後ナデ、底部は ナデ	にぶい黄褐色/シ ヤモット多量、 白色砂子・砂粒少 量	甕土上層 (中央部西 寄り位置)
第98図3 図版 46-2-3	甕	底部 40%	高 [2.6] 底 [6.2]	胴下半部は直線的に立ち 上がる/底部は平底で、 中央部が僅かに凹む	内面:磨耗のため調整不明/外面:胴部は横方向のへらナ デ、底部は木葉痕が見える	にぶい褐色/シヤ モット中量、砂粒 少量、石炭微量	甕土上層 (中央部文 部り、床土 39cm)
第98図4 図版 46-2-4	甕	口縁部～ 底部 50%	口 [6.5] 高 [9.2] 底 [5.0]	小型甕/口縁部は外反す る。胴部は平直/口縁部は 凹面する。胴部はやや 膨れ状を有する/底部は やや厚手の平底で、中央部 が凹む	内面:口縁部は横方向のハケ目調整後ナデ、胴部以下は摩滅 のため調整不明/外面:口縁部は横ナデ、口縁部～胴部は縦 方向のハケ目調整後ナデ、胴部は磨滅直線文4枚、磨滅コ ンパス文を備え、胴部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のへら ナデ、底部はナデ/底部外縁部に粘土拍綴付	にぶい褐色/シヤ モット中量、石炭 ・砂粒・小礫少量	甕土上層 (北コーナー 付近に散在)
第98図5 図版 46-2-5	甕	口縁部～ 胴部 25%	口 [22.0] 高 [11.2]	口唇部～口縁部厚 (粘 土拍綴付)/口縁部は外 反する。胴部はやや張り 出す	内面:口唇部は横ナデ、口縁部～胴部は横方向のハケ目調整 後、横ナデ、胴部は横方向のハケ目調整/外面:口唇部はハ ケ目、口縁部は粘土拍綴付後、彫いナデ・横ナデ、胴部～ 胴部は縦・斜方向のハケ目調整	にぶい褐色/石 炭・砂粒少量、小 礫微量	床面上・ 甕土上層 (北コーナー 付近に散在)
第98図6 図版 46-2-6	甕	口縁部～ 胴部 15%	口 [20.0] 高 [5.5]	口唇部に線を有する/口 縁部は外反する/胴部は 平直/口縁部は凹面する	内面:口縁部～胴部は横方向のハケ目調整後ナデ、胴部は ナデ/外面:口唇部はハケ目、口縁部は縦方向のハケ目 調整後ナデ、胴部～胴部は縦方向のハケ目調整	にぶい黄褐色/砂 粒中量、シヤモ ット少量、小礫 微量	甕土上層 (中央部、床 土 34cm)
第98図7 図版 46-2-7	甕	胴部 15%	高 [9.7]	付付壁/胴部は球形を有 すると推測される/胴部 後部で割壊	内面:縦方向のへらナデ後ナデ(平滑に仕上げられる)/ 外面:斜方向のハケ目調整後ナデ(胴部下部に行くにつれ、 ナデ消される度合いが増加する)/外面はほぼ全面に磨付着	にぶい褐色/シヤ モット・砂粒中量、 小礫少量	甕土上層 一括
第98図8 図版 46-2-8	甕	胴部 95%	高 [7.7] 脚 [10.3]	付付壁/胴部は内湾する /胴部はほぼ直立する	内面:胴底部は横方向のへらナデ、胴部は横方向のへらナ デ後ナデ/外面:胴部は縦方向のハケ目調整後ナデ、胴部 は横ナデ/胴部との接合部全面に磨付着	浅黄褐色/シヤ モット中量、砂 粒・小礫少量	床面上 (P6北東部)

第28表 653号住居跡出土土器一覽

654号住居跡

遺構 (第99・100図)

[位置] (E-4・5) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群及び攪乱に切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸3.05m/短軸2.75m/確認面からの深さ0.25m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-69°-W。壁溝：検出されなかった。床面：住居中央に礫化面を検出した。貼床はやや厚く、3~14cmの厚さで施されていた。炉：住居中央やや北西寄りに位置する。隅丸方形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認された。規模：長軸80cm/短軸48cm/深さ18cm。貯蔵穴：住居北東コーナー周辺で検出された。平面形は楕円形を呈する。規模：長軸48cm/短軸35cm/床面からの深さ20cm。西側に隣接して、幅23~35cm、高さ4~6cmの凸堤が弧状に巡る。柱穴：検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：南西コーナー周辺を除いて壁際を一段高く掘り残し、住居内縁より一回り(2~17cm程度)径を縮小させた相似形の掘り込みが確認された(6~12層)。掘り込みの主軸方位は概ね住居上端と合致する。規模：長軸2.74m/短軸2.60m/深さ0.14~0.21m。また、北東コーナーを除いた3か所のコーナー周辺で、不整楕円形の掘り込み(深さ15~23cm程度)3か所、南東壁付近でピット状の掘り込み(深さ10cm)1か所が確認され、他の箇所よりも更に1段深く掘り込まれている。

[覆土] 5層に分層される。

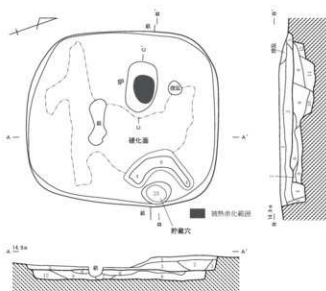
[遺物] 貯蔵穴周辺及び北西コーナーから北壁沿いにかけて、床面直上から高坏・壺形土器が出土した。高坏形土器1個体は完形に近い状態であった。

[時期] 弥生時代後期後葉。

遺物 (第101図、図版47-1、第29表)

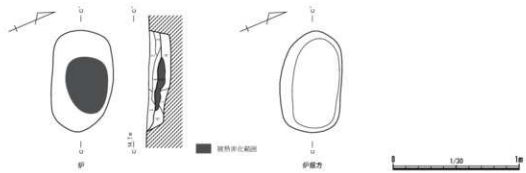
[土器] (第101図1~3、図版47-1-1~3、第29表)

1・2は高坏形土器、3は壺形土器である。

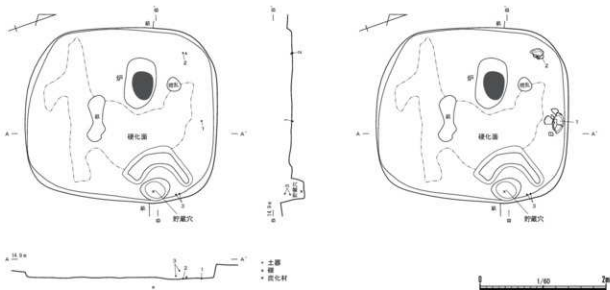
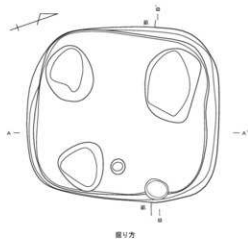


- | | | |
|-----|------|----------------------------|
| 1層 | 埴輪粘土 | 灰化土・ローム中ブロックを少量含む。しまり中。 |
| 2層 | 埴輪粘土 | ローム粘土を少量含む。しまり中。 |
| 3層 | 埴輪粘土 | 粘土配子・ロームブロックを少量含む。しまり中。 |
| 4層 | 埴輪粘土 | 灰化土・ロームブロックを少量含む。しまり中。 |
| 5層 | 埴輪粘土 | ロームブロックを含む。しまりやや強。 |
| 6層 | 埴輪粘土 | ローム大ブロックを少量含む。固結。しまり強。 |
| 7層 | 埴輪粘土 | ロームブロックを含む。掘り方層上。しまり中。 |
| 8層 | 埴輪粘土 | ローム大ブロックを含む。掘り方層上。しまりやや中強。 |
| 9層 | 埴輪粘土 | ロームブロックを少量含む。掘り方層上。しまり中。 |
| 10層 | 埴輪粘土 | ロームブロックを少量含む。掘り方層上。しまり中。 |
| 11層 | 埴輪粘土 | ロームブロックを少量含む。掘り方層上。しまり中。 |
| 12層 | 埴輪粘土 | ロームブロックを含む。掘り方層上。しまり中。 |

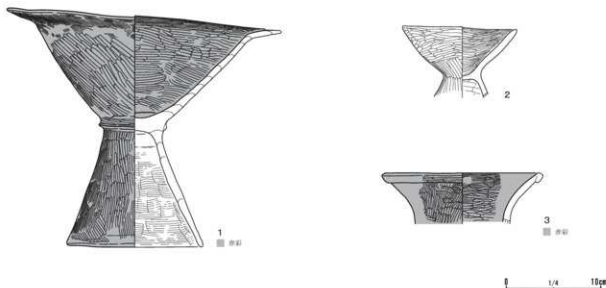
第99図 654号住居跡(1/50)



- 1層 硬褐色土 粘土ブロックを含む。しまり中。
 2層 硬褐色土 粘土小ブロックを少量含む。ローム殻子を少量含む。しまり中。
 3層 黒褐色土 粘土小ブロックを少量含む。しまり中。
 4層 硬褐色土 粘土ブロックを多数に含む。しまり中。
 5層 赤褐色土 粘土土塊。上面部は（火痕跡）。しまり中。
 6層 硬褐色土 粘土小ブロックを少量含む。ロームブロックを少量含む。しまり中。
 7層 硬褐色土 ロームブロックを多数に含む。しまり中や中強。
 8層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。



第100図 654号住居跡・掘り方・遺物出土状態 (1/30・1/60)



第101図 654号住居跡出土遺物(1/4)

発掘番号 図版番号	器物 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	製形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第101図1 図版 47-1-1	高杯	口縁部～ 腹部 80%	口 28.8 高 25.2 脚 14.0	頸状口縁／腹部接合部に 断面三角形の横溝帯(凸 帯)を有する／腹部は長 大で緩やかに外方に開く	内面：環部は横方向のヘラ磨き、腹部は横方向のハケ目調整 後、外面：口縁部～口縁部は縦方向のハケ目調整後、口縁 部のみ横ナデ、環部は斜方向のヘラ磨き、腹部接合部は横 方向のヘラ磨き、腹部は縦方向のハケ目調整後、縦・斜方 向のヘラ磨き、底部は横ナデ／環部内面及び外面全面赤彩	にぶい微褐色／砂 粒・小礫中量、長 石少量	床面上 (北壁石外)
第101図2 図版 47-1-2	高杯	口縁部～ 腹部 72%	口 11.9 高 [7.6]	環部は口徑に比して器高 が高く、深身である／口 縁部は外縁する／腹部は ハの字状に外方に開く	内面：環部は横方向のヘラ磨き、腹部は横方向のヘラナデ ／外面：口縁部は横ナデ、上半部は横方向のヘラ磨き、 下半部～腹部は縦方向のヘラ磨き	にぶい褐色／砂粒 中量、シャモット・ 石灰少量	床面上 (北西コー ナー)
第101図3 図版 47-1-3	壺	口縁部～ 頸部 破片	口 [16.0] 高 [5.4]	折返し口縁／口縁部に溝 を有し、口縁部は外反す る	内面：縦方向のヘラ磨き／外面：口縁部は横方向のヘラ磨 き、頸部は縦方向のハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き／内 外面赤彩	にぶい褐色／砂粒 中量、シャモット・ 石灰・小礫少量	床面上 (貯蔵穴 北側)

第29表 654号住居跡出土土器一覽

655号住居跡

遺 構 (第102～104図)

[位 置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 中世以降の畝状遺構群及び攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸 3.62 m / 短軸 3.31 m / 確認面からの深さ 0.23 m。壁：ほ
ぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-44°-W。壁溝：検出されなかった。床面：壁際及び住居中央を
除き、分断された状態で硬化面を検出した。貼床はやや薄く、3～8cmの厚さで施されていた。炉：住
居中央からやや北方向に振れて位置する。楕円形を呈する地床炉で、中央部に被熱による赤化が確認さ
れた。規模：長軸 57cm / 短軸 44cm / 深さ 15cm。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかつ
た。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：住居全体に2～10cm程度
の深さの掘り込みが確認された(8・9層)。また、北コーナーから北東壁にかけて不整形の掘り込み
(深さ 10～12cm程度)が確認された。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 住居東半部を中心に鉢・壺形土器が出土した。

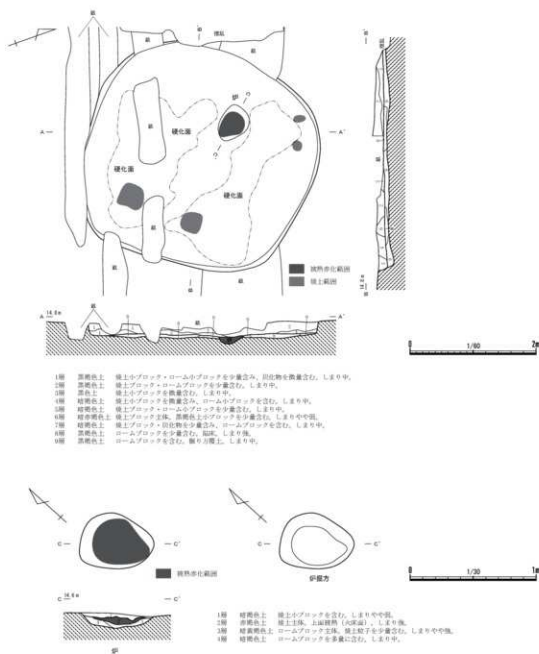
[時 期] 弥生時代後期後葉～末葉。

[所 見] 床面上から焼土や炭化材(柱状・板状)がまとめて検出されたことから、焼失住居と推測される。炭化材は住居西コーナーから南西壁沿いにかけて特に集中して検出された。

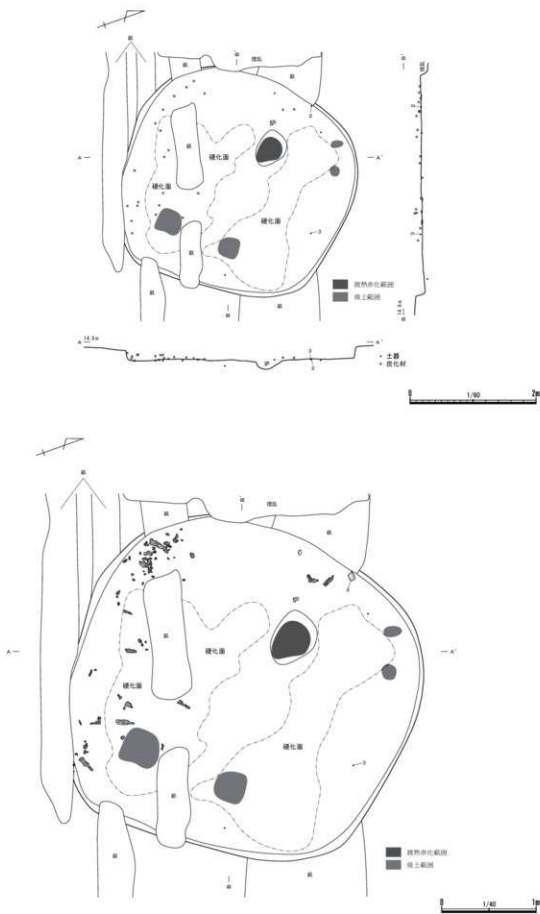
[遺 物] (第105図、図版47-2、第30表)

[土 器] (第105図1～3、図版47-2-1～3、第30表)

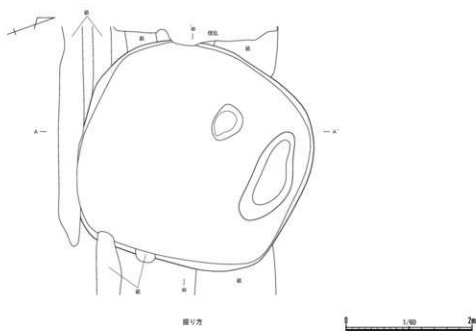
1は鉢形土器、2・3は壺形土器である。



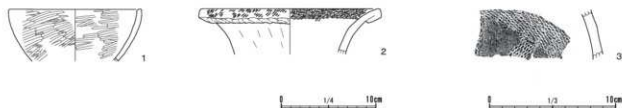
第102図 655号住居跡(1/60・1/30)



第103図 655号住居跡遺物出土状態 (1/60・1/40)



第104図 655号住居跡掘り方(1/60)



第105図 655号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・装飾等	胎土	出土位置
第105図1 図版 47-2-1	鉢	口縁部～ 体部 10%	口(13.9) 底(5.5)	口縁部は内傾し、底を有する。口縁部は僅かに内湾する。体部は内湾しながら立ち上がる。	内面：横方向のヘラ書き。外面：口縁部は横ナデ。口縁部～体部は斜・縦方向のハケ目調整後、斜・横方向のヘラ書き。	褐色/シャモット/中量、石英・砂粒少量	層土下層一拵
第105図2 図版 47-2-2	甗	口縁部～ 体部 15%	口(18.8) 高(4.8)	短足の複合口縁。口縁部は大きく外反する。	内面：口縁部に斜織文TR(下腹部端未結節)無文。体部はナデ。外面：口縁部に斜織文TR無文。複合口縁部下端は折面押捺。頸部は横方向のヘラナデ後ナデ。	にぶい黄褐色/シャモット/砂粒少量	床面上(北西壁寄り)
第105図3 図版 47-2-3	甗 胴部 破片	胴部 破片	厚0.8	僅かに内湾する。	内面：横方向の丁寧なヘラナデ(ヘラ書きに近い)。外面：縦方向のヘラ書き。縦目状筋を文を斜格子状に無文、無文部あり。	にぶい黄褐色/砂粒・小礫微量	床面上(土家壁付近)

第30表 655号住居跡出土土器一覧

第4節 古墳時代後期の遺構・遺物

(1) 概要

古墳時代後期の遺構については、住居跡1軒(31H)が検出された(第106図)。時期は出土土器から古墳時代後期(5世紀末葉)と考えられ、本遺跡でこれまでに確認されているカマドを有する住居跡では最古段階に位置付けられる。

(2) 住居跡

31号住居跡

遺 構 (第107～110図)

[位 置] (A・B-4・5) グリッド。

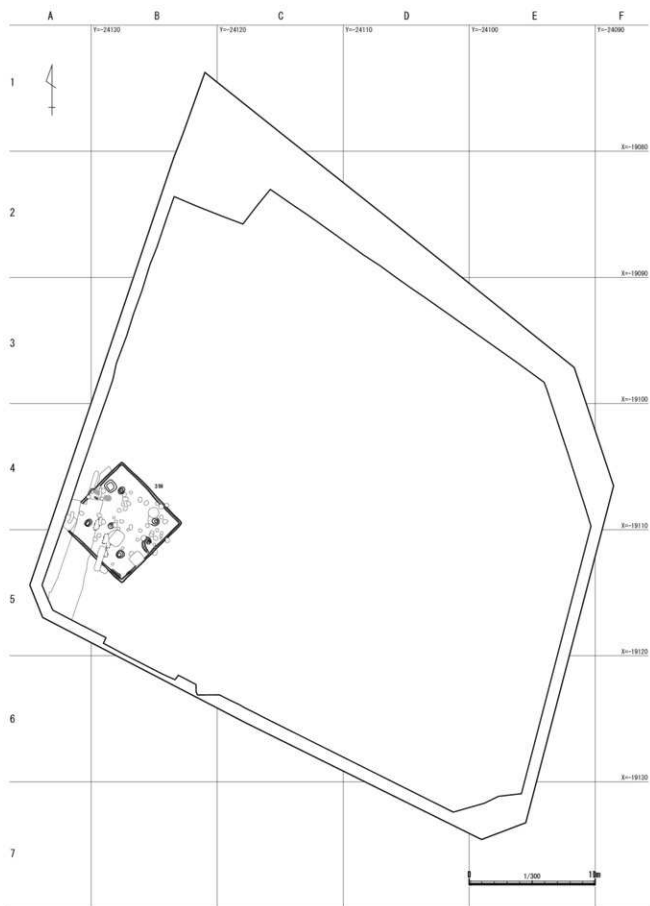
[検出状況] 中世の地下式坑(956D)、中世以降の土坑5基(961～965D)・ピット39本(38・40・56～60・63～68・87～112P)の他、複数の攪乱に切られ、遺存状態はあまり良好ではない。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸6.92m/短軸6.86m/確認面からの深さ0.30m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-45°-W。壁溝：カマド及び他遺構・攪乱に切られる部分を除き、全周する。上幅14～21cm/下幅5～12cm/深さ13～26cm。床面：住居南西部で疎らに硬化面を検出した。貼床は薄く、4～6cmの厚さで施されていた。カマド：北西壁の中央部に位置する。主軸方位はN-45°-W。長さ99cm/幅83cm以上/壁への掘り込み16cm。袖部はローム層を馬蹄状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられるが、南西側は攪乱に切られ、片側(北東側)のみ残存する。貯蔵穴：カマド右脇で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、土師器壺・甎形土器が1点ずつ出土した。規模：長軸88cm/短軸81cm/床面からの深さ56cm。柱穴：P1～P4は主柱穴と考えられる。P1は深さ73cm、P2は深さ73cm、P3は深さ75cm、P4は深さ76cmを測る。入口施設：P5は入口梯子穴と考えられる。平面形は不整形を呈する。規模：長軸26cm/短軸24cm/床面からの深さ42cm。周囲には幅17～30cm、高さ6～7cmの凸堤が馬蹄形に巡る。その他付帯施設：カマド・貯蔵穴に近接して、カマド袖部に用いられていたと考えられる粘土を覆土としたP6が検出された。平面形は概ね隅丸方形を呈する。規模：長軸61cm/短軸47cm/床面からの深さ17cm。炉：住居中央やや西寄り、楕円形の掘方を有する粘土板炉が検出された。攪乱により上面は削平され、遺存状態はあまり良好ではなかったが、検出された範囲内では火皿全面に被熱による赤化が確認された。また、火皿の周囲では北側を主体に広く灰が検出された。火皿規模：長軸27cm以上/短軸10cm以上/厚み1～2cm。掘方規模：長軸51cm/短軸42cm/深さ8cm。掘り方：住居全体に2～8cm程度の深さの掘り込みが確認された(16・17層)。また、P3の西・北側は他の箇所よりも更に4～6cm程度深く不整形に掘り込まれている。その他、南西壁沿いでは壁溝に直交する溝状の掘り込み(幅18～28cm、深さ6～11cm)も2か所確認された。内1か所はP3と壁溝を結ぶ間仕切り溝とも考えられる。

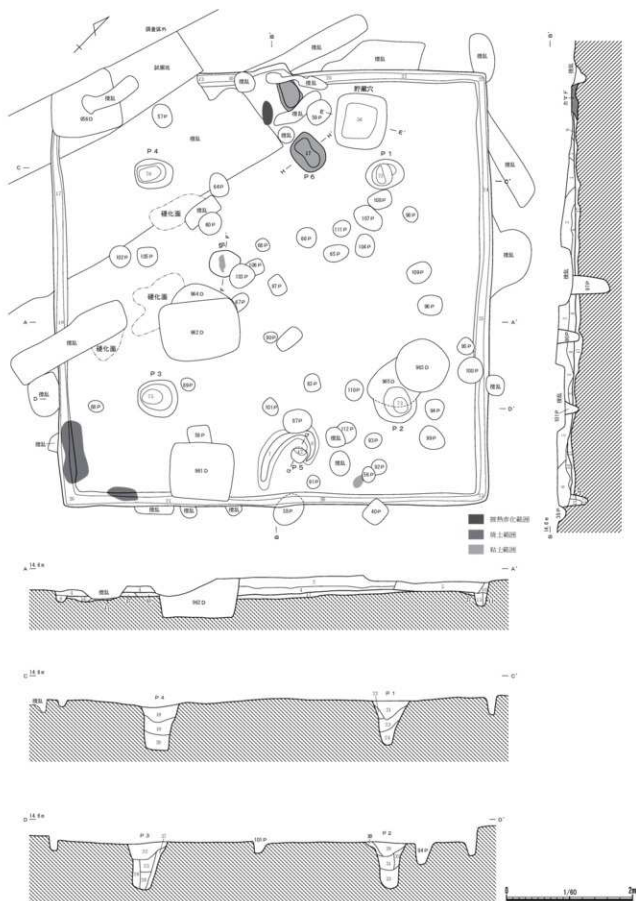
[覆 土] 15層に分層される。

[遺 物] 住居東コーナー、貯蔵穴内及びその周辺を中心に、土師器杯・鉢・壺(短頸壺・小型壺)・甎・甎形土器、ミニチュア土器、石製品(砥石)が出土した。

[時 期] 古墳時代後期(5世紀末葉)。



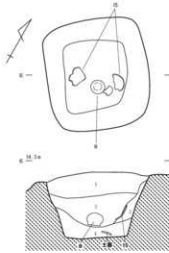
第106図 古墳時代後期遺構分布図(1/300)



第107図 31号住居跡 (1/60)

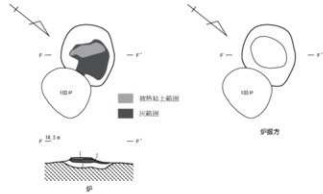
- 1層 埴輪粘土 コームブロックを含む。しまり中。
- 2層 埴輪粘土 コーム粘土を多数含む。しまり中。
- 3層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。しまり中。
- 4層 埴輪粘土 コーム粘土を多数含む。しまり中や中強。
- 5層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。しまり中。
- 6層 埴輪粘土 コーム粘土を多数含む。しまり中。
- 7層 埴輪粘土 埴土粘土を含む。しまり中。
- 8層 埴土 埴土粘土・コーム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 9層 埴輪粘土 コームブロックを含む。しまり中や中強。
- 10層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。しまり中や中強。
- 11層 埴土 コーム粘土を多数含む。しまり中や中強。
- 12層 埴輪粘土 コームブロックを含む。しまり中。
- 13層 埴輪粘土 コームブロック主体(初期)。しまり中。
- 14層 埴輪粘土 コーム粘土・コーム小ブロックを少量含む。埴泥。しまり中や中強。
- 15層 埴輪粘土 コームブロックを含む。埴泥。しまり中。
- 16層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。埴り方層上。しまり中や中強。
- 17層 埴輪粘土 コームブロックを含む。埴り方層上。しまり中や中強。

- 18層 埴輪粘土 コーム小ブロックを少量含む。P4層上。しまり中や中強。
- 19層 埴輪粘土 コーム粘土を含む。P4層上。しまり中や中強。
- 20層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。P4層上。しまり中や中強。
- 21層 埴輪粘土 コームブロックを少量含む。P4層上。しまり中。
- 22層 埴輪粘土 コーム粘土を多数含む。P1・P2層上。しまり中。
- 23層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。P1層上。しまり中。
- 24層 埴輪粘土 コームブロック主体。P1層上。しまり中。
- 25層 埴輪粘土 コーム小ブロックを多数含む。P2層上。しまり中。
- 26層 埴輪粘土 コーム粘土・ブロックを含む。P3層上。しまり中。
- 27層 埴輪粘土 コーム粘土・ブロックを多数含む。P3層上。しまり中。
- 28層 埴輪粘土 コームブロックを含む。P2層上。しまり中。
- 29層 埴輪粘土 コーム小ブロックを多数含む。P2層上。しまり中や中強。
- 30層 埴土 コームブロックを含む。P2層上。しまり中。
- 31層 埴土 コーム粘土を含む。P2層上。しまり中。
- 32層 埴輪粘土 コーム主体。P2層上。しまり中。
- 33層 埴輪粘土 コームブロック主体。P2層上。しまり中や中強。

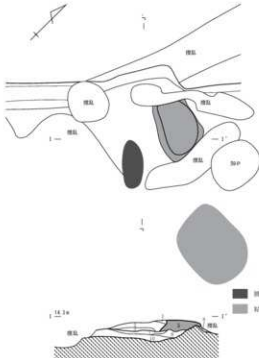


貯蔵穴

- 1層 埴輪粘土 コーム粘土を少量含む。しまり中。
- 2層 埴輪粘土 コーム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 埴輪粘土 コームブロックを多数含む。しまり中。
- 4層 埴輪粘土 コームブロックを含む。しまり中。



- 1層 灰白色粘土 上面着しく埴輪。灰。しまり強。
- 2層 埴輪粘土 灰を多数含む。埴土小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 埴輪粘土 灰を少量含む。しまり中。



カマド



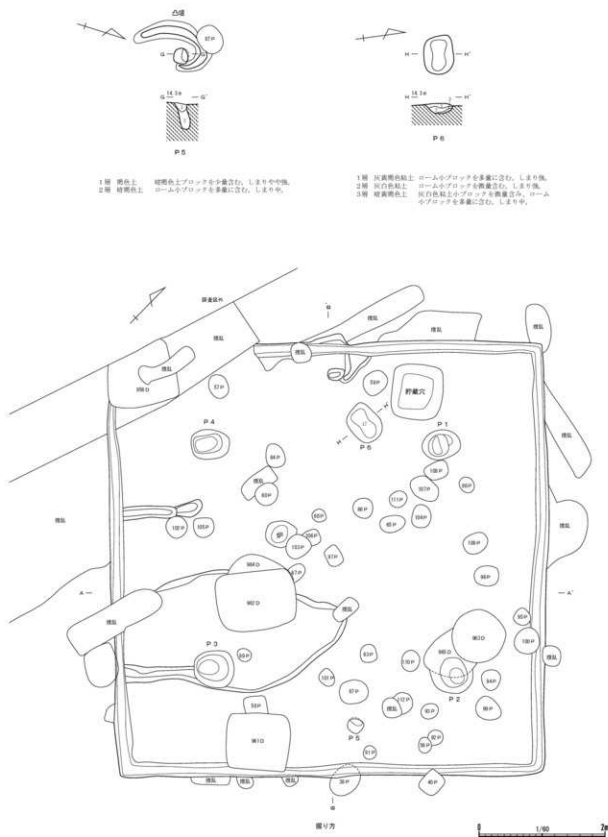
土甕

- 1層 埴輪粘土 灰白色粘土小ブロックを含む。埴土小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 埴輪粘土 埴土ブロックを含む。コーム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 埴土 コーム小ブロックを含む。しまり中。
- 4層 埴輪粘土 埴土小ブロックを含む。コーム粘土を少量含む。しまり中。
- 5層 灰白色粘土 カマド壁。しまり強。
- 6層 埴輪粘土 上面着しく灰。埴土小ブロックを多数含む。しまり中や中強。
- 7層 埴輪粘土 カマド壁り方層上。埴土小ブロックを多数含む。コームブロックを多数含む。しまり中。
- 8層 埴輪粘土 カマド壁り方層上。コーム主体。灰白色粘土小ブロックを少量含む。しまり中や中強。
- 9層 埴輪粘土 内部構造り方層上。コームブロックを含む。しまり中や中強。
- 10層 埴輪粘土 カマド壁り方層上。コーム土壁。しまり強。
- 11層 埴輪粘土 壁り方(内)層上。埴土小ブロック・コーム粘土を少量含む。しまり中。

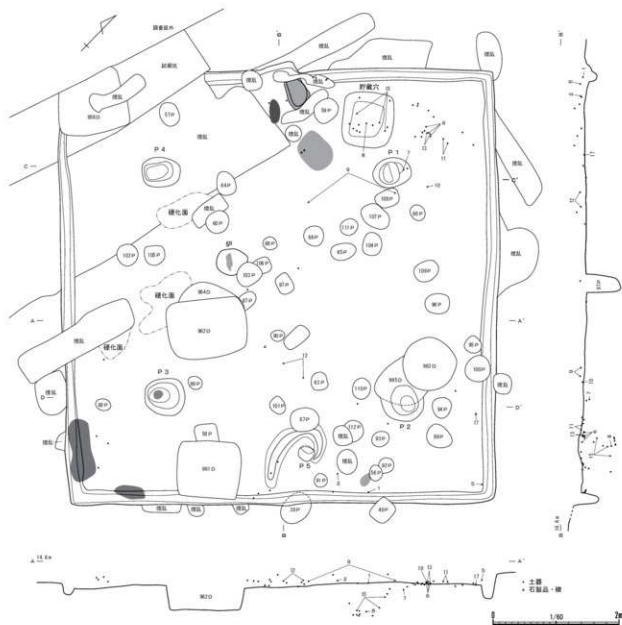
1/30

第108図 31号住居跡貯蔵穴・炉・カマド(1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第109図 31号住居跡P5・P6・掘り方(1/60)



第110図 31号住居跡遺物出土状態(1/60)

【所見】 炉に関しては、本住居跡に切られた先行時期（古墳時代中期以前）の住居跡の付帯施設である可能性も考えられる。

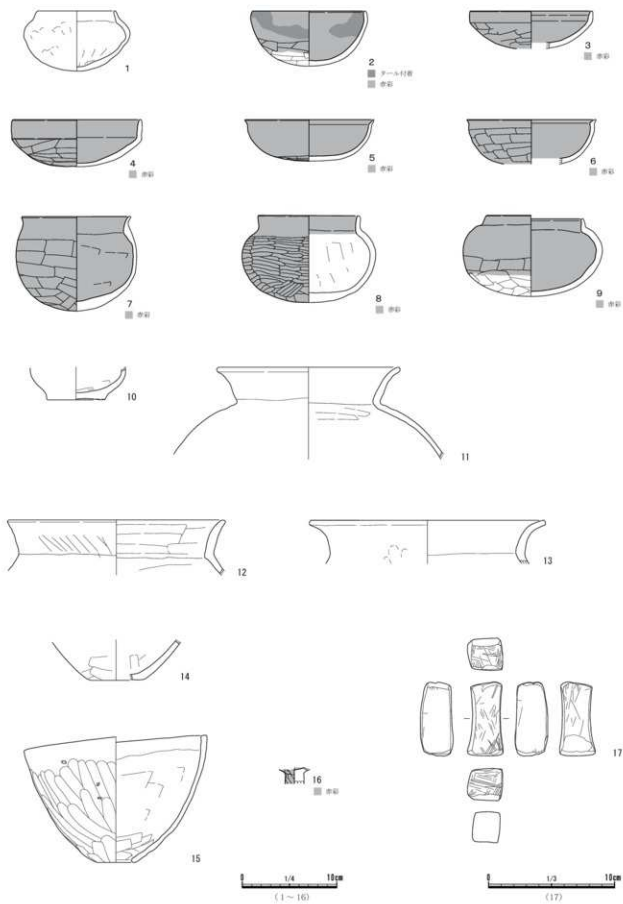
【遺物】（第111図、図版47-3・48、第31・32表）

【土器】（第111図1～16、図版47-3・48-1～16、第31表）

1～6は土師器环形土器、7は土師器鉢形土器、8～10は土師器壺形土器（8・9は短頸壺、10は小型壺）、11～14は土師器甕形土器、15は土師器甕形土器、16はミニチュア土器である。

【石製品】（第111図17、図版48-17、第32表）

17は凝灰岩製の砥石である。6面全面を砥面として使用している。



第111図 31号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

探検番号 図版番号	経緯 状況	部位 遺存状態	法量 (cm)	形状・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第111図1 図版 47-3-1	土師器 環	完形	□ 8.1 高 6.4	頸系有段状/やや深身 /口縁部は短く内縮する /口縁部と体部の境に段 を有する	内面：口縁部は横ナデ、体部～底部は横方向のヘラナデ後ナデ/外面：口縁部は横ナデ、体部～底部は筋面押付後ナデ	にじみ褐色/小礫 中量、石英・長石・ 砂粒少量	床面上 (南東部溝 沿い)
第111図2 図版 47-3-2	土師器 環	口縁部～ 底部	□ 11.8 高 5.8	赤色系無段状/均整/口 縁部は短く内縮する	内面：横ナデ/外面：口縁部は横ナデ、底部は横方向のヘラナデ/内面全面赤彩/外面は底部周縁を除き赤彩 (底部周縁のみ黒彩をふき取った可能性あり)/口縁部 内外面の約半面にわたって、帯状にタール付着	にじみ褐色/砂 粒中量、石英・石 英・褐色砂粒少量 付着	床面上 (南東部溝 付近)
第111図3 図版 47-3-3	土師器 環	口縁部～ 底部	□ (12.8) 高 [4.0]	赤色系有段状/口縁部は 僅かに内縮する/口縁部 と体部の境に緩やかに段 を有する	内面：横ナデ/外面：口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラナデ/内外面全面赤彩	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・小礫 少量、金雲母微量	覆土下層 一括
第111図4 図版 47-3-4	土師器 環	口縁部～ 底部	□ (13.4) 高 [5.0]	赤色系有段状/口縁部は ほぼ直立し、口縁部は僅 かに内縮する/口縁部と 体部の境に明瞭な段を 有する	内面：横ナデ/外面：口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラナデ/内外面全面赤彩	褐色/砂粒中量、 金雲母・小礫少 量、長石微量	覆土下層 一括
第111図5 図版 47-3-5	土師器 環	口縁部～ 底部	□ 13.5 高 4.4	内斜口縁環/全体に扁平 な形状を呈する/口縁部 と体部の境に明瞭な段を 有する	内面：横ナデ/外面：口縁部は横ナデ、底部は横方向の ヘラナデ/内外面全面赤彩	にじみ褐色/小礫 中量、石英・長石・ 砂粒少量	床面上 (東口ローター)
第111図6 図版 47-3-6	土師器 環	口縁部～ 底部	□ (13.5) 高 [4.7]	内斜口縁環/口縁部と体 部の境に明瞭な段を有 する	内面：横ナデ/外面：口縁部は横ナデ、体部～底部は横 方向のヘラナデ/内外面全面赤彩	にじみ褐色/石 英・砂粒・小礫少 量、長石微量	床面上 (貯蔵穴 北東部)
第111図7 図版 47-3-7	土師器 鉢	口縁部～ 底部	□ 11.4 高 10.0	口縁部は短く外反する/ 口縁部と体部の境に段を 有する/体部は球形を呈 する/底部は丸底である	内面：口縁部は横ナデ、体部～底部は横方向のヘラナ デナデ/外面：口縁部は横ナデ、体部～底部は横方向の ヘラナデ/内外面全面赤彩	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・小礫 少量	P1 覆土 (底上 4.0m)
第111図8 図版 47-3-8	土師器 壺	ほぼ完形	□ 10.5 高 9.2	頸部系/口縁部は直立な いし外縮する/頸部は扁 平な形状を呈する/底部 は丸底だが、内面側は平 坦で壁厚も厚く、安定し て締まる	内面：口縁部～頸部は横ナデ、頸部～底部は横方向のヘ ラナデナデ/外面：口縁部～頸部は横方向のヘラナ デ/外面は丸底全面赤彩/内面はほぼ全面に保付着	にじみ褐色/石 英・長石・角閃石・ 砂粒・小礫少量	貯蔵穴覆土 (底上 8cm)
第111図9 図版 47-3-9	土師器 壺	口縁部～ 底部	□ 10.0 高 8.6	短頸部/口縁部は短く内 縮する/頸部は鋭角に屈 曲する/頸部は扁平な形 状を呈する/底部は丸底 である	内面：口縁部は横ナデ、頸部～底部はナデ/外面：口縁 部～頸部は横ナデ、頸部は横方向のヘラナデ/底部は横 方向のヘラナデ/底部外面を除き、内外面赤彩	にじみ褐色/砂 粒中量、石英・小 礫少量、長石微量	床面上 (P1 南東部、 中央部北 寄り)
第111図10 図版 48-10	土師器 壺	頸部～ 底部	高 [3.5] 底 6.1	小型壺/頸部は丸みを もって立ち上がる/底部 はドーナツ状で、中央部 が凹む	内面：横方向のヘラナデ後ナデ/外面：頸部はナデ、底部 は外縁部に粘土掘削付後ナデ	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・小礫 少量	床面上 (P1 北東部)
第111図11 図版 48-11	土師器 甕	口縁部～ 底部	□ (19.0) 高 [9.7]	口縁部は大きく外反す /頸部は鋭角な「く」字 状に屈曲する	内面：口縁部は横ナデ、頸部～底部は横方向のヘラナ デ/外面：口縁部は横ナデ、頸部～肩周りはナデ	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・小礫 少量、当り微量	床面上 (貯蔵穴 北東部)
第111図12 図版 48-12	土師器 甕	口縁部～ 底部	□ (22.6) 高 [5.8]	口縁部は外縮しながら 立ち上がる/頸部は「く」 字状に屈曲する	内面：口縁部は横ナデ、口縁部～頸部は横方向のヘラナ デ/外面：口縁部は横ナデ、口縁部は幅広い横ナデ、頸部は 斜方向のヘラナデ後ナデ	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・白色 粘土・小礫少量	床面上 (中央部 付近)
第111図13 図版 48-13	土師器 甕	口縁部～ 底部	□ (24.7) 高 [4.6]	口縁部に面を有する/口 縁部は大きく外反する	内面：横ナデ/外面：口縁部～口縁部は横ナデ、頸部は 筋面押付後ナデ	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・小礫 少量、長石微量	床面上 (貯蔵穴 北東部)
第111図14 図版 48-14	土師器 甕	頸部～ 底部 破片	高 [6.3] 底 (6.0)	頸部は内湾英域に立ち上 がる/底部は平直で、中央 部に向かって僅かに凹む	内面：縦・斜方向のヘラナデ/外面：頸部は横方向のヘ ラナデ、底部はナデ	褐色/砂粒・小礫 少量、長石微量	貯蔵穴 甕一括
第111図15 図版 48-15	土師器 甕	口縁部～ 底部	□ 19.3 高 13.4 底 3.8	鉢形/口縁部に面を有 する/口縁部～頸部は内 湾しながら立ち上がる/底 部は筒状式	内面：口縁部は横ナデ、頸部は横方向のヘラナデ後ナ デ、頸部下端～底部は横方向のヘラナデ/外面：口縁部は横 ナデ、頸部は斜方向のヘラナデ、縦・斜方向のナデ(ス リッパ)が、底部は縦方向のヘラナデ/頸部外面を中心に、 イネ科雑実3種を6か所付着	にじみ褐色/砂粒 中量、石英・小礫少 量	貯蔵穴覆土 (底上 1.2m)
第111図16 図版 48-16	ミニ チュア 土師	頸部	高 [1.7]	高環形/不底部は中央部 が僅かに凹む/頸部は中 実で、柱状を呈する	内面：ナデ/外面：ナデ、筋面によるナデ/内外面赤彩	明赤褐色/砂粒・ 小礫少量	覆土下層 一括

第31表 31号住居跡出土土器一覽

探検番号 図版番号	品類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第111図17 図版 48-17	碇石	凝灰岩	5.8	2.8	2.4	63.69	全6面を砥面として使用/上面・下面を粗砥、表面・裏面を 滑砥、右面・左面を仕上げ砥として使い分けられた可能性が考え られる	床面上 (北東部溝 沿い)

第32表 31号住居跡出土土製品一覽

第5節 中世以降の遺構・遺物

(1) 概要

中世以降の遺構については、掘立柱建築遺構1棟(5T)、土坑26基(952～977D)、井戸跡2基(11・12W)、畝状遺構群1か所、ビット112本が検出された(第112図)。検出された土坑のうち、956・964Dの2基は地下式坑である。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は原則として中世以降と表記した。

(2) 掘立柱建築遺構

5号掘立柱建築遺構

遺 構 (第113図)

[位 置] (B・C-5) グリッド。

[検出状況] 959Dと重複する(新旧関係は不明)。P6・7は攪乱に切られる。

[構 造] 平面形式：桁行3間×梁行1間、東西棟の側柱建物。規模：桁行総長5.36m/梁行総長3.53m。主軸方位：N-74°-W。柱穴：P1～P8の8本を検出。平面形：楕円形ないし不整形円形。規模：長軸0.45～0.57m/短軸0.34～0.49m/確認面からの深さ0.45～0.78m。柱間間隔：〈桁行〉P1-2間1.78m、P2-3間1.80m、P3-4間1.78m、P5-6間1.79m、P6-7間1.92m、P7-8間1.65m、〈梁行〉P1-5間3.38m、P4-8間3.53m。

[覆 土] 暗褐色土・黒褐色土を基調とし、ロームブロックの多寡により互層状を呈する。P4・5・7では柱痕跡が確認された。

[遺 物] 北西隅を形成するP1・2・5から陶器(碗・香炉)計4点が出土した。

[時 期] 近世(17世紀後葉)。

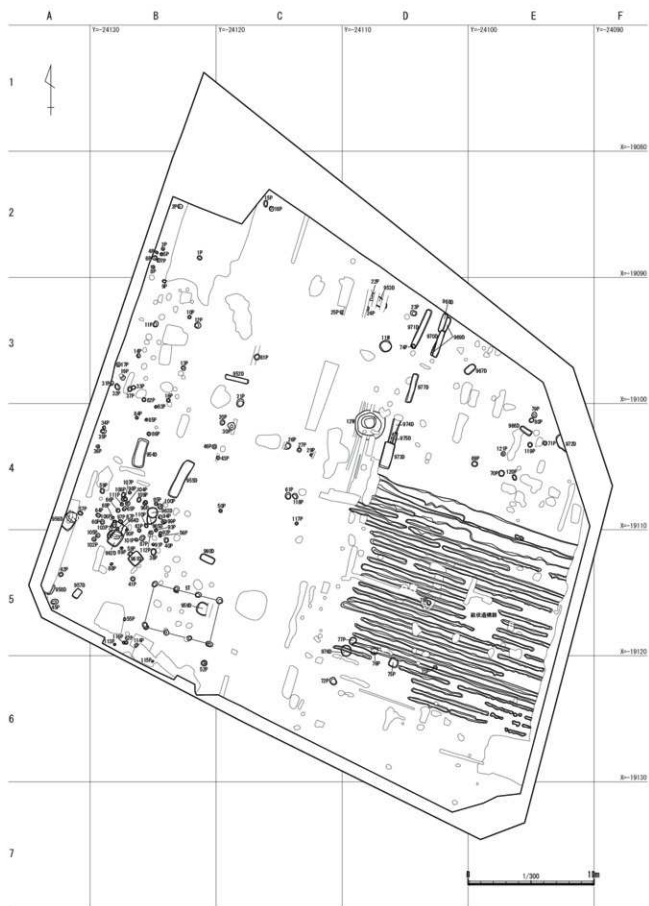
遺 物 (第114図、図版49-1、第33表)

[陶 器] (第114図1～4、図版49-1-1～4、第33表)

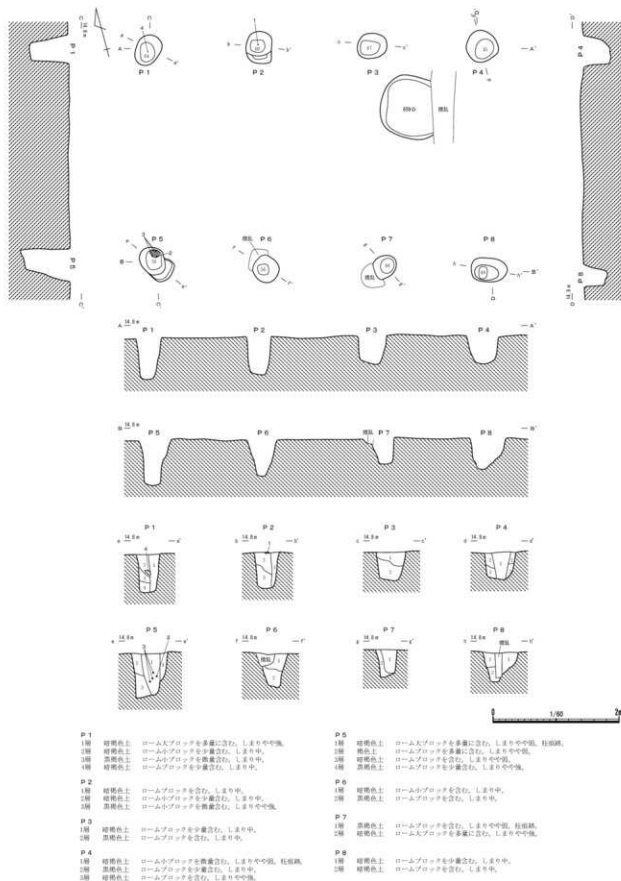
1～4は陶器で、1はP2から出土した瀬戸・美濃系の天目形中碗、2・3はP5から出土した肥前系(嬉野)の中碗、4はP1から出土した瀬戸・美濃系の香炉である。4点の陶器はいずれも口縁部が概ね半周欠損しており、人為的な打ち欠きが想定される。

(3) 土 坑

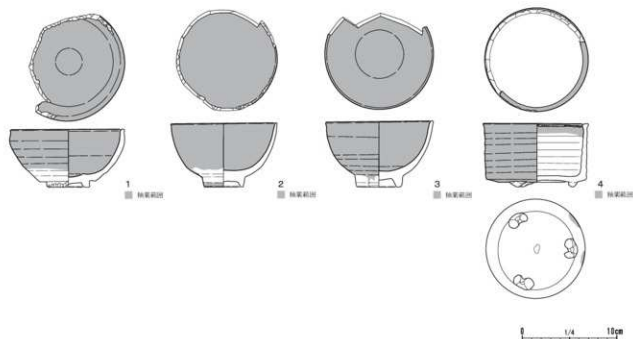
平面形及び細部の形態的な特徴を城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする(尾形・深井・青木 2005)。F群については、中野遺跡第95地点(徳留・尾形・青木 2017)の分類を使用し、G群については、中野遺跡第102地点(尾形・大久保・深井・青木 2019)の分類を使用する。検出された土坑の総数は26基である。基本構造については第35表を参照されたい。なお、下記分類のうち、A・F・G群に該当する遺構は本地点では検出されなかった。



第 112 図 中世以降の遺構分布図 (1 / 300)



第113図 5号掘立柱建築遺構(1/60)



第114図 5号掘立柱建築遺構出土遺物(1/4)

発掘番号 図版番号	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (m)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第114図1 図版 49-1-1	陶器 碗	□縁部～ 底部	□(117) 高 6.1 底 4.3	高台上側面を水平 に削り出し、丸みを 持って立ち上がる。 □縁下部で窄み、□唇 部で外反する。	天目形中碗/内外面:天目輪/瀬戸・ 美濃系	黄白色/砂粒少量	近世 1675～1700年代	P 2
第114図2 図版 49-1-2	陶器 碗	□縁部～ 底部	□(113) 高 6.8 底 4.1	小高台から丸みを 持って立ち上がる。	中碗/内外面:割縁輪/肥前系(磯 野)	黄白色/砂粒中量	近世 1690～1740年代	P 5
第114図3 図版 49-1-3	陶器 碗	□縁部～ 底部	□112 高 7.0 底 4.6	小高台から丸みを 持って立ち上がる。	中碗/内外面:割縁輪/肥前系(磯 野)	黄白色/砂粒中量	近世 1690～1740年代	P 5
第114図4 図版 49-1-4	陶器 香炉	□縁部～ 底部	□(111) 高 6.7 底 8.1	底部ベタ底/三足 平筒形で外面輪縁 目	外面:鉄輪。内面、底部:無輪/ □縁部打痕/瀬戸・美濃系	黄白色/砂粒少量	近世 1675～1700年代	P 1

第33表 5号掘立柱建築遺構出土陶器一覧

A群 方形の土坑 0基

1類 袋状の構造を呈する 0基

2類 袋状の構造ではなく、単純構造を呈する 0基

B群 長方形の土坑 18基(1類-3基、2類-15基、3類-0基、4類-0基)

1類 溝状土坑 3基(955・969・971 D)

2類 幅狭の長方形土坑 15基(952・954・957・958・960～962・966～968・970・
973～975・977 D)

3類 幅広の長方形土坑 0基

4類 火床部を有する土坑 0基

C群 円形・楕円形の土坑 5基(953・959・963・965・976 D)

D群 不整形の土坑 1基(972 D)

E群 地下室・地下坑、地下式坑 2基（1類-2基、2類-0基）

1類 1 竪坑1 主体部タイプ 2基（956・964 D）

2類 特殊タイプ 0基

F群 T字形の土坑 0基

G群 その他 0基

B群 長方形の土坑（第115～117図、第35表）

18基検出された。本地点では最も多く検出された群であり、全26基中の約7割（69.2%）を占める。更に1類3基、2類15基、3類0基、4類0基に細分され、1・2類に限定される状況が認められる。分布に関しては1区南西部の（B-4・5）グリッド、2区北西部の（D-3・4）グリッド内に集中する傾向が認められる。

B群1類 溝状土坑（第115図、第35表）

955・969・971 Dの3基が該当する。長軸方位はほぼ合致し、N-25～28°-Eの範囲内に納まる。

955号土坑

遺構（第115図）

[位置]（B-4）グリッド。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸3.21m/短軸0.79m/深さ0.32m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 陶器1点（碗）が出土した。

[時期] 近世（1670～1780年代）。

遺物（第121図、図版49-2、第34表）

[陶器]（第121図1、図版49-2-1、第34表）

1は瀬戸・美濃系の天目形中碗である。

969号土坑

遺構（第115図）

[位置]（D-3）グリッド。

[検出状況] 968・970 Dに切られる。971 Dと並列して構築される。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸3.35m/短軸0.35m以上/深さ0.20m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-25°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

971号土坑

遺構 (第115図)

[位置] (D-3) グリッド。

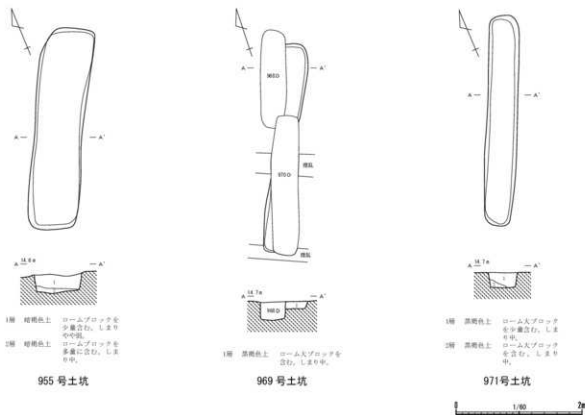
[検出状況] 74 Pを切る。969 Dと並列して構築される。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸 3.35 m / 短軸 0.48 m / 深さ 0.28 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-26°-E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。



第115図 土坑 B群1類 (1/60)

B群2類 幅狭の長方形土坑 (第116・117図、第35表)

952・954・957・958・960～962・966～968・970・973～975・977 Dの15基が該当する。
概ね南北軸を示すものが主体を占め、主軸方向はB群1類とほぼ合致する。

952号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡(640 Y)を切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.90 m / 短軸 0.36 m / 深さ 0.29 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N - 76° - W。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

954号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (B-4) グリッド。

[検出状況] 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 (641 Y) を切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.32 m / 短軸 0.88 m / 深さ 0.35 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 16° - E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

957号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (A-5) グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 0.78 m / 短軸 0.52 m / 深さ 0.39 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N - 37° - E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

958号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (A-5) グリッド。

[検出状況] 北・西側は攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形か。規模：長軸 0.84 m以上 / 短軸 0.71 m以上 / 深さ 0.49 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 66° - W。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

960号土坑

[遺 構] (第116図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.18m/短軸0.57m/深さ0.20m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-64°-W。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 陶器1点(皿)が出土した。

[時 期] 近世(1670～1770年代)。

[遺 物] (図版49-2、第34表)

[陶 器] (図版49-2-1、第34表)

1は瀬戸・美濃系の小皿である。

961号土坑

[遺 構] (第116図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡(31H)、中世以降のピット(58P)を切る。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.00m/短軸0.90m/深さ0.36m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-49°-E。

[覆 土] 3層に分層される。

[遺 物] 土器1点(皿)が出土した。

[時 期] 中世(15～16世紀)。

[遺 物] (第121図、図版49-2、第34表)

[土 器] (第121図1、図版49-2-1、第34表)

1は非江戸在地系の小皿である。

962号土坑

[遺 構] (第116図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡(31H)、中世以降の土坑(964D)を切る。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.26m/短軸0.93m/深さ0.41m。壁：80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-39°-E。

[覆 土] 6層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世以降。

966号土坑

[遺 構] (第116図)

[位 置] (E-4) グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.02 m / 短軸 0.45 m / 深さ 0.30 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 56° - W。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

967号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (D・E-3) グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 0.98 m / 短軸 0.56 m / 深さ 0.18 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 50° - E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

968号土坑

遺構 (第116図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 969 Dを切り、970 Dに切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.56 m / 短軸 0.42 m / 深さ 0.30 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N - 19° - E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

970号土坑

遺構 (第117図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 968・969 Dを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.21 m / 短軸 0.43 m / 深さ 0.41 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N - 20° - E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

973号土坑

遺構 (第117図)

[位置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 974・975 Dを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.09 m／短軸 0.85 m／深さ 0.44 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-15°-E。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 磁器1点(碗)が出土した。

[時期] 近世(1630～1650年代)。

[遺物] (第121図、図版49-2、第34表)

[磁器] (第121図1、図版49-2-1、第34表)

1は肥前系(初期伊万里様式)の中碗である。

974号土坑

[遺構] (第117図)

[位置] (D-4)グリッド。

[検出状況] 975 Dを切り、973 D及び攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.93 m以上／短軸 0.54 m／深さ 0.26 m。壁：75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-16°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

975号土坑

[遺構] (第117図)

[位置] (D-4)グリッド。

[検出状況] 973・974 Dに切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 0.90 m以上／短軸 0.41 m／深さ 0.41 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-17°-E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

977号土坑

[遺構] (第117図)

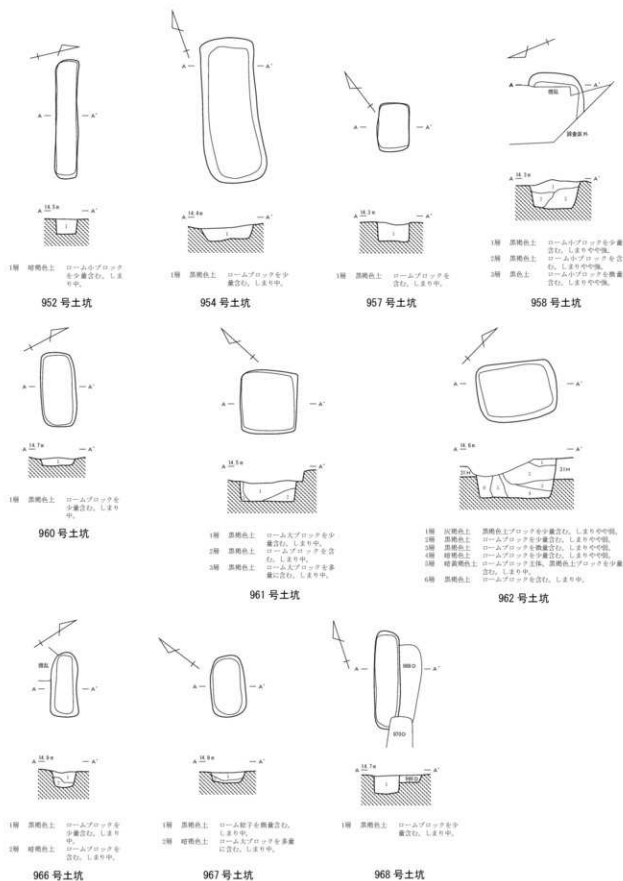
[位置] (D-3)グリッド。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 2.37 m／短軸 0.45 m／深さ 0.41 m。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-16°-E。

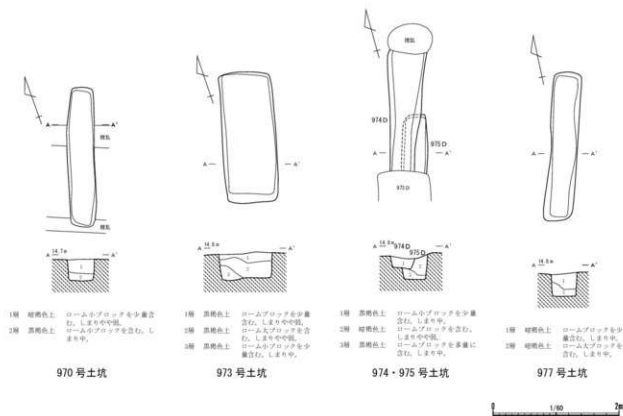
[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。



第116図 土坑 B群2類1 (1/60)



C群 円形・楕円形の土坑 (第118図、第35表)

953・959・963・965・976 Dの5基が該当する。963・965 Dは重複するが、それ以外に目立った分布の集中傾向は認められず、調査区全域に散在して検出された。

953号土坑

遺構 (第118図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 西側は攪乱に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.87 m以上/短軸0.72 m/深さ0.09 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-57°-W。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

959号土坑

遺構 (第118図)

[位置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 5 Tと重複する（新旧関係は不明）。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.98 m／短軸 0.93 m以上／深さ 0.12 m。壁：65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

963号土坑

遺構（第118図）

[位置] (B-4) グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡（31 H）、中世以降の土坑（965 D）を切る。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.86 m／短軸 0.83 m／深さ 0.14 m。壁：65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

965号土坑

遺構（第118図）

[位置] (B-4) グリッド。

[検出状況] 古墳時代後期の住居跡（31 H）を切り、中世以降の土坑（963 D）に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.78 m以上／短軸 0.71 m／深さ 0.14 m。壁：65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-23°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

976号土坑

遺構（第118図）

[位置] (C-5、D-5・6) グリッド。

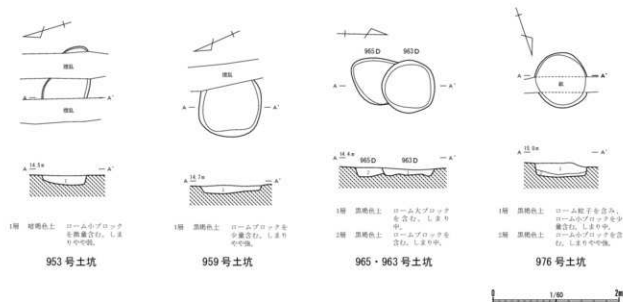
[検出状況] 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（653 Y）を切り、中世以降の畝状遺構群に切られる。

[構造] 平面形：不整形円形。規模：長軸 0.89 m／短軸 0.82 m／深さ 0.21 m。壁：40°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-21°-E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。



第118図 土坑 C群 (1/60)

D群 不整形の土坑 (第119図、第35表)

972 Dの1基が該当する。本地点では客体的なタイプである。

972号土坑

遺構 (第119図)

[位置] (E-4) グリッド。

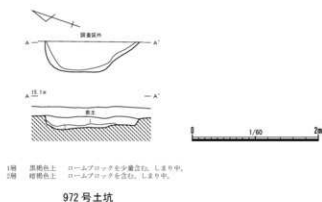
[検出状況] 東側は調査区外に延びる。

[構造] 平面形：不整形。規模：長軸1.43 m以上/短軸0.83 m以上/深さ0.13 m。壁：70°の角度で立ち上がる。長軸方位：不明。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。



第119図 土坑 D群 (1/60)

E群 地下室・地下坑、地下式坑（第120図、第35表）

956・964 Dの2基が該当する。共に地下式坑で、1類とした1竪坑1主体部タイプである。1区南西部の（A・B-4・5）グリッド内で近接して検出された。

956号土坑

遺構（第120図）

〔位置〕（A-4・5）グリッド。

〔検出状況〕南西側は調査区外に延びる。

〔構造〕地下式坑の形態をもつ。

〔主体部〕平面形：主軸に対して横長の長方形を呈する。天井部が僅かに残存し、主体部は立川ローム第Ⅳ～第Ⅴ層を掘り抜いて構築されている。規模：長軸0.94 m／短軸0.81 m／深さ0.55 m。964 D及び周辺の調査地点（第234地点等）で検出された地下式坑に比して狭小で深度も浅いため、地下式坑としての用途を果たしていたのか不明な点が認められる。長軸方位：N-48°-W。

〔入口竪坑部〕平面形：開口部は方形を呈する。開口部規模：長軸1.07 m以上／短軸1.12 m／深さ0.32 m。長軸方位：N-39°-W。坑底は概ね平坦で、主軸に対して縦長の隅丸方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。坑底規模：長軸0.97 m以上／短軸0.81 m。長軸方位：N-45°-W。

〔覆土〕7層に分層される。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕中世。

964号土坑

遺構（第120図）

〔位置〕（B-4・5）グリッド。

〔検出状況〕古墳時代後期の住居跡（31 H）を切り、中世以降の土坑（962 D）・ピット（67・90・97・103・106 P）に切られる。その内、67・103 Pは天井部上面の削平に留まる。

〔構造〕地下式坑の形態をもつ。

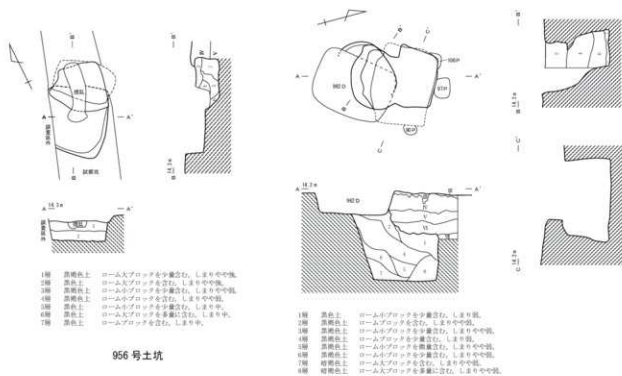
〔主体部〕平面形：主軸に対して横長の長方形を呈する。天井部が残存し、主体部は立川ローム第Ⅵ層を掘り抜いて構築されている。規模：長軸1.26 m／短軸0.95 m／深さ1.38 m。東壁を中心に壁面は大きくオーバーハングする。長軸方位：N-65°-W。

〔入口竪坑部〕平面形：開口部は主軸に対して横長の楕円形を呈する。主体部への連絡は70°の角度で、0.72 m下がる。開口部規模：長軸1.16 m／短軸0.74 m以上／深さ0.62 m。長軸方位：N-82°-E。坑底は概ね平坦であるが、大部分が962 Dに切られるため、規模・長軸方位等は不明である。

〔覆土〕8層に分層される。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕中世。



第120図 土坑 E群 (1/60)



第121図 中世以降の土坑出土遺物 (1/4)

発掘多分 図版番号	出土遺構	遺構 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形 態	文様・調整等	胎土	埋 入 期 等	出土位置
第121図1 図版 49-2-1	955 D	陶器 甕	口縁部一 部破片	口(12.0) 高(3.0)	丸みを持って立 ち上がり、口縁 下部で窄み口縁 部で外反する	天目形中絶/内外面:天目輪/ 瀬戸・美濃系	乳白色/粉砂少 量	近世 1670～1780年代	覆土中
図版 49-2-1	960 D	陶器 皿	口縁部 破片	厚0.5	浅い浅部	小皿/内外面:灰輪/瀬戸・美濃 系	黄色/粉粒微細	近世 1670～1770年代	覆土中
第121図1 図版 49-2-1	961 D	土器 皿	底部 破片	高(1.2) 底(7.2)	やや厚みのある 底部	小皿/底部:左頭輪系切底/背江 戸在地系	陶白色/白色粒 子・赤色粒子・ 雲母少量	中世 15～16世紀	覆土中
第121図1 図版 49-2-1	973 D	磁器 甕	胴部一 部破片	高(4.2) 底(4.2)	削り出し高台か ら丸みを持って 立ち上がる	中絶/内面:透明釉、外面:鉄輪 /肥前系(初瀬伊万里様式)	明灰色/緻密	近世 1630～1650年代	覆土中

第34表 中世以降の土坑出土陶磁器・土器一覽

遺構名	位置	平面形	分類	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期	
				長軸	短軸	深さ					
952 D	C-3G	長方形	B群2類	1.90	0.36	0.29	N76°W	単層(第116層) / 640Yを切る	遺物なし	中世以降	
953 D	D-3G	楕円形	C群	0(87)	0.72	0.09	N57°W	単層(第118層) / 西側は覆土に切られる	遺物なし	中世以降	
954 D	B-4G	長方形	B群2類	2.32	0.88	0.35	N10°E	単層(第116層) / 641Yを切る	遺物なし	中世以降	
955 D	B-4G	溝状土坑	B群1類	3.21	0.79	0.32	N28°E	2層(第115層)	陶器(鏡)1点	近世	
956 D	(A-4・5)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	0.94	0.81	0.55	N48°W	7層(第120層) / 南側は調査区外 / 1層坑1主体部タイプ	遺物なし	中世
			壁坑部:方形	E群1類	0(07)	1.12	0.32	N39°W			
957 D	(A-5)G	長方形	B群2類	0.78	0.52	0.39	N37°E	単層(第116層)	遺物なし	中世以降	
958 D	(A-5)G	長方形か	B群2類	0(84)	0(71)	0.49	N66°W	3層(第116層) / 北・西側は覆土に切られる	遺物なし	中世以降	
959 D	(B-5)G	円形	C群	0.98	0(93)	0.12	N28°E	単層(第118層) / 東側は覆土に切られる	遺物なし	中世以降	
960 D	(B-5)G	長方形	B群2類	1.18	0.57	0.20	N64°W	単層(第116層)	陶器(皿)1点	近世	
961 D	(B-5)G	長方形	B群2類	1.00	0.90	0.36	N49°E	3層(第116層) / 31H, 58Pを切る	土師(皿)1点	中世以降	
962 D	(B-5)G	長方形	B群2類	1.26	0.93	0.41	N30°E	6層(第116層) / 31H, 964Dを切る	遺物なし	中世以降	
963 D	(B-4)G	円形	C群	0.86	0.83	0.14	N28°E	単層(第118層) / 31H, 965Dを切る	遺物なし	中世以降	
964 D	(B-4・5)G	地下式坑	主体部:長方形	E群1類	1.26	0.95	1.38	N65°W	8層(第120層) / 31Hを切り、962D, 67・90・ 97・103・106Pに切られる / 1層坑1主体部タイプ	遺物なし	中世
			壁坑部:楕円形	E群1類	1.16	0(74)	0(62)	N82°E			
965 D	(B-4)G	楕円形	C群	0(78)	0.71	0.14	N23°E	単層(第118層) / 31Hを切り、963Dに切られる	遺物なし	中世以降	
966 D	(E-4)G	長方形	B群2類	1.02	0.45	0.30	N56°W	2層(第116層)	遺物なし	中世以降	
967 D	(D・E-3)G	長方形	B群2類	0.98	0.56	0.18	N50°E	2層(第116層)	遺物なし	中世以降	
968 D	D-3G	長方形	B群2類	1.56	0.42	0.30	N19°E	単層(第116層) / 969Dを切り、970Dに切られる	遺物なし	中世以降	
969 D	D-3G	溝状土坑	B群1類	3.35	0(35)	0.20	N25°E	単層(第115層) / 968・970Dに切られる	遺物なし	中世以降	
970 D	D-3G	長方形	B群2類	2.21	0.43	0.41	N20°E	2層(第117層) / 968・969Dを切る	遺物なし	中世以降	
971 D	D-3G	溝状土坑	B群1類	3.35	0.48	0.28	N26°E	2層(第115層) / 74Pを切る	遺物なし	中世以降	
972 D	(E-4)G	不整形	D群	0(43)	0(83)	0.13	不明	2層(第119層) / 東側は調査区外	遺物なし	中世以降	
973 D	D-4)G	長方形	B群2類	2.09	0.85	0.44	N15°E	3層(第117層) / 974・975Dを切る	磁器(鏡)1点	近世	
974 D	D-4)G	長方形	B群2類	0(93)	0.54	0.26	N16°E	単層(第117層) / 975Dを切り、973Dに切られる	遺物なし	中世以降	
975 D	D-4)G	長方形	B群2類	0(90)	0.41	0.41	N17°E	2層(第117層) / 973・974Dに切られる	遺物なし	中世以降	
976 D	C-5)G (D-5・6)G	不整形円形	C群	0.89	0.82	0.21	N21°E	2層(第118層) / 633Yを切り、畝状遺構群に切られる	遺物なし	中世以降	
977 D	D-3)G	長方形	B群2類	2.37	0.45	0.41	N16°E	2層(第117層)	遺物なし	中世以降	

第35表 中世以降の土坑一覧

(4) 井戸跡

11号井戸跡

遺 構 (第122図)

[位置] (D-3)グリッド。

[構造] 平面形:不整形円形。規模:0.85m×0.78m/開口部0.91m×0.90m。危険を伴うため、

深さ 1.90 m までの精査で終了した。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は東・西壁で3か所ずつ確認され、壁への掘り込みは4～18cmを測る。長軸方位：N-58°-E。

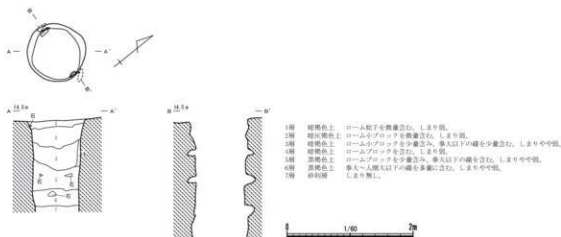
[遺物] 磁器1点(杯)、陶器2点(碗・播鉢)が出土した。

[時期] 近世(17世紀後葉)。

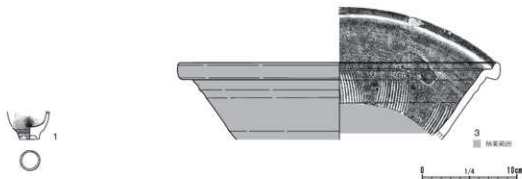
[遺物] (第123図、図版49-3、第36表)

[陶器] (第123図1・3、図版49-3-1~3、第36表)

1は磁器で、肥前系(初期伊万里様式)の小杯である。2・3は陶器で、2は瀬戸・美濃系の小碗、3は瀬戸・美濃系の播鉢である。



第122図 11号井戸跡 (1/60)



第123図 11号井戸跡出土遺物 (1/4)

発掘番号 図版番号	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第123図1 図版49-3-1	磁器 杯	胴部～ 底部 50%	高 [3.0] 底 2.1	取り出し高台から やや窄まりながら 胴部に立ち上がる	小杯/外面:稲束文染付、高台を除く 全面に透明釉(生掛け)/肥前系 (初期伊万里様式)	白色/釉密	近世 1630～1650年代	覆土上層
図版49-3-2	陶器 碗	口縁部～ 胴部 成片	厚 0.5	丸みを持った胴部 から口縁部に立ち 上がる	小碗/内外面:灰釉/瀬戸・美濃系	灰色/砂粒微細	近世 1670～1750年代	覆土上層
第123図3 図版49-3-3	陶器 播鉢	口縁部～ 胴部 20%	口 [3.36] 高 [8.1]	口縁部は折縁形を 呈する	内面:柳目歯数 13本/12mm～5mm /内外面:鉄釉/瀬戸・美濃系	黄白色/砂粒少量	近世 1670～1720年代	覆土上層

第36表 11号井戸跡出土陶磁器一覽

12号井戸跡

遺 構 (第124図)

[位 置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 現代の耕作痕(トレンチャー)等の複数の攪乱に切られる。

[構 造] 平面形: 隅丸長方形。開口部は隅丸方形。規模: 1.15 m × 0.95 m / 開口部 2.42 m × 2.35 m。危険を伴うため、深さ 2.20 m までの精査で終了した。壁: 開口部は漏斗状に大きく広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は北西・南東壁で計 10 か所確認され、壁への掘り込みは 6 ~ 22 cm を測る。長軸方位: N - 81° - E。

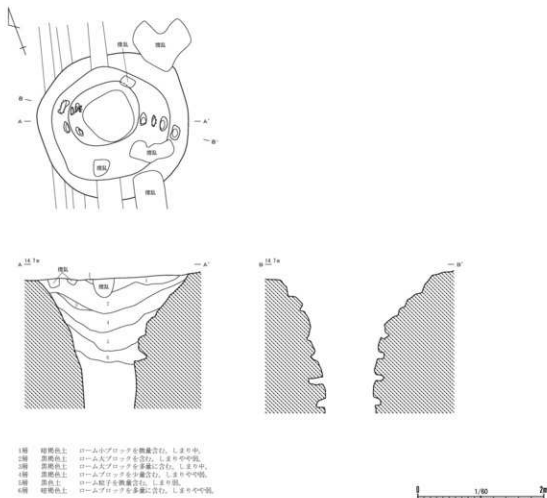
[遺 物] 磁器 1 点(碗)、陶器 1 点(播鉢)が出土した。

[時 期] 近世(17世紀後葉)。

遺 物 (第125図、図版49-4、第37表)

[陶 器] (第125図2、図版49-4-1・2、第37表)

1は磁器で、肥前系(初期伊万里様式)の小碗である。2は陶器で、丹波系の播鉢である。



第124図 12号井戸跡 (1 / 60)



第125図 12号井戸跡出土遺物(1/4)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
図版 49-4-1	磁器 筒	口縁部 破片	厚 0.4	胴部はやや丸みを 持ち、垂直に立ち 上がる	小皿/外面:窓、原し刷目文、内外 面:透甲輪(生掛け)/肥前系(初期 伊万里様式)	明灰色/積層	近世 1630～1650年代	覆土中層
第125図2 図版 49-4-2	陶器 掻鉢	胴部 破片	厚 0.8	体部は外傾する	内面:磨白染敷 6本/2.1mm～3.7mm /内外面:無胎/丹波系	灰色/長石多量	近世 1650～1720年代	覆土上層

第37表 12号井戸跡出土陶磁器一覧

(5) 畝状遺構群

遺 構 (第126図)

[位 置] (C-5、D・E-4～6) グリッド。

[検出状況] 2区中央部で検出された。東側は攪乱に切られ、東端は調査区外に延びると推測される。広範囲に広がるため、多くの遺構と重複し、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡7軒(647～649・652～655 Y)、中世以降のピット4本(73・75～77 P)を切る。

[構 造] 規模:北西～南東方向 18.21 m、北東～南西方向 15.77 mの範囲で、51本の畝状遺構を検出した。溝状タイプとピット状タイプの2種が認められ、溝状タイプが9割以上を占める。溝状タイプは0.25～0.35mの間隔を置いて整然と構築され、走行方位は合致する。走行方位:N-72°-W。

[覆 土] 9層に分層される。

[遺 物] 陶器1点(皿)が出土した。

[時 期] 近世以降。

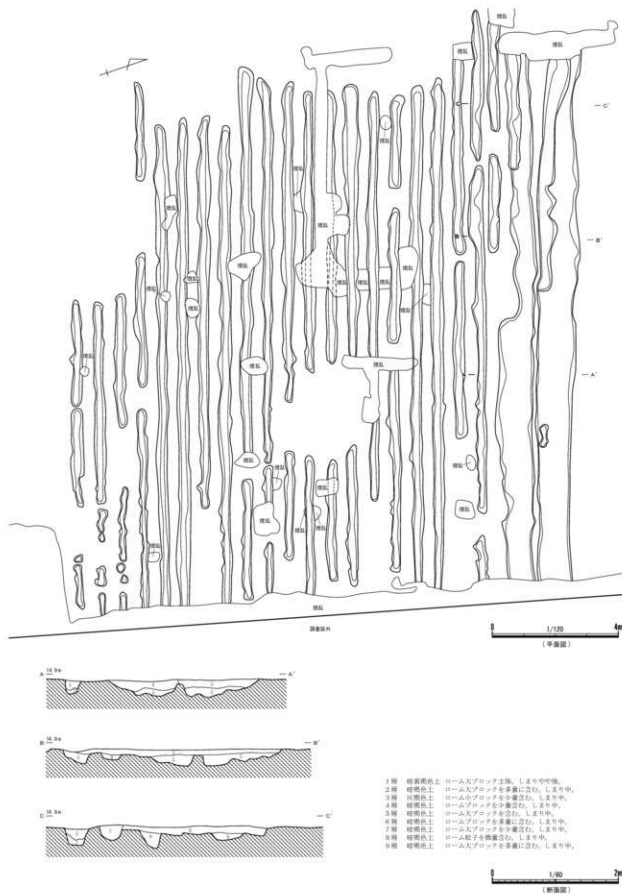
遺 物 (図版 49-5、第38表)

[陶 器] (図版 49-5-1、第38表)

1は陶器で、瀬戸・美濃系の小皿である。

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
図版 49-5-1	陶器 皿	口縁部 破片	厚 0.4	やや深い体部	小皿/内外面:長石釉/瀬戸・美濃系	乳白色/砂粒少量	近世 1670～1770年代	覆土中

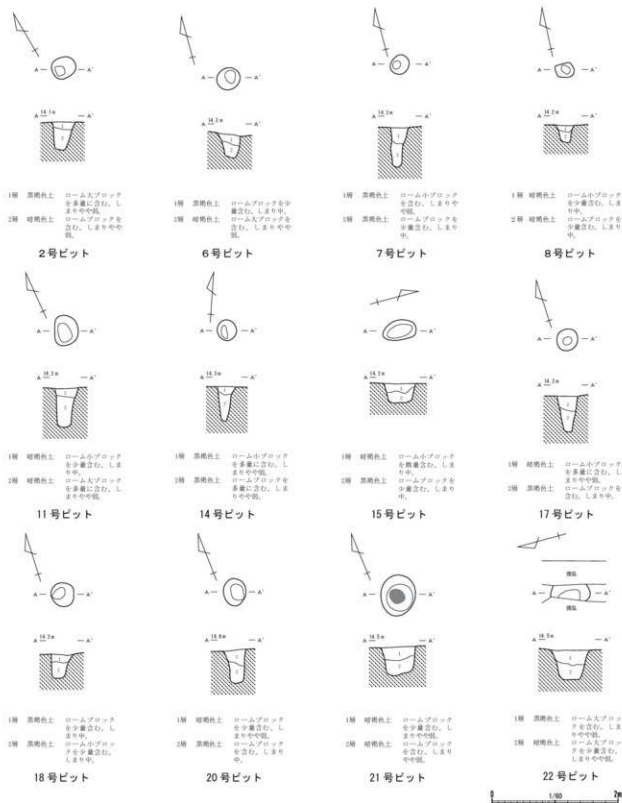
第38表 畝状遺構群出土陶器一覧



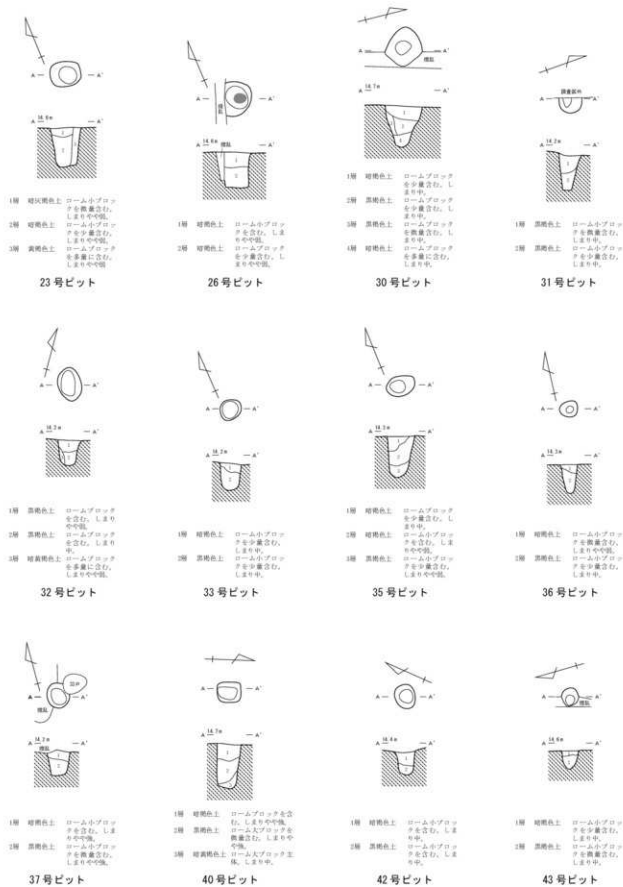
第126図 竅状遺構群 (1/120・1/60)

(6) ピット

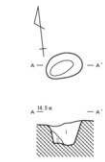
本地点では、計 121 本のピットが検出された。その内、縄文時代のピット 1 本、5 TP 1～P 8 に振り替えたピット 8 本を除いた 112 本が、中世以降のピットに比定される。全てのピットの基本構造については、第 40 表を参照されたい。



第 127 図 中世以降のピット 1 (1/60)

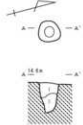


第128図 中世以降のピット2 (1/60)



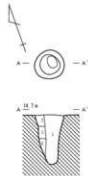
- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。しまりやや弱。

45号ピット



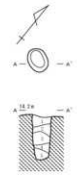
- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。

46号ピット



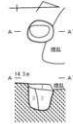
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。しまりやや弱。
- 3層 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまりやや弱。

52号ピット



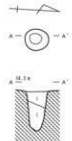
- 1層 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多量に含む。しまりやや弱。
- 4層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。
- 5層 暗褐色土 ローム大ブロック主体。しまりやや弱。

57号ピット



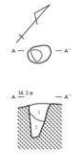
- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。
- 3層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり中。

59号ピット



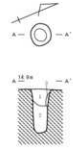
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。

60号ピット



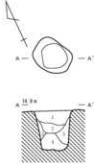
- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム大ブロックを少量含む。しまりやや弱。

65号ピット



- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム大ブロックを多量に含む。しまり中。

71号ピット



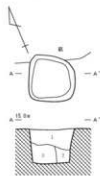
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ローム大ブロックを少量含む。しまり中。

72号ピット



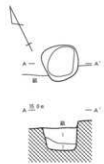
- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。

73号ピット



- 1層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム大ブロックを含む。しまり中。

75号ピット

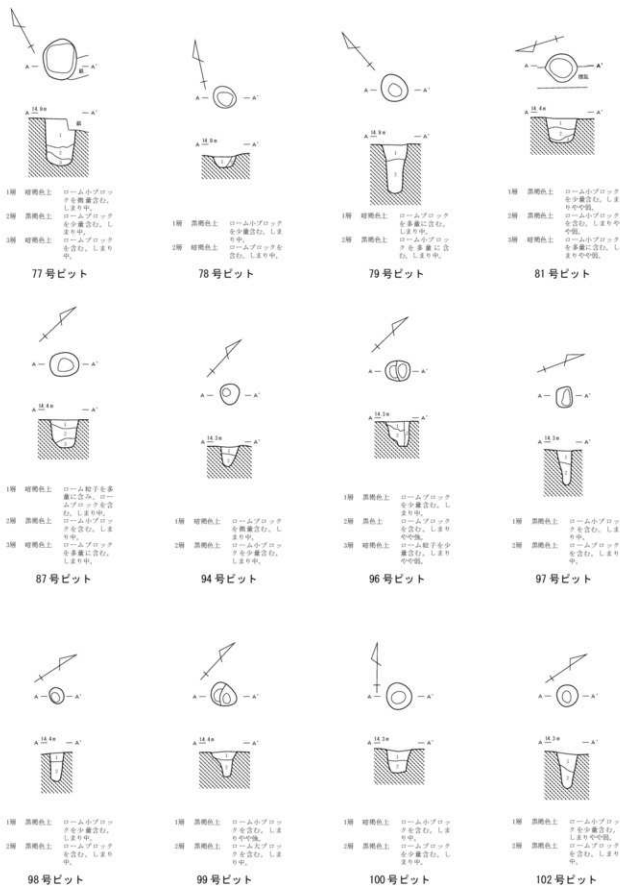


- 1層 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム大ブロックを含む。しまり中。

76号ピット



第129図 中世以降のピット3 (1/60)



第130図 中世以降のピット4 (1/60)



第131図 中世以降のピット5 (1/60)



第132図 中世以降のピット出土遺物（1/4）

検出番号 図数番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第132図1 図数 49-6-1	38 P	陶器 碗	底部破片	高 [2.0] 底 4.1	水平に高台上面 面を削り出し、 斜め方向に立ち 上がる	天口部中環/内面/鉄軸ノミ戸 夾縫系	乳白色/砂粒陶 器	近世 1670～1780年代	覆土中

第39表 中世以降のピット出土陶器一覧

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	(B-2G)	楕円形	37	33	14	単層/ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
2 P	(B-2G)	楕円形	38	33	44	2層 (第127図)	なし	中世以降
3 P	(B-2G)	円形	27	26	19	単層/ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
4 P	(B-2G)	楕円形	28	18	22	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
5 P	(B-2G)	円形	26	25	19	単層/ローム大ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
6 P	(B-2G)	楕円形	37	33	38	2層 (第127図)	なし	中世以降
7 P	(B-2G)	楕円形	32	28	63	2層 (第127図)	なし	中世以降
8 P	(B-2G)	不整形	29	22	31	2層 (第127図)	なし	中世以降
9 P	(B-3G)	不整形	30	23	30	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
10 P	(B-3G)	円形	28	26	23	単層/ロームブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
11 P	(B-3G)	楕円形	48	37	62	2層 (第127図)	なし	中世以降
12 P	(B-3G)	円形	48	46	28	単層/ロームブロックを多量に含む暗褐色土	なし	中世以降
13 P	(B-3G)	楕円形	37	33	28	単層/ローム小ブロックを多量に含む黒褐色土	なし	中世以降
14 P	(B-3G)	楕円形	33	30	56	2層 (第127図)	なし	中世以降
15 P	(C-2G)	楕円形	57	32	32	2層 (第127図)	なし	中世以降
16 P	(B-3G)	円形	30	30	19	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
17 P	(B-3G)	楕円形	36	33	57	2層 (第127図)	なし	中世以降
18 P	(C-2G)	不整形	38	36	39	2層 (第127図)	なし	中世以降
19 P	(B-3G)	不整形	36	34	24	単層/ローム大ブロックを含む黒褐色土/覆瓦に切られる	なし	中世以降
20 P	(C-4G)	楕円形	43	36	53	2層 (第127図)	なし	中世以降
21 P	(C-3・4G)	楕円形	66	55	46	2層 (第127図)	なし	中世以降
22 P	(D-3G)	楕円形か	61	(26)	47	2層 (第127図)/覆瓦に切られる	なし	中世以降
23 P	(D-3G)	楕円形	48	39	62	3層 (第128図)	なし	中世以降
24 P	(D-3G)	不明	(32)	(21)	18	単層/ロームブロックを含む黒褐色土/覆瓦に切られる	なし	中世以降
25 P	(C・D-3G)	不整形	30	28	28	単層/ロームブロックを少量含む暗褐色土/覆瓦に切られる	なし	中世以降
26 P	(C-4G)	楕円形	56	(47)	52	2層 (第128図)/覆瓦に切られる	なし	中世以降
27 P	(C-4G)	楕円形	33	32	25	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
29 P	(C-4G)	楕円形	(21)	22	25	単層/ロームブロックを含む黒褐色土/覆瓦に切られる	なし	中世以降
30 P	(C-4G)	不整形	56	52	66	4層 (第128図)/覆瓦に切られる	なし	中世以降
31 P	(B-3G)	楕円形	36	(24)	56	2層 (第128図)/西側が調査区外	なし	中世以降
32 P	(B-3G)	楕円形	47	38	41	3層 (第128図)	なし	中世以降

第40表 ピット一覧 (1)

遺構名	位 置	平面形	規模 (m)			層土及び特徴	主な遺物	時 期
			長軸	短軸	高さ			
33 P	(B-3G)	楕円形	37	32	43	2層(第128図)/37Pを切る	なし	中世以降
34 P	(B-4G)	不整形	24	23	28	単層/ロームブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
35 P	(B-4G)	楕円形	46	32	65	3層(第128図)	なし	中世以降
36 P	(B-4G)	不整形	28	27	46	2層(第128図)	なし	中世以降
37 P	(B-3G)	楕円形	40	34	39	2層(第128図)/33Pに切られる	なし	中世以降
38 P	(B-5G)	楕円形	54	41	12	単層/ローム大ブロックを少量含む暗褐色土/31Hを切る	陶器(鏡山点)	近世
(39 P)	5 T P 1に変更のため、欠番							
40 P	(B-5G)	隅丸方形	38	33	72	3層(第128図)/31Hを切る	なし	中世以降
41 P	(B-5G)	不整形	35	34	27	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
42 P	(A-5G)	楕円形	39	32	36	2層(第128図)	なし	中世以降
43 P	(C-4G)	不整形	29	27	30	2層(第128図)/鏡山に切られる	なし	中世以降
(44 P)	5 T P 2に変更のため、欠番							
45 P	(A-5G)	楕円形	58	38	41	2層(第129図)	なし	中世以降
46 P	(B+C-4G)	不整形	35	34	46	2層(第129図)	なし	中世以降
(47 P)	5 T P 6に変更のため、欠番							
(48 P)	5 T P 5に変更のため、欠番							
(49 P)	5 T P 7に変更のため、欠番							
50 P	(C-4G)	不整形	26	25	22	単層/ローム粒子を少量含む暗褐色土	なし	中世以降
(51 P)	5 T P 8に変更のため、欠番							
52 P	(B-6G)	円形	47	46	78	4層(第129図)	なし	中世以降
(53 P)	5 T P 4に変更のため、欠番							
(54 P)	5 T P 3に変更のため、欠番							
55 P	(B-5G)	楕円形	27	(21)	21	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/鏡山に切られる	なし	中世以降
56 P	(B-5G)	楕円形	25	21	24	単層/ローム粒子を少量含む黒褐色土/92P・31Hを切る	なし	中世以降
57 P	(A-4G)	楕円形	38	31	71	5層(第129図)/31Hを切る	なし	中世以降
58 P	(B-5G)	方形	35	(30)	15	単層/ローム大ブロックを少量含む暗褐色土/961Dに切られ、31Hを切る	なし	中世以降
59 P	(B-4G)	楕円形	42	36	41	3層(第129図)/鏡山に切られ、31Hを切る	なし	中世以降
60 P	(B-4G)	楕円形	38	34	63	2層(第129図)/鏡山に切られ、31Hを切る	なし	中世以降
61 P	(C-4G)	楕円形	54	45	25	単層/ロームブロックを少量含む黒褐色土/644Yを切る	なし	中世以降
62 P	(B-5G)	楕円形	29	25	25	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/642Yを切る	なし	中世以降
63 P	(B+C-5G)	隅丸方形	28	26	20	単層/ローム大ブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
64 P	(B-4G)	楕円形	38	30	24	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
65 P	(B-4G)	楕円形	37	27	54	2層(第129図)/31Hを切る	なし	中世以降
66 P	(B-4G)	円形	32	32	29	単層/ロームブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
67 P	(B+C-5G)	楕円形	(29)	24	25	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/962Dに切られ、964D・31Hを切る	なし	中世以降
68 P	(B-4G)	円形	21	20	12	単層/ローム小ブロックを少量含む暗褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
69 P	(B-4G)	楕円形	47	43	15	単層/ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
70 P	(B-4G)	楕円形	49	45	14	単層/ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
71 P	(B-4G)	楕円形	36	33	79	3層(第129図)	なし	中世以降
72 P	(C-6G)	隅丸方形	60	47	64	4層(第129図)	なし	中世以降
73 P	(D-6G)	楕円形	36	31	40	2層(第129図)/畝状遺構部に切られる	なし	中世以降
74 P	(D-3G)	楕円形	36	27	28	単層/ローム粒子を含み、ロームブロックを少量含む暗褐色土/971Dに切られる	なし	中世以降
75 P	(D-6G)	不整形	74	72	56	3層(第129図)/畝状遺構部に切られ、652Yを切る	なし	中世以降
76 P	(D-5G)	不整形	57	56	46	2層(第129図)/畝状遺構部に切られ、652Yを切る	なし	中世以降
77 P	(D-5G)	楕円形	65	53	73	3層(第130図)/畝状遺構部に切られ、653Yを切る	なし	中世以降

第40表 ビット一覧(2)

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			埋土及び特徴	主な遺物	時 期
			反軸	短軸	深さ			
78 P	D-5G	楕円形	37	33	23	2層(第130図)/礎瓦に切られる	なし	中世以降
79 P	E-4G	楕円形	46	39	77	2層(第130図)	なし	中世以降
80 P	E-4G	楕円形	37	33	22	単層/ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
81 P	C-3G	楕円形	52	45	39	3層(第130図)/礎瓦に切られ、640Yを切る	なし	中世以降
82 P	B-3G	円形	31	30	8	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/641Yを切る	なし	中世以降
83 P	B-4G	円形	22	21	11	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/641Yを切る	なし	中世以降
84 P	B-4G	不整形円形	23	22	15	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/641Yを切る	なし	中世以降
85 P	B-4G	不整形円形	23	22	26	単層/ローム粒子を多数に含み、ロームブロックを含む暗褐色土/641Yを切る	なし	中世以降
86 P	B-4G	円形	30	29	18	単層/ローム大ブロックを含む暗褐色土/641Yを切る	なし	中世以降
87 P	B-5G	楕円形	46	37	44	3層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
88 P	B-5G	楕円形	24	18	12	単層/ローム小ブロックを含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
89 P	B-5G	楕円形	23	20	14	単層/ロームブロックを含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
90 P	B-4・5G	楕円形	22	17	12	単層/ロームブロックを少量含む暗褐色土/964D・31Hを切る	なし	中世以降
91 P	B-5G	円形	21	21	14	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
92 P	B-5G	円形	25	24	24	単層/ロームブロックを少量含む黒褐色土/56Pに切られ、31Hを切る	なし	中世以降
93 P	B-4・5G	楕円形	29	23	13	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
94 P	B-4G	楕円形	33	30	32	2層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
95 P	B-4G	不整形円形	26	26	24	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
96 P	B-4G	楕円形	39	32	39	3層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
97 P	B-4G	隅丸方形	32	25	53	2層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
98 P	B-4G	楕円形	26	22	45	2層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
99 P	B-4G	楕円形	43	35	39	2層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
100 P	B-4G	楕円形	42	39	35	2層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
101 P	B-5G	楕円形	29	24	19	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
102 P	B-5G	円形	34	34	57	2層(第130図)/31Hを切る	なし	中世以降
103 P	B-4G	楕円形	40	35	36	2層(第131図)/106P・964D・31Hを切る	なし	中世以降
104 P	B-4G	不整形円形	36	36	80	3層(第131図)/31Hを切る	なし	中世以降
105 P	B-5G	不整形方形	32	31	46	2層(第131図)/31Hを切る	なし	中世以降
106 P	B-4G	隅丸方形	28	20	29	2層(第131図)/103Pに切られ、964D・31Hを切る	なし	中世以降
107 P	B-4G	楕円形	49	33	51	3層(第131図)/31Hを切る	なし	中世以降
108 P	B-4G	隅丸方形	38	28	22	単層/ロームブロックを含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
109 P	B-4G	楕円形	40	32	25	単層/ローム大ブロックを含む黒褐色土/31Hを切る	なし	中世以降
110 P	B-4G	楕円形	34	28	34	2層(第131図)/31Hを切る	なし	中世以降
111 P	B-4G	楕円形	29	25	46	2層(第131図)/31Hを切る	なし	中世以降
112 P	B-5G	楕円形	34	26	33	2層(第131図)/礎瓦に切られ、31Hを切る	なし	中世以降
113 P	B-5G	円形	19	19	10	単層/ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/642Yを切る	なし	中世以降
114 P	B-5G	隅丸方形	33	23	29	2層(第131図)/礎瓦に切られ、642Yを切る	なし	中世以降
115 P	B-6G	不整形円形	19	13	14	単層/ロームブロックを含む黒褐色土/礎瓦に切られ、642Yを切る	なし	中世以降
116 P	B-5G	楕円形	24	18	15	単層/ロームブロックを含む黒褐色土/642Yを切る	なし	中世以降
117 P	C-4G	円形	25	23	11	単層/ロームブロックを含む暗褐色土/644Yを切る	なし	中世以降
118 P	C-4G	隅丸方形	47	37	19	単層/ローム小ブロックを含む暗褐色土/644Yを切る	なし	中世以降
119 P	B-4G	楕円形	40	36	10	単層/ロームブロックを含む暗褐色土/646Yを切る	なし	中世以降
120 P	B-4G	楕円形	45	32	10	単層/ロームブロックを含む暗褐色土/646Yを切る	なし	中世以降
121 P	B-4G	円形	34	32	17	単層/ローム小ブロックを少量含む黒褐色土/646Yを切る	なし	中世以降

第40表 ビット一覧(3)

第6節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、旧石器時代の石器、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、中世以降の遺物に分類する。

(1) 旧石器時代の石器 (第133・134図1～13、図版50-1～13、第41表)

1はナイフ形石器、2・3は尖頭器、4・5は両面調整石器、6は尖頭器調整剥片である。7は両極剥片、8は打面調整剥片、9～11は二次加工のある剥片、12は石核、13は縦長剥片である。なお、1・9は21号石器集中地点が検出されたTP4内から出土したが、出土地点・層位が不明で、21号石器集中地点に帰属するのかが不確定であるため、遺構外遺物として取り扱った。

(2) 縄文時代の遺物 (第135～137図14～75、図版51・52-1-14～75、第42～44表)

[土器] (第135～137図14～68、図版51-14～68、第42表)

早期～晩期の縄文土器が出土した。14～20は早期の条痕文系土器である。21～48は前期の土器で、21は花積下層式土器、22～26は関山・黒浜式土器、27～41は諸磯a式土器、42～44は諸磯b式土器、45～47は浮島式土器、48は前期末葉の十三菩提式土器である。49～54は中期の土器で、49は中期初頭の五領ヶ台式土器、50・51は勝坂式土器、52～54は加曾利E式土器である。55～65は後期の土器で、55～61は堀之内式土器、62～65は加曾利B式土器である。66～68は晩期の土器で、66・67は安行式土器、68は安行3c式土器である。

[土製品] (第137図69、図版51-69、第43表)

69は深鉢形土器の胴部破片を転用した土器片鉢である。

[石器] (第137図70～75、図版52-1-70～75、第44表)

70～73は石鏃で、石質は70・71が黒曜石、72・73がチャートである。74はホルンフェルス製の打製石斧、75は花崗岩製の石皿である。

(3) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (第138図76～78、図版52-2-76～78、第45表)

[土器] (第138図76～78、図版52-2-76～78、第45表)

76・77は弥生時代後期～古墳時代前期の土器で、76は高坏形土器、77は高坏形土器を模したミニチュア土器である。78は古墳時代前期の土器器埴形土器である。

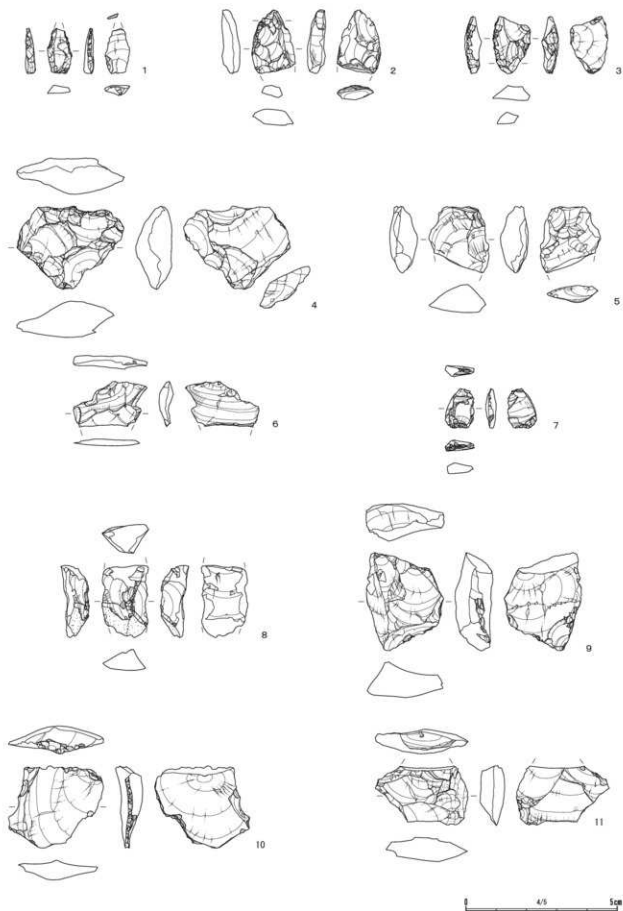
(4) 中世以降の遺物 (第139図80・81、図版52-3-79～81、第46・47表)

[陶磁器] (第139図80、図版52-3-79・80、第46表)

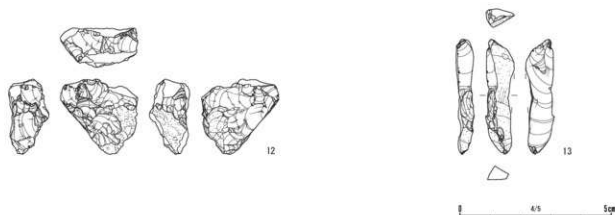
79は龍泉窯産と考えられる青磁碗である。80は陶器で、瀬戸・美濃系の播鉢である。

[石製品] (第139図81、図版52-3-81、第47表)

81は凝灰質砂岩製の砥石である。



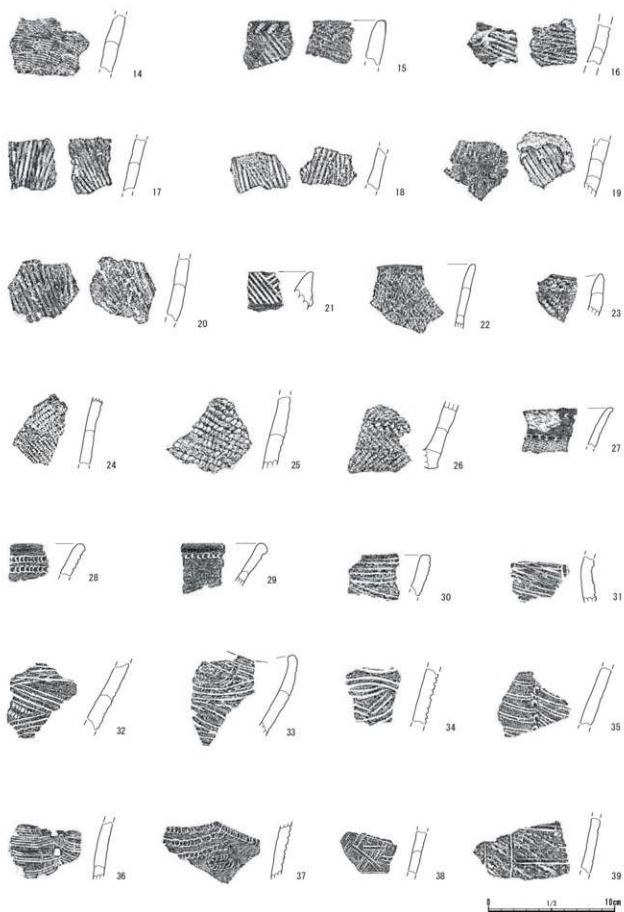
第133図 遺構外出土旧石器時代石器1 (4/5)



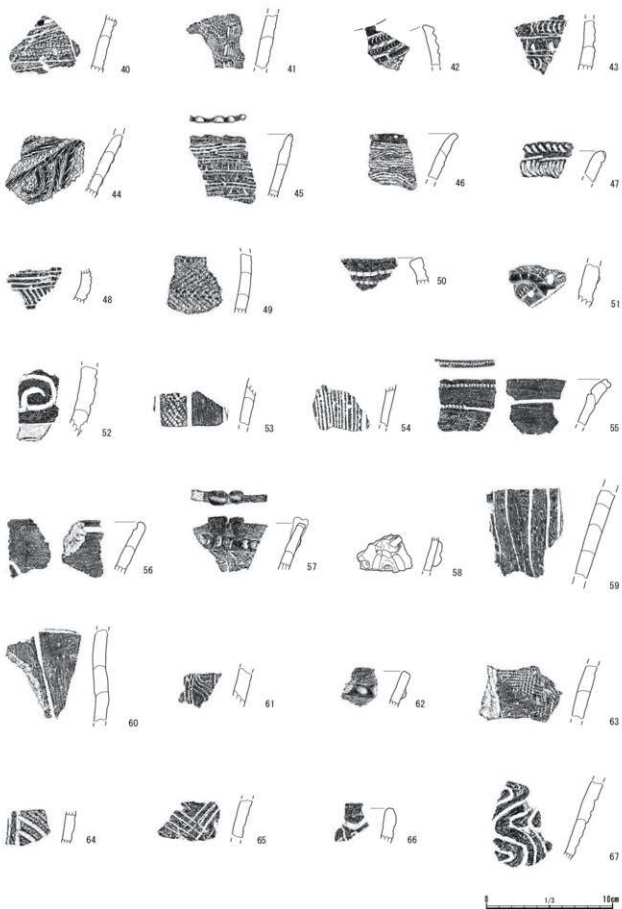
第134図 遺構外出土旧石器時代石器2（4/5）

発掘番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第133図1 図版 50-1	ナイフ形石器	チャート	1.49	0.81	0.33	0.43	上下端部欠損／縦長割片を素材とし、縦位に用いられる／二側縁加工／正面側の右側縁にプランディング	T P 4
第133図2 図版 50-2	尖頭器	黒曜石	2.10	1.44	0.59	3.40	有種尖頭器／下端部欠損／加工によって素材割片の形状は不明だが、残存する素材主要剥離面から縦長割片を横位に用いたと推察される／素材打面は左側縁側／両面平坦割離加工／右側縁に横長割離／縦側縁を縁取	遺構外
第133図3 図版 50-3	尖頭器	チャート	1.89	1.24	0.54	1.18	宍形／幅広い割片を素材とし、横位に用いられる／素材打面は右側縁側／正面側を側縁全体に二次加工／両面右側縁に部分的な二次加工／正面側の二次加工は割片剥離時の面調整の可能性もあり、ナイフ形石器として分類も可能	遺構外
第133図4 図版 50-4	両面調整石器	チャート	2.74	3.53	1.19	9.81	宍形／正面側に側縁を打点とした球形の二次加工／両面右側縁に人れ子状の割離	31 H 掘り方
第133図5 図版 50-5	両面調整石器	黒曜石	2.18	1.99	0.91	1.68	末端部欠損／素材は両面平凸面の割片／正面右側縁に二次加工／神降産	遺構外
第133図6 図版 50-6	尖頭器調整割片	黒曜石	1.50	2.43	0.47	1.09	末端部欠損／打面は単側面側／背面構成は主要剥離軸方向に横行・直交する剥離方向で構成／神降産	T P 5
第133図7 図版 50-7	両側割片	黒曜石	1.30	0.95	0.34	0.40	宍形／両面上下端から加撃され、割離面が形成／神降産	651 Y
第133図8 図版 50-8	打面調整割片	黒曜石	2.38	1.54	0.93	2.91	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に横行・直交した剥離方向で構成／背面の中央の域から左右方向に剥離／縦横ハク産	643 Y
第133図9 図版 50-9	二次加工のある割片	チャート	3.24	2.55	1.25	1001	宍形／打面は単側面側／背面構成は主要剥離軸方向に横行・直交した剥離方向で構成／両面右側縁に部分的な二次加工	T P 4
第133図10 図版 50-10	二次加工のある割片	チャート	2.71	3.13	0.89	5.96	宍形／打面調整あり／背面構成は主要剥離軸方向に横行・直交した剥離方向で構成／主要剥離面側の右側縁全体に二次加工／主要剥離面側の左側縁に部分的な二次加工	640 Y 掘り方
第133図11 図版 50-11	二次加工のある割片	チャート	1.95	3.06	0.80	4.92	打面側欠損／背面構成は主要剥離軸方向に横行・直交した剥離方向で構成／主要剥離面側の右側縁に部分的な二次加工	653 Y
第134図12 図版 50-12	石核	黒曜石	2.48	2.55	1.33	7.32	宍形／割片素材／縦長に打面転位して剥離を行なったため、正面は側縁を打点として球形に剥離面が形成／神降産	遺構外
第134図13 図版 50-13	縦長割片	黒曜石	3.79	0.94	0.60	1.63	宍形／打面は厚薄面側／背面構成は主要剥離軸方向に横行した剥離方向で構成／神降産	653 Y

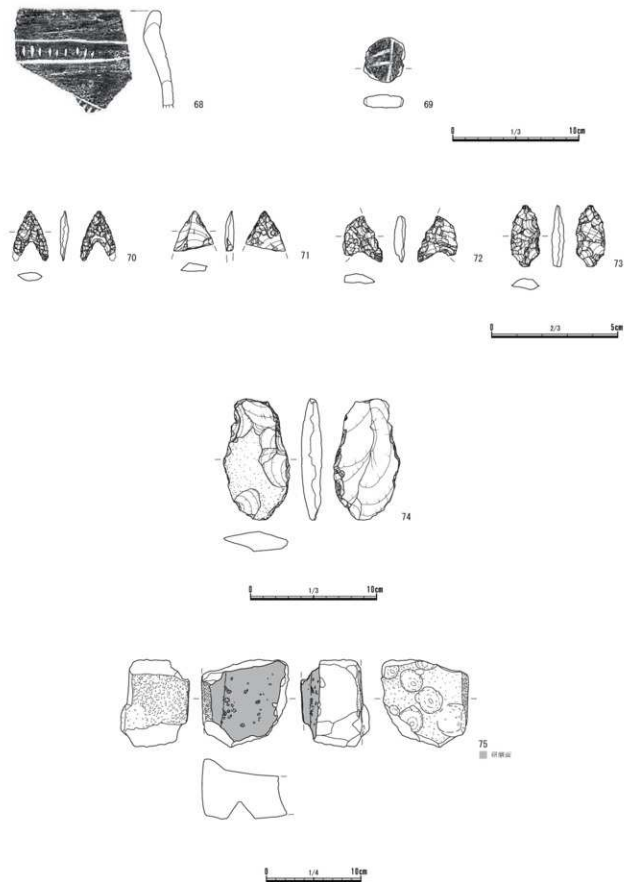
第41表 遺構外出土旧石器時代石器一覧



第135図 遺構外出土縄文時代遺物1 (1/3)



第136圖 遺構外出土繩文時代遺物2(1/3)



第137図 遺構外出土縄文時代遺物3 (1/3・2/3・1/4)

発掘番号 図版番号	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (m)	器・形・態	文・様・装等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
第135図14 図版51-14	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外縁する	目形横線による条痕文	灰黄褐色/繊維中量、砂粒少量	縄文前期後葉 条痕文系	12W
第135図15 図版51-15	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	口縁部は僅かに外縁する	条痕文/口縁部に条痕文と同一工具による刻目	にぶい黄褐色/繊維中量、砂粒、小礫少量	縄文前期後葉 条痕文系	652Y
第135図16 図版51-16	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに内湾する	条痕文	にぶい褐色/繊維多量、砂粒少量、石英微塵	縄文前期後葉 条痕文系	遺構外
第135図17 図版51-17	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁する	条痕文	灰黄褐色/繊維、砂粒少量	縄文前期後葉 条痕文系	644Y
第135図18 図版51-18	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁する	条痕文	にぶい褐色/繊維、石英、砂粒少量	縄文前期後葉 条痕文系	654Y 限り方
第135図19 図版51-19	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外縁する	条痕文	灰黄褐色/繊維多量、石英、砂粒少量	縄文前期後葉 条痕文系	竪状遺構
第135図20 図版51-20	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに内湾する	条痕文	にぶい黄褐色/繊維中量、石英、砂粒、小礫少量	縄文前期後葉 条痕文系	遺構外
第135図21 図版51-21	深鉢	口縁部 破片	厚1.4	口縁部は肥厚し、ほぼ直立する	縦溝状文	にぶい黄褐色/繊維中量、砂粒少量	縄文前期後葉 花線下層式	648Y
第135図22 図版51-22	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	口縁部は外縁する	単筋R、縄文	にぶい黄褐色/砂粒中量、繊維、小礫少量	縄文前期前半 関山・黒川式	649Y
第135図23 図版51-23	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	波状口縁/口縁部はほぼ直立する	単筋R、縄文	褐色/繊維、赤色粘土、砂粒少量	縄文前期前半 関山・黒川式	遺構外
第135図24 図版51-24	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外縁する	引状縄文(LR・RL)	にぶい黄褐色/繊維中量、砂粒、小礫少量	縄文前期前半 関山・黒川式	654Y 限り方
第135図25 図版51-25	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに内湾する	単筋LR、縄文	にぶい黄褐色/繊維中量、石英、砂粒少量	縄文前期前半 関山・黒川式	26P
第135図26 図版51-26	深鉢	底部 破片	[高5.3] 厚1.7	僅かに上打痕	引状縄文(LR・RL・LR)	にぶい黄褐色/繊維中量、砂粒少量	縄文前期前半 関山・黒川式	648Y
第135図27 図版51-27	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	口縁部は外縁する	半截竹管による爪形文/単筋R、縄文	にぶい褐色/砂粒、小礫少量	縄文前期後葉 認識a式	遺構外
第135図28 図版51-28	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部は外縁する	半截竹管による連続爪形文2条	にぶい黄褐色/砂粒、小礫少量	縄文前期後葉 認識a式	651Y
第135図29 図版51-29	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部は僅かに肥厚し、外縁する	半截竹管による連続爪形文	にぶい赤褐色/金雲母多量、石英中量、砂粒微塵	縄文前期後葉 認識a式	644Y
第135図30 図版51-30	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部は僅かに内湾する	横位・斜位の平行沈線文	にぶい褐色/雲母、石英、砂粒中量	縄文前期後葉 認識a式	遺構外
第135図31 図版51-31	深鉢	胴部 破片	厚1.0	胴部は僅かに凹面し、外縁しながら立ち上がる	半截竹管による平行沈線文	にぶい褐色/砂粒中量、石英少量	縄文前期後葉 認識a式	653Y
第135図32 図版51-32	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外縁する	平行沈線による米字状文	にぶい褐色/砂粒中量、白色針状物質、石英少量、雲母微塵	縄文前期後葉 認識a式	653Y
第135図33 図版51-33	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	波状口縁/口縁部は内湾する	地文に縄文/竹管状工具による凹凸状・斜位・横位沈線文	灰黄褐色/雲母、砂粒、小礫少量	縄文前期後葉 認識a式	遺構外
第135図34 図版51-34	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外縁する	地文に縄文/平行沈線による人形木葉文	にぶい褐色/雲母中量、石英、砂粒少量	縄文前期後葉 認識a式	648Y
第135図35 図版51-35	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外縁する	円形明突と平行沈線による肋骨文	にぶい黄褐色/石英、砂粒、小礫中量	縄文前期後葉 認識a式	遺構外
第135図36 図版51-36	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに外反する	地文に縄文/円形明突と平行沈線による肋骨文	灰黄褐色/雲母、石英、砂粒、小礫少量	縄文前期後葉 認識a式	遺構外

第42表 遺構外出土縄文土器一覧(1)

調査番号 図版番号	遺構 種類	部位 遺存状態	法量 (m)	形状・形態	文様・調整等	胎土	母 胎式等	出土位置 出土遺構
第135図37 図版51-37	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外縁する	爪形文による弧線文	にぶい黄褐色/砂 粒中量、雲母・小 礫少量	縄文前期後葉 器Ⅱa式	651Y
第135図38 図版51-38	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外縁する	半環竹管による平行沈線文	にぶい黄褐色/雲 母・石英・砂粒少 量	縄文前期後葉 器Ⅱa式	遺構外
第135図39 図版51-39	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに内湾する	埴文に縄文丸、半環竹管による平行 沈線文	にぶい黄褐色/雲 母・石英中量、砂 粒少量	縄文前期後葉 器Ⅱa式	651Y
第136図40 図版51-40	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁する	埴文に縄文丸、半環竹管による平行 沈線文/浮線文	にぶい褐色/砂粒・ 小礫少量、雲母微 量	縄文前期後葉 器Ⅱa式	653Y
第136図41 図版51-41	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外縁する	埴文に縄文丸、磨崖状工具による 刺突	にぶい褐色/雲 母中量、石英・砂 粒少量	縄文前期後葉 器Ⅱa式/c	竪状遺構
第136図42 図版51-42	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	短状口縁/口縁部は 内湾する	埴文に縄文LR/連続爪形文/平行 沈線文	褐色/雲母中量、 砂粒少量	縄文前期後葉 器Ⅱa式	遺構外
第136図43 図版51-43	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに内湾する	連続爪形文/平行沈線文	にぶい褐色/砂 粒少量、石英微量	縄文前期後葉 器Ⅱb式	11P
第136図44 図版51-44	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁する	埴文に縄文LR/矢羽状の刻目を有 する浮線文	にぶい褐色/砂粒・ 小礫少量	縄文前期後葉 器Ⅱb式	竪状遺構
第136図45 図版51-45	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	口縁部は外縁する	埴文に貝殻層による条痕文/口縁 部に曲面による押印/竹管状工具に よる平行沈線文	灰黄褐色/砂粒中 量、石英少量	縄文前期後葉 器Ⅱb式	遺構外
第136図46 図版51-46	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部は外反する	磨崖状工具による直線・短状文	にぶい褐色/石英・ 砂粒・小礫少量	縄文前期後葉 器Ⅱb式	653Y
第136図47 図版51-47	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	口縁部は外縁する	口縁部に棒状工具による刻み/連続 爪形文/平行沈線文	灰黄褐色/砂粒中 量、石英微量	縄文前期後葉 器Ⅱb式	遺構外
第136図48 図版51-48	深鉢	胴部 破片	厚1.0	内湾する	横線・磨崖状の沈線文	にぶい褐色/石 英・砂粒中量、金 雲母・雲母少量	縄文前期未葉 十三段式	642Y
第136図49 図版51-49	深鉢	胴部 破片	厚0.9	内湾する	羽状縄文(LR・RL・LR)	灰褐色/金雲母・ 雲母・石英・砂粒 中量	縄文前期初葉 五層+台式	641Y
第136図50 図版51-50	浅鉢	口縁部 破片	厚1.0	口縁部は内縁する	キョウビラー文	にぶい褐色/金雲 母多量、砂粒中量、 石英少量	縄文前期中葉 器Ⅱb式	18P
第136図51 図版51-51	深鉢	胴部 破片	厚1.3	外縁する	隣部貼付/円形刺突	灰褐色/砂粒中 量、石英微量	縄文前期中葉 器Ⅱb式	遺構外
第136図52 図版51-52	浅鉢	胴部 破片	厚1.3	僅かに内湾する	棒状工具による両唇文	褐色/砂粒中量、 石英少量	縄文前期後葉 加群利E式	654Y 群り方
第136図53 図版51-53	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外縁する	沈線区画内に無節縄文丸、光塊	にぶい黄褐色/雲 母・砂粒少量	縄文前期後葉 加群利E式	653Y
第136図54 図版51-54	深鉢	胴部 破片	厚0.6	外縁する	条痕文	褐色/土層破片多 量、砂粒少量	縄文前期後葉 加群利EⅡ式	竪状遺構
第136図55 図版51-55	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部は外反する/ 口縁部内面に古い沈 線が通る	棒状工具による細かい刻み・押し引 き	灰黄褐色/石英・ 砂粒少量	縄文後期前葉 器Ⅱ内式	遺構外
第136図56 図版51-56	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部は外縁する/ 口縁部内面に古い沈 線が通る	棒状工具による弧状沈線文	にぶい褐色/砂粒 中量、雲母・石英 少量	縄文後期前葉 器Ⅱ内式	遺構外
第136図57 図版51-57	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	口縁部は肥厚し、外 縁する	口縁部把手助付(1単位2個)/隣 部貼付/隆帯押印	にぶい褐色/雲母・ 石英中量、砂粒少 量	縄文後期前葉 器Ⅱ内式	遺構外
第136図58 図版51-58	深鉢	胴部 破片	厚1.2	僅かに内湾する	隣部貼付/円形刺突	にぶい黄褐色/砂 粒少量	縄文後期前葉 器Ⅱ内式	遺構外
第136図59 図版51-59	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外縁する	複数沈線による懸垂文	にぶい黄褐色/砂 粒中量、石英微量	縄文後期前葉 器Ⅱ内式	654Y 群り方
第136図60 図版51-60	深鉢	胴部 破片	厚1.0	直立気味に立ち上 がる	複数沈線による懸垂文	にぶい黄褐色/砂 粒少量、石英微量	縄文後期前葉 器Ⅱ内式	57P

第42表 遺構外出土縄文土器一覽(2)

神宮寺砂 器取番号	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文 種・調 整 等	胎 土	特 徴 型式等	出土位置 出土遺構
第136図61 図版 51-61	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外縁する	放射条線文	にぶい褐色/砂粒 中量、小礫少量、 石英微量	縄文晩期中葉 Ⅲ式之内	遺構外
第136図62 図版 51-62	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部は外縁する	粗線文/御調押捺	褐色/砂粒中量、 石英少量	縄文晩期中葉 加群利B式	遺構外
第136図63 図版 51-63	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外縁する	単節縄文瓦	にぶい褐色/砂粒 中量、小礫少量	縄文晩期中葉 加群利B式	653 Y
第136図64 図版 51-64	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに外縁する	埴文に縄文LR/棒状工具による斜位 沈線文	赤褐色/石英・砂 粒・小礫少量	縄文晩期中葉 加群利B式	653 Y
第136図65 図版 51-65	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外縁する	斜交沈線文	にぶい褐色/雲母・ 石英・砂粒少量	縄文晩期中葉 加群利B式	遺構外
第136図66 図版 51-66	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部はほぼ直立す る	沈線による意匠文	にぶい褐色/砂 粒少量	縄文晩期中葉 安行式	遺構外
第136図67 図版 51-67	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外縁する	沈線による意匠文	にぶい褐色/砂粒 中量、雲母少量	縄文晩期中葉 安行式	648 Y
第137図68 図版 51-68	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	口縁部は僅かに外縁 する	横位沈線文/斜交文	にぶい褐色/雲母・ 石英・砂粒少量	縄文晩期中葉 安行3c式	648 Y

第 42 表 遺構外出土縄文土器一覽(3)

神宮寺砂 器取番号	種 別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	出土位置
第137図69 図版 51-69	土器片断	3.5	3.3	1.0	12.3	深鉢形土器の胴部破片を転用/晩期前葉 Ⅲ之内	遺構外

第 43 表 遺構外出土縄文時代土製品一覽

神宮寺砂 器取番号	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	出土位置 出土遺構
第137図70 図版 52-1-70	石磨	黒曜石	1.97	1.38	0.33	0.29	凹形無茎/左腰部欠損/両面平坦研磨/須州産クワ産	651 Y
第137図71 図版 52-1-71	石磨	黒曜石	1.58	1.56	0.35	1.47	基部欠損/素材割片の背面・主要研磨面を多く残す/裏面 先端部尚微縁に平坦研磨/神津産	遺構外
第137図72 図版 52-1-72	石磨	チャート	1.81	1.57	0.45	1.06	凹形無茎/左側(先端部~腰部) 欠損/両面平坦研磨	31 H
第137図73 図版 52-1-73	石磨	チャート	2.43	1.15	0.50	1.39	有茎/基部欠損/両面平坦研磨	26 P
第137図74 図版 52-1-74	打製石斧	ホルンフェルス	9.62	5.26	1.62	82.09	定形/背面に厚磨面を多く残す幅広の割片を素材とし、横位 に用いる/厚縁を両面から部分的に加工し、刃部が弧状で下 膨れした形に成形	35 P
第137図75 図版 52-1-75	石皿	花崗岩	9.27	9.24	7.28	601.0	欠陥品/磨面を有する/磨面は縁をもつ断面に成形/左面・ 裏面は削打によって立方体状に成形/裏面に腰部あり/裏面 に縁の裏面の凸部が4か所以上残る	653 Y

第 44 表 遺構外出土縄文時代石器一覽



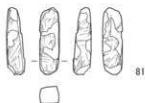
第138図 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器(1/4)

発掘番号 図取番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
第138図76 図取 52-2-76	高環	脚部 20%	高 [4.0]	脚部は八の字状に大きく外方に開く	内面：横方向のハケ目調整／外面：縦方向のヘラ磨き／脚部3方に内面の透孔(孔径1.0cm)／外面赤彩	にぶい褐色／砂粒少量、雲母微量	弥生後期～古墳前期	竪状遺構
第138図77 図取 52-2-77	ミニ チニア 土器	脚部 20%	高 [2.1] 底 (3.8)	高環形／脚部は八の字状に外方に開く	内外面：手づくね成形／内外面赤彩	にぶい褐色／石英・砂粒少量	弥生後期～古墳前期	竪状遺構
第138図78 図取 52-2-78	土師器 埴	底部 40%	高 [1.5] 底 (2.8)	脚部は丸みをもって立ち上がる／底部は上げ底である	内面：横方向のヘラナデ後ナデ／外面：脚部下端は横方向のヘラ磨き、底部は縦方向のヘラ磨き	褐色／砂粒少量	古墳前期	遺構外

第45表 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期の土器一覧



80 高環(断面)



81



第139図 遺構外出土中世以降の遺物(1/4・1/3)

発掘番号 図取番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置 出土遺構
図取 52-3-79	青磁 碗	脚部 破片	厚 0.6	—	中環／内外面：青磁釉、外面に黒線弁文／中環部江若龍泉原	灰色／緻密	中世 15世紀代	遺構外
第139図80 図取 52-3-80	陶器 碟鉢	底部 破片	高 [2.5] 底 9.3	皿込み、体部下に華目	内面：華目刷敷9本／1.2mm～2.0mm／内外面：瓦粒／底部右部焼糸切込／瀬戸・高瀬系	褐色／砂粒中量	近世 1670～1720年代	遺構外

第46表 遺構外出土中世以降の陶磁器一覧

発掘番号 図取番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第139図81 図取 52-3-81	瓦石	凝灰質砂岩	5.3	1.5	1.4	16.4	上・下端欠損／平面形は長方形、断面形は方形／小型で断面4面均等	遺構外

第47表 遺構外出土中世以降の石製品一覧

第4章 調査のまとめ

第1節 旧石器時代

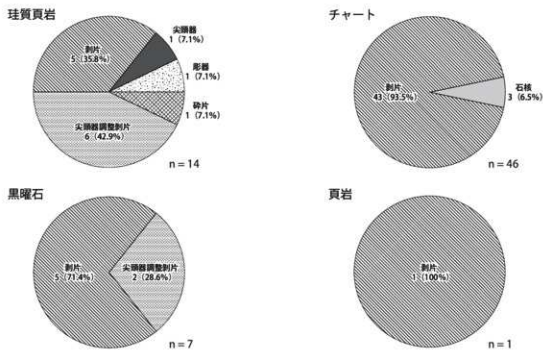
旧石器時代の遺構として、石器集中地点3か所（20～22号石器集中地点）、礫群3か所（5～7号礫群）が検出された（第10図）。ここでは石器集中地点ごとの石器分布・製作状況等の様相を取りまとめるとともに、礫群に関しては、本遺跡他地点及び市内他遺跡での検出事例との比較検討を行ってみたい。

（1）各石器集中地点の様相

① 20号石器集中地点（第11～25図）

立川ローム第IV層上～中部を主体に、立川ローム第III層下部から第V層下部にかけて計68点の石器が出土した。器種別の内訳は、尖頭器1点、彫器1点、石核3点、尖頭器調整剥片8点、剥片54点、破片1点で、石質別では、チャート46点、珪質頁岩14点、黒曜石7点、頁岩1点となる。また、石質別の器種組成は下記のとおりである（第140図）。

珪質頁岩製の石器は、尖頭器1点、彫器1点、尖頭器調整剥片6点、剥片5点、破片1点である。ツールは珪質頁岩を素材とするものにはば限定され、本石器集中地点では珪質頁岩がメインの石器石材であったと考えられる。石核が出土しておらず、尖頭器調整剥片が6点と比較的多く出土していることから、第13図1の尖頭器以外にも別の珪質頁岩製の尖頭器ないしはブランクが本地点に持ち込まれたと推測される。また、尖頭器の器面調整を行った後、本地点に遺棄された第13図1以外の尖頭器は本地点外に持ち出されたと考えられる。



第140図 20号石器集中地点 石質別器種組成

チャート製の石器は、石核3点、剥片43点で、石核3点の内2点（第18・19図23・24）は拳大を上回る大型品である。接合関係が多く認められ、その多くは同一母岩である可能性が考えられる。接合資料の分布は比較的広範囲に広がり、東西方向4.61m、南北方向4.35mを測る。接合資料の大半が原礫面及び節理面を多く残すことから、チャート製の石器に関しては、ほぼ原礫の状態で本地点を持ち込まれ、分割された後、礫面除去作業や剥片剥離等を行い、不要な部分を遺棄・廃棄したものと推測される。また、ツールが1点も出土していないことから、剥離後の良質な剥片の多くは本地点外に持ち出されたと考えられる。

黒曜石製の石器は、尖頭器調整剥片2点、剥片5点である。垂直分布に関しては同様の傾向を示すものの、珪質頁岩・チャート製の石器が中央部一帯に広く分布するのに対し、黒曜石製の石器は西端部に集中する点が着目される。チップや小剥片の出土は確認できなかったが、分布にまとまりがみられることから、本地点で剥片剥離が行われた可能性が考えられる。また、尖頭器調整剥片が2点出土していることから、黒曜石製尖頭器の調整を行い、遺棄された調整剥片以外の石器（尖頭器本体及びブランク）については本地点外に持ち出された可能性が考えられる。

なお、黒曜石製の石器に関しては、産地同定を行った（付編2参照）。全7点を分析し、信州霧ヶ峰6点（85.7%）、神津島1点（14.3%）という結果が得られた。

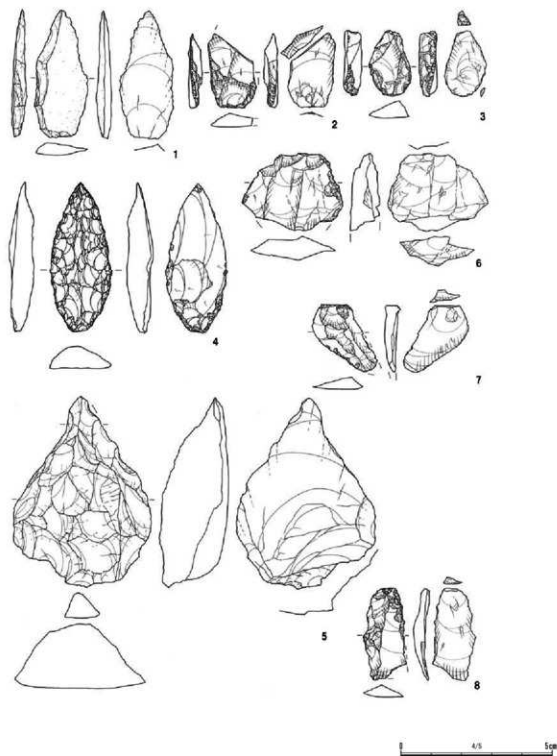
20号石器集中地点と同様に尖頭器を組成に含む石器集中地点として、区画整理第11地点で検出された4号石器集中地点が挙げられる。尖頭器1点の他、ナイフ形石器3点、石錐1点、剥片8点、碎片49点、礫4点が出土している（第141図）。尖頭器（4）は黒曜石製で、使用石材は本石器集中地点と異なるが、出土層位は立川ローム第IV層上部であり、同一層準となる。なお、礫群としては報告されていないものの、出土礫4点にはいずれも被熱による赤化がみられる。

その他、東京都西多摩郡瑞穂町に所在する松原遺跡（瑞穂町教育委員会ほか編 2011）では、第13図1に類似する珪質頁岩製の尖頭器を伴う石器集中部（ブロック1・2）が検出されており（第142図）、ブロック1・2に共伴する炭化材に対して加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定が行われている。ブロック1と分布範囲が重複する炭化材集中Bでは、 $18,550 \pm 60^{14}\text{C BP}$ 、 $18,720 \pm 50^{14}\text{C BP}$ 、ブロック2の北側に隣接する炭化材集中Aでは、 $17,190 \pm 50^{14}\text{C BP}$ 、 $16,640 \pm 45^{14}\text{C BP}$ という測定結果が得られており、20号石器集中地点に伴う5号礫群に与えられた $16,985 \pm 50^{14}\text{C BP}$ という ^{14}C 年代に近似し、本遺跡との関連性が大いに着目される。

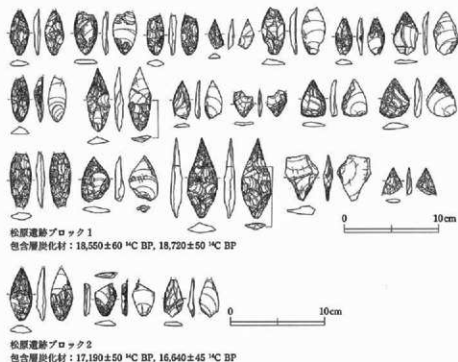
② 21号石器集中地点（第26～31図）

立川ローム第IX層上部を主体に、立川ローム第V層下部から第IX層下部にかけて計113点の石器が出土した。器種別の内訳は、ナイフ形石器1点、石錐2点、削器1点、二次加工のある剥片9点、石核1点、剥片91点、碎片8点で、石質は全てチャートである。

石器分布範囲の全域に及ぶ広範囲で計6例の接合関係が認められ、垂直分布の上下幅もやや大きい。微細な剥片が多く出土し、石核や二次加工のある剥片と接合されることから、本地点で剥片剥離等が行われたと推測される。また、ナイフ形石器（第28図1）に関しては先端部が欠落した状態で出土しており、先端部は本地点外に持ち出され、再利用された可能性が考えられる。



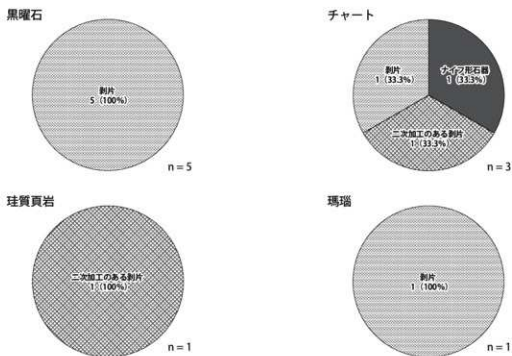
第141図 4号石器集中地点出土遺物(4/5)(佐々木ほか 2009を改変)



第142図 松原遺跡出土遺物(1/4)(工藤 2012より転載)

③ 22号石器集中地点(第32～34図)

Ⅱ層下部～立川ローム第Ⅲ層上部にまとまりをみせ、計10点の石器が出土した。器種別の内訳は、ナイフ形石器1点、二次加工のある剥片2点、剥片7点で、石質別では黒曜石5点、チャート3点、珪質頁岩1点、瑪瑙1点となる。また、石質別の器種組成は下記のとおりである(第143図)。



第143図 22号石器集中地点 石質別器種組成

黒曜石製の石器は剥片5点である。20号石器集中地点と同様に産地同定を行った。全5点を分析し、神津島2点(40.0%)、信州霧ヶ峰1点(20.0%)、天城柏峠1点(20.0%)、産地不明1点(20.0%)という結果が得られた。複数の産地で採取された黒曜石を使用している点が着目される。

本遺構は規模が小さく、石器製作活動についての検証材料が少ないが、ナイフ形石器(第34図1)に関しては基部のみが出土していることから、刃部ほか主要部分は本地点外に持ち出され、再利用された可能性が考えられる。

④遺構外出土石器(第133・134図)

遺構外から出土した黒曜石製の石器についても産地同定を行った。対象とした石器は計21点で、神津島12点(57.1%)、信州霧ヶ峰6点(28.6%)、信州八ヶ岳2点(9.5%)、天城柏峠1点(4.8%)という結果が得られた。ツール及びトツールに関わる調整剥片については、有槌尖頭器(第133図2)が信州霧ヶ峰産、尖頭器調整剥片(第133図6)が神津島産という状況である。出土層位不詳の資料が大半を占め、縄文時代以下に下る資料が数点含まれる可能性があるが、尖頭器調整剥片をはじめとする神津島産黒曜石を使用した石器が確認された事は、石器の搬出入を考える上で、貴重なデータとなろう。

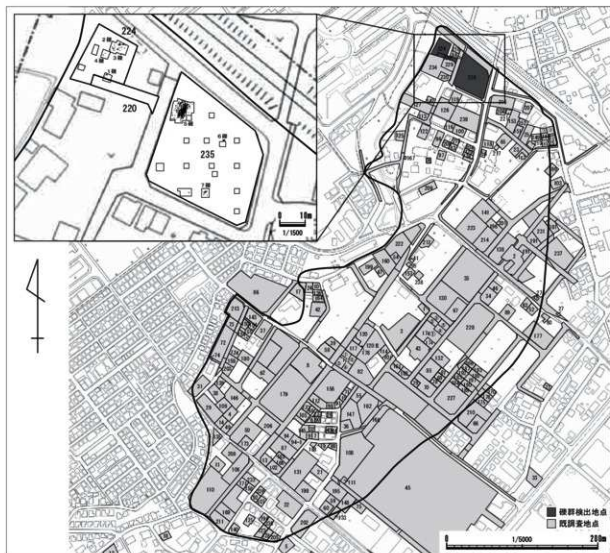
(2) 本遺跡における礫群の様相

本遺跡では、本地点の他に第220・224地点で旧石器時代の礫群が計7か所(令和5年1月18日時点)確認されている(第144図)。いずれも本遺跡の北端部に位置し、地勢的には武蔵野台地北東端部に形成されたごく緩やかな斜面地に所在する。

第48表に本遺跡で検出された礫群の一覧を示した。層位的にみると3時期の文化層が確認され、6・7号礫群が第1文化層(Ⅱ層下部～立川ローム第Ⅲ層)、1・2・5号礫群が第2文化層(立川ローム第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部)、3・4号礫群が第3文化層(立川ローム第Ⅵ層下部～第Ⅶ層)に相当する。上記のとおり、現時点では各礫群の検出層位に差異があるため、同一尺度での比較検討は難しい状況であるが、本遺跡における旧石器時代の礫群の使用状況を考察すべく、各礫群の様相について概観してみたい。

1～7号礫群の特徴の1点目として、使用石材は砂岩を主体とし、次いでチャート・ホルンフェルス等、本遺跡の近隣で比較的採取が容易であったと推測される石材に限られる点が挙げられる。近隣でこれらの石材が採取可能な場所としては、柳瀬川の河床が想定されよう。2点目は、3～898点(接合後は661点)と点数は大小様々であるが、いずれも礫の完形率が低い点である。1・4・7号礫群は全て破砕礫で、最も礫の完形率が高い6号礫群でも18.2%という算出結果であった。3点目は5号礫群を除き、礫の接合関係がほとんど認められず、接合資料が少ない点である。礫の完形率が低い点と相関関係にあるものと推測され、接合を経て完形礫になるものは各礫群で1点も認められなかった。

礫の完形率が低い点、並びに接合資料が少ない点から、本遺跡では欠損礫を二次使用していた可能性が考えられる。また、礫の点数が他の礫群に比して3～12点と少なく、全て破砕礫で構成される1・4号礫群については、移動時に再使用可能な礫を抜き取り、使用不可となった礫のみを遺棄した結果、相対的に礫点数が減少した可能性も想定される。ただし、6号礫群については礫の点数が11点と少数ではあるものの、内2点は完形礫であり、1・4号礫群とは異なる使用状況を示している。



第144図 西原大塚遺跡検出群分布図(1/5,000・1/1,500)

①城山遺跡検出群との比較検討

次に本遺跡と同じく柳瀬川下流域の武蔵野台地北東端部に所在し、本遺跡の北東方向約500mに位置する城山遺跡で検出された群との比較検討を行いたい。

城山遺跡ではこれまでに群11か所(1～11号群)が検出されている(第49表)。城山遺跡1～9号群は本遺跡で検出された群とは異なる層位で検出されたため、直接的な検証は難しいが、城山遺跡10号群は、1・2・5号群と同一文化層(立川ローム第IV層下部～第V層上部)、城山遺跡11号群は、3・4号群と同一文化層(立川ローム第VI層下部～第VII層)に比定される。

城山遺跡1～11号群の使用礫は砂岩を主体とし、次いでチャート・ホルンフェルスと続き、本遺跡と同様に近隣の採取が可能であった3種の石材に限定される。礫の完形率は本遺跡に反して高く、中でも城山遺跡3・4号群は完形率40.7～42.2%、城山遺跡6号群は完形率59.1%と高い数値を示し、城山遺跡1～11号群の礫の完形率の平均値は、30.9%という算出結果が得られた。接合関係も多く認められ、接合を経て完形礫となるものが多いのが特徴的である。

遺構番号	規模	検出層位	文化層	標高(m)	重複遺構	石材	備考	礫の完形率	検出地点
1棟	東西 2.80 m 南北 2.40 m	立川ローム第IV層下部 ～第V層上部	㉔	13.10 ～13.24	16号石器集中地点 (平面分布)	砂岩	礫点数 12 点、 全て破砕礫。 接合関係 1 例。	0.0%	第 220 地点 第 224 地点
2棟	東西 1.36 m 南北 1.34 m	立川ローム第IV層下部 ～第V層下部	㉔	12.89 ～13.14	17号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩	礫点数 21 点、 内 1 点完形礫。 接合関係 0。	4.8%	第 224 地点
3棟	東西 5.20 m 南北 2.60 m	立川ローム第VI層下部 ～第VII層下部	㉓	12.66 ～12.80	18号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート 頁岩 ホルンフェルス	礫点数 33 点、 内 4 点完形礫。 接合関係 3 例。	12.1%	第 224 地点
4棟	東西 0.44 m 南北 1.04 m	立川ローム第VII層	㉓	12.77	なし	砂岩	礫点数 3 点、 全て破砕礫。 接合関係 1 例。	0.0%	第 224 地点
5棟	東西 8.06 m 南北 8.58 m	立川ローム第IV層下部 ～第V層上部 (集大成)	㉔	13.15 ～14.12	20号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート 泥岩 礫岩 ホルンフェルス	礫点数 898 点、 内 6 点完形礫。 接合関係 127 例。	0.7%	第 235 地点
6棟	東西 0.21 m 南北 0.31 m	II層下部～ 立川ローム第III層上部	㉑	14.62 ～14.73	22号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩	礫点数 11 点、 内 2 点完形礫。 接合関係 1 例。	18.2%	第 235 地点
7棟	東西 1.44 m 南北 1.65 m	II層下部～ 立川ローム第III層上部	㉑	14.53 ～14.77	なし	砂岩 チャート	礫点数 30 点、 全て破砕礫。 接合関係 4 例。	0.0%	第 235 地点

第 48 表 西原大塚遺跡検出礫群一覽

遺跡名 遺構番号	規模	検出層位	文化層	標高(m)	重複遺構	石材	その他特徴等	礫の完形率	検出地点
城山 1号礫群	東西 1.70 m 南北 1.40 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	10.05 ～10.36	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 46 点、 内 11 点完形礫。 接合関係 10 例。	23.9%	第 71 地点
城山 2号礫群	東西 1.00 m 南北 0.80 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	10.02 ～10.27	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 11 点、 内 2 点完形礫。 接合関係 4 例。	18.2%	第 71 地点
城山 3号礫群	東西 2.30 m 南北 2.00 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	10.05 ～10.31	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 140 点、 内 57 点完形礫。 接合関係 17 例。	40.7%	第 71 地点
城山 4号礫群	東西 1.20 m 南北 1.10 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	10.16 ～10.34	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 83 点、 内 35 点完形礫。 接合関係 12 例。	42.2%	第 71 地点
城山 5号礫群	東西 2.50 m 南北 1.70 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	10.10 ～10.31	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 120 点、 内 35 点完形礫。 接合関係 17 例。	35.8%	第 71 地点
城山 6号礫群	東西 1.60 m 南北 1.70 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	10.22 ～10.34	1号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 22 点、 内 13 点完形礫。 接合関係 17 例。	59.1%	第 71 地点
城山 7号礫群	東西 1.80 m 南北 1.90 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	9.34 ～9.57	2号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 29 点、 内 6 点完形礫。 接合関係 17 例。	20.7%	第 71 地点
城山 8号礫群	東西 2.00 m 南北 2.10 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	9.14 ～9.43	2号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 107 点、 内 40 点完形礫。 接合関係 9 例。	37.4%	第 71 地点
城山 9号礫群	東西 1.80 m 南北 1.90 m	立川ローム第V層上部 ～第VI層下部	㉔	9.09 ～9.39	2号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート ホルンフェルス	礫点数 36 点、 内 7 点完形礫。 接合関係 4 例。	19.4%	第 71 地点
城山 10号礫群	東西 5.67 m 南北 5.55 m	立川ローム第IV層下部 ～第V層上部	㉔	11.10 ～11.50	9号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 301 点、 内 18 点完形礫。 接合関係 44 例。	6.0%	第 96 地点
城山 11号礫群	東西 1.83 m 南北 2.19 m	立川ローム第VII層	㉓	11.20 ～10.45	10号石器集中地点 (平面分布) 11号石器集中地点 (平面・垂直分布)	砂岩 チャート	礫点数 22 点、 内 8 点完形礫。 接合関係 2 例。	36.4%	第 96 地点

※文化層㉔：文化層㉓の一部並行し、先行する文化層

第 49 表 城山遺跡検出礫群一覽

② 5号礫群について

礫群は調理用の装置・施設として現状理解されていることを踏まえ（鈴木 2005 ほか）、本章では調理行為によって表面ないし破断面が赤化した礫の分布状況に着目してみたい。総点数 898 点中、表面・破断面の双方が赤化するものが 571 点（63.6%）、表面・破断面のいずれかが赤化するものが 208 点（23.2%）、赤化が認められないものが 119 点（13.2%）となり、赤化するものが 86.8% を占める。

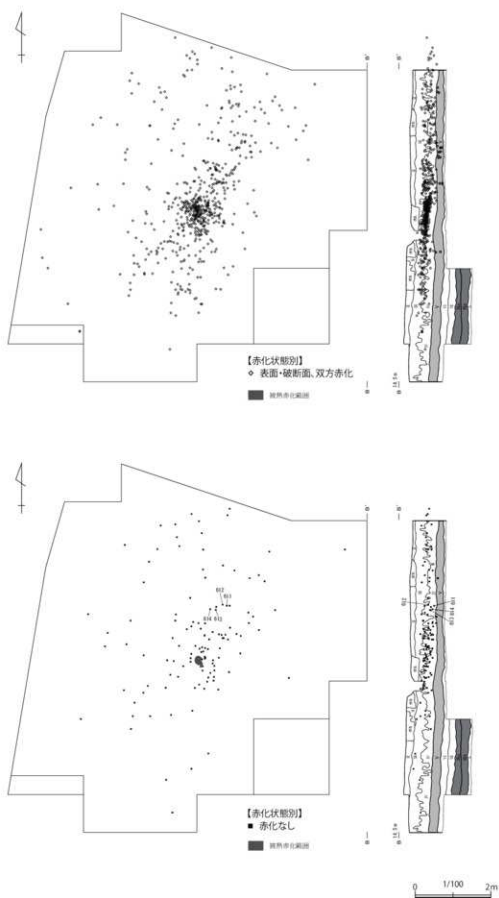
第 145 図上段は赤化礫、下段は非赤化礫の分布図である。両図を比較すると、点数の多寡を除けば大きな差異は認められない。被熱によるローム層の赤化が確認された中心部に集中域がみられる点は、赤化・非赤化礫に共通して認められ、垂直分布も概ね合致するが、平面分布に関しては、非赤化礫の平面分布の方が幾分コンパクトとなる傾向にある。要因として、被熱によって破砕された軽量の礫が外縁部に拡散した可能性や、使用不可となった破砕礫を人為的に外縁部に撤去した可能性等が推測される。

他の礫群も 6号礫群以外は礫の被熱赤化率が極めて高く、1・3・4号礫群は 100% という高い数値を示している（第 146 図）。6号礫群については礫の総点数が 11 点と少なく、また礫の完形率が 18.2% と本遺跡で検出された礫群の中では相対的に高い比率を示す点との関連性が考えられる。

一概には言えないが、礫の総点数に比例して使用期間が長くなることが想定され、その観点からすれば、6号礫群は使用期間が短く、898 点の礫が出土した 5号礫群は長期間の使用が想定される。使用期間が長くなれば礫の被熱赤化率は増加し、それに付随して礫は破砕され、礫の完形率は減少する。5号礫群の礫の完形率は 0.7% と低く、同一文化層で検出され、301 点の礫が出土した城山遺跡 10号礫群も礫の完形率は 6.0% と低い。ただし、礫点数が 3～30 点と少ない 1・4・7号礫群は全て破砕礫で構成され、完形率 0% のため、礫の完形率と総点数は比例関係にはない。現状、礫の完形率と被熱赤化率が逆比例の関係にあると考えられ、礫の完形率が低い 1～5・7号礫群は被熱赤化率が 80% 以上と高く、反して礫の完形率が高い城山遺跡 3～5号礫群の被熱赤化率は 50% 前後と相対的に低い数値を示す。

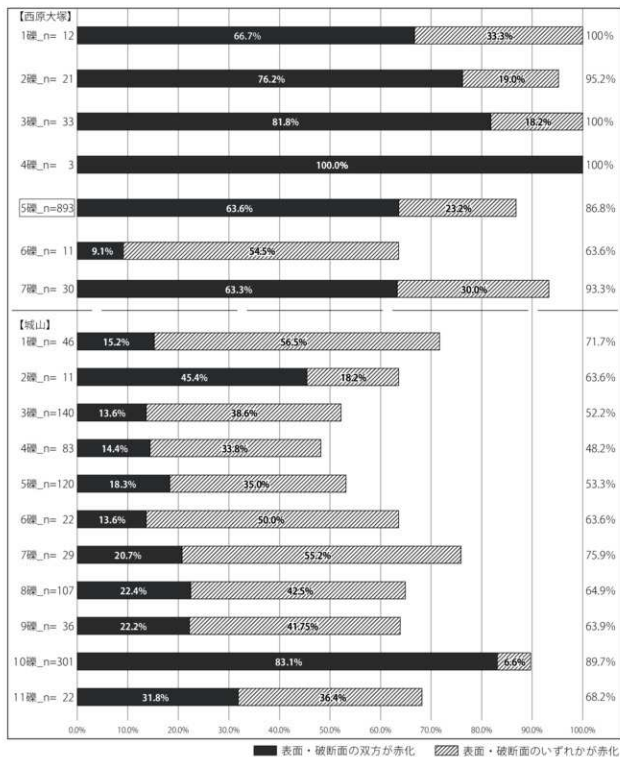
5号礫群は、規模や礫の被熱赤化率の高さから比較的長期間使用されたことが想定される。また、5号礫群と平面・垂直分布が一致する 20号石器集中地点から出土した石器はさほど多くないため、活発な石器製作を想定することは難しい。規模等から想定される 5号礫群の使用頻度は高かったと思われる、石器製作よりも礫群使用がメインの場であったと推測される。中心部から 1.5 m ほど北に外れた箇所隣接して出土した完形礫 4 点（611～614）はいずれも非赤化礫で、設置に留まり未使用のまま遺棄されたと考えられる。最初期はこの様な完形礫の使用を前提とするのだろうが、5号礫群では完形礫が 898 点中 6 点と極端に少なく、計 127 例の接合関係が認められながらも完形礫となるものが 1 点も認められないため、他の礫群から持ち込まれた欠損礫を二次使用した可能性が想定される。更には、再使用可能な礫の抜き取りの可能性も考えられよう（竹内 2005）。今後、同一文化層の礫群間での接合関係を確認することで、欠損礫の二次使用に関する知見が得られることを期待したい。

最後に石材ごとの分布・接合状況について触れたい。点数が多い砂岩・チャートは、被熱によるローム層の赤化が確認された中心部集中域を含め、全体的に広がるが、東西方向に比して南北方向に濃く分布し、接合線も南北方向に多く引かれる傾向が認められる。泥岩も同様の傾向が認められるが、特段南北方向に長い分布傾向を示している。礫岩については中心部にコンパクトに集中し、他の石材と同様に接合線は南北方向に多く引かれる。ホルンフェルスについても接合線は南北方向に引かれるが、点数が 4 点と少なく、いずれも破砕された軽量礫（最大 21.3 g）であるため、大部分は抜き取られ、本遺跡外に持ち出された可能性が高いと考えられる。



第145図 5号礫群赤化状態別分布図(1/100)

接合線が南北方向に多く引かれる点から、礫群の中から調理した食料を取り出す際に、被熱赤化が確認された中心部集積域を起点として、主に南北方向に礫を移動させた可能性が推察される。また、共存する20号石器集中地点の石器群は平面分布を重複させながらも、南北方向に多くの接合線が引かれる5号礫群中心部集積域東側を避ける形で、その西側に比較的多く分布することから、石器製作と調理施設の間が大まかにエリア分けされていた可能性が考えられる。



第146図 礫群出土礫の被熱赤化率

第2節 弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構として、住居跡16軒（640～655号住居跡）が検出された。ここでは、（1）住居跡出土土器の器種組成と形式分類、（2）住居跡の変遷について所見を述べ、まとめとしたい。

（1）住居跡出土土器の器種組成と形式分類について

640～655号住居跡から出土した鉢・高坏・埴・壺・甕・器台形土器の6器種を対象に形式分類を行いたい。なお、壺形土器に関しては小頂を設け、壺・広口壺・小型壺の3器種に小分類して述べることとする。本分類は、先学諸氏の分類基準（佐々木ほか 2000、比田井 2001・2004、宮川 2003、大村 2004、松本 2005・2022、古谷 2013、安藤 2015）を参考とし、本地点の出土状況に即して変更を加えたものである。また、時期区分については弥生時代後期～古墳時代前期の南武蔵を網羅する比田井氏の編年案を主軸とし、他地域・他の研究者の時期区分と共に第50表に示す。

地域	南武蔵			東京湾東岸域	南武蔵南部	西相模	東遠江	尾張	畿内	
時期	文献	比田井 2001	安藤 2015	松本 2005	大村 2004	古谷 2013	地域と考古学の会編 2021	赤塚 1990他	寺沢 1986	
弥生時代	中期末	宮ノ台式					IV-5	—	—	—
	後期初頭	後期Ⅰ段階古	久ヶ原Ⅰ式古	久ヶ原Ⅰ式	久ヶ原Ⅰ式	北川谷Ⅰ期	(V-1)	菊川Ⅰ(古)	山中Ⅰ	
	後期前葉	後期Ⅰ段階新	久ヶ原Ⅰ式新	久ヶ原Ⅱ式古	久ヶ原Ⅱ式古	北川谷Ⅱ期	V-2古	菊川Ⅱ(中)		
	後期中葉	後期Ⅱ段階古	久ヶ原Ⅱ式古	久ヶ原Ⅱ式新	山田橋Ⅰ式	北川谷Ⅲ期古	V-2新		山中Ⅱ	畿内V
		後期Ⅱ段階新	久ヶ原Ⅱ式新		山田橋Ⅱ式古	北川谷Ⅲ期新	V-3	菊川Ⅲ(新)	山中Ⅲ	
	後期後葉	後期Ⅲ段階古	久ヶ原Ⅲ式	久ヶ原Ⅲ式	山田橋Ⅱ式新	北川谷Ⅳ期古	V-4	菊川Ⅳ(最新)	廻間Ⅰ式0	庄内0
		後期Ⅲ段階新				北川谷Ⅳ期新		廻間Ⅰ式1	廻間Ⅰ式2	
	後期末～ 前期初頭	前期Ⅰ段階古			中台Ⅰ式	北川谷Ⅴ期古	三沢西原Ⅰ	廻間Ⅰ式3	庄内1	
					中台Ⅱ-1式	北川谷Ⅴ期新		廻間Ⅱ式1	廻間Ⅱ式2	庄内2
	前期前葉	前期Ⅰ段階新			中台Ⅱ-2式	北川谷Ⅴ期新	三沢西原Ⅱ	廻間Ⅱ式3	庄内3	
	前期中葉	前期Ⅱ段階			草刈Ⅰ式	北川谷Ⅵ期		廻間Ⅱ式4	廻間Ⅲ式1	布留0
	前期後葉	前期Ⅲ段階			草刈Ⅱ式		三沢西原Ⅲ	廻間Ⅲ式2	布留1	
					草刈Ⅲ式	—		廻間Ⅲ式3		廻間Ⅲ式4
古墳時代							松河戸Ⅰ	布留2		

第50表 編年対応表(案)

①鉢形土器

実測個体は3点である。648・651・655号住居跡から各1点出土した。

A類 口縁部が内湾するもの。……648 Y-1、655 Y-1

B類 口縁部と体部の境に段を有し、口縁部が外反するもの。……651 Y-1

A類とした2点は器高の違いはあるものの、全体形状を含め、内外面のヘラ磨き調整や口唇部に面を有する点に共通点がみられる。同一形式と考えられ、概ね比田井編年の弥生後期Ⅲ段階古・新相（以下、比田井編年は省略）の範疇に納まると推測される。B類は内外面に赤彩が施され、器形に小型丸底壇の影響がみられることから段階的に新しく、古墳前期Ⅰ段階新相以降に属すると考えられる。

②高坏形土器

実測個体は9点である。643・644・651・653・654号住居跡から出土した。高坏形土器はA類を除き、他地域の土器との関係性が極めて深い点が着目される。なお、()で示した土器は破片資料のため、やや分類の精度を欠くが、参考として記した。

A類 坏部は塊状を呈し、脚部がハの字状に開くもの。…該当なし

B類 塊状ないし逆三角錐形の坏部をもち、口縁部は概ね水平に屈曲し、鐔状を呈するもの。
……654 Y-1、(653 Y-1)

C類 坏部は中位から屈曲して外面に稜を有し、脚下半部がラッパ状に開くもの。
……644 Y-1、(643 Y-1・2)

D類 坏部は稜をもち、塊状を呈するもの。……651 Y-2・3・4

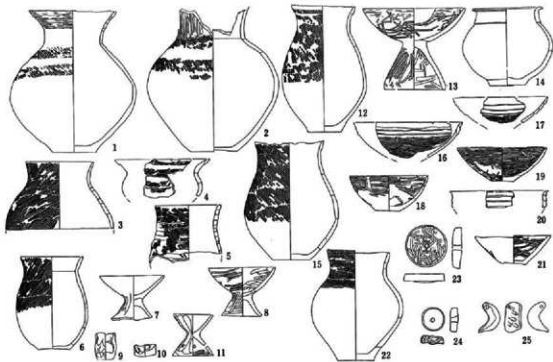
A類は東京湾沿岸域在来の形式で、口唇部や口縁部外面に縄文が施されるものが一般的である。本地点では出土しなかったが、本遺跡では11号方形周溝墓（佐々木ほか 2009）等で出土例が確認されている。弥生時代中期後半の宮ノ台式期末に初出し、A～D類の中では古相に位置付けられる。

B類は天竜川東岸域（東遠江）の菊川式土器を祖型とすると考えられる。従来みられた口縁部・脚部への施文（縄文・刺突文等）は省略され、脚端部（裾部）の段も消失していることから、外来系土器との折衷様式が多く誕生する弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられる。鐔状口縁を呈する長脚の高坏は中部高地地方の箱清水式土器でも広くみられ、25号方形周溝墓（佐々木ほか 2009）等で、その系譜に連なる土器が出土しているが、それら中部高地系の土器は坏部が箱形を呈し、脚部がラッパ状に大きく開く点が、654 Y-1と相違する。

653 Y-1は口縁部を欠くものの、坏下半の形状が654 Y-1と類似することからB類としたが、口縁部の形状によっては中部高地系の土器系譜に連なる可能性も考えられる。また、654 Y-2は上記の分類に該当するものはなかったが、深身で逆三角錐形の坏部を有する高坏は、群馬県赤城山南麓地域を中心に分布する赤井戸式土器（北武蔵に分布する吉ヶ谷式土器の異地域同型式）に類似例があり（第147図）、関連性が想起される。

C類の出自に関しては、東海西部地方（尾張）の山中式土器、中部高地地方の箱清水式土器の2系統が想定されている。山中式土器の系譜にある土器群は神奈川県下、特に相模湾沿岸域に広く分布し、直接的な搬入品と考えられる出土例も多く確認されるが、埼玉県内では東松山市五領遺跡等ごく僅かな出土に止まっており、客体的である。本地点出土の3点はいずれも破片資料のため、どちらの系統に属するかは不詳である。

D類は、東海西部地方（尾張～三河）に出自が求められる。環部下端に稜を有し、口縁部が大きく立ち上がる元屋敷系高環の派生形と考えられ、元屋敷系高環にやや後出して出現する。A～D類の中では新相に位置付けられ、小型器台が盛行する布留0式並行期以降に広く分布し、651 Y-2～4は概ね古墳前期1段階新相に位置付けられる。



第147図 赤井戸式土器（大川ほか編 1996より転載）

③ 埴形土器

実測個体は4点である。640・641・644・646号住居跡から各1点出土した。なお、646 Y-1は口縁部破片のため、形式分類はできなかった。

A類 小型で平底（上げ底含む）のもの。

- 1 口縁部が外反するもの。…… 641 Y-1
- 2 口縁部が直立気味に立ち上がるもの。…… 644 Y-2

B類 小型で丸底のもの。…… 640 Y-1

古墳前期1段階古層のメルクマルとされる小型器台の出現に後出して、埴形土器は出現する。相対的にA類（小型平底埴）が先行し、B類（小型丸底埴）は後出すると捉えられており、B類は古墳前期II段階に広く波及する。

④ 壺形土器

実測個体は29点である。640～644・646・648・651～655号住居跡から出土した。壺形土器に関しては全体形状が分かる資料が少ないため、A) 口縁部形態による分類、B) 器形による分類、C) 口縁部文様帯による分類、D) 胴部文様帯による分類、の4つの構成要素に基づき、それぞれ分類を行うものとし、上記要素を含まない破片資料については分類対象から除外した。

A) 口縁部形態による分類

- a類 幅狭の複合口縁をもつもの（折り返し口縁も含む）。
 …… 640 Y-5、643 Y-3、(652 Y-5)、654 Y-3、655 Y-2
- b類 幅広の複合口縁をもつもの。… 644 Y-10、652 Y-4
- c類 単口縁のもの。…… 644 Y-3～9

B) 器形による分類

- a類 胴下部に最大径を有するもの。…… 641 Y-3・4、653 Y-2
- b類 胴中央部に最大径を有するもの。…… 644 Y-5・6
- c類 胴部が球形を呈するもの。…… 644 Y-3・4、651 Y-5、652 Y-2

C) 口縁部文様帯による分類

- a類 縄文が施されるもの。…… 652 Y-4（外面）
- b類 端末結節で、縄文帯の端部を区画するもの。…… 655 Y-2（内外面）
- c類 櫛描波状文が施されるもの。…… 652 Y-5（内面）

D) 胴部文様帯による分類

- a類 平行沈線・山形沈線等で、縄文帯を区画するもの。…… 648 Y-4
- b類 S字状結節文で、縄文帯の端部を区画するもの。…… 641 Y-4
- c類 縄文帯の上下端の区画が無いもの。…… 641 Y-3
- d類 網目状燃糸文が施されるもの。…… 655 Y-3
- e類 櫛描波状文ないし櫛描直線文が施されるもの。…… 643 Y-4、652 Y-6

上記4分類の傾向をまとめ、本地点出土の壺形土器の様相について、比田井編年に基づき概観してみたい。最初に口縁部形態によるA)分類については、3類型の内、A a・A c類は弥生後期Ⅰ段階古相から存在するが、A b類（幅広の複合口縁を有するもの）のみ出現が遅れ、他の器種との共存関係からその時期は弥生後期Ⅱ段階新相と捉えられている。複合口縁部の頸状垂下は、時期が新しくなるにつれ小さくなる傾向が認められるが、644 Y-10は頸部との隙間が維持されており、最初期の弥生後期Ⅱ段階新相の特徴を残している。

次に器形によるB)分類について述べたい。大局として、B a→B b→B cの順に胴部の形態が変化すると考えられており、弥生後期Ⅱ段階古相まではほぼB a類に限定され、逆に古墳前期Ⅰ段階新相に至ると、B c類にほぼ一本化される。本地点で出土した壺形土器の中では、653 Y-2が算盤玉状の胴部形態を呈し、弥生後期Ⅱ段階新相～Ⅲ段階古相に比定される古い様相を示している。

三番目として口縁部文様帯によるC)分類について述べたい。後述する胴部文様帯も含め、本地点で出土した壺形土器の施文率は低く、無文の土器が約7割を占める。口縁部に文様帯が認められた土器は3点のみであった。652 Y-4は折り返し口縁部の外面に羽状縄文(RL・LR)、口唇部に縄文LRが施されており、東京湾沿岸域在来の形式と考えられる。655 Y-2は折り返し口縁部の内面に、端末結節を伴う縄文LR（以下、端末結節縄文と記す）が施される。端末結節縄文は、従来用いられていた沈線やS

字状結節文とは異なる手法で文様帯を区画する手法で、その出自は東海東部地方（東遠江）に求められると考えられており、後期中葉の菊川式新段階（Ⅲ式期）以降、端末結節縄文が施される壺形土器は駿河・相模地方に広く波及し、弥生後期Ⅲ段階には、東京湾東岸域を除いて南関東地方にも分布が広がっていく（鮫島 1994）。655 Y-2の幅狭の複合口縁部は若干垂下しており、端末結節縄文以外にも菊川式土器の影響が窺える折衷様式の土器と考えられる。652 Y-5は複合口縁部の内面に櫛描波状文が施される。口頸部は大きく外反し、口縁部も大きく垂下することが推測され、文様構成及び口縁部形態には東海西部地方を第一候補とする他地域の土器の影響が窺える。

四番目として胴部文様帯によるD)分類について述べたい。胴部に文様帯が認められた土器は5点と少なかったが、比較的多くのバリエーションがみられた。胴部文様帯は時期が下るごとに簡素化・省略化されていき、古墳前期Ⅱ段階にはほぼ消失し、無文となる。地域性や他の構成要素を考慮すると一様であるとは言えないものの、南関東地方では概ねD a→D b→D c→D dの順に形式が推移し、時期が下るに従い簡素化・省略化が進むと考えられている。D e類は縄文・撚糸文をベースとした南関東地方在来の文様構成とは異なり、櫛描波状文・直線文で構成された文様帯を有することから他地域の土器の影響が窺える。

最後に上記分類外で特徴的な土器として、頸部に凸帯を有する646 Y-2について触れたい。646 Y-2の系譜は東海西部地方（西遠江）に求められ、弥生後期Ⅱ段階新相に出現し、以後古墳前期Ⅰ段階まで散見される。最初期の凸帯は肩部への移行部に巡らされていたが、時期が新しくなるにつれ、頸部最細部に移行する傾向が認められる。646 Y-2は「く」の字に屈曲した頸部の最細部に凸帯が巡り、頸部の形態も加味すると終末段階の古墳前期Ⅰ段階古相に位置付けられる。

次に壺形土器の中で、広口壺形土器、小型壺形土器を小分類し、それぞれについて述べたい。

【広口壺形土器】

実測個体は2点である。652号住居跡から出土した。

A類 複合口縁をもつもの。…… 該当なし

B類 単口縁のもの。

- 1 口唇部に刻みが施されるもの。…… 652 Y-1
- 2 口唇部に刻みが施されないもの。…… 652 Y-3

本地点では単口縁をもつB類のみが出土した。複合口縁をもつA類とは別系譜と考えられており、弥生後期Ⅰ段階から認められるA類に後出して、弥生後期Ⅱ段階古相から出現する。全体的な器形の変化は壺形土器と同じ流れを辿り、B 2類は頸部が「く」の字に屈曲し、胴部形態が球形を志向する古墳前期Ⅰ段階古相以降の特徴を有する。口唇部に刻みが施されるB 1類は頸部の屈曲が弱く、中央部より上位に胴部最大径を有することから、一段階古い弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられると考えられる。

【小型壺形土器】

実測個体は3点である。641・651・653号住居跡から出土した。なお、641 Y-2は全体形状が不明であるため、形式分類からは除外する。

A類 器高と胴部最大径の比率がほぼ一対一のもの。… 651 Y-6

B類 胴部最大径より器高の方が高く、全体に細長くなるもの。…… 653 Y-4

小型壺形土器は弥生後期Ⅱ段階新相に出現し、同Ⅲ段階以降に出土数が増加する。A・B類は併存し、ほぼ同様の消長をみせる。全体的な器形の変化は壺形土器と同じ流れを辿り、651 Y-6は古墳前期Ⅰ

段階新相に位置付けられる。頸部の屈曲がやや緩やかな653 Y-4は段階的に古く、ドーナツ状の底部形態及び肩部文様帯(縞直線文・コンパス文)等から総合的に判断し、弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられると考えられる。

⑤ 甕形土器

実測個体は38点である。640・641・644・646・648・649・651・653号住居跡から出土した。該期の甕形土器は、底部の形態から大きく平底甕、丸底甕、台付甕の3種に分けられるが、本地点では畿内地方の布留式甕を祖形とする丸底甕は出土していない。また、16点の土器は脚部が残存していたため、台付甕と判別できたが、脚部及び底部を欠くため、区分ができなかった土器が多く存在する。そのため、本稿では平底甕、台付甕を総括し、「甕形土器」として形式分類を行い、比田井編年を参照しながら概観してみたい。なお、下記の形式分類において、平底甕と判別できた土器には下線、台付甕と判別できた土器に関しては二重下線を付した。

A類 輪積痕を複数段残すもの。… 649 Y-1

B類 輪積痕を一段残すもの。… 640 Y-3、649 Y-2

C類 外面にナデ調整が施されるもの(※)。…… 644 Y-14、648 Y-3、653 Y-8

D類 外面にハケ目調整が施されるもの。

1 口唇部に刻みが施されるもの。…… 641 Y-5、644 Y-19・23、653 Y-5・6

2 口唇部に刻みが施されないもの。…… 644 Y-15～18・20～22・24、646 Y-3、651 Y-7

O類 残存部位が少なく、細分できなかったもの(いずれも外面にハケ目調整が施される)。

…… 644 Y-25～28、644 Y-29～32、648 Y-2、649 Y-3、651 Y-8、653 Y-7

(※) ナデに限らず、横ナデ・ヘラナデ・ヘラ削り等で、輪積痕・ハケ目調整痕を消した土器全般を指す。また、痕跡が完全には消し切れておらず、僅かに残存する土器も便宜上含む。

口縁部から頸部にかけて輪積痕を複数段残すA類は、最古段階に位置付けられる類型である。弥生時代中期後半の宮ノ台式期末での確認例は未だ無いことから、弥生後期Ⅰ段階古相に出現すると考えられている。B類はA類の輪積痕をナデ消して一段にしたもので、一段階後の弥生後期Ⅰ段階新相に出現する。A類は時期が新しくなるにつれ、輪積痕の段数を減少させ、B類と共に古墳前期Ⅰ段階古相まで残るが、同新相にはほぼ消失する。A類の649 Y-1(台付甕)は、最初期には十段前後残されていた輪積痕が4段にまで減少するが、頸部は緩やかに屈曲し、口縁部から胴部下端にかけての全体形状が下膨れ状となる古い様相を残しており、弥生後期Ⅱ段階新相に位置付けられる。B類の内、649 Y-2は、最初期は下膨れ状を呈していた胴部が緩やかな球形に転じていることから、概ね弥生後期Ⅲ段階古相に位置付けられる。ほぼ完形となる640 Y-3は単口縁の平底甕で、頸部接合部に明瞭な輪積痕を残しているが、胴部の球形化が進行しており、古墳前期Ⅰ段階新相に位置付けられる。

C類は輪積痕を全てナデ消すことによって成立した土器で、B類より更に一段階遅れて弥生後期Ⅱ段階古相に出現すると考えられている。本地点では全体形状が分かる資料は出土していないが、644 Y-13は胴部中位より上部(肩部付近)に最大径を有し、同類の中では新しい様相を呈する。胴部が球形を呈する648 Y-3(台付甕)と共に概ね弥生後期Ⅲ段階新相に位置付けられる。

D類は、弥生時代中期後半宮ノ台式の平底甕の系譜の直系として、弥生後期Ⅰ段階古相から存在する最古の類型である。弥生後期Ⅰ段階新相までは平底甕と台付甕が併存するが、古墳前期Ⅰ段階新相以降は、台付甕に一本化される。口唇部の刻みの有無により、D1・D2類に細分され、刻みが施されるD1類は古墳前期Ⅰ段階新相まで存続する。古墳前期Ⅱ段階以降は刻みが施されないD2類のみとなり、上述した台付甕への一本化と連動する点が興味深い。なお、古墳前期Ⅰ段階新相までD1・D2類は併存し、両者に新旧関係は認められないが、押しなべてD1類の頸部の屈曲度は弱く、古い段階の形態を呈しており、相対的にみるとD1類の方が古い印象を受ける。

台付甕の脚部は最初期の弥生後期Ⅰ段階古相ではバランス的に小さく、やや不安定であったが、時期が新しくなるにつれ器高に対する比率が増加し、安定化していく。形態は弥生時代後期を通じて、外傾（後期Ⅰ段階）→内湾（後期Ⅱ段階）→外反（後期Ⅲ段階）と概ね移行していくが、古墳時代前期に至ると大型化する傾向のみが認められ、形態は多様化する。なお、古墳前期Ⅰ段階新相以降は、外来系土器であるE類を除く他の類型は淘汰され、D類のみが存続し、形状を変化させつつ古墳時代中期まで連続と製作されていく。

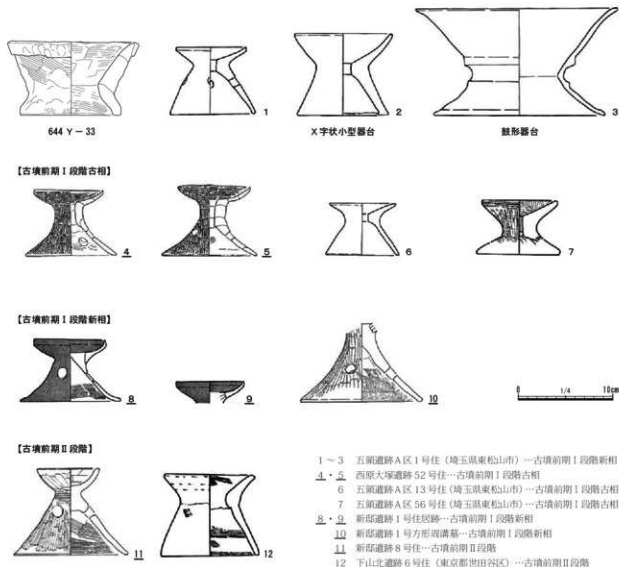
D類とした甕形土器で全体形状が分かる資料は出土しておらず、詳細な時期決定はできないが、D1類（641 Y-5、644 Y-19・23、653 Y-5・6）はいずれも弥生後期Ⅱ・Ⅲ段階の範疇に納まると考えられる。また、D2類の内、644 Y-15・20～22・24、646 Y-3、651 Y-7は頸部の屈曲度が強く、胴部は球形を志向することから、古墳前期Ⅰ段階新相以降に位置付けられる。

最後にS字状口縁台付甕について触れたい。該当資料は640 Y-6・7、641 Y-6の計3点である。S字状口縁台付甕は伊勢湾沿岸域（伊勢・尾張）を出自とする外来系土器で、S字状を呈する特異な口縁部を最大の特徴とし、その他にも精製された緻密な胎土に起因して、極限まで薄く仕上げられた器壁を有する特徴的な土器である。廻間Ⅱ式期Ⅰ段階に至り、汎東日本的に広範に拡散し、認識を容易とする形態的特徴も相まって該期のメルクマールとして広く認知されている。本地点で出土した3点はいずれも小片で不詳な点も多いが、いずれも模倣品と考えられ、口縁部が残る641 Y-7に関しては概ね古墳前期Ⅰ段階古相に位置付けられると考えられる。

⑥器台形土器

実測個体は1点である。644号住居跡から出土した。古墳時代に入り、弥生時代では客体的であった器台形土器が新たに主要器種組成に加わる。中でも畿内地方を出自とする小型器台は南関東地方に広く分布し、古墳前期Ⅰ段階古相のメルクマールとされている。市内では新部遺跡において1号方形周溝墓、1・8号住居跡（第148図8～11）で比較的多く出土例が確認されており（佐々木・尾形 1987、尾形・深井・青木 2007）、本遺跡においても52号住居跡（第148図4・5）等で出土しているが（佐々木ほか 2009）、本地点で出土した644 Y-33はそれらとは系譜を異とした特異な形態をもち、注目される。

庄内式期末に出現した小型器台はいわゆる小型精製器種の一つで、ヘラ磨きを多用した非常に精緻な土器であるが、644 Y-33は粗雑な調整が施されたのみで対極に位置する。同一住居から出土した埴形土器（第68図2）とセットにするには器受部が大き過ぎるが、厚手で安定した脚部形態から器台としての用途が最優先で考えられる土器であり、出自に関して検証を試みたが、管見の限りでは類例が確認されず、特定には至らなかった。鼓形を呈し、上辺（器受部）と下辺（脚部）の比率が2：1で上辺



第148図 器台形土器の諸類型(1/4)

が長くなる全体形状は、山陰系の鼓形器台(第148図3)に類似するが、類似点はその1点のみで、細部の形状、器厚、調整技法には大きな隔りがあり、同一系譜にあるとは考え難い。古墳前期Ⅲ段階に登場する畿内系のX型器台及び変容形式のX字状小型器台(第148図2)に関しても同様である。第148図に644 Y-33を含めた器台形土器の諸類型を取りまとめたので参照されたい。

644 Y-33については、他地域の土器の影響下から離れ、南関東地方在来の土器から発達した器形である可能性も考えたが、前型式となる宮ノ台式土器において器台形土器の出土例は非常に希少で、且つ市内における該期の住居跡の検出件数は、現時点で城山遺跡第96地点10号住居跡1軒のみであるため、宮ノ台式土器から派生したと考えるには検証材料が乏しいのが実情である。

系譜が追えないのであれば、祖形となる土器を持たず、突然変異的に発生したイレギュラーな形式である可能性を想定し、ここで参考となり得る1つの論考を提示したい(藤岡 1983)。藤岡氏は著作において、東京湾東岸域、印旛沼周辺地域、霞ヶ浦周辺地域に限定して分布する「器台状脚形土器」について集成している。時期的には弥生時代後期後半から古墳時代前期前半にかけてごく短期間に認められ

る土器で、盛行期間は本遺跡と合致する。「器台状脚形土器」は現在、「炉器台（形土器）」と呼称されるのが一般化し、藤岡氏集成時から出土点数は大きく増加したが、分布域は依然として上記3地域に限定されている。

炉器台は千葉県印西市天神前遺跡等での出土事例（第149図左）から、地床炉に甕を据えて煮炊きを行う際に甕を火床面から浮かせて固定するための器種と考えられている（広瀬 2011）。3点1セットでの使用が一般的で、現代の五徳、古墳時代後期～平安時代のカマドに伴う支脚と同じ発想で製作された器種と捉えられる。また、炉器台は通常の器台との共伴例が数多く確認されており、炉での使用に特化した器種であるとも言える。本地点から出土した器台形土器（644 Y-33）とは形態的特徴が大きく異なるため、同一系譜にあるとは考え難いが、炉の直ぐ南脇から甕形土器と共に出土しており、炉付近で使用された可能性が考えられるため、用途については一考の余地がある。千葉県袖ヶ浦市下山遺跡では、頸部から上部のみが残存した壺形土器3点を逆位にして炉器台に転用する事例（第149図右）が確認されており（公益財団法人千葉県教育振興財団 2019）、壺形土器の口頸部に類似した形態とも言える644 Y-33も、炉器台と同一の用途を求めて製作された可能性が想定される。従来の系譜から外れたイレギュラーな遺物は未だ数多く存在し、その解明のためには地道に調査を進め、類例を蓄積させていく事が重要である。今後の土器研究の深化によって、644 Y-33の性格が解明されることを切に願いたい。

最後に本地点出土遺物ではないが、弊社が調査支援を委託された本遺跡第108地点542号住居跡（佐々木ほか 2009）から炉器台が1点出土していたことが、本書整理作業の過程で新たに判明したので関連事例として紹介したい（第150図）。これまで捉えられていた炉器台の分布範囲を大きく拡大させる成果であるとともに、本遺跡集団と東京湾東岸地域の集団間での交流を示す資料として注目される。



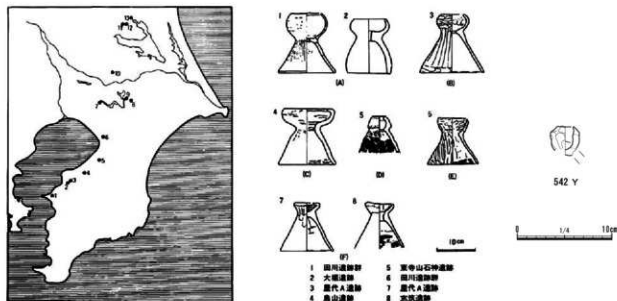
▲炉器台出土状況

■壺と炉器台の使用例▶
壺の上に3個1セットの炉器台を三角状に配置し、その上に甕を据える。

第149図 天神前遺跡・下山遺跡炉器台出土事例

（財）印旛郡市文化財センター 2011、（公財）千葉県教育振興財団 2019より転載）

また、本地点 641 号住居跡から出土した穿孔貝殻穴痕跡軟質泥岩（第 59 図 7）は房総半島から三浦半島にかけての海岸地域の地層中にみられ、同海岸地域で製塩作業が行われた際に混入し、塩と共に移動した遺物と考えられており（坂本 2015）、上記海岸地域との交易を示す資料として注目されている。本遺跡で弊社が調査支援を委託された 2 地点において、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての地域間交流・交易を示唆する新たな類例を蓄積できたことは大きな成果であった。



第 150 図 炉器台（藤岡 1983 を改変・加筆）

（2）住居跡の変遷について

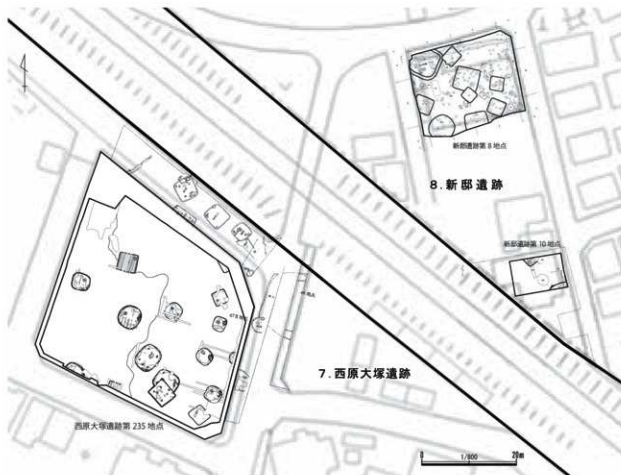
前述した出土土器の形式分類に基づき、各住居跡の時期は下記に比定される。詳細時期が不明である 642・647 Y を除くと、平面形は概ね楕円形（下線無し）→隅丸方形（一重下線）→方形（二重下線）という変遷を辿り、古墳時代前期初頭以降は方形のみとなる。

弥生時代後期後葉	649・653・654 Y
弥生時代後期後葉～末葉	644・648・652・655 Y
弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭	641・643 Y
古墳時代前期初頭～前葉	645・646・650 Y
古墳時代前期前葉	640・651 Y
弥生時代後期～古墳時代前期（検証資料が少なく、詳細時期不明）	642・647 Y（2軒）

この中で最も新しい段階に位置付けられる640・651 Yは、出土遺物や住居跡の平面形・付帯施設が本遺跡北側に所在する新邸遺跡の住居跡群に類似し、関連性が注目される。

新邸遺跡ではこれまでに古墳時代前期に属する住居跡が13軒検出されており、出土遺物からこれらの住居跡の時期は本遺跡より一段階新しい古墳時代前期前葉～中葉に比定されている。新邸遺跡で検出された古墳時代前期の住居跡の特徴として、該期の西原大塚遺跡の住居跡では広く認められ、祭壇状遺構と考えられている赤色砂利層の検出が1例もないことが、第8地点の報告中で述べられている（尾形・深井・青木 2007）。

先述した640・651 Yの他、新邸遺跡に近い調査地点北東部に位置する645・646・654・655 Yでも、南半部に位置する他の住居跡では検出されている赤色砂利層が検出されておらず、新邸遺跡の住居跡の特徴に共通する。現代においては鉄道線路により二分されている西原大塚遺跡と新邸遺跡ではあるが、往時は一連の集落であり、古墳時代前期前葉以降、西原大塚遺跡集落の範囲が北東方向（新邸遺跡範囲）へと広がっていったものと推測される。



第151図 西原大塚遺跡北部・新邸遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡分布図（1／800）

第3節 古墳時代後期

古墳時代後期の遺構として、住居跡1軒(31号住居跡)が検出された。ここでは31号住居跡出土土器について若干の考察を行うと共に、これまでに本遺跡で検出された古墳時代後期の住居跡について集成してみたい。

(1) 古墳時代後期31号住居跡出土土器について

本住居跡から出土した土器の実測個体は計16点で、その内訳は環形土器6点、鉢形土器1点、壺形土器3点、甕形土器4点、甕形土器1点、ミニチュア土器1点である。主要器種(環・甕・甕形土器)については、志木市内の土器を対象とした詳細な編年が組まれており(尾形 1999・2000・2001)、ここでは尾形氏の分類基準、並びに1世紀を20年ごと5段階に分割する編年案に準拠して、器種ごとの様相を取りまとめてみたい。

①土器環形土器(第111図1~6)

1を除き、2~6は内外面に赤彩が施される。以下、形式分類を示す。なお、該当・関連類型のみ表記し、その他の類型については表記を割愛する。

A類 頸部にくびれを有し、器高が高いもの(第111図1)。

B類 口縁部が「S」次状を呈するもの。

2 いわゆる内斜口縁環と呼ばれるもの(第111図5・6)。

C類 底部から口縁部にかけて、大きく内湾するもの。

1 器高の高いもの(第111図2)

2 1より扁平のもの。

D類 有段口縁を呈するもの。

2 赤色系土器。

a 口径12~14cmを基本とするもの(第111図3・4)

b 口径15~16cmを基本とし、大型のもの。

次に各土器の所見を述べる。A類とした1は口縁部が短く内傾し、須恵器坯身模倣とも捉えられる。A類は5世紀4/5段階以降に出現し、口縁部が短く外反するものが多くみられる。2は扁平化し、後出するC2類ではなく、器高の高いC1類の器形を留めている。D2類とした3・4は、6世紀1/5段階に口径が15~16cmと大型化するD2b類に先行するD2a類である。5世紀3/5段階に出現し、5世紀5/5段階になり一般に分布する。B2類とした5・6は出現期にみられた内面の放射状暗文が省略され、やや扁平化が進行している。B2類は5世紀5/5には消失すると考えられている(尾形 2000)。以上を総合すると、環形土器は5世紀5/5段階(5世紀末葉)に比定される。

②土器鉢形土器(第111図7)

環形土器A類と器形が類似するが、器高が高く深身のため、鉢形土器と分類した。内外面に赤彩が施され、胎土は環形土器と類似する。

③土師器壺形土器（第111図8～10）

8・9は共に内外面に赤彩が施された短頸壺である。扁平な全体形状と丸底である点は共通するが、外面調整、口縁部の形状等に差異がみられる。10は小型壺である。上半部を欠くため、全体形状は不明である。

④土師器甕形土器（第111図11～14）

全体形状の分かる資料は出土しなかったため、あまり細分化はできなかった。以下、形式分類を示すが、坏形土器と同様に該当・関連類型のみ表記し、その他の類型については表記を割愛する。

A類 頸部に稜をもつ壺形土器に類似するもの。

B類 「く」の字口縁を呈するもの。

1 口縁部が比較的長く、壺形土器に類似するもの（第111図11）。

2 B1類に比べ、やや口縁部が短いもの（第111図12）。

C類 B類の「く」の字口縁がやや崩れたもの（第111図13）。

次に各土器の所見を述べる。11はB1類としたが、稜とは言えない不明瞭なものであるものの頸部にごく僅かな段差が認められ、A類に類似する。B2類とした12は「く」の字口縁を呈する。13は残存部位が少ないため、判別が困難であったがC類とした。C類は6世紀1/5段階になり、一般に分布すると思われる。14は胴部～底部の破片のため、形式分類はできなかったが、胴部には若干長胴化の兆しが認められる。以上を総合すると、甕形土器は5世紀5/5段階～6世紀1/5段階（5世紀末葉～6世紀初頭）に比定される。

⑤土師器甌形土器（第111図15）

最初に形式分類を示す。坏・甕形土器と同様に該当・関連類型のみ表記し、その他の類型については表記を割愛する。

A類 筒抜け式のもので、複合口縁を呈するもの。

1 口縁部から底部にかけて、大きく逆三角形にすばまるもの。

a 大型のもの。

b 小型のもの。

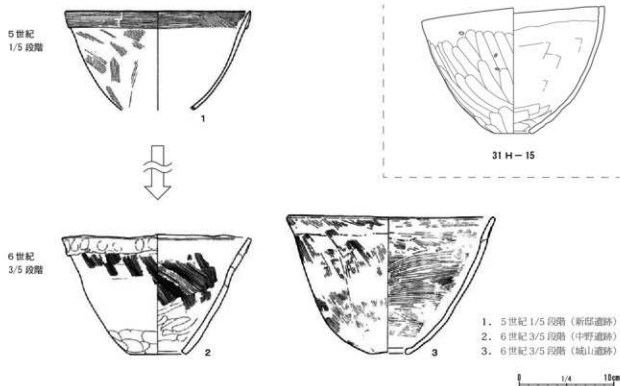
B類 筒抜け式のもので、単純口縁を呈するもの。

1 大型のもの。

2 小型のもの。

上記の分類に倣うと、15はB2類とするのが妥当であるが、B2類の出現は早くとも7世紀1/5段階と考えられており、他の器種との年代観に大きな齟齬がみられる。単純口縁を呈する点や外面調整（ハケ目調整の有無）に相違点はみられるが、器形に関してはA1b類（第152図）に類似する。A1b類は最初期に出現した類型で、5世紀1/5段階に出現して以降、6世紀3/5段階まで連続と残る。A1b類の退化・簡略化として捉えることができるならば、他の器種の年代観と合致する。

以上、本住居跡の時期については、完形資料の多い坏形土器の形式的特徴を軸に据え、他の器種の特徴も加味して総合的に判断し、5世紀5/5段階（5世紀末葉）に比定できると考えられる。



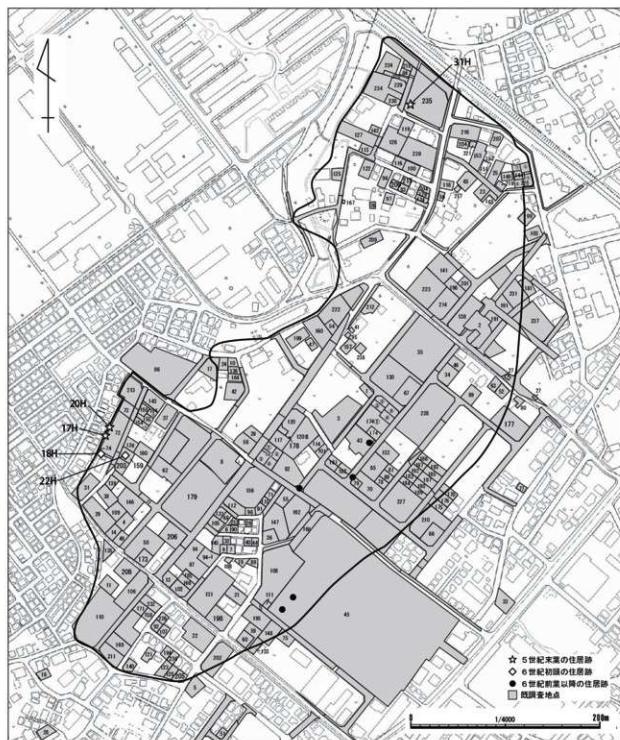
第152図 甔形土器A1b類の形態変遷(1/4)

(2) 本遺跡における古墳時代後期の住居跡について

本遺跡では、これまでに古墳時代～平安時代に帰属する住居跡が計31軒検出されている(第51表)。本遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期にかけて655軒以上(令和5年1月19日時点)の住居跡が築造された市内最大の集落であるが、古墳時代前期前半以降、集落の規模は一気に縮小し、古墳時代後期に至り、市内及び周辺に所在する他の遺跡では爆発的に住居数が増加する中、本遺跡では小規模に留まることがこれまでの調査で明らかにされている。未報告資料も含まれるため、今後の整理作業の進捗及び新規の発掘調査により増減が見込まれるが、現時点では11～14・16～18・20・22号住居跡、そして31号住居跡の計10軒が古墳時代後期に帰属すると捉えられている。その分布は遺跡範囲の南半部に偏在するが、31号住居跡のみが北端部に孤立しており、特筆される(第153図)。

先述のとおり、31号住居跡の築造時期は本遺跡においてカマドを有する住居跡では最古段階の5世紀末葉に比定される。その他、17・20号住居跡も同時期の5世紀末葉に比定され、後続する時期の住居跡として18・22号住居跡が6世紀初頭に比定される。17・18・20・22号住居跡は、いずれも遺跡西端部から近接して検出されており、連続性が認められるが、現時点で31号住居跡に近接する同時期・後続時期の住居跡は検出されていない。5世紀代に遡る住居跡は、本遺跡の北東方向約300mに位置する中道遺跡第37地点で、カマドを有する住居跡では市内最古の5世紀中葉に比定される19号住居跡が検出されているほか、更に北東方向に位置する城山・中野遺跡でも5世紀後葉～末葉の住居跡が十数件以上検出されている。31号住居跡に関しては、むしろ中道・城山・中野遺跡に属する集団との関連性を問うべきかもしれない。

5世紀末葉に17・20・31号住居跡が築造された後、後続して6世紀初頭に20・22号住居跡が築造される。次いで6世紀前葉から後半にかけて連続と住居跡が築造されていくが、現時点で7世紀代の住居跡は確認されておらず、7世紀代に本遺跡の集落は一度断絶ないしは大幅に縮小するようである。奈良時代（8世紀前葉）以降、再び住居跡が散在して築造されるが、小規模に留まり、この段階では完全に集落の中心は他の遺跡に移行していったものと推測される。



第153図 西原大塚遺跡古墳時代後期住居跡分布図(1/4,000)

遺構番号	地点	時代	長軸(m)	短軸(m)	カマド方位	掲載報告書
1H	8	平安	(5.30)	(2.50)	北	佐々木・尾形 1990 佐々木・内野・宮川 2009
2H	8	平安	(4.50)	(1.20)	東	佐々木・尾形 1990
3H	8	平安	(2.20)	(2.00)	東	佐々木・尾形 1990
4H	4Ⅱ	平安	(3.60)	(2.90)	—	佐々木・内野・宮川 2009
5H	15Ⅱ	平安	4.60	4.20	北東	佐々木・内野・宮川 2009
6H	34	平安	3.80	3.05	北	佐々木・尾形 1997
7H	欠番					
8H	7 V	奈良(8世紀後葉)	4.50	4.25	北	佐々木・内野・宮川 2009
9H	35	奈良(8世紀前葉)	—	—	—	未報告
10H	35	奈良(8世紀前葉)	—	—	—	未報告
11H	45	古墳後期(6世紀後半)	5.20	5.16	北	佐々木・関根・上田・内野・宮川 2000
12H	45	古墳後期(6世紀後半)	5.70	5.60	東	佐々木・関根・上田・内野・宮川 2000
13H	43	古墳後期か	7.40	7.40	北	尾形・佐々木・内野・宮川 2001
14H	24Ⅱ	古墳後期(6世紀中葉)☆	(3.80)	4.56	—	佐々木・内野・宮川 2009
15H	13Ⅳ	古墳後期～平安	(2.10)	(2.00)	—	佐々木・内野・宮川 2009
16H	13Ⅳ	古墳後期(6世紀前葉)☆	(3.20)	(3.15)	北西	佐々木・内野・宮川 2009
17H	74	古墳後期(5世紀末葉)☆	4.30	(3.35)	北東	佐々木・内野・宮川 2009
18H	74	古墳後期(6世紀初頭)☆	10.00	(6.80)	北東	佐々木・内野・宮川 2009
19H	67Ⅱ	奈良(8世紀中葉)	4.62	4.15	北西	佐々木・内野・宮川 2009
19H(※)	154	奈良(8世紀前葉)	(2.75)	4.85	北東	尾形・深井・青木 2008
20H	74	古墳後期(5世紀末葉)☆	(4.95)	4.60	西か	佐々木・内野・宮川 2009
21H	130	奈良(8世紀後葉)	4.55	4.20	北	佐々木・内野・宮川 2009
22H	159	古墳後期(6世紀初頭)	(1.23)	(0.85)	—	尾形・徳留・深井・青木 2013
23H	228	奈良(8世紀後半)	3.72	3.56	北	尾形・徳留・大久保・宅間・小森 2021
24H	228	奈良～平安	3.50	3.08	北	尾形・徳留・大久保・宅間・小森 2021
25H	228	奈良(8世紀前葉)	4.18	3.30	北	尾形・徳留・大久保・宅間・小森 2021
26H	223	奈良(8世紀後葉)	3.84	3.78	北	尾形・徳留・大久保・坂下・遠藤・小森 2021
27H	223	奈良(8世紀中葉)	3.93	3.12	北	尾形・徳留・大久保・坂下・遠藤・小森 2021
28H	231	古墳後期～平安	2.70	2.60	北	大久保・尾形 2021
29H	234	古墳前期後半～中期初頭	(3.17)	(3.00)	なし	尾形・徳留・大久保・小林・福泉・石川 2022
30H	225④	古墳後期～平安	—	—	—	未報告
31H	235	古墳後期(5世紀末葉)	6.92	6.86	北西	本書

☆今年度発行予定の「埋蔵文化財調査報告書9」志木市の文化財第91集にて再考察された時期を提示。
※19Hは遺構番号が重複する。また7Hは欠番のため、差し引き3軒となる。

第51表 西原大塚遺跡古墳時代～平安時代住居跡一覧

第4節 中世以降

中世以降の遺構として、掘立柱建築遺構1棟、土坑26基（内2基は地下式坑）、井戸跡2基、畝状遺構群1か所、ビット112本が検出された。ここでは良好な遺物が出土した5号掘立柱建築遺構について、若干の考察を行いたい。

(1) 5号掘立柱建築遺構について

5号掘立柱建築遺構は、桁行3間×梁行1間、東西棟の側柱建物である。時期は出土遺物から近世（17世紀後葉）に比定される。規模は桁行総長5.36m、梁行総長3.53m、柱間隔は桁行方向1.65～1.92m、梁行方向3.38～3.53mを測る（第113図）。東柱は確認されなかったが、建物内部で959号土坑（長軸0.98m×短軸0.93m以上×深さ0.12m）が検出された。床面または床面の一部に竪穴状の掘り込みを有する建物は、竪穴付掘立柱建物と呼称され、竪穴部の用途として鍛冶工房・厩舎・風呂等が想定される遺構が複数例検出されているが（第153図）、959号土坑は単純な構造で掘り込みも浅いことから、付帯施設となる可能性は低いと考えられる。

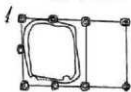
外部施設に目を向けると、東西南北全方位で庇・塀等は確認されなかったが、P1西側で検出された41号ビットは、P1～P4を結ぶ軸線と同一軸に位置し、P8南側で検出された52号ビットは、P4・P8を結ぶ軸線と同一軸に位置することから、5号掘立柱建築遺構との関連性が窺える（第112図）。

次に出土遺物について述べたい。北西隅を形成するP1・2・5から陶器（碗・香炉）計4点が出土した。以下にそれぞれの出土状況について概観する。

P1からは瀬戸・美濃系の香炉（第114図4）が1点出土した。出土層位は互層状を呈する柱掘方の覆土中層である。P2からは瀬戸・美濃系の天目形中碗（第114図1）が1点出土した。出土層位は柱掘方の覆土上層である。P5からは肥前系（嬉野）の中碗（第114図2・3）が2点出土した。出土層位は共に柱痕跡部覆土中層である。2・3については柱の根腐れ時に移動した可能性が考えられるが、本来は4点全て柱掘方覆土内に遺棄ないし埋納されたものと推測される。4点の陶器はいずれも口縁部が概ね半周欠損しており、人為的な打ち欠きが想定されることから、遺棄と捉えるよりは、柱を立てる際に一緒に埋納されたと捉えるのが妥当と考えられるが、管見の限りでは他に類似は確認されていない。

「埋納」とは、何らかの意図をもって地中にモノを埋める行為であり、埋納行為の一形態として「地鎮」がある。地鎮とは建物の建築に先立って行われる、土地を鎮めるための宗教儀礼であり、古代から現代に至るまで様々な地鎮が全国各地で執り行われている。5号掘立柱建築遺構が築造された近世前半期においても、江戸遺跡を中心に33例が確認されている（関口 2004）。埋納された遺物は、仏像・仏具・呪符木簡・墨書かわらけ等の宗教関連遺物や銭貨・装飾品等の副葬関連遺物を中心とする。これらの遺物に共伴して日常什器が埋納される例も少ないながら確認されているが、5号掘立柱建築遺構の様に日常什器のみを埋納する例は未だ確認されていない。忌むべき方位である鬼門を示す北東、対をなす裏鬼門を示す南西ではなく、北西に打ち欠かれた陶器を埋納した意図は図りかねるが、風水では北西は主人の方位と呼ばれ、出世運や金運に影響すると言われていることから、都市部から離れた農村部における民間信仰（験担ぎ）である可能性を提示するに留めたい。

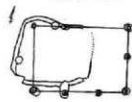
217. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K27号掘立柱建物址



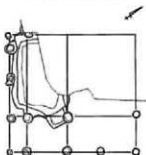
218. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K28号掘立柱建物址



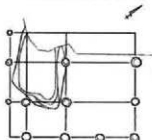
224. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡
K37号掘立柱建物址



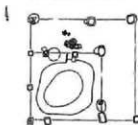
144. 半原向原遺跡
K1号掘立柱建物址



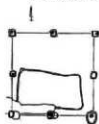
145. 半原向原遺跡
K2号掘立柱建物址



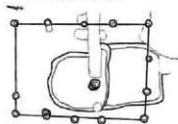
174. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.9)遺跡
K10号掘立柱建物址



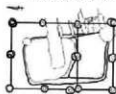
176. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.9)遺跡
K12号掘立柱建物址



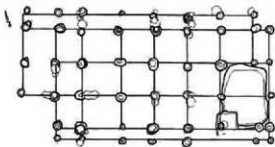
250. 津久井城跡馬込地区
K4号掘立柱建物址



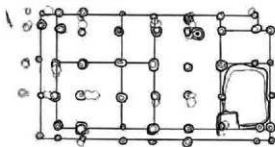
251. 津久井城跡馬込地区
K5号掘立柱建物址



240. はじめ沢下遺跡
K1号掘立柱建物址a



241. はじめ沢下遺跡
K1号掘立柱建物址b



第154図 竪穴付掘立柱建物(1/200)(近世研究プロジェクトチーム 2015より転載)

[引用・参考文献]

- 愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』
- 青嶋邦夫 2005『集石遺構・礎群における礎の移動について』『静岡県考古学研究会』37号 静岡県考古学会
- 赤塚次郎 1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎 1992『山中遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第40集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎 1997『西上免遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第73集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 安藤広道 2015『久ヶ原・弥生前期の未来?』『考古学リーダー』24 列島東部における弥生後期の変革 六一書房
- 石坂俊郎 2017『屋内祭祀の舞台—赤砂・小砂利の「祭壇状遺構」—』『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 2018『屋内祭祀の舞台(2)—ムラの中の祭壇付住居—』『埼玉県立史跡の博物館紀要』第11号 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 2019『屋内祭祀の舞台(3)—「貯蔵穴」の諸相—』『埼玉県立史跡の博物館紀要』第12号 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 大川 清・鈴木公雄・工泉善通編 1996『日本土器事典』雄山閣
- 大久保聡・尾形則敏 2020『西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第75集 埼玉県志木市教育委員会
- 大久保聡・尾形則敏 2021『西原大塚遺跡第231地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第80集 埼玉県志木市教育委員会
- 大田区立郷土博物館 2017『土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90年—』平成28年度特別展図録
- 大村 直 2004『久ヶ原式・山田橋式の構成原理—東京湾岸地域後期弥生土器型式の特質と移住・物流—』『史館』第33号 史館同人
- 尾形則敏 1999『いわゆる「比企型環」の編年基準の要点—小地域を対象とした編年の確立に向けて—』『あらかわ』第2号 あらかわ考古談話会
- 2000『志木市における古墳時代の土師器の編年(1)—5世紀から7世紀の環形土器の変遷—』『あらかわ』第3号 あらかわ考古談話会
- 2001『志木市における古墳時代の土師器の編年(2)—5世紀から7世紀の楕・甕形土器の変遷—』『あらかわ』第4号 あらかわ考古談話会
- 2002『武蔵野台地北西部における古墳時代の地域性—集落を中心とする5世紀から7世紀の土器様相—』『あらかわ』第5号 あらかわ考古談話会
- 2004『荒川下流域右岸地域における古墳時代中・後期の様相—東京西北～東北部を中心とした5～7世紀の遺跡と土器様相—』『あらかわ』第7号 あらかわ考古談話会
- 尾形則敏・佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2001『志木市遺跡群11』志木市の文化財第30集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子 2001『埋蔵文化財調査報告書2』志木市の文化財第31集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2005『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告書第10集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2007『新部遺跡第8地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告書第11集 埼玉県志木市遺跡調査会

- 尾形剛敏・深井恵子・青木 修 2008『西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』
志木市遺跡調査会調査報告第14集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・深井恵子・青木 修 2013『志木市遺跡群20』志木市の文化財第51集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫 2013『城山遺跡第71地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』
志木市の文化財第54集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子・青木 修 2019『西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋
蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第72集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・成島一也・西川忠春 2020『西原大塚遺跡第224地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第74
集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・遠竹陽一郎・坂下貞則・宅間清公 2021『城山遺跡第96地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志
木市の文化財第78集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・宅間清公・小森晩生 2021『西原大塚遺跡第228地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の
文化財第79集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・坂下貞則・遠藤知成・小森晩生 2021『西原大塚遺跡第223地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』
志木市の文化財第83集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・小林陽子・福泉 藍・石川安司 2022『西原大塚遺跡第234地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』
志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会
- 加納俊介・石黒立人編 2002『弥生土器の様式と編年—東海編』木耳社
- 近世研究プロジェクトチーム 2015『近世民家の集成(11)』『研究紀要20 かながわの考古学』公益財団法人かながわ考古学
財団
- 工藤雄一郎 2012『旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—』新泉社
- 黒澤 聡 1994『千葉県袖ヶ浦市下向山遺跡』財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書94 財団法人君津都市文化財セ
ンター
- 黒沢 浩 2004『五領遺跡出土土器の再検討に向けて—「五領式土器」見直しへの序説—』『明治大学博物館研究報告』第9号
明治大学博物館
- 公益財団法人千葉県教育振興財団 2019『eco 生活事始め』令和元年度出土遺物公開事業図録
- 小林達雄編 2008『総覧 縄文土器』株式会社UM Promotion
- 財団法人印旛都市文化財センター 2010『広報誌 フィールドブック』vol.31
- 坂本和俊 2015『古墳時代東国の土器を使わない製塩と塩の流通痕跡』『埼玉考古』第50号 埼玉考古学会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1986『新邸遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第2集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1987『新邸遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第3集
埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1989『志木市遺跡群Ⅰ』志木市の文化財第13集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1990『志木市遺跡群Ⅱ』志木市の文化財第14集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1991『西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第
6地点 発掘調査報告書』志木市の文化財第15集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1992『志木市遺跡群Ⅳ』志木市の文化財第17集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1997『志木市遺跡群Ⅶ』志木市の文化財第25集 埼玉県志木市教育委員会

- 佐々木保俊・関根正明・上田 寛・内野美津江・宮川幸佳 2000『西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第6集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2009『西原大塚遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・尾形剛敏・坂上直嗣・青池紀子・高瀬克範・鈴木伸哉・能城修一 2009『西原大塚遺跡第108地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第42集 埼玉県志木市教育委員会
- 鮫島和大 1994「南関東弥生時代後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第12号
- 十菱駿武 1984『下山北遺跡』世田谷区教育委員会
- 鈴木忠司 2005「石蒸し調理実験の成果と岩宿時代の植物食」『月刊考古学ジャーナル』№531 ニューサイエンス社
- 関口慶久 2004「江戸の地鎮と埋納」『江戸の祈り 信仰と願望』吉川弘文館
- 竹内直文 2005「礫群の重量分布検討の意義」『月刊考古学ジャーナル』№531 ニューサイエンス社
- 田村 隆 2015「礫群の形成、特に閉鎖式ピット・オープンについて」『研究連絡誌』№76 公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター
- 地域と考古学の会編 2021『東海と関東の後期弥生社会と交流(1)・(2)・(3)』地域と考古学の会
- 中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真岡社
- 都出比呂志 1989『日本農耕社会の成立過程』岩波書店
- 寺沢 薫 1986「畿内産古式土器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告49 奈良県教育委員会
- 徳留彰紀・尾形剛敏・青木 修 2017『市場東遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集 埼玉県志木市教育委員会
- 中嶋郁夫 1991「東連江における後期弥生土器編年と土器移動」『東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器』東海埋蔵文化財研究会
- 中村倉司 1989「関東地方における竈・大形瓶・須恵器出現時期の地域差」『研究紀要』第6号 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 1999「埼玉県における5世紀代の土器—和泉式土器の行方—」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会
- 比田井克仁 2001「関東における古墳出現期の変革」雄山閣
- 2004『古墳出現期の土器交流とその原理』雄山閣
- 広瀬千絵 2011『千葉県印西市天神前遺跡』財団法人印旛都市文化財センター発掘調査報告書292 財団法人印旛都市文化財センター
- 藤岡孝司 1983「粗製な器台状脚形土器について」『研究連絡誌』№2 公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター
- 古谷紀之 2013「横浜市都筑区北川谷遺跡群における弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年」『横浜市歴史博物館紀要』第17号
- 保坂康夫 2005「礫群研究の新視点」『月刊考古学ジャーナル』№531 ニューサイエンス社
- 松本 完 2005「久ヶ原式」『考古学リーダー5 南関東の弥生土器』六一書房
- 2022「児玉地域における古墳時代前期の土器様相(上) 一女堀川・旧赤根川流域の古墳時代前期の土器の分析を中心として」『調査研究報告』第1号 本庄早稲田の杜ミュージアム
- 瑞穂町教育委員会・シン技術コンサル編 2011『松原遺跡』東京都西多摩郡瑞穂町教育委員会
- 宮川幸佳 2003『西原大塚遺跡における方形周溝墓出土土器』『埼玉考古—弥生時代特集—』第38号 埼玉考古学会

第4章 調査のまとめ

- 築瀬裕一 2006「地下式坑の分類と編年試論—中馬場遺跡他の千葉県事例をもとに—」『房総中近世考古』第2号 房総中近世考古研究会
- 吉田 格・横山昭一・藤沼由貴子・松澤浩一 1996『東京都目黒区 円融寺南遺跡』目黒区埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 目黒区円融寺南遺跡調査会

[付 編]

自 然 科 学 分 析

I. 西原大塚遺跡第 235 地点の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadize・黒沼保子

(1) はじめに

埼玉県志木市の西原大塚遺跡第 235 地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

(2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 52 表のとおりである。試料は、旧石器時代の遺構と推測される 5 礫から出土した炭化材 2 点 (遺物 No. 5 礫-炭 1 : PLD - 47250、遺物 No. 5 礫-炭 2 : PLD - 47251) と、古墳時代前期の遺構と推測される住居跡 651 Y から出土した炭化材 2 点 (遺物 No.651 Y _ H - 1 : PLD - 47252、遺物 No.651 Y _ L - 4 : PLD - 47253) の、合計 4 点である。炭化材はいずれも最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD - 47250	遺構 : 5 礫 遺物 No. 5 礫-炭 1	種類 : 炭化材 (不明) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L、水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L、塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD - 47251	遺構 : 5 礫 遺物 No. 5 礫-炭 2	種類 : 炭化材 (不明) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L、水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L、塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD - 47252	遺構 : 651 Y 遺物 No.651 Y _ H - 1	種類 : 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L、水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L、塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD - 47253	遺構 : 651 Y 遺物 No.651 Y _ L - 4	種類 : 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L、水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L、塩酸 : 1.2 mol/L)

第 52 表 測定試料および処理

(3) 結果

第 53 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、第 155 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C

の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD - 47250 遺物 No.5 籾-炭 1	-27.78 \pm 0.29	16984 \pm 48	16985 \pm 50	18613 - 18499 cal BC (68.27%)	18759 - 18432 cal BC (95.45%)
PLD - 47251 遺物 No.5 籾-炭 2	-25.99 \pm 0.28	2804 \pm 20	2805 \pm 20	986 - 922 cal BC (68.27%)	1010 - 904 cal BC (95.45%)
PLD - 47252 遺物 No.651Y_H-1	-26.61 \pm 0.28	1776 \pm 20	1775 \pm 20	244 - 254 cal AD (14.25%) 287 - 325 cal AD (54.02%)	234 - 261 cal AD (25.43%) 276 - 340 cal AD (70.02%)
PLD - 47253 遺物 No.651Y_L-4	-27.57 \pm 0.28	1731 \pm 20	1730 \pm 20	256 - 284 cal AD (26.74%) 326 - 364 cal AD (38.19%) 370 - 375 cal AD (3.34%)	250 - 294 cal AD (33.78%) 314 - 404 cal AD (61.67%)

第 53 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

(4) 考察

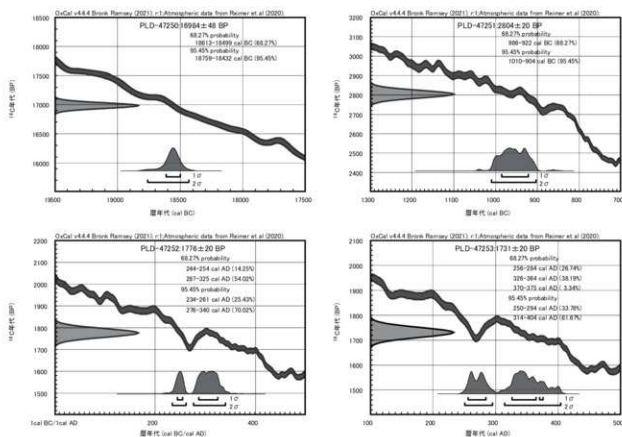
以下、各試料の暦年較正結果のうち、2 σ 暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林 (2017) を、弥生時代の暦年代については藤尾 (2013) を、古墳時代の暦年代については赤塚 (2009) を参照した。

遺物 No.5 籾-炭 1 (PLD - 47250) は、18759 - 18432 cal BC (95.45%) の暦年代範囲を示した。これは後期旧石器時代に相当し、推定時期の旧石器時代に対して整合的である。遺物 No.5 籾-炭 2 (PLD - 47251) は、1010 - 904 cal BC (95.45%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代晩期前葉~中葉に相当し、推定時期よりも新しい年代であった。

遺物 No.651Y_H-1 (PLD - 47252) は、234 - 261 cal AD (25.43%) および 276 - 340 cal AD (70.02%) の暦年代範囲を示した。これは、弥生時代後期~古墳時代前期に相当する。遺物 No.651Y_L-4 (PLD - 47253) は、250 - 294 cal AD (33.78%) および 314 - 404 cal AD (61.67%) の暦年代範囲を示した。これは、古墳時代前期~中期に相当する。どちらも遺構の推定時期である古墳時代前期に対して整合的である。

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回の試料は、いずれも最終形成年輪が残存して

おらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、その木が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。



第 155 図 暦年較正結果

[引用・参考文献]

- 赤塚次郎 2009 「弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代」『日本文化財科学会第 26 回大会研究発表要旨集』p14-20 日本文化財科学会
- Bronk Ramsey, C. 2009 『Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1)』p337-360
- 藤尾慎一郎 2013 『弥生文化像の新構築』p292 吉川弘文館
- 小林謙一 2017 『縄紋時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—』p263 同成社
- 中村俊夫 2000 『日本先史時代の ¹⁴C 年代』『放射性炭素年代測定法の基礎 日本先史時代の ¹⁴C 年代編集委員会編』p3-20 日本第四紀学会
- Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughes, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolph, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal BP). Radiocarbon, 62 (4), 725-757. doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

II. 西原大塚遺跡第 235 地点の黒曜石産地同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

田中 義文

(1) 試料

分析に供された試料は、志木市西原大塚遺跡から出土した、黒曜石製の石器 36 点である。なお、試料名は試料に記述してある名称を用いた。

(2) 分析方法

1. エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (EDX) による測定

本分析の特徴は、試料の非破壊による測定が可能であり、かつ多元素を同時に分析できることが利点として挙げられる。一方、非破壊分析である以上、測定は試料表面のみが対象となることから、表面が汚れた試料や風化してしまっている試料については試料の洗浄あるいは測定面の選択が必要となる。本分析では試料が貴重な遺物であることから、汚れが少なく、風化が進んでいない面を選択して測定を行っている。ただし、表面の風化、汚れが目立つ場合は、メラミンスポンジを用いて洗浄したあと分析を実施している。

本分析で使用した装置は、セイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (SEA 2120L) であり、X 線管球はロジウム (Rh)、検出器は Si (Li) 半導体検出器である。測定条件は、励起電圧 50kV、管電流自動設定 (μ A)、測定時間 600 秒、コリメータ (照射径) ϕ 10.0mm、フィルターなし、測定室雰囲気は真空である。測定元素は、Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム) の 11 元素であり、測定試料全てにおいてマイラー膜 (PE, 2.5 μ m; ケンプレックス製 CatNo107) を介して元素 X 線強度 (cps) を測定した。

2. 産地推定方法

産地推定は、望月 (2004 など) による方法に従い、測定結果 (元素 X 線強度 (cps)) から、5 つの判別指標値を求める。5 つの判別指標値は、Rb 分率 $[Rb \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)]$ 、Sr 分率 $[Sr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)]$ 、Zr 分率 $[Zr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)]$ 、 $Mn \times 100 / Fe$ 、 $\text{Log} (Fe/K)$ である。

一方、産地推定に必要な原産地の資料に関しては、望月 (2004) で用いられている原産地試料の分析データを使い、原産地判定用資料を作成する。今回産地推定に用いた黒曜石原産地を第 156 図に示す。

原産地試料のデータを、Rb 分率と $Mn \times 100 / Fe$ 、Sr 分率と $\text{Log} (Fe/K)$ についてグラフ化する。また、グラフを元に作成した二次元正規密度分布、ならびに判別指標値から作成した多次元密度分布の結果から、原産地を元にした判別群を設定する。その名称ならびに判別群と原産地との関係を第 54 表に示す。

Rb 分率と $Mn \times 100 / Fe$ 、Sr 分率と $\text{Log} (Fe/K)$ のグラフ中に、各判別群の重心より 2σ (約 95%) の範囲を示す楕円を書く (原産地試料の各分析データは図が煩雑になるため割愛する)。これに、遺跡出土試料の分析結果を重ね合わせることで、産地推定の指標の一つとなる。



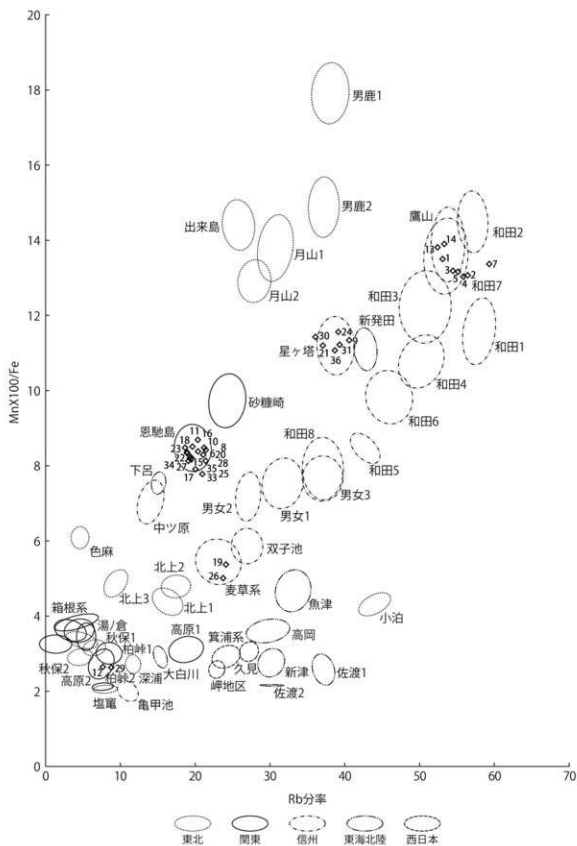
第 156 図 黒曜石産地一覽

大分類	中分類	判別群	記号	該当する原産地
東北	深浦	深浦	深浦	岡崎沢、深浦公園、日和見、六角沢、八森山
東北	岩木山	出来島	出来島	出来島
東北	男鹿	男鹿1群	男鹿1	金ヶ崎、脇本
東北	男鹿	男鹿2群	男鹿2	脇本
東北	月山	月山1群	月山1	西川町志津、朝日町代沢など
東北	月山	月山2群	月山2	鶴岡市今野川、鶴岡市大観川
東北	北上	北上1群	北上1	水沢折居、花泉日形田ノ沢、礫石小赤沢
東北	北上	北上2群	北上2	水沢折居、花泉日形田ノ沢、礫石小赤沢
東北	北上	北上3群	北上3	水沢折居
東北	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉
東北	秋保	秋保1群	秋保1	秋保土蔵
東北	秋保	秋保2群	秋保2	秋保土蔵
東北	色麻	色麻	色麻	色麻町根岸
東北	塩竈	塩竈港群	塩竈	塩竈市塩竈漁港
東北	小泊	小泊	小泊	青森小泊村折腰内
関東	天城	柏峠1群、2群	柏峠1、柏峠2	天城柏峠
関東	箱根	煙宿	煙宿	箱根煙宿
関東	箱根	鍛冶屋	鍛冶屋	箱根鍛冶屋
関東	箱根	黒岩橋	黒岩橋	箱根黒岩橋
関東	箱根	上多賀	上多賀	箱根上多賀
関東	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯	箱根芦ノ湯
関東	神津島	恩馳島	恩馳島	長浜
関東	神津島	砂糠崎	砂糠崎	砂糠崎、長浜
関東	高原山	高原1群	高原1	甘湯沢、板沢
関東	高原山	高原2群	高原2	七尋沢
信州	霧ヶ峰	男女倉1群	男女1	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	男女倉2群	男女2	ぶどう沢、牧ヶ沢
信州	霧ヶ峰	男女倉3群	男女3	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	鷹山系	鷹山	星巖峠、鷹山
信州	霧ヶ峰	西霧ヶ峰系	星ヶ塔	星ヶ塔、星ヶ台
信州	霧ヶ峰	和田峠1群	和田1	古峠、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠2群	和田2	丁子御頭、芙蓉パーライト、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠3群	和田3	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御頭、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠4群	和田4	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋西、土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御頭、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠5群	和田5	24地点、25地点、26地点、小深沢
信州	霧ヶ峰	和田峠6群	和田6	小深沢、芙蓉パーライト、24地点、25地点、26地点、土屋橋西、土屋橋東
信州	霧ヶ峰	和田峠7群	和田7	東崩屋、芙蓉パーライト、古峠、丁子御頭、鷲ヶ峰、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠8群	和田8	25地点、26地点、土屋橋東
信州	北八ヶ岳	横岳系双子池	双子池	双子池
信州	北八ヶ岳	横岳系亀甲池	亀甲池	亀甲池 榊鉢池
信州	北八ヶ岳	冷山・麦草系	麦草系	冷山、麦草峠、双子池、渋ノ湯、八ヶ岳7、八ヶ岳9、長門美しの森
信州	北八ヶ岳	中ツ原	中ツ原	中ツ原(遺跡試料)
東海・北陸	新潟	新発田	新発田	新発田飯山
東海・北陸	新潟	新津	新津	新津金津
東海・北陸	新潟	大白川	大白川	大白川
東海・北陸	新潟	佐渡1群、2群	佐渡1、佐渡2	真光寺、金井ニッ坂
東海・北陸	富山	魚津	魚津	草月上野
東海・北陸	富山	高岡	高岡	二上山
東海・北陸	岐阜	下呂市	下呂	湯ヶ峰
中国・四国	隠岐	久見	久見	久見
中国・四国	隠岐	御地区	御地区	隠岐御
中国・四国	隠岐	箕浦系	箕浦系	箕浦、加茂赤土、岸浜

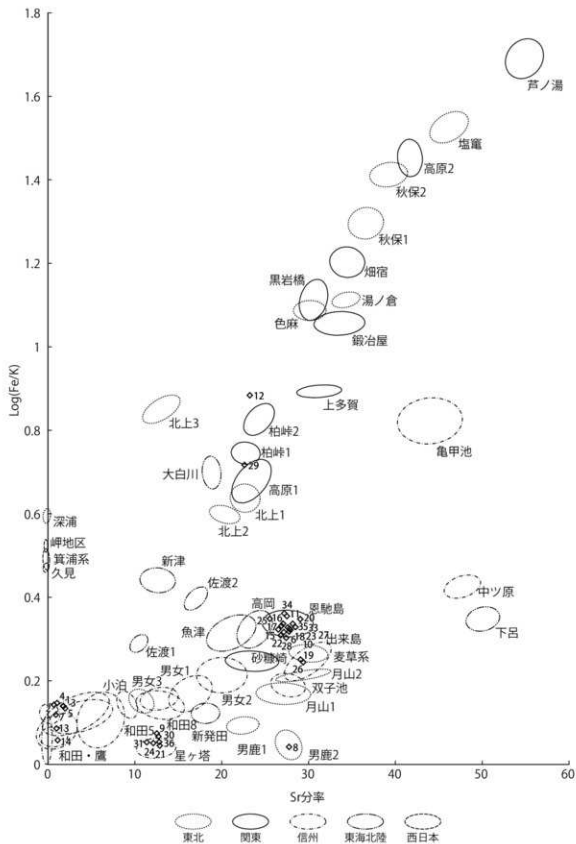
第 54 表 黒曜石原産地試料一覧

NO.	強度 (cps)											判別指標				試料名	検出番号	
	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Sr 分率	Zr 分率	Mo/100 Fe			log (Fe/A)
1	62.61	514.13	64.41	18.28	1.61	11.99	88.82	31.79	1.05	13.89	13.15	53.09	1.75	21.96	13.50	0.140	20 U NO. 3	第14回9
2	76.09	634.24	80.30	25.09	2.38	14.60	111.71	32.06	0.39	12.35	12.00	56.45	0.69	21.12	13.07	0.143	20 U NO. 4	—
3	66.46	558.59	69.72	20.33	1.93	12.51	94.88	30.97	1.12	12.70	12.08	54.45	1.98	21.24	13.19	0.134	20 U NO. 5	—
4	75.41	623.90	80.77	24.50	2.05	14.75	113.21	33.34	0.63	12.72	13.02	55.84	1.06	21.80	13.03	0.147	20 U NO. 6	—
5	69.89	574.66	74.75	22.61	2.01	13.56	103.02	33.97	1.08	14.11	12.47	55.13	1.75	20.23	13.16	0.139	20 U NO. 8	—
6	66.48	550.46	51.63	25.51	4.87	9.11	107.09	7.03	9.73	5.75	13.33	19.63	27.14	37.20	8.51	0.317	20 U NO. 9	—
7	93.93	800.71	100.62	31.49	2.45	17.68	132.28	31.33	0.48	11.64	9.37	59.32	0.91	17.74	13.37	0.119	20 U NO.21	—
8	83.99	692.39	111.91	37.96	5.46	10.37	123.14	7.41	9.59	5.63	11.93	21.44	27.75	34.52	8.42	0.042	22 U NO. 1	—
9	75.44	631.39	79.27	28.34	3.93	10.66	94.04	16.55	5.11	6.67	12.44	40.60	12.53	30.51	11.34	0.074	22 U NO. 2	—
10	76.55	651.00	60.09	27.88	5.56	10.23	120.59	6.68	9.83	5.85	13.48	18.64	27.42	37.62	8.48	0.303	22 U NO. 6	—
11	59.74	484.76	41.43	27.39	4.10	8.15	93.78	6.42	8.68	3.93	12.52	20.36	27.51	39.68	8.69	0.255	22 U NO. 8	—
12	65.11	472.20	32.55	42.50	9.65	6.61	248.97	4.09	12.42	6.58	30.37	7.65	23.23	56.81	2.65	0.884	22 U NO.11	—
13	58.78	488.22	59.69	16.79	1.75	10.04	72.74	26.81	0.50	11.30	12.55	52.40	0.98	24.53	13.81	0.086	T P 14 NO. 1	第4回1
14	55.23	453.78	64.56	17.37	1.80	10.26	73.75	27.19	0.57	11.71	11.55	53.30	1.11	22.64	13.90	0.058	2区脱炭	第133回2
15	58.51	474.29	43.37	20.60	3.58	7.57	93.14	5.93	8.35	4.23	12.54	19.10	26.89	40.39	8.13	0.332	2区脱炭	第133回5
16	60.59	498.31	47.98	24.28	4.29	8.67	102.18	6.96	9.07	4.17	12.64	21.20	27.61	38.50	8.48	0.328	T P 5	第133回6
17	60.66	486.01	44.30	22.86	4.23	7.62	96.34	6.17	8.34	4.06	12.23	20.05	27.07	39.71	7.91	0.337	1区脱炭	第134回12
18	58.81	479.81	44.46	20.57	3.84	7.73	92.54	6.14	9.02	4.90	12.44	18.90	27.75	38.27	8.36	0.318	641 Y	—
19	55.28	466.57	53.53	19.74	5.13	5.12	95.36	9.45	11.39	3.66	14.67	24.12	29.09	37.44	5.37	0.251	643 Y	第133回8
20	61.74	518.97	45.04	22.50	4.30	8.41	100.33	6.27	8.94	4.09	11.48	20.38	29.04	37.30	8.38	0.348	651 Y	第133回7
21	60.59	491.92	65.82	18.76	2.88	8.18	73.06	13.39	4.65	6.89	11.21	37.07	12.86	31.01	11.20	0.045	653 Y	第134回13
22	57.21	468.49	41.03	20.07	3.66	7.06	86.41	5.86	7.97	4.45	11.76	19.50	26.52	39.15	8.17	0.323	640 Y	—
23	55.12	453.18	44.01	22.73	4.39	7.69	92.37	5.89	8.67	4.65	11.84	18.96	27.92	38.13	8.33	0.322	642 Y	—
24	73.81	620.90	80.72	26.24	3.51	10.50	90.86	13.89	4.30	6.29	11.00	39.15	12.12	31.00	11.56	0.051	653 Y	—
25	64.55	522.75	46.65	23.19	4.83	8.47	104.26	7.63	9.11	5.91	13.00	21.41	25.55	36.46	8.13	0.349	655 Y	—
26	61.75	528.04	60.41	22.78	6.09	5.32	106.29	10.70	13.26	4.42	16.71	23.74	29.40	37.06	5.01	0.245	40 P	—
27	65.56	536.61	51.65	25.71	5.02	9.07	110.22	6.88	10.09	5.40	13.04	19.42	28.50	36.83	8.23	0.329	T P 3	—
28	77.64	652.04	60.87	30.24	5.46	10.28	123.97	7.78	9.88	5.92	13.29	21.09	26.80	36.06	8.29	0.300	T P 10	—
29	56.18	473.37	39.12	37.17	6.63	5.36	203.69	4.56	11.75	5.63	30.00	8.78	22.63	57.76	2.63	0.717	1区脱炭	—
30	56.89	461.37	60.42	17.69	2.81	8.05	70.44	12.30	4.33	6.18	11.27	36.09	12.72	33.07	11.43	0.067	2区脱炭	—
31	58.51	488.60	62.42	17.01	3.16	7.92	70.54	13.16	3.81	5.51	11.00	39.31	11.37	32.86	11.22	0.053	2区脱炭	—
32	58.27	346.60	17.47	706.84	7.22	125.32	53.60	0.12	22.25	2.88	48.31	0.16	30.24	65.68	233.80	0.487	2区脱炭	—
33	62.26	515.47	47.95	24.33	4.61	8.11	104.28	7.45	10.01	4.77	13.29	20.97	28.18	37.43	7.78	0.337	2区脱炭	—
34	60.16	473.91	43.17	20.74	5.46	8.16	99.46	6.31	8.80	4.70	12.78	19.32	27.20	39.10	8.20	0.362	1区表土	—
35	57.38	483.36	43.35	22.10	4.00	7.51	91.60	6.20	8.81	4.80	11.87	19.57	27.81	37.48	8.19	0.325	1区脱炭	第137回71
36	65.39	542.00	68.49	19.57	3.04	8.58	77.50	14.53	4.81	5.74	12.48	38.68	12.81	33.23	11.07	0.054	651 Y	第137回70

第55表 スペクトル強度と判別指標値



第157図 黒曜石産地推定結果(1)



第 158 図 黒曜石産地推定結果 (2)

II. 西原大塚遺跡第 235 地点の黒曜石産地同定

NO.	4成分									5成分								
	第1候補			第2候補			第3候補			第1候補			第2候補			第3候補		
	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定
1	和田7	13.1	TRUE	和田3	18.7	FALSE	和田2	36.5	FALSE	和田3	23.6	FALSE	和田7	24.2	FALSE	和田2	37.0	FALSE
2	和田7	19.3	FALSE	和田2	21.3	FALSE	和田3	30.0	FALSE	和田7	23.7	FALSE	和田2	24.2	FALSE	和田3	31.3	FALSE
3	和田7	10.1	TRUE	和田3	16.7	FALSE	和田2	32.1	FALSE	和田7	18.2	FALSE	和田3	20.6	FALSE	和田2	33.5	FALSE
4	和田7	18.4	FALSE	和田2	26.1	FALSE	和田3	26.9	FALSE	和田7	20.0	FALSE	和田3	27.1	FALSE	和田2	33.7	FALSE
5	和田7	13.6	TRUE	和田3	21.4	FALSE	和田2	27.6	FALSE	和田2	27.6	FALSE	和田3	30.1	FALSE	和田7	31.3	FALSE
6	恩馳島	4.4	TRUE	砂輪崎	80.3	FALSE	男女1	180.7	FALSE	恩馳島	6.4	TRUE	砂輪崎	81.1	FALSE	男女1	229.6	FALSE
7	和田2	20.5	FALSE	和田7	37.7	FALSE	和田1	54.1	FALSE	和田2	21.2	FALSE	和田1	55.3	FALSE	和田7	57.6	FALSE
8	男女2	201.7	FALSE	麦草系	267.4	FALSE	和田8	292.0	FALSE	男女2	264.6	FALSE	麦草系	301.7	FALSE	和田8	335.6	FALSE
9	星ヶ塔	14.6	TRUE	和田6	59.1	FALSE	和田3	88.7	FALSE	星ヶ塔	14.7	TRUE	和田6	69.0	FALSE	和田3	106.3	FALSE
10	恩馳島	11.7	TRUE	砂輪崎	76.4	FALSE	男女1	188.1	FALSE	恩馳島	13.4	TRUE	砂輪崎	78.0	FALSE	男女1	243.5	FALSE
11	恩馳島	1.9	TRUE	砂輪崎	135.5	FALSE	男女1	213.9	FALSE	恩馳島	3.1	TRUE	砂輪崎	144.7	FALSE	男女1	217.2	FALSE
12	柏峠2	28.4	FALSE	上多賀	141.8	FALSE	柏峠1	171.6	FALSE	柏峠2	31.7	FALSE	上多賀	153.4	FALSE	柏峠1	189.3	FALSE
13	和田7	2.6	TRUE	鷹山	4.5	TRUE	和田3	21.3	FALSE	和田7	3.1	TRUE	鷹山	4.8	TRUE	和田3	21.3	FALSE
14	和田7	2.3	TRUE	鷹山	2.4	TRUE	和田3	29.5	FALSE	和田7	3.8	TRUE	鷹山	4.0	TRUE	和田3	32.6	FALSE
15	恩馳島	4.7	TRUE	砂輪崎	113.2	FALSE	男女1	179.4	FALSE	恩馳島	5.6	TRUE	砂輪崎	123.3	FALSE	男女1	191.2	FALSE
16	恩馳島	2.9	TRUE	砂輪崎	89.4	FALSE	男女1	180.3	FALSE	恩馳島	3.7	TRUE	砂輪崎	95.6	FALSE	男女1	186.0	FALSE
17	恩馳島	6.3	TRUE	砂輪崎	122.5	FALSE	男女1	168.6	FALSE	恩馳島	7.2	TRUE	砂輪崎	130.4	FALSE	男女1	177.6	FALSE
18	恩馳島	5.3	TRUE	砂輪崎	94.7	FALSE	男女1	190.7	FALSE	恩馳島	5.6	TRUE	砂輪崎	98.2	FALSE	男女1	224.3	FALSE
19	麦草系	1.5	TRUE	双子池	50.3	FALSE	男女2	108.1	FALSE	麦草系	1.5	TRUE	双子池	59.2	FALSE	男女2	111.5	FALSE
20	恩馳島	2.0	TRUE	砂輪崎	139.4	FALSE	男女1	218.3	FALSE	恩馳島	2.0	TRUE	砂輪崎	142.3	FALSE	男女1	232.2	FALSE
21	星ヶ塔	2.9	TRUE	和田6	73.1	FALSE	和田8	118.2	FALSE	星ヶ塔	3.5	TRUE	和田6	73.5	FALSE	和田8	121.5	FALSE
22	恩馳島	6.2	TRUE	砂輪崎	94.6	FALSE	男女1	167.2	FALSE	恩馳島	6.2	TRUE	砂輪崎	99.1	FALSE	男女1	193.4	FALSE
23	恩馳島	4.2	TRUE	砂輪崎	101.0	FALSE	男女1	193.0	FALSE	恩馳島	4.5	TRUE	砂輪崎	104.3	FALSE	男女1	226.0	FALSE
24	星ヶ塔	2.8	TRUE	和田6	68.8	FALSE	和田3	120.8	FALSE	星ヶ塔	3.0	TRUE	和田6	73.9	FALSE	和田3	130.5	FALSE
25	恩馳島	7.5	TRUE	砂輪崎	122.3	FALSE	男女1	158.2	FALSE	恩馳島	12.2	TRUE	砂輪崎	122.5	FALSE	男女1	214.7	FALSE
26	麦草系	4.2	TRUE	双子池	60.9	FALSE	男女2	140.0	FALSE	麦草系	4.7	TRUE	双子池	68.7	FALSE	男女2	147.5	FALSE
27	恩馳島	2.9	TRUE	砂輪崎	113.8	FALSE	男女1	196.9	FALSE	恩馳島	4.4	TRUE	砂輪崎	114.7	FALSE	麦草系	235.2	FALSE
28	恩馳島	9.5	TRUE	砂輪崎	66.6	FALSE	男女1	151.2	FALSE	恩馳島	12.2	TRUE	砂輪崎	66.6	FALSE	男女1	202.1	FALSE
29	柏峠1	22.7	FALSE	柏峠2	71.7	FALSE	高原1	169.2	FALSE	柏峠1	26.3	FALSE	柏峠2	72.1	FALSE	高原1	191.3	FALSE
30	星ヶ塔	13.9	TRUE	和田6	86.1	FALSE	和田8	126.1	FALSE	星ヶ塔	16.2	FALSE	和田6	90.1	FALSE	和田8	126.3	FALSE
31	星ヶ塔	3.4	TRUE	和田6	51.6	FALSE	和田3	120.0	FALSE	星ヶ塔	5.3	TRUE	和田6	62.8	FALSE	和田8	123.8	FALSE
32	(黒曜石ではない?)																	
33	恩馳島	9.6	TRUE	砂輪崎	130.3	FALSE	男女1	174.7	FALSE	恩馳島	9.6	TRUE	砂輪崎	132.7	FALSE	麦草系	189.5	FALSE
34	恩馳島	3.9	TRUE	砂輪崎	164.9	FALSE	男女1	204.4	FALSE	恩馳島	4.0	TRUE	砂輪崎	168.7	FALSE	男女1	225.7	FALSE
35	恩馳島	3.8	TRUE	砂輪崎	103.4	FALSE	男女1	182.3	FALSE	恩馳島	4.6	TRUE	砂輪崎	105.0	FALSE	男女1	218.7	FALSE
36	星ヶ塔	1.1	TRUE	和田6	59.9	FALSE	和田8	102.7	FALSE	星ヶ塔	8.2	TRUE	和田6	77.8	FALSE	和田8	108.7	FALSE

距離: マハラノビス平方距離 判定はχ²乗検定(3σ)の結果

第 56 表 黒曜石判定結果

一方、各判別群の5つの判別指標値について、それぞれの基本統計量（平均値や分散、共分散など）を求める。この値をもとに、遺跡出土試料と各判別群とのマハラノビス平方距離を計算する。マハラノビス平方距離による判別は、先に述べた5つの判別指標値を使う方法（望月，2004など）と、基本的にZr分率を除くグラフに使った4つの判別指標値を使うが、群間の判別が難しい場合にZr分率を加える方法（明治大学古文化財研究所，2009，2011；明治大学文学部，2014a，b）がある。今回は、4成分、5成分双方の結果を掲載する。測定試料と各判別群全てについて、4成分、5成分のマハラノビス平方距離を求め、測定試料に近いものから3判別群を表に示す。これらについてカイ二乗検定を行い、99.5%の範囲に入った場合を「TRUE」、入らなかった場合を「FALSE」とする。

（3）結果および考察

各試料の詳細および元素X線強度（cps）および判別指標値を第55表に示す。また、Rb分率とMn×100/Fe、Sr分率—Log（Fe/K）について、原産地試料の重心から2σ（95%）の範囲を記したグラフに、各試料の結果を重ね合わせた図を、第157・158図に記す。第56表には、測定試料に近いものから3原産地分のマハラノビス平方距離を示し、これらについてカイ二乗検定を行なった結果を示す。

測定の結果、神津島が16点（NO.6、NO.10、NO.11、NO.15、NO.16、NO.17、NO.18、NO.20、NO.22、NO.23、NO.25、NO.27、NO.28、NO.33、NO.34、NO.35）、信州霧ヶ峰が14点（NO.1、NO.2、NO.3、NO.4、NO.5、NO.7、NO.9、NO.13、NO.14、NO.21、NO.24、NO.30、NO.31、NO.36）、信州八ヶ岳が2点（NO.19、NO.26）、天城柏峠が2点（NO.12、NO.29）である。この中には「FALSE」と判定されたものもあるが、第157・158図の結果や第2候補との差が大きいことなどから、各産地に比定した。なお、NO.8の産地は不明である。おそらく、風化等の影響で化学組成が変化した可能性がある。また、NO.32は肉眼で鑑定を行うと黒曜石であるが、カルシウムやマンガンの元素X線強度が極端に高く、黒曜石ではない可能性がある。なお、前述した明治大学の文献から、南関東の黒曜石産地推定の傾向をまとめると、古い時代には近傍の産地の黒曜石を用いていたが、時代が新しくなるにつれて、遠方の産地の黒曜石が混じる傾向にある。

【引用文献】

- 明治大学古文化財研究所 2009『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 基礎データ集1』
明治大学古文化財研究所 2011『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 基礎データ集2』
明治大学文学部 2014a『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 基礎データ集3』
明治大学文学部 2014b『日本における黒曜石の産状と理化学分析 資料集75』杉原重夫編 森 義勝監修
望月明彦 2004『第5節 和野1遺跡出土黒曜石製鉄の石材原産地分析』『和野1遺跡発掘調査報告書』p476—480 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書452集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

III. 西原大塚遺跡第 235 地点の炭化材樹種同定

株式会社バレオ・ラボ

黒沼 保子

(1) はじめに

志木市の西原大塚遺跡第 235 地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている（1. 西原大塚遺跡第 235 地点の放射性炭素年代測定参照）。

(2) 試料と方法

試料は古墳時代前期の住居跡 651 Y から出土した炭化材 20 点である。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VHX-1D 510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

(3) 結果

樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）の 1 分類群のみが確認された。いずれも状態が悪く、木取りは不明であった。結果を第 57 表に示す。

試料No.	遺構名	遺物番号	X座標	Y座標	Z値	樹種	木取り	残存径	年代測定番号
1	651 Y	D-1	-19122.855	-24108.826	14.494	コナラ属コナラ節	不明	5.0 × 2.0cm	—
2	651 Y	D-2	-19122.911	-24108.791	14.503	コナラ属コナラ節	不明	1.5 × 4.0cm	—
3	651 Y	D-3	-19123.021	-24108.606	14.502	コナラ属コナラ節	不明	1.0 × 3.5cm	—
4	651 Y	E-3	-19123.785	-24109.144	14.528	コナラ属コナラ節	不明	0.5 × 3.5cm	—
5	651 Y	E-4	-19123.317	-24109.035	14.533	コナラ属コナラ節	不明	0.5 × 1.8cm	—
6	651 Y	F-1	-19124.285	-24107.911	14.479	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 2.5cm	—
7	651 Y	G-1	-19124.163	-24106.984	14.506	コナラ属コナラ節	不明	2.5 × 5.0cm	—
8	651 Y	G-2	-19124.137	-24106.874	14.508	コナラ属コナラ節	不明	4.0 × 5.0cm	—
9	651 Y	H-1	-19124.589	-24110.114	14.494	コナラ属コナラ節	不明	3.5 × 3.0cm	PLD-47252
10	651 Y	H-3	-19124.096	-24110.283	14.416	コナラ属コナラ節	不明	0.5 × 2.5cm	—
11	651 Y	I-1	-19125.588	-24105.767	14.696	コナラ属コナラ節	不明	2.5 × 4.5cm	—
12	651 Y	J-2	-19125.026	-24106.798	14.448	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 5.5cm	—
13	651 Y	J-3	-19125.534	-24106.903	14.518	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 4.0cm	—
14	651 Y	L-1	-19126.759	-24108.210	14.538	コナラ属コナラ節	不明	3.5 × 2.5cm	—
15	651 Y	L-4	-19125.837	-24108.154	14.501	コナラ属コナラ節	不明	3.0 × 5.0cm	PLD-47253
16	651 Y	L-5	-19125.946	-24107.977	14.526	コナラ属コナラ節	不明	1.5 × 3.0cm	—
17	651 Y	L-6	-19126.305	-24108.028	14.521	コナラ属コナラ節	不明	2.0 × 4.5cm	—
18	651 Y	L-7	-19126.659	-24107.881	14.545	コナラ属コナラ節	不明	4.0 × 3.5cm	—
19	651 Y	L-12	-19126.453	-24107.524	14.560	コナラ属コナラ節	不明	3.5 × 2.0cm	—
20	651 Y	L-13	-19126.113	-24107.310	14.538	コナラ属コナラ節	不明	1.5 × 5.0cm	—

第 57 表 樹種同定結果一覧

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版 53 に示す。

(1) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版 53 1a-1c (No.651 Y_D-1), 2a (No.651 Y_E-3), 3a (No.651 Y_G-2), 4a (No.651 Y_H-1), 5a (No.651 Y_I-1), 6a (No.651 Y_L-4), 7a (No.651 Y_L-13)

大型の道管が年輪のはじめに 1 列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の 2 種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(4) 考察

住居跡 651 Y から出土した炭化材 20 点は、いずれもコナラ節であった。コナラ節は日当たりのよい環境に生育する陽樹で、二次林の主要構成樹木である。遺跡周辺に生育していた樹木が伐採利用されたと推測される。また、埼玉県内で確認されている弥生時代～古墳時代の住居跡出土の炭化材ではコナラ節やクヌギ節が多くみられる(伊東・山田編 2012)。今回の分析結果も、周辺地域の木材利用傾向と類似している。

[引用・参考文献]

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 2011『日本有用樹木誌』p238 海青社

伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学-出土木製品用材データベース-』p449 海青社

平井信二 1996『木の大百科』p394 朝倉書店

IV. 西原大塚遺跡第 235 地点の土器種実圧痕同定

株式会社パレオ・ラボ

山本 華

(1) はじめに

西原大塚遺跡第 235 地点の古墳時代後期の土師器に確認された種実圧痕の可能性のある圧痕について、レプリカ法による同定を行った。

(2) 資料と方法

資料はあらかじめ大成エンジニアリング株式会社によって複数の種実圧痕がついている可能性がある判断され、抽出された古墳時代後期の土師器壺 1 点である。

分析では、まず土師器を肉眼および拡大鏡を用いて観察し、圧痕について(丑野・田川 1991)などを参考に、次の手順でレプリカを作製した。はじめに、圧痕内を水で洗い、パラロイド B 72 の 9% アセトン溶液を離型剤として圧痕内および周辺に塗布した後、シリコン樹脂 (JM シリコン インジェクションタイプ) を圧痕部分に充填した。レプリカ作製後は、アセトンを用いて圧痕内および周囲の離型剤を除去した。

次に、作製したレプリカを実体顕微鏡下で観察し、同定の根拠となる部位が残っている圧痕レプリカを同定した。その後、走査型電子顕微鏡 (KEYENCE 社製 超深度マルチアングルレンズ VHX-D 500/D 510) で観察し、撮影を行った。

(3) 結果

土師器を観察したところ、6 点の種実圧痕が確認された。圧痕についてレプリカを作製し、同定した結果、すべて草本植物のイネ類・稲殻であった (第 58 表)。

以下では、同定された種実圧痕について記載を行い、図版 54 に走査型電子顕微鏡写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は(米倉・梶田 2003)に準拠した。

(1) イネ *Oryza sativa* L. 稲・稲殻

稲は上面観が楕円形で、側面観が長楕円形。2 条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくなる。No. 1 は、一部稲が破損して内部の種子が見えている状態と考えられる。稲殻は薄い破片状。溝とゆるやかな隆起が観察され、表面が平滑な試料は稲殻の内面側と判断した。

(4) 考察

西原大塚遺跡第 235 地点出土の古墳時代後期の土師器に確認された種実圧痕のレプリカを同定した結果、6 点が同定され、いずれも栽培植物のイネであった。確認されたイネ圧痕は稲と稲殻であり、イネの脱穀や稲摺り作業、貯蔵などの場と、土器製作の場が近かった可能性などが考えられる。また、今回は一個体の土器の表面に複数のイネ圧痕が確認されているため、土器胎土内にも種実の痕跡が残っている可能性がある。

[引用・参考文献]

- 丑野 毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学 第 24 号』p13-36
米倉浩司・梶田 忠 2003 『BG Plants 和名-学名インデックス (Y List)』<http://ylist.info>

No.	種別	器種	時期	圧痕のある部位	圧痕のある位置	分類群	部位	備考	大きさ (mm)		
									長さ	幅	厚さ
1	土師器	甗	古墳時代後期	口縁部	外面	イネ	稲	破損	(5.4)	3.1	(1.3)
2				胴部	外面	イネ	稲		5.9	3.0	2.3
3				胴部	外面	イネ	稲殻	内面割破片	(3.7)	(2.1)	(0.2)
4				口縁部	外面	イネ	稲		6.2	3.4	(2.2)
5				口縁部	内面	イネ	稲		6.1	3.2	2.3
6				胴部	外面	イネ	稲殻	外面割破片	(4.7)	(2.5)	(0.8)

(括弧内は残存値)

第 58 表 西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕同定結果

图 版



1.1区完掘全景（東から）



2.2区完掘全景（西から）



1. 調査前現況（南東から）



2. 遺構精査風景（南東から）



3. 遺構精査風景（西から）



4. 遺構精査風景（東から）



5. 1号試掘坑南壁（北から）



6. 1号試掘坑南壁東側（北から）



7. 1号試掘坑東壁（西から）



8. 1号試掘坑東壁南側（西から）



1. 2号試掘坑南壁（北から）



2. 2号試掘坑東壁（西から）



3. 3号試掘坑南壁（北から）



4. 3号試掘坑東壁（西から）



5. 4号試掘坑北壁（南から）



6. 4号試掘坑東壁（西から）



7. 5号試掘坑南壁（北から）



8. 5号試掘坑西壁（東から）



1. 6号試掘坑南壁（北から）



2. 6号試掘坑東壁（西から）



3. 7号試掘坑南壁（北から）



4. 7号試掘坑西壁（東から）



5. 8号試掘坑南壁（北から）



6. 8号試掘坑西壁（東から）



7. 9号試掘坑南壁（北から）



8. 9号試掘坑西壁（東から）



1. 10号試掘坑南壁（北から）



2. 10号試掘坑西壁（東から）



3. 11号試掘坑南壁（北から）



4. 11号試掘坑西壁（東から）



5. 12号試掘坑北壁（南から）



6. 12号試掘坑西壁（東から）



7. 13号試掘坑北壁（南から）



8. 13号試掘坑西壁（東から）



1. 14号試掘坑北壁（南から）



2. 14号試掘坑西壁（東から）



3. 15号試掘坑北壁（南から）



4. 15号試掘坑東壁（西から）



5. 20号石器集中地点遺物出土状態（東から）



6. 20号石器集中地点遺物出土状態（南から）



7. 20号石器集中地点遺物出土状態（北西から）



8. 20号石器集中地点遺物出土状態（南から）



1. 21号石器集中地点遺物出土状態（南東から）



2. 21号石器集中地点遺物出土状態（西から）



3. 21号石器集中地点礫出土状態（東から）



4. 22号石器集中地点遺物出土状態（南から）



5. 20号石器集中地点・5号礫群遺物出土状態（北から）



1. 5号礫群下層遺物出土状態（北から）



2. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）



3. 5号礫群下層遺物出土状態（北から）



4. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）



5. 5号礫群下層遺物出土状態（南から）



1. 5号磔群中央部被熱状態（南から）



2. 5号磔群下層遺物出土状態（南から）



3. 6号磔群遺物出土状態（東から）



4. 7号磔群遺物出土状態（南から）



5. 7号磔群遺物出土状態（南から）



1. 3号旧石器試掘坑遺物出土状態（西から）



2. 7号旧石器試掘坑遺物出土状態（東から）



3. 14号旧石器試掘坑遺物出土状態（南から）



4. 22号炉穴（西から）



5. 640号住居跡（南から）



6. 640号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）



7. 641号住居跡遺物出土状態（南から）



8. 641号住居跡（南から）



1. 641号住居跡炉（北東から）



2. 642号住居跡（北東から）



3. 643号住居跡（南から）



4. 644号住居跡遺物出土状態（西から）



5. 644号住居跡遺物出土状態（西から）



1. 644号住居跡遺物出土状態（北から）



2. 644号住居跡（南東から）



3. 645号住居跡（南西から）



4. 646号住居跡（北東から）



5. 647号住居跡（東から）



6. 648号住居跡遺物出土状態（南東から）



7. 648号住居跡遺物出土状態（北東から）



8. 648号住居跡赤色砂利層検出状態（南東から）



1. 648号住居跡（南東から）



2. 648号住居跡炉（南東から）



3. 648号住居跡掘り方（南東から）



4. 649号住居跡遺物出土状態（南東から）



5. 649号住居跡遺物出土状態（南西から）



6. 649号住居跡（南東から）



7. 649号住居跡炉（南東から）



8. 649号住居跡掘り方（南東から）



1. 650号住居跡(南東から)



2. 650号住居跡掘り方(南東から)



3. 651号住居跡遺物出土状態(南西から)



4. 651号住居跡遺物出土状態(南西から)



5. 651号住居跡(南東から)



6. 651号住居跡掘り方(南東から)



7. 652号住居跡遺物出土状態(南東から)



8. 652号住居跡遺物出土状態(南東から)



1. 652号住居跡（南東から）



2. 652号住居跡炉（南東から）



3. 651・652号住居跡（空撮東から）



4. 653号住居跡（南西から）



5. 653号住居跡炉新段階（南西から）



6. 653号住居跡炉旧段階（南西から）



7. 653号住居跡赤色砂利層検出状態（西から）



8. 653号住居跡掘り方（南西から）



1. 654号住居跡遺物出土状態（東から）



2. 654号住居跡遺物出土状態（南から）



3. 654号住居跡（東から）



4. 654号住居跡炉（東から）



5. 654号住居跡掘り方（東から）



6. 655号住居跡遺物出土状態（南東から）



7. 655号住居跡遺物出土状態（北東から）



8. 655号住居跡（南東から）



1. 31号住居跡遺物出土状態(南東から)



2. 31号住居跡遺物出土状態(南東から)



3. 31号住居跡遺物出土状態(南東から)



4. 31号住居跡貯蔵穴脇遺物出土状態(南東から)



5. 31号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南東から)



1. 31号住居跡(空撮南東から)



2. 31号住居跡(南東から)



3. 31号住居跡貯蔵穴(南東から)



4. 31号住居跡カマド(南東から)



5. 31号住居跡粘土検出状態(東から)



6. 31号住居跡P6断面(東から)



7. 31号住居跡炉(南西から)



8. 31号住居跡掘り方(南東から)



1. 5号掘立柱建築遺構（北から）



2. 5号掘立柱建築遺構（東から）



3. 5号掘立柱建築遺構P 1 遺物出土状態
（南西から）



4. 5号掘立柱建築遺構P 1（南西から）



5. 5号掘立柱建築遺構P 2 遺物出土状態（南から）



6. 5号掘立柱建築遺構P 2（南から）



7. 5号掘立柱建築遺構P 3（南から）



8. 5号掘立柱建築遺構P 4（東から）



1. 5号掘立柱建築遺構P 5遺物出土状態1
(南西から)



2. 5号掘立柱建築遺構P 5遺物出土状態2
(南西から)



3. 5号掘立柱建築遺構P 5 (南西から)



4. 5号掘立柱建築遺構P 6 (南西から)



5. 5号掘立柱建築遺構P 7 (南から)



6. 5号掘立柱建築遺構P 8 (南から)



7. 955号土坑(B群1類) (南西から)



8. 968～971号土坑(B群1・2類) (南西から)



1. 952号土坑 (B群2類) (西から)



2. 957号土坑 (B群2類) (南西から)



3. 960号土坑 (B群2類) (北西から)



4. 961号土坑 (B群2類) (南西から)



5. 962号土坑 (B群2類) (南西から)



6. 966号土坑 (B群2類) (北西から)



7. 977号土坑 (B群2類) (南から)



8. 976号土坑 (C群) (北から)



1. 956号土坑（E群1類）（北西から）



2. 956号土坑（E群1類）（南西から）



3. 964号土坑（E群1類）断面（東から）



4. 964号土坑（E群1類）（西から）



5. 11号井戸跡遺物出土状態（東から）



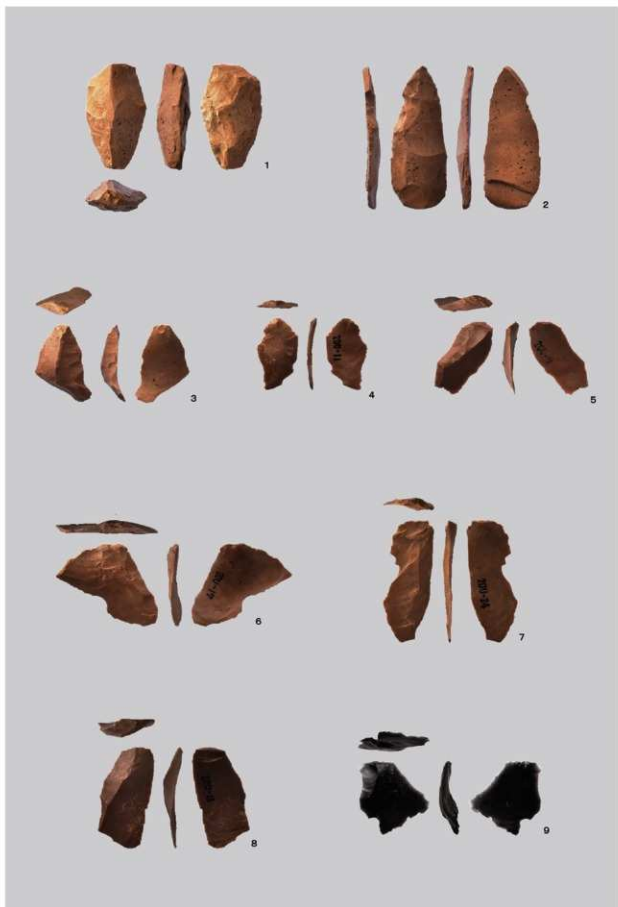
6. 11号井戸跡（東から）



7. 12号井戸跡（南から）



8. 畝状遺構群北側（東から）



20 号石器集中地点出土遺物 1



16 (17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29)

20号石器集中地点出土遺物 3



20号石器集中地点出土遺物4



20 号石器集中地点出土遺物 5



20 号石器集中地点出土遺物 6



20 号石器集中地点出土遺物 7



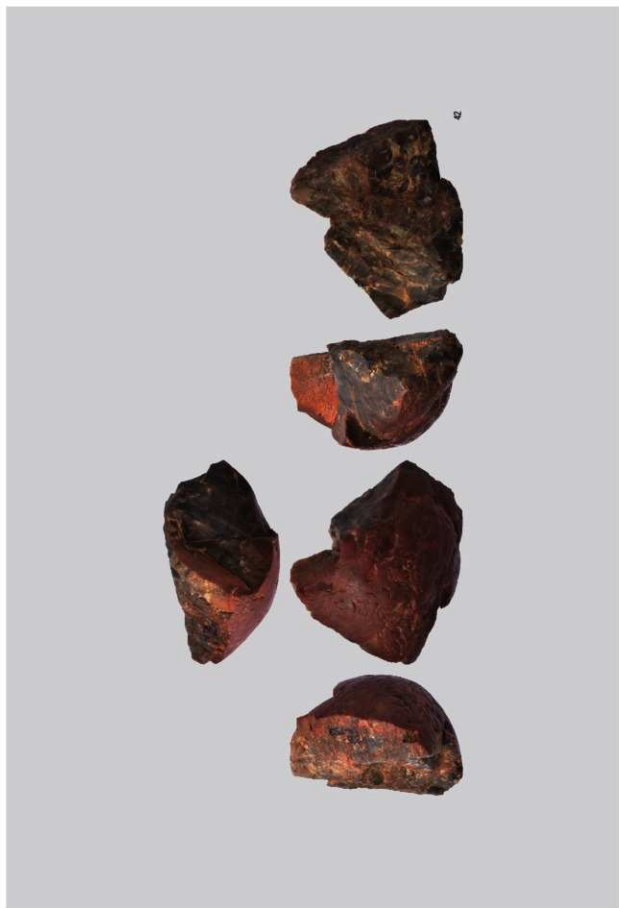
20 号石器集中地点出土遺物 8



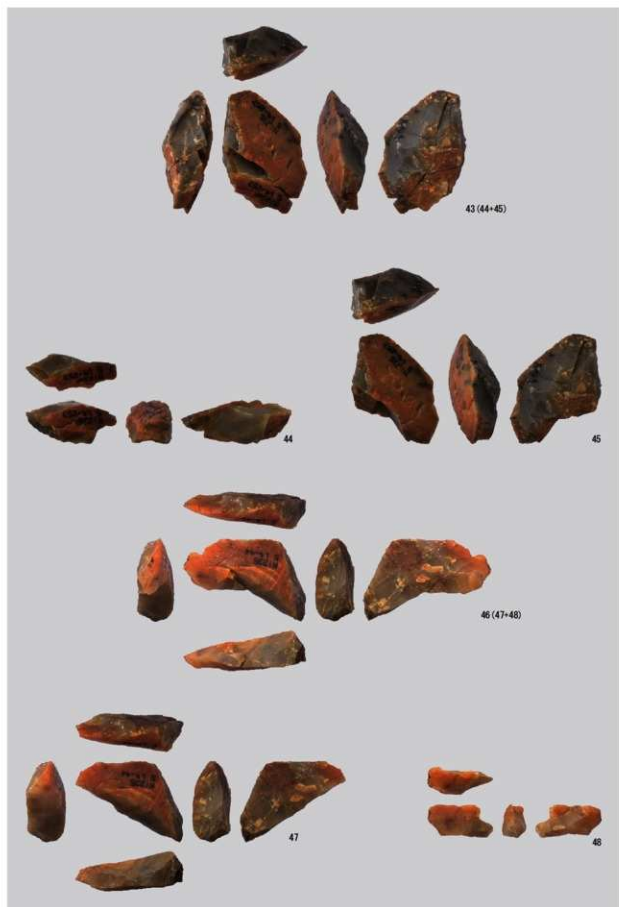
20 号石器集中地点出土遺物 9



20号石器集中地点出土遺物 10



20 号石器集中地点出土遺物 11



20 号石器集中地点出土遺物 12



21 号石器集中地点出土遺物 1



21 号石器集中地点出土遺物 2



21 号石器集中地点出土遺物 3



21 号石器集中地点出土遺物 4



1. 22 号石器集中地点出土遺物



2. 旧石器試掘坑出土遺物



1. 640号住居跡出土遺物



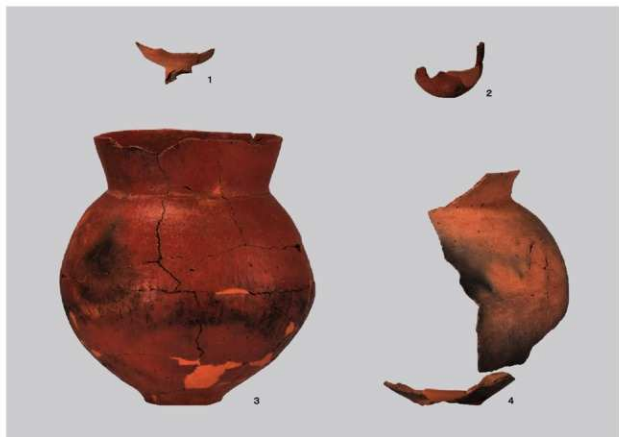
2. 641号住居跡出土遺物



1. 642 号住居跡出土遺物



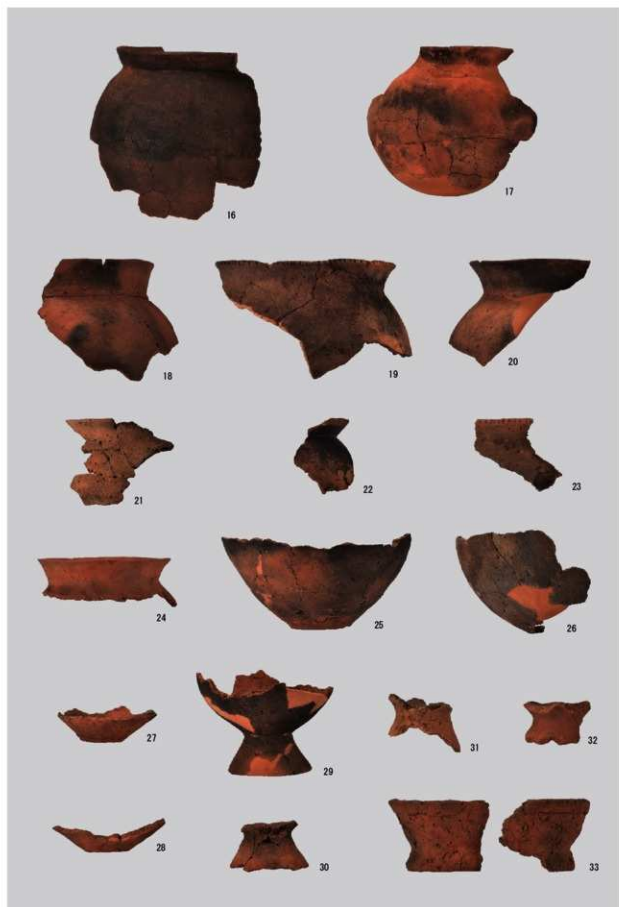
2. 643 号住居跡出土遺物



3. 644 号住居跡出土遺物 1



644 号住居跡出土遺物 2



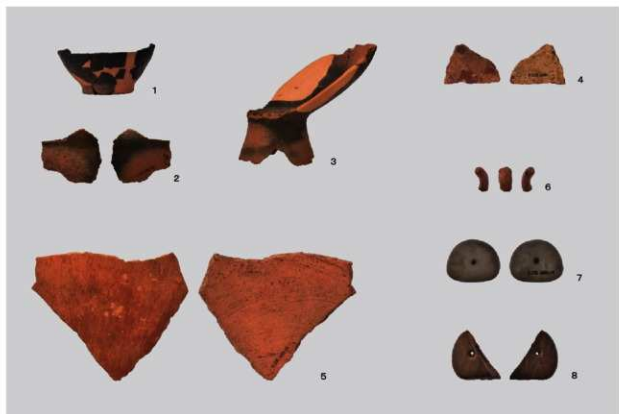
644 号住居跡出土遺物 3



1. 644号住居跡出土遺物4



2. 646号住居跡出土遺物



3. 648号住居跡出土遺物



1. 649号住居跡出土遺物



2. 651号住居跡出土遺物



1. 652号住居跡出土遺物



2. 653号住居跡出土遺物



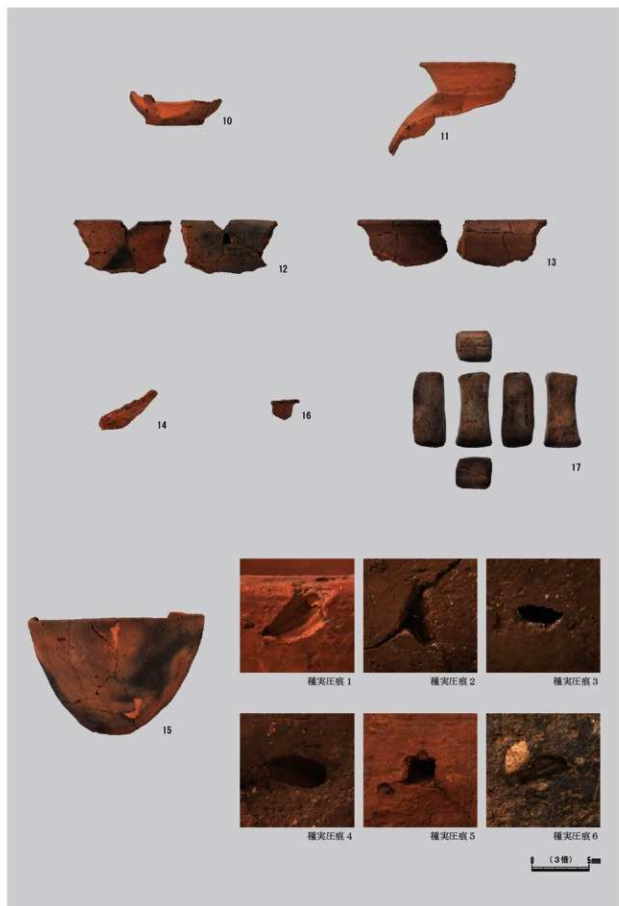
1. 654 号住居跡出土遺物



2. 655 号住居跡出土遺物



3. 31 号住居跡出土遺物 1



31号住居跡出土遺物 2



1. 5号掘立柱建築遺構出土遺物



2. 中世以降の土坑出土遺物



3. 11号井戸跡出土遺物

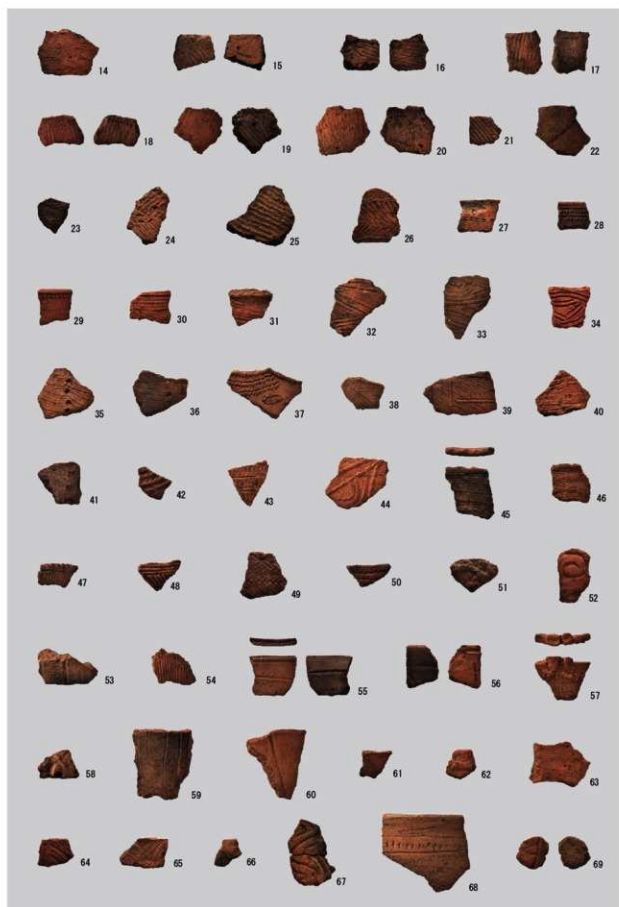


4. 12号井戸跡出土遺物

5. 鉢状遺構群出土遺物 6. 38号ピット出土遺物



遺構外出土旧石器時代遺物



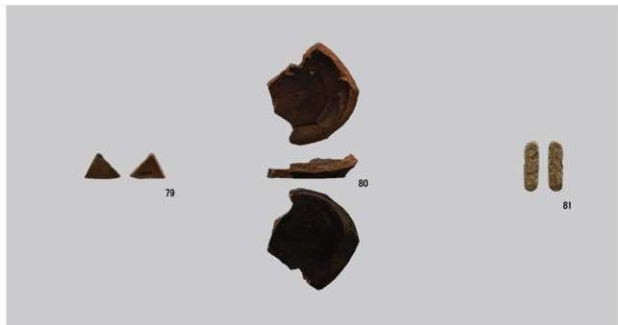
遺構外出土縄文時代遺物 1



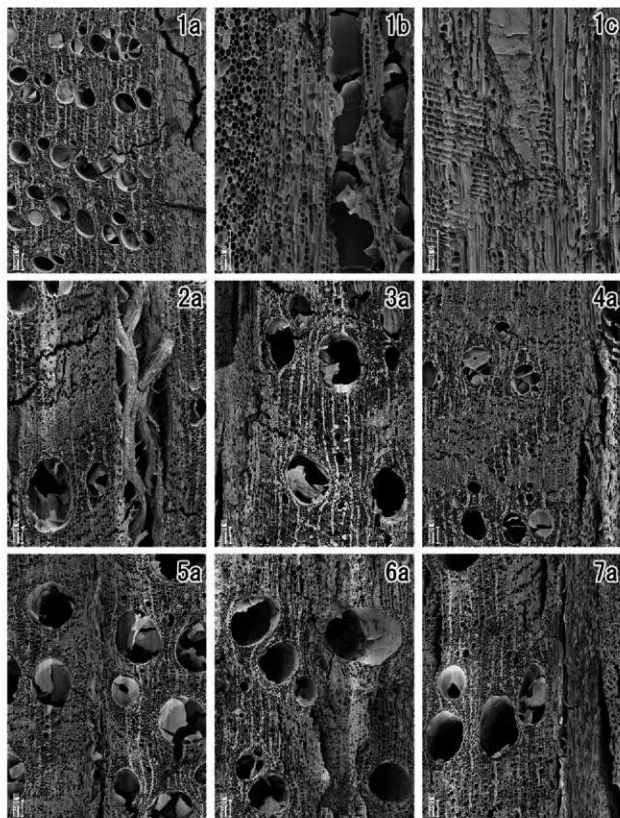
1. 遺構外出土縄文時代遺物 2



2. 遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期遺物



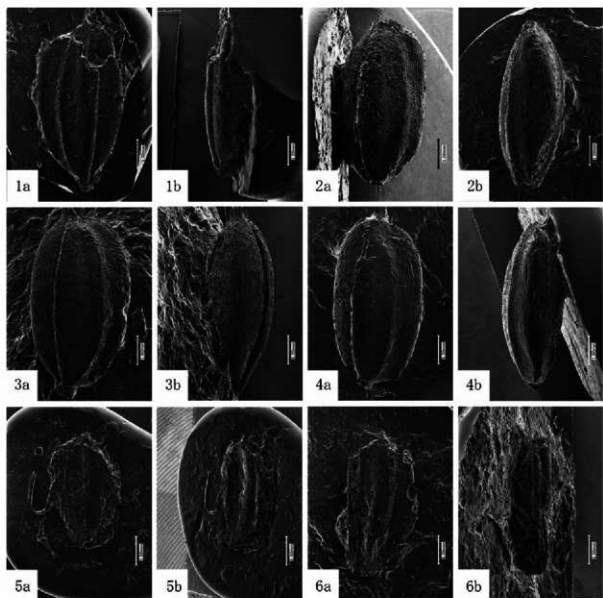
3. 遺構外出土中世以降の遺物



炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1 a-1 c. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ D-1)、2 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ E-3)、3 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ G-2)、4 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ H-1)、5 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ I-1)、6 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ L-4)、7 a. コナラ属コナラ節 (No.651 Y _ L-13)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面



西原大塚遺跡第 235 地点出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

1. イネ粃 (No. 1)、2. イネ粃 (No. 2)、3. イネ粃 (No. 4)、4. イネ粃 (No. 5)、
5. イネ粃殻 (No. 3)、6. イネ粃殻 (No. 6)

報告書抄録

ふりがな	にしはらおおつかいせきだい235ちてん まいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしょ							
書名	西原大塚遺跡第235地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第89集							
編著者	徳留彰紀 大久保 聡 尾形則敏 木村結香 市川康弘							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	令和5(2023)年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡ (全体面積)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(°'")	(°'")			
西原大塚遺跡 (第235地点)	志木市幸町2丁目 6226、6227	11228	09-007	35° 49' 39"	139° 33' 59"	20211025 ～ 20220331	1,542.37 (1,724.00)	分譲住宅建設 及び 道路新設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西原大塚遺跡 (第235地点)	集落跡	旧石器時代	石器集中地点	3か所	石器	中世以降の掘立柱建築遺構(5丁)から陶器碗・香炉がまとまって出土した。		
		縄文時代	礫群	3か所	礫・炭化物			
			か穴	1基	なし			
		弥生時代後期 ～古墳時代前期	ピット	1本	なし			
			住居跡	16軒	土器・土製品・石器			
		古墳時代後期 中世以降	住居跡	1軒	土器・石製品			
			掘立柱建築遺構	1棟	陶器			
			土坑	26基	陶器・土器			
井戸跡	2基		陶磁器					
		畝状遺構群	1か所	陶器				
		ピット	112本	陶器				
要約	<p>西原大塚遺跡は柳瀬川の南東、武蔵野台地北東端部に所在する縄文時代中期の環状集落や弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡を主体とする遺跡である。今回は遺跡の北東部に位置する第235地点の調査成果を収録している。本地点では旧石器時代から近世までの遺構・遺物が確認された。</p> <p>旧石器時代では、T P 1(立川ローム第Ⅳ～第Ⅴ層)において5号礫群を伴う20号石器集中地点、T P 4(立川ローム第Ⅶ～第Ⅸ層)において21号石器集中地点、T P 15(立川ローム第Ⅲ層)において6号礫群を伴う22号石器集中地点、T P 9(立川ローム第Ⅲ層)において7号礫群を確認した。小計は石器集中地点3か所、礫群3か所となる。</p> <p>弥生時代後期～古墳時代前期では、16軒の住居跡(640～655号住居跡)を確認した。そのうち、651・655号住居跡の2軒は床面上から多くの炭化材が出土していることから焼失住居と考えられる。古墳時代後期では、北西壁沿い中央部にカマドを有する31号住居跡を確認した。出土遺物から5世紀末葉の年代が与えられ、本遺跡でカマドを有する住居跡の中では最古段階に位置付けられると考えられる。</p> <p>中世以降では、掘立柱建築遺構1棟、土坑26基、井戸跡2基などが確認された。5号掘立柱建築遺構は、東西方向に主軸を有する桁行3間×梁行1間の側柱建物で、北西隅を形成する3基の柱掘方から、口縁部を人為的に半周打ち欠いた共通の形状を呈する陶器碗・香炉が計4個体出土した。5号掘立柱建築遺構の築造年代は、出土遺物から17世紀後葉に比定される。</p>							

志木市の文化財 第 89 集

西原大塚遺跡 第 235 地点
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日 令和5（2023）年3月31日
印刷 能登印刷株式会社